

シ ラ バ ス

——平成 27 年度(2015)——

人 間 科 学 編

Kyushu Institute of Technology
School of Engineering

九州工業大学 工学部

シ ラ バ ス

——平成 27 年度(2015)——

人 間 科 学 編

序 文

本シラバスは、下記に列挙する項目を通して工学部における授業、学習と学修目標に関する情報をまとめたものです。

- (1) 図書館の利用法
- (2) 各学科における学修目標
- (3) 各科目間の関連、科目の系統図
- (4) 授業の内容と受講の仕方、時間外学習への言及
- (5) 成績評価の方法

皆さん方が受講すべき標準的な科目は時間割に組み込まれていますので、時間割にある授業を受講し単位を取得すれば自動的に卒業要件単位は充足されると思われます。しかし、もう1歩踏み込んで、工学部の学生としてどのように工学のスキルを身につけ、どのように自分自身のキャリアを伸ばしていくか、自問しながら学部4年間で過ごす意識が重要です。本シラバスは皆さん方のそのような自発的な学習における重要な情報源です。毎年、担当の教員による多少の手直しと内容の改善を行いながら今日のシラバスに整理されており、工学部の教育内容を一目で把握できます。教員による授業・指導と本シラバスの活用、そして最も重要である皆さん方の努力によって、4年後には皆さん方が学修目標を十分に達成され、立派なエンジニアとして社会に船出してもらうことを期待しています。

なお、シラバス作成時期と授業の実施時期の関係で、担当者等一部を変更することもあります。

平成 27 年 4 月

九州工業大学工学部

教 員 編 成 表

(工学部担当教員)

学 長 松 永 守 央 ・ 工学部長 水 垣 善 夫

(H 27.4.1 現在)

氏 名	職 名
人 間 科 学 科 目	
アブドゥハン恭子	教 授
鳥 井 正 史	教 授
虹 林 慶	教 授
本 田 逸 夫	教 授
水 井 万里子	教 授
ラックストン イアン.c	教 授
大 野 瀬津子	准教授
児 玉 恵 美	准教授
反 町 裕 司	准教授
中 村 雅 之	准教授
八 丁 由 比	准教授
東 野 充 成	准教授
李 郁 蕙	准教授
ロング・ロバート	准教授
前 田 雅 子	講 師

目 次

附属図書館における教育支援業務の概要

I. 人間科学基礎科目

1. 人文社会系科目

哲学Ⅰ	1
哲学Ⅰ	1
哲学Ⅰ	2
哲学Ⅱ	2
哲学Ⅱ	3
倫理学Ⅰ	3
倫理学Ⅰ	4
倫理学Ⅱ	5
倫理学Ⅱ	6
歴史学Ⅰ	7
歴史学Ⅰ	8
歴史学Ⅱ	9
文学Ⅰ	9
文学Ⅱ	10
心理学Ⅰ	11
心理学Ⅰ	11
心理学Ⅱ	12
教育学Ⅰ	12
教育学Ⅱ	13
法学Ⅰ	14
法学Ⅱ	15
日本国憲法	15
日本国憲法	16
社会学Ⅰ	16
社会学Ⅰ	17
社会学Ⅱ	18
社会学Ⅱ	19
経済学Ⅰ	20
政治学Ⅰ	20
政治学Ⅰ	21
政治学Ⅱ	22
地域研究Ⅰ	23
地域研究Ⅰ	24
地域研究Ⅱ	25
地域研究Ⅱ	26
国際関係論	27
グローバルイシュー概論	28
東アジア論	28
職業と社会	29
日本語表現法	29
哲学と現代Ⅰ	30
哲学と現代Ⅱ	30
西洋社会史Ⅰ・Ⅱ	31
日本政治論Ⅰ	32
日本政治論Ⅱ	33
教育システム論	34
サステイナビリティ論	34

選択日本事情A	35
選択日本事情B	35

2. 外国語系科目

(1) 英語

英語科目についての概要	36
英語AⅠ	37
英語AⅡ	37
英語BⅠ	38
英語BⅠ	38
英語BⅠ	39
英語BⅠ	39
英語BⅠ	40
英語BⅠ	40
英語BⅡ	41
英語BⅡ	41
英語BⅡ	42
英語BⅡ	42
英語BⅡ	43
英語BⅡ	43
英語CⅠ	44
英語CⅠ	44
英語CⅠ	45
英語CⅠ	45
英語CⅠ	46
英語CⅠ	47
英語CⅠ	47
英語CⅠ	48
英語CⅠ	48
英語CⅠ	49
英語CⅠ	49
英語CⅠ	50
英語CⅠ	50
英語CⅠ	51
英語CⅠ	51
英語CⅠ	52
英語CⅠ	52
英語CⅡ	53
英語CⅡ	53
英語CⅡ	54
英語CⅡ	54
英語CⅡ	55
英語CⅡ	56
英語CⅡ	56
英語CⅡ	57
英語CⅡ	57
英語CⅡ	58
英語CⅡ	58
英語CⅡ	59
英語CⅡ	59
英語CⅡ	60

英語CⅡ	60
英語CⅡ	61
英語CⅡ	61
英語DⅠ	62
英語DⅡ	62
選択英語Ⅰ	63
選択英語Ⅱ	63
(2) ドイツ語	
初修外国語について	64
ドイツ語Ⅰ	64
ドイツ語Ⅰ	65
ドイツ語Ⅰ	65
ドイツ語Ⅰ	66
ドイツ語Ⅱ	66
ドイツ語Ⅱ	67
ドイツ語Ⅱ	67
ドイツ語Ⅱ	68
ドイツ語Ⅲ	68
ドイツ語Ⅳ	69
(3) 中国語	
中国語Ⅰ	70
中国語Ⅰ	70
中国語Ⅰ	71
中国語Ⅰ	71
中国語Ⅰ	72
中国語Ⅱ	72
中国語Ⅱ	73
中国語Ⅱ	73
中国語Ⅱ	74
中国語Ⅱ	74
中国語Ⅲ	75
中国語Ⅳ	75
(4) フランス語	
フランス語Ⅰ	76
フランス語Ⅰ	76
フランス語Ⅰ	77
フランス語Ⅱ	77
フランス語Ⅱ	78
フランス語Ⅱ	78
フランス語Ⅲ	79
フランス語Ⅳ	79
(5) 韓国語	
韓国語Ⅰ	80
韓国語Ⅰ	81
韓国語Ⅰ	82
韓国語Ⅱ	82
韓国語Ⅱ	83
韓国語Ⅱ	84
韓国語Ⅲ	85
韓国語Ⅳ	85
3. 保健体育系科目	
保健体育系科目の概要	86
スポーツ運動学実技A	86
スポーツ運動学実技B	87
健康スポーツ科学論	87
4. リレー講義科目	
2015年リレーセミナー	
「排除と包摂」	88

Ⅱ-1. 教職に関する専門教育科目

教職論	89
教育原理	89
教育心理学	90
教育社会学	91
工業教科教育法	92
教科教育法（数学）Ⅰ	93
教科教育法（数学）Ⅱ	93
教育課程論	94
特別活動の指導法	94
教育方法	95
生徒指導（進路指導を含む。）	95
教育相談	96
教職実践演習（高）	96

Ⅱ-2. 工業の教科に関する専門教育科目

職業指導	97
------	----

Ⅲ. 人間科学科目（留学生）

留学生科目概要	99
日本語AⅠ	99
日本語AⅠ	100
日本語AⅡ	100
日本語AⅡ	101
日本語BⅠ	101
日本語BⅡ	102
日本語CⅠ	102
日本語CⅡ	103
日本事情A	103
日本事情B	104
日本事情C	104
日本事情D	105

附属図書館における教育支援業務の概要

1. 概要

学習や研究活動をより効果的に進めるために、附属図書館で行っている教育支援業務について説明します。ほとんどの情報はウェブのページに記載されていますので、詳細は次のページを確認してください。

→ <https://www.lib.kyutech.ac.jp/library/>

2. 利用案内

開館時間と休館日、館内の案内図、貸出・返却・更新・予約の方法、図書や雑誌の探し方、文献複写・相互貸借の依頼の仕方について紹介します。

3. 資料案内

シラバス掲載図書の図書館所蔵リスト、ビデオオンデマンド教材、学術雑誌コーナーやブラウジングコーナーに配架している購入雑誌の一覧、本学の博士学位論文の論題と目次（要旨）の一覧を紹介します。

4. その他の図書館サービス

- ・マイライブラリ → <https://www.lib.kyutech.ac.jp/mylimedio/top.do>

以下のリクエストサービスを提供：

Web からの文献複写依頼、他大学への図書借用依頼、新着情報、貸出状況照会、貸出期間の延長、図書資料の予約・予約の取消し、依頼状況照会、マイフォルダの利用

- ・本館分館間資料取寄せ
- ・ラーニングコモンズ：自主的な課題解決型学習を支援する場として図書館1階に設置された空間。可動式机椅子、プロジェクト、貸出ノート PC によりグループレARNINGやプレゼンテーションを行える。ラーニングコモンズサポーターによる学習支援
- ・iPad の貸出
- ・e ラーニング → <http://www.ltc.kyutech.ac.jp/service/>
- ・PC 及び無線 LAN

5. 図書館の蔵書データベースの検索

図書館の蔵書は図書、雑誌、視聴覚資料等で構成されており、目録はすべてデータベース化されているためオンライン（OPAC: Online Public Access Catalog）で検索し学内の所蔵を調べることができます。

日本語検索 <https://www.lib.kyutech.ac.jp/mylimedio/top.do?lang=ja>

英語検索 <https://www.lib.kyutech.ac.jp/mylimedio/top.do?lang=en>

スマートフォン端末版 → <https://www.lib.kyutech.ac.jp/opac/mobile>

携帯電話からも検索可 → <http://www.lib.kyutech.ac.jp/mylimedio-ktai/>

※学内に所蔵がない場合 → <http://ci.nii.ac.jp/books/>

CiNii Books：全国の大学図書館等が所蔵する図書・雑誌の総合目録データベース

6. 文献データベース等の検索（一部を除き VPN 接続や情報科学センター発行の九工大 ID で学外からも検索可能）

テーマに沿った雑誌論文や新聞記事、データをさがすことができます。

☆国内外の文献や書籍をさがす：全学生のレベル

- EDS：学術論文・図書などを瞬時に発見する事ができるディスカバリーサービス。

→ 図書館 HP トップの検索窓から検索

☆国内文献をさがす：主に1年生～3年生からのレベル

- CiNii Articles：学協会発行の学術雑誌と大学等の研究紀要を対象とした論文の引用文献情報データベース。一部本文の参照も可。 → <http://ci.nii.ac.jp/>
- JDream III：国内や海外の科学技術、医学に関する、学術論文や解説的記事などの抄録付きの文献情報データベース → <https://dbs.g-search.or.jp/jds/pj/IpAddressAuth>
- 雑誌記事索引検索（国立国会図書館）：国内刊行和文雑誌を対象とした記事データベース → <https://ndlopac.ndl.go.jp>
- 日経BP記事検索サービス：日経BP社が発行する雑誌（約56誌）のバックナンバー記事を、オンライン上で検索・閲覧できるサービス → <http://bizboard.nikkeibp.co.jp/daigaku/>
- ヨミダス文書館：読売新聞と“The Japan News”（英字新聞）とが収録された新聞記事データベースと、「現代人名録」を提供 → <https://database.yomiuri.co.jp/rekishikan/>
- 理科年表プレミアム：1925年（大正14年）以降最新版までの理科年表の内容を収録 → <http://www.rikanenpyo.jp/member/>
- ジャパンナレッジ Lib：百科事典、国語辞典、用語辞典、外国語辞典、歴史辞典、人名辞典、地図、会社四季報、ニュース、学術サイト URL 集等事典・辞書を中心に40以上のコンテンツが搭載されている総合データベース → <http://japanknowledge.com/library/>

☆外国文献をさがす：主に卒研究生、院生、教員からのレベル

- JDream III：海外の学術論文の抄録の翻訳を含む。 → <https://dbs.g-search.or.jp/jds/pj/IpAddressAuth>
- Web of Science（Science Citation Index Expanded）：世界的な自然科学系のメジャー雑誌、約8,500誌に掲載された論文の引用関係を効率的に辿ることのできるデータベース。本学が契約している電子ジャーナルの原著論文へのリンク機能を持つ。 → <http://webofknowledge.com/wos>
- INSPEC：物理学、電気工学、エレクトロニクス、コンピュータ分野にわたる世界的な科学技術文献を網羅した優れたリソース、約950万件の書誌事項を収録 → <http://webofknowledge.com/inspec>
- Journal Citation Report on the Web（Science edition）：約200の専門分野にわたる8,000誌以上の、最も引用され・かつ国際的評価の高い学術雑誌を収録し、Impact factorなどの雑誌の重要度、影響度を測るための有用な指標を提供 → <http://webofknowledge.com/JCR>
- MathSciNet：AMS（American Mathematical Society: 米国数学会）提供による、世界の数学文献をカバーする包括的な書誌・レビューデータベース → <http://www.ams.org/mathscinet/>

7. 電子ジャーナルの検索・閲覧（VPN接続や情報科学センター発行の九工大IDで学外からも閲覧可能）

文献データベースで検索した原著論文のフルテキストをオンラインで閲覧することができます。

ScienceDirect、SpringerLink、Wiley-Online Library等はサブジェクト毎のコレクションを有するとともに検索機能をもったデータベースでもあります。学術雑誌約5,300タイトルが閲覧可能です。

☆主な電子ジャーナル

- ScienceDirect（Elsevier社）：自然科学・工学・医学分野他 → <http://www.sciencedirect.com/>
- SpringerLink（Springer社）：自然科学・工学・医学分野他 → <http://link.springer.com/>
- Wiley Online Library（Wiley社）：自然科学・工学・医学分野他 → <http://onlinelibrary.wiley.com/>
- CSDL（IEEE Computer Society Digital Library）：コンピュータサイエンス
→ <http://ieeexplore.ieee.org/Xplore/accessinfo.jsp>
- APS（American Physical Society）：物理学 → <http://prola.aps.org/>
- American Chemical Society Web Editions：化学・応用化学 → <http://pubs.acs.org/>

- Nature : Nature 本誌と生命科学・材料科学分野 5 タイトル → <http://www.nature.com/nature/>
- ASME (American Society of Mechanical Engineers) : 機械 → <http://asmedigitalcollection.asme.org/>
- IOP (Institute of Physics) : 物理 → <http://iopscience.iop.org/journals>

8. 電子ブックの利用

- NetLibrary → <http://search.ebscohost.com/>
大学の学部生向けの基本的な学術図書のコレクションです。
「物理学 30 講シリーズ」、「理工系の数学教室」、「新・数学とコンピュータシリーズ」等 理工系・人文系和書（朝倉書店、東京電機大学出版局他）412 点と洋書 65 点、著作権フリーの洋書 3,500 点を閲覧できます。
- Maruzen eBook Library → <https://elib.maruzen.co.jp/>
丸善出版、オーム社などの和書 102 点が閲覧できます。
- Springer 社 eBook → <http://link.springer.com/>
シュプリンガー・イーブック・コレクションのうち、2005-2006 年の全分野と Engineering（工学）分野の 2007 年から 2013 年までなど約 13,000 点を閲覧できます。
- Wiley online books → <http://onlinelibrary.wiley.com/>
ワイリーの電子ブック 179 点（理工・人文分野）を Wiley Online Library のプラットフォームから閲覧できます。
- ScienceDirect eBooks → <http://www.sciencedirect.com/>
エルゼビアの電子ブック 2010 年発行の 386 点（理工学系分野）と Engineering 他の 23 のブックシリーズが 2009 年より ScienceDirect のプラットフォームから閲覧できます。
- ebrary Academic Complete with DASH → <http://site.ebrary.com/lib/kyutech>
世界有数の出版社（Springer,Elsevier 他）から出版された自然科学・工学・人文社会など 80,000 点が閲覧できます。
- ジャパンナレッジ Lib → <http://japanknowledge.com/library/>
東洋文庫、新編日本古典文学全集など和書約 800 点を閲覧できます。

9. 図書館発信データベースの検索

- 九州工業大学学術機関リポジトリ “Kyutacar（キューテイカー）”：学内で生産された教育・研究成果情報を電子的に蓄積・保存し、無償で学内外に発信・提供するインターネット上のデータベース
→ <http://ds.lib.kyutech.ac.jp/dspace/>
- 筑豊歴史写真ギャラリー（情報工学部分館）：昭和 30 年代前半まで日本の産業・経済を支え、わが国有数の石炭生産地であった筑豊の往時の姿を伝える写真データベース → <http://search2.libi.kyutech.ac.jp/>
- 博士学位論文：九州工業大学で授与された課程博士論文、論文博士論文の論題と目次（要旨）の一覧
→ <https://www.lib.kyutech.ac.jp/libt/shiryoannai/thesis/thesis.htm>

10. ビデオオンデマンド教材の閲覧（VPN 接続で学外からも閲覧可能）

丸善 BBC 等の主に英語教育を目的としたビデオプログラムを VOD 配信するサービス

☆戸畑・若松キャンパス → https://www.lib.kyutech.ac.jp/libt/gakunaisenyovod_tobata/index.htm

- 科学と人間：クローン時代と生命倫理＝ DAWN OF THE CLONE AGE（英語、日本語字幕版）など約 124 点を閲覧できます。

図書館情報リテラシー

全学科 1 年次 前期 工学基礎科目の「情報リテラシー」の時間に行う。

担当 1) 図書館：学術情報資源の活用法

附属図書館業務委託請負業者

2) 学習教育センター ICT 支援部門：e-ラーニング教材の使い方

学習教育センター ICT 支援部門 大西淑雅講師、山口真之介助教

アシスタント 附属図書館の業務委託請負業者及び図書館職員（4～5 人）、TA

概 要

1. 目的

大学の学術情報基盤を支える図書館の機能やサービスを紹介し、端末を使って情報検索を実習することにより図書館の活用能力を高め、学生の学習や研究活動をより効果的に行うことを目的とする。また、学習支援ツール（Moodle）や各種 ICT サービスの体験学習を行うことによって、大学内の自主学習環境を活用する習慣を涵養することを目的とする。

2. 方法

新入生を対象として、工学基礎科目の情報リテラシーの 1 コマ 90 分の時間の中で図書館における情報リテラシーについて説明、実習を行う。また、学習教育センター ICT 支援部門による学習支援ツール（Moodle）や各種 ICT サービスの説明、紹介を行う。

講義終了後、各自で Moodle を使ったファイルの提出方法について、動画教材で学習させ、レポートファイルを Moodle で期限内に提出させる。

提出したファイルの形式、ファイル名、内容について、課題要求を満たしているか評価する。

1) 図書館：学術情報資源の活用法（60 分）

2) 学習教育センター ICT 支援部門：学習支援ツール（Moodle）や各種 ICT サービスの体験学習（25 分）

3) 授業アンケート（5 分）

授業計画

（1）学術情報資源の活用法（図書館）

1) 大学での学習・研究と図書館の役割

2) 学術情報とは

- ・図書と雑誌の違い
- ・1 次資料と 2 次資料

3) 図書の探し方

- ・OPAC を使って、書名検索・著者名検索を行う。
- ・CiNii Books を使う。
- ・実習：演習問題を OPAC または CiNii Books で検索する。

4) 引用・参考文献について

- ・引用・参照の規則の説明

5) 参考文献リストに載っている雑誌論文の読み方

6) 雑誌論文の所在を探す

- ・OPAC を使って、雑誌名検索を行う。

- 7) 電子ジャーナルの使い方
 - 8) 雑誌論文をテーマで探す
 - ・CiNii の特徴と使い方の説明
 - ・JDream III の特徴と使い方の説明
 - ・実習：演習問題を CiNii または JDream III を使って調べる。
 - 9) その他の文献情報データベースの説明
 - 10) 電子ブックの説明
 - 11) ビデオ・オン・デマンドの説明
 - 12) マイライブラリと図書館の利用
- (2) 各種サービスと自主学习教材の使い方 (学習教育センター ICT 支援部門)
- 1) 学習支援サービス (Moodle) の紹介
 - ・2014 年度新システム Moodle2.7 を用いた予習・復習の解説
 - ・ID の取り扱いから Moodle の利用について動画教材をベースに解説
 - ・Moodle の操作について実習
 - ・PDF 版「学習支援サービスの手引き」の紹介
 - 2) モバイル端末の活用
 - ・Handbook サービス、インストール方法の説明
 - ・就職活動対策 SPI、情報処理技術者試験対策 (Handbook4 サービスの利用)
 - ・TOEIC アプリケーションの紹介
 - ・無線 LAN サービスの登録と利用法
 - 3) 自主学习 (e-ラーニング) とグループ学習の支援ツールの紹介
 - ・英語自主学习「ALC ネットアカデミー」の使い方
 - ・Web 会議システムの使い方
 - 4) 授業外学習「情報倫理のビデオ教材」を用いた課題
 - ・情報倫理ビデオを講義時間外に見てもらい、Moodle 上の小テストを受けてもらう。
 - 5) 動画教材を用いた自主学习 (復習) と Moodle による課題提出
 - ・講義後に Moodle を用いたレポートファイルの提出についての解説動画を各自で視聴して、課題の提出方法を学習する。
 - ・レポートファイルを Moodle で提出する。(期限 2 週間程度)
 - ・指定された通りのファイルが提出されているか、及びその内容で評価する。
- (3) 授業の進め方
- 端末室でのインターネットを利用した実習形式

教科書・参考書

図書館作成のテキスト・演習問題他、CiNii クイックガイド他

備 考

Moodle による授業アンケートを実施する。

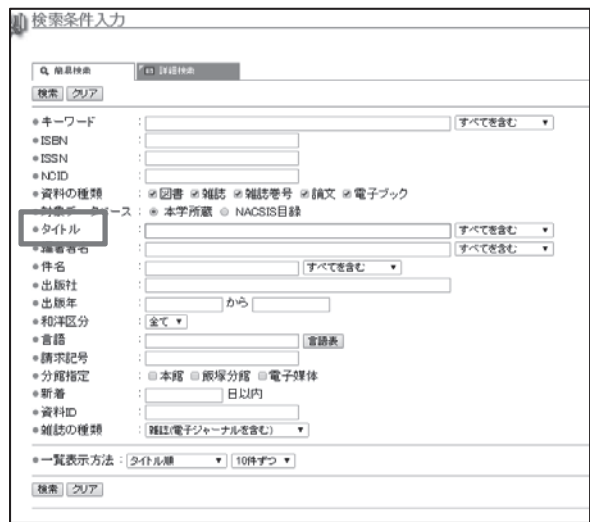
附属図書館蔵書検索方法

① 九州工業大学図書館 HP で

九州工業大学 OPAC をクリックする。

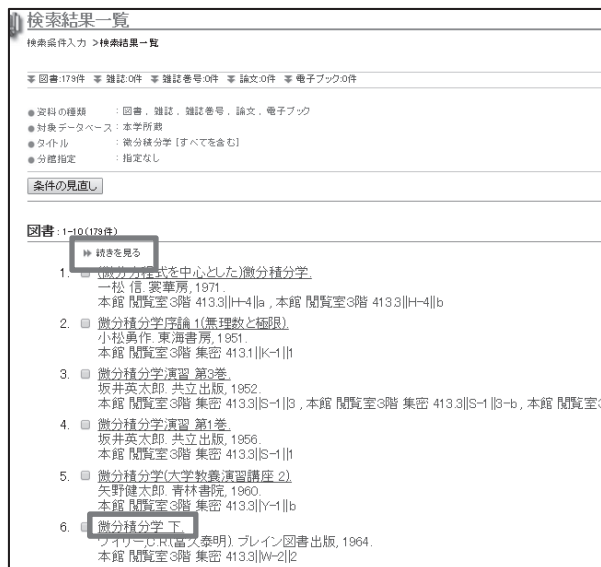


② 検索条件を入力する。

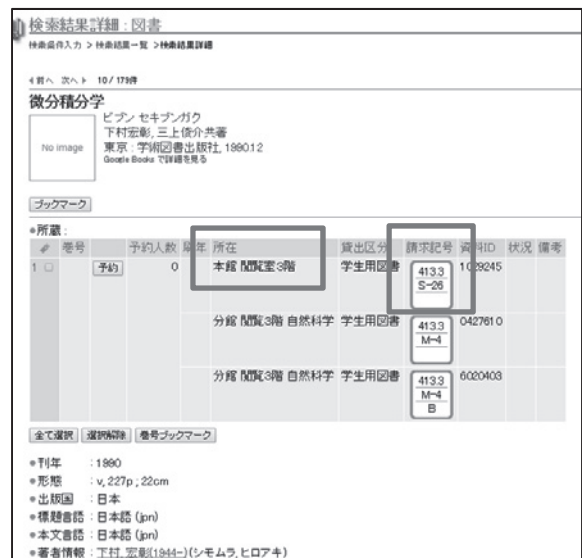


③ 探している図書をクリックする。

ない場合は「続きを見る」。



④ 所在・請求記号を確認する。



I. 人間科学基礎科目

(1) 人文社会系科目

「人文社会系科目について」

1. 目的

- 1) 豊かな人間性をもつ真の教養人としての技術者の育成。
- 2) 多様な視点から物事を判断する能力の養成。
- 3) 自ら問題を発見し答えていく姿勢の強化。

2. 目標

1) 知識・理解

- 人間科学基礎科目・人文社会系の各選択必修科目において、多様な人間、社会及び文化に関して理解する。
- 人間科学基礎科目・人文社会系の「職業と社会」において、工学・技術が社会で果たす役割を理解する。
- G（グローバル教養）科目において、グローバル化を背景とした現代社会の技術者に不可欠な多様な文化、価値観についての理解を深める

2) 汎用的技能

- 副専門人間科学科目・上級科目の各選択科目において、問題解決に必要な論理的・批判的思考力、分析力、説明能力を修得する。
- 人間科学基礎科目・人文社会系の「日本語表現法」において、背景や文脈を理解して適切に説明できる日本語能力を修得する。

3) 態度・志向性

- 副専門人間科学科目・上級科目の各選択科目や、副専門人間科学科目・人間科学総合科目のテーマ別リレー講義及びリレーセミナー等において、自己を律する自己管理ができ、自発的な活動ができることを目指す。
- 人間科学基礎科目・人文社会系の「日本語表現法」において、人々と協調でき、個人の能力も発揮できることを目指す。
- G（グローバル教養）科目において多様な文化・価値観に寛容な態度・指向性を身につける

3. 科目の内容

- ・具体的内容については、各科目のシラバスを参照。

4. 履修上の注意

- ・人間科学基礎科目・人文社会系の選択必修科目では、全体を三つの科目群に分け、学科ごとに当該学期の履修科目群が指定される、指定科目群制度を取っている。学期始めに配布される説明プリントを熟読し、各学期の開講日に、履修を希望する授業に必ず出席すること。

哲学Ⅰ Philosophy I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：1・2年次
 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：2単位
 担当教員名 中村 雅之

1. 概要

（月曜1限）

●授業の概要

ほとんど死語となりつつある「教養」概念について、現代、必要とされる内実をもっているか、考察する。

●授業の目的

哲学的な問題と解決への努力の実際を学ぶことにより、哲学的思考法の基本を身につける。

2. キーワード

教養主義、旧制高校、反知性主義

3. 到達目標

- ・特定の問題を素材に、さまざまな考え方を比較考量する能力を身につける。
- ・それをもとに、自ら思考し、判断する能力の基礎を作る。

4. 授業計画

- 第1回 大正教養主義
- 第2回 戦前の学制
- 第3回 阿部次郎
- 第4回 三木清
- 第5回 マルクス主義
- 第6回 河合栄治郎
- 第7回 岩波文化と講談社文化
- 第8回 新制大学
- 第9回 唐木順三
- 第10回 大学紛争
- 第11回 実用的教養？
- 第12回 サブカルチャーの位置
- 第13回 教養の退場
- 第14回 現代の教養
- 第15回 試験問題解説

5. 評価の方法・基準

期末試験（約70%）および数回のノート提出（約30%）で評価する。

60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

講義をよく聴きとって、ノートを作成すること。また、以下の参考図書を、自宅学習に活用すること。

筒井清忠『新しい教養を求めて』（中公叢書、2000年）本館
 閲覧室1階 002/T-7 研究用図書

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

次回の授業範囲の予習として、不明な専門用語の意味を調べておくこと。

8. 教科書・参考書

授業時に資料を配布。

9. オフィスアワー

月曜日：15:00～16:00

哲学Ⅰ Philosophy I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：1・2年次
 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：2単位
 担当教員名 中村 雅之

1. 概要

（月曜2限）

●授業の概要

評論を「読み」かつ「考える」：高校までで「哲学」と名のつく授業を取った者はほとんどいないだろうが、じつは国語教科書の評論の中には、哲学的思考にかかわるものが少なくない。そうした評論を、試験勉強のためでなく、本格的に読みこなすことによって、哲学的思考のやり方を学ぶ。

●授業の目的

哲学的な問題と解決への努力の実際を学ぶことにより、哲学的思考法の基本を身につける。

2. キーワード

哲学的思考、読解

3. 到達目標

- ・典型的な哲学的問題を素材に、さまざまな考え方を比較考量する能力を身につける。
- ・それをもとに、自ら思考し、判断する能力の基礎を作る。

4. 授業計画

- 第1～2回 田中美知太郎「モームの哲学練習」
 （『古典学徒の信条』）
- 第3～4回 鶴見俊輔「日本の哲学言語」（『記号論集』）
- 第5～6回 湯川秀樹「科学者の創造性」
 （筑摩日本文学全集『現代評論集』）
- 第7～9回 会田雄次「ヨーロッパ・ヒューマンイズムの限界」（同）
- 第10～13回 中村光夫「近代を疑う」
- 第14回 小浜逸郎「人は何のために生きるのか」
- 第15回 試験問題解説

5. 評価の方法・基準

期末試験で評価する。

60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

授業時に取り上げた著者の他の評論にも目を通していただくこと。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

次回の授業範囲の予習として、不明な専門用語の意味を調べておくこと。

8. 教科書・参考書

授業時に資料を配布。

9. オフィスアワー

月曜日：15:00～16:00

哲学Ⅰ Philosophy Ⅰ

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：1・2年次

学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：2単位

担当教員名 中村 雅之

1. 概要

（金曜2限）

●授業の概要

クリティカル・シンキング入門

本講義は、2、3年生を対象とした中級講義である。批判的・論理的思考を身につけることを目指す。

●授業の目的

論理的文章の書き方を身につける。

2. キーワード

クリティカル・シンキング、論理、批判

3. 到達目標

- ・事実の検証方法、議論の仕方、論理的推論の方法を身につける。
- ・他人に伝わる日本語表現の方法を身につける。

4. 授業計画

第1～2回 批判的・創造的思考

第3～5回 推論のやり方

第6回 レポート検討Ⅰ

第7～8回 因果的説明

第9～11回 表現の明確化

第12回 レポート検討Ⅱ

第13～15回 理由の評価

5. 評価の方法・基準

講義進行中に課せられる2回の小レポートと期末レポートの合計点で評価する。

小レポート各25%、期末レポート50%。

60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

小レポート、期末レポートは単位の必須要件なので、必ず提出すること。以下の参考図書を、自宅学習に活用すること。松永和紀著『クリティカル・シンキング入門』（ナカニシヤ出版、2005）141.5/F-5

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

次回の授業範囲の予習として、不明な専門用語の意味を調べておくこと。

8. 教科書・参考書

授業時に資料を配布。

9. オフィスアワー

月曜日：15：00～16：00

哲学Ⅱ Philosophy Ⅱ

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：1・2年次

学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：2単位

担当教員名 中村 雅之

1. 概要

（月曜1限）

●授業の概要

哲学書はなぜ難解なのか

哲学の本は、なぜ難しいのだろうか。理解のしにくさ、難解さはどこから来るのだろうか。哲学の代表的古典を素材に、文化的差異、翻訳の問題、日本語の問題などを検討しつつ、哲学書の難解さの由来を探る。また、一般に「読むということ」はどのような営みなのかも考えてみたい。それゆえ、哲学の古典を素材に個々の哲学説を解説する講義ではないので注意すること。

●授業の目的

哲学の古典を読むことにより、難解さの由来、また一般に「わかる」とはどういうことか、「読む」とは、どのような行為なのかを理解する。

2. キーワード

西洋哲学、翻訳、日本語

3. 到達目標

- ・典型的な哲学的問題を素材に、さまざまな考え方を比較考量する能力を身につける。
- ・それをもとに、自ら思考し、判断する能力の基礎を作る。

4. 授業計画

第1回 「分からない」とはどういうことか。

第2回 文化的背景の違い

第3回 翻訳の問題

第4回 日本語の問題

第5回 プラトン『パイドン』（1）

第6回 プラトン『パイドン』（2）

第7回 デカルト『省察』（1）

第8回 デカルト『省察』（2）

第9回 カント『純粹理性批判』（1）

第10回 カント『純粹理性批判』（2）

第11回 ニーチェ『ツァラトゥストラはかく語りき』（1）

第12回 ニーチェ『ツァラトゥストラはかく語りき』（2）

第13回 ハイデガー『存在と時間』（1）

第14回 ハイデガー『存在と時間』（2）

第15回 試験問題解説

5. 評価の方法・基準

期末試験（約70%）および数回のノート提出（約30%）で評価する。

60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

スライドだけでなく、口頭の補足を書き取ってノートを作成すること。また、以下の参考図書を、自宅学習に活用すること。

『プラトン全集』（岩波書店）131.3/P-5/1

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

次回の授業範囲の予習として、不明な専門用語の意味を調べておくこと。

8. 教科書・参考書

授業時に資料を配布。

9. オフィスアワー

月曜日：15：00～16：00

哲学Ⅱ Philosophy Ⅱ

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：1・2 年次

学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：2 単位

担当教員名 中村 雅之

1. 概要

(月曜 2 限)

●授業の概要

ほとんど死滅したかに思われる「知識人」について、その必要性、役割を考察する。

●授業の目的

現代における死の哲学的問題を考察することにより、これらの問題を自らの問題として引き受け、自ら考える能力の獲得を目指す。

2. キーワード

知識人、産業知識人、大衆

3. 到達目標

- ・特定の問題を素材に、さまざまな考え方を比較考量する能力を身につける。
- ・それをもとに、自ら思考し、判断する能力の基礎を作る。

4. 授業計画

- 第1回 知識人の登場
- 第2～5回 インテリゲンチヤ
- 第6回 総合雑誌
- 第7回 マルクス主義
- 第8回 週刊誌の登場
- 第9回 大宅壮一
- 第10回 テレビの普及
- 第11回 テレビ文化人の台頭
- 第12回 知識人の溶解
- 第13回 ネット言論
- 第14回 知識人は絶滅したか？
- 第15回 試験問題解説

5. 評価の方法・基準

期末試験（約 70%）および数回のノート提出（約 30%）で評価する。

60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

講義をよく聴き、ノートを作成すること。また、以下の参考図書、自宅学習に活用すること。

ボタン『知識人』（文庫クセジュ、）。

本館 閲覧室 1 階 文庫 081/Q-1/340 学生用図書。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

次回の授業範囲の予習として、不明な専門用語の意味を調べておくこと。

8. 教科書・参考書

授業時に資料を配布。

9. オフィスアワー

月曜日：15：00～16：00

倫理学Ⅰ Ethics Ⅰ

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：1・2 年次

学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：2 単位

担当教員名 堺 正憲

1. 概要

(月曜 1 限)

●授業の背景

現代の目覚ましい科学技術の発達と人間の活動に伴って、環境問題などわれわれ人類の生存に関わる全地球の問題が生じている。このような現代の状況において、古来、哲学や倫理学が問題として探求して来た「人間として知るべき知恵」の重要性を再認識するとともに、この「知恵」によって科学技術的知識と人間の活動とをコントロールする必要性が生じている。また、人間生活が目指すべき目標についても再考する必要性が生じている。

●授業の目的

本授業は、われわれが人生をよく生きるために、世界とこの世界の中の人間（自己）の在り方について深く考えるための材料を提供することを目的とする。

●授業の位置付け

倫理学を、世界観と人生観の学としての哲学の一部門と位置付け、人間の在り方をめぐる問題を、社会や自然との関連とともに、超越者との関連をも視野に入れながら哲学的に考察する。（関連する学習教育目標：われわれが持つ「知」には種類と段階とがあることを理解する。）

2. キーワード

倫理学、哲学、古代ギリシア哲学、イデア、アウグスティヌス、キリスト教、西洋中世哲学、神の国、ローマ国家、神々、運命、神の摂理、ヴァロ

3. 到達目標

1. 世界観と人生観の問題について考える習慣を身につける。
2. 人生の目標や意義について考えることの重要性を理解する。
3. 人間存在と人間共同体との密接な関係を理解する。

4. 授業計画

- 第1回 倫理学と哲学（1）
- 第2回 倫理学と哲学（2）
- 第3回 倫理学と哲学（3）
- 第4回 倫理学と哲学（4）
- 第5回 古代ギリシア哲学—万物の原理の探求
- 第6回 古代ギリシア哲学—生き方の規範としての価値の探求
- 第7回 古代ギリシア哲学—自然の問題と人間の問題の総合
- 第8回 哲学とキリスト教
- 第9回 西洋中世哲学
- 第10回 アウグスティヌス著『神の国』全22巻についての概説
- 第11回 『神の国』第1巻—自殺の問題
- 第12回 『神の国』第2～4巻—神々の問題
- 第13回 『神の国』第5巻—運命、神の摂理
- 第14回 『神の国』第6巻—ヴァロ〔ウェルロ〕の説の批判
- 第15回 前期末試験
- 第16回 試験の解説、等

5. 評価の方法・基準

期末試験（100%）で評価する。

60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

本授業は、全体が連続した内容になっていますので、欠席すると前後のつながりが分からなくなります。授業には、忍耐強く継続して出席して下さい。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

各回に関連するキーワードについて授業前に調べ、理解に努めること。

8. 教科書・参考書

●教科書

アウグスティヌス著 / 服部英次郎訳『神の国（一）』（岩波文庫）

132.1/A-8/1『神の国（二）』132.1/A-8/2

●参考書

和辻哲郎著『人間の学としての倫理学』（岩波文庫）150/W-1/2、アリストテレス著／高田三郎訳『ニコマコス倫理学（上下）』（岩波文庫）131.4/A-31-2/1,131.4/A-31-2/2、アリストテレス著／山本光雄訳『政治学』（岩波文庫）081/I-1/6319-6322a、宇都宮芳明『訳注・カント『道徳形而上学の基礎づけ』』（以文社）134.2/K-19、田中美知太郎著『哲学初歩』（改訂版）（岩波全書）101/T-7、西田幾多郎著『哲学概論』（岩波書店）101/N-2/b、田中美知太郎著『ソクラテス』（岩波新書）131.2/T-1、藤沢令夫著『プラトンの哲学』（岩波新書）131.1/F-1、アリストテレス著／出隆訳『形而上学（上下）』（岩波文庫）131.4/A-30、山田晶著『アウグスティヌス講話』（講談社学術文庫）081/K-4/1186

9. オフィスアワー

質問は、授業中あるいは授業後に随時直接受け付ける。なお、その他連絡したいことがある場合は、下記の電子メール・アドレスで受け付ける。

(E-mail: m-sakai@pastel.ocn.ne.jp)

倫理学Ⅰ EthicsⅠ

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：2 年次

学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：2 単位

担当教員名 堺 正憲

1. 概要

（金曜 2 限）

●授業の背景

現代の目覚ましい科学技術の発達と人間の活動に伴って、環境問題などわれわれ人類の生存に関わる全地球的問題が生じている。このような現代の状況において、古来、哲学や倫理学が問題として探求して来た「人間として知るべき知恵」の重要性を再認識するとともに、この「知恵」によって科学技術的知識と人間の活動とをコントロールする必要性が生じている。また、人間生活が目指すべき目標についても再考する必要性が生じている。

●授業の目的

本授業は、われわれが人生をよく生きるために、世界とこの世界の中の人間（自己）の在り方について深く考えるための材料を提供することを目的とする。

●授業の位置付け

倫理学を、世界観と人生観の学としての哲学の一部門と位置付け、人間の在り方をめぐる問題を、国家・社会や自然との関連も視野に入れて哲学的に考察する。（関連する学習教育目標：われわれが持つ「知」には種類と段階とがあることを理解する。）

2. キーワード

倫理学、哲学、古代ギリシア哲学、ソクラテス、無知の知、プラトン、イデア、国家、正義、哲学者、哲人統治

3. 到達目標

1. 世界観と人生観の問題について考える習慣を身に着ける。
2. 人生の目標や意義について考えることの重要性を理解する。
3. 人間存在と人間共同体との密接な関係を理解する。

4. 授業計画

- 第1回 倫理学と哲学（1）
- 第2回 倫理学と哲学（2）
- 第3回 倫理学と哲学（3）
- 第4回 倫理学と哲学（4）
- 第5回 古代ギリシア哲学—万物の原理の探求
- 第6回 古代ギリシア哲学—生き方の規範としての価値の探求
- 第7回 古代ギリシア哲学—自然の問題と人間の問題の総合
- 第8回 ソクラテスの問題—無知の知
- 第9回 ソクラテスの問題—よく生きる
- 第10回 プラトン著『国家』第1～4巻の要旨
- 第11回 プラトン著『国家』第5巻
—男女両性における同一の職務と同一の教育
- 第12回 プラトン著『国家』第5巻
—国の守護者たちの間での妻女と子供の共有
- 第13回 プラトン著『国家』第5巻—哲学者による国家統治
- 第14回 プラトン著『国家』第5巻—「哲学者」の規定
- 第15回 前期末試験
- 第16回 試験の解説、等

5. 評価の方法・基準

期末試験（100％）で評価する。

60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

本授業は、全体が連続した内容になっていますので、欠席すると前後のつながりが分からなくなります。授業には、忍耐強く継続して出席して下さい。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

各回に関連するキーワードについて授業前に調べ、理解に努めること。

8. 教科書・参考書

●教科書

プラトン著／藤沢令夫訳『国家（上）』（岩波文庫）131.3/

P-30-2/1

●参考書

和辻哲郎著『人間の学としての倫理学』（岩波文庫）150/W-1/2、アリストテレス著／高田三郎訳『ニコマコス倫理学（上下）』（岩波文庫）131.4/A-31-2/1, 131.4/A-31-2/2 アリストテレス著／山本光雄訳『政治学』（岩波文庫）081/I-1/6319-6322a、宇都宮芳明『訳注・カント『道徳形而上学の基礎づけ』』（以文社）134.2/K-19、田中美知太郎著『哲学初歩』（改訂版）（岩波全書）101/T-7、西田幾多郎著『哲学概論』（岩波書店）101/N-2/b、田中美知太郎著『ソクラテス』（岩波新書）131.2/T-1、藤沢令夫著『プラトンの哲学』（岩波新書）131.1/F-1、アリストテレス著／出隆訳『形而上学（上下）』（岩波文庫）131.4/A-30

9. オフィスアワー

質問は、授業中あるいは授業後に随時直接受け付ける。なお、その他連絡したいことがある場合は、下記の電子メール・アドレスで受け付ける。

(E-mail: m-sakai@pastel.ocn.ne.jp)

倫理学Ⅱ Ethics Ⅱ

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：1・2 年次
学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：2 単位

担当教員名 堺 正憲

1. 概要

（月曜1限）

●授業の背景

現代の目覚ましい科学技術の発達と人間の活動に伴って、環境問題などわれわれ人類の生存に関わる全地球的問題が生じている。このような現代の状況において、古来、哲学や倫理学が問題として探求して来た「人間として知るべき知恵」の重要性を再認識するとともに、この「知恵」によって科学技術的知識と人間の活動とをコントロールする必要性が生じている。また、人間生活が目指すべき目標についても再考する必要性が生じている。

●授業の目的

本授業は、われわれが人生をよく生きるために、世界とこの世界の中の人間（自己）の在り方について深く考えるための材料を提供することを目的とする。

●授業の位置付け

倫理学を、世界観と人生観の学としての哲学の一部門と位置付け、人間の在り方をめぐる問題を、社会や自然との関連とともに、超越者との関連をも視野に入れながら哲学的に考察する。（関連する学習教育目標：われわれが持つ「知」には種類と段階とがあることを理解する。）

2. キーワード

倫理学、哲学、古代ギリシア哲学、イデア、アウグスティヌス、キリスト教、西洋中世哲学、神の国、ローマ国家、神々、運命、神の摂理、ヴァロ

3. 到達目標

1. 世界観と人生観の問題について考える習慣を身に着ける。
2. 人生の目標や意義について考えることの重要性を理解する。
3. 人間存在と人間共同体との密接な関係を理解する。

4. 授業計画

- 第1回 倫理学と哲学（1）
- 第2回 倫理学と哲学（2）
- 第3回 倫理学と哲学（3）
- 第4回 倫理学と哲学（4）
- 第5回 古代ギリシア哲学—万物の原理の探求
- 第6回 古代ギリシア哲学—生き方の規範としての価値の探求
- 第7回 古代ギリシア哲学—自然の問題と人間の問題の総合
- 第8回 キリスト教と哲学
- 第9回 西洋中世哲学
- 第10回 アウグスティヌス著『神の国』全22巻についての概説
- 第11回 『神の国』第1巻—自殺の問題
- 第12回 『神の国』第2～5巻—キリスト教の神とローマの神々
- 第13回 『神の国』第6巻—ヴァロ〔ウァルロ〕の説の批判（1）
- 第14回 『神の国』第7巻—ヴァロの説の批判（2）
- 第15回 後期末試験
- 第16回 試験の解説、等

5. 評価の方法・基準

期末試験（100％）で評価する。

60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

本授業は、全体が連続した内容になっていますので、欠席すると前後のつながりが分からなくなります。授業には、忍耐強く継続して出席して下さい。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

各回に関連するキーワードについて授業前に調べ、理解に努めること。

8. 教科書・参考書

●教科書

アウグスティヌス著／服部英次郎訳『神の国（一）』（岩波文庫）

132.1/A-8/1『神の国（二）』132.1/A-8/2

●参考書

和辻哲郎著『人間の学としての倫理学』（岩波文庫）150/W-1/2、アリストテレス著／高田三郎訳『ニコマコス倫理学（上下）』（岩波文庫）131.4/A-31-2/1、131.4/A-31-2/2、アリストテレス著／山本光雄訳『政治学』（岩波文庫）081/I-1/6319-6322a、宇都宮芳明『訳注・カント『道徳形而上学の基礎づけ』（以文社）134.2/K-19、田中美知太郎著『哲学初歩』（改訂版）（岩波全書）101/T-7、西田幾多郎著『哲学概論』（岩波書店）101/N-2/b、田中美知太郎著『ソクラテス』（岩波新書）131.2/T-1、藤沢令夫著『プラトンの哲学』（岩波新書）131.1/F-1、アリストテレス著／出隆訳『形而上学（上下）』（岩波文庫）131.4/A-30、山田晶著『アウグスティヌス講話』（講談社学術文庫）081/K-4/1186

9. オフィスアワー

質問は、授業中あるいは授業後に随時直接受け付ける。なお、その他連絡したいことがある場合は、下記の電子メール・アドレスで受け付ける。

(E-mail: m-sakai@pastel.ocn.ne.jp)

倫理学Ⅱ Ethics Ⅱ

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：2 年次

学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：2 単位

担当教員名 堺 正憲

1. 概要

（金曜 2 限）

●授業の背景

現代の目覚ましい科学技術の発達と人間の活動に伴って、環境問題などわれわれ人類の生存に関わる全地球的問題が生じている。このような現代の状況において、古来、哲学や倫理学が問題として探求して来た「人間として知るべき知恵」の重要性を再認識するとともに、この「知恵」によって科学技術的知識と人間の活動とをコントロールする必要性が生じている。また、人間生活が目指すべき目標についても再考する必要性が生じている。

●授業の目的

本授業は、われわれが人生をよく生きるために、世界とこの世界の中の人間（自己）の在り方について深く考えるための材料を提供することを目的とする。

●授業の位置付け

倫理学を、世界観と人生観の学としての哲学の一部門と位置付け、人間の在り方をめぐる問題を、国家・社会や自然との関連も視野に入れて哲学的に考察する。（関連する学習教育目標：われわれが持つ「知」には種類と段階とがあることを理解する。）

2. キーワード

倫理学、哲学、古代ギリシア哲学、ソクラテス、無知の知、プラトン、イデア、国家、正義、哲学者、哲人統治

3. 到達目標

1. 世界観と人生観の問題について考える習慣を身に着ける。
2. 人生の目標や意義について考えることの重要性を理解する。
3. 人間存在と人間共同体との密接な関係を理解する。

4. 授業計画

- 第1回 倫理学と哲学（1）
- 第2回 倫理学と哲学（2）
- 第3回 倫理学と哲学（3）
- 第4回 倫理学と哲学（4）
- 第5回 古代ギリシア哲学—万物の原理の探求
- 第6回 古代ギリシア哲学—生き方の規範としての価値の探求
- 第7回 古代ギリシア哲学—自然の問題と人間の問題の総合
- 第8回 ソクラテスの問題—無知の知
- 第9回 ソクラテスの問題—よく生きる
- 第10回 プラトン著『国家』第1～4巻の要旨
- 第11回 『国家』第5巻の要旨
- 第12回 『国家』第6巻—「哲学」のための弁明
- 第13回 『国家』第6巻—「善」のイデア、太陽の比喻
- 第14回 『国家』第6巻—線分の比喻
- 第15回 後期末試験
- 第16回 試験の解説、等

5. 評価の方法・基準

期末試験（100％）で評価する。

60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

本授業は、全体が連続した内容になっていますので、欠席すると前後のつながりが分からなくなります。授業には、忍耐強く継続して出席して下さい。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

各回に関連するキーワードについて授業前に調べ、理解に努めること。

8. 教科書・参考書

●教科書

プラトン著／藤沢令夫訳『国家（上）』（岩波文庫）131.3/P-30-2/1（改版）『国家（下）』（岩波文庫）131.3/P-30/2（初版）

●参考書

和辻哲郎著『人間の学としての倫理学』（岩波文庫）150/W-1/2、アリストテレス著／高田三郎訳『ニコマコス倫理学（上下）』（岩波文庫）131.4/A-31-2/1、131.4/A-31-2/2、アリストテレス著／山本光雄訳『政治学』（岩波文庫）081/I-1/6319-6322a、宇都宮芳明『訳注・カント『道徳形而上学の基礎づけ』（以文社）134.2/K-19、田中美知太郎著『哲学初歩』（改訂版）（岩波全書）101/T-7、西田幾多郎著『哲学概論』（岩波書店）101/N-2/b、田中美知太郎著『ソクラテス』（岩波新書）131.2/T-1、藤沢令夫著『プラトンの哲学』（岩波新書）131.1/F-1、アリストテレス著／出隆訳『形而上学（上下）』（岩波文庫）131.4/A-30

9. オフィスアワー

質問は、授業中あるいは授業後に随時直接受け付ける。なお、その他連絡したいことがある場合は、下記の電子メール・アドレスで受け付ける。

(E-mail: m-sakai@pastel.ocn.ne.jp)

歴史学Ⅰ History I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：1・2 年次
学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：2 単位
担当教員名 渡邊 裕一

1. 概要

（月曜1・2限）

●授業の背景

森林破壊や温暖化、異常気象、あるいは食糧・エネルギー危機などの環境問題が顕在化し、地球規模での取り組みが模索される一方で、歴史学でも新たに環境史研究が重要な分野として誕生してきた。グローバルな視点で環境の世界史を描く研究に比べ、さまざまな時代・地域に即したローカルな環境史研究の重要性も認識されるようになっている。

●授業の目的

環境史という新たな視座から世界史を捉え直し、自然環境と社会経済との複雑な相互関係を歴史の流れのなかで理解する方法を身につける。さらに環境史や気候史、災害史などの新しい研究成果を紹介し、「環境の世紀」における歴史学の存在意義と可能性について考える。

●授業の位置づけ

本講義では、マクロな視点を重視する。ドイツ語圏の文献・研究を主に参考してヨーロッパの環境史を論じるが、日本、アジア、アメリカの環境史の動向も紹介する。

2. キーワード

環境の世界史、自然環境の利用と保全、気候変動、公害、災害の歴史

3. 到達目標

- ①歴史学の考え方を理解する。
- ②歴史学における時間軸・空間的枠組みについて理解する。
- ③日本語による歴史記述を習得する。

4. 授業計画

- ①ガイダンス
- ②環境史とは何か？
- ③環境史の時代区分
- ④森林
- ⑤エネルギー
- ⑥土地
- ⑦海、河川、湖沼
- ⑧疫病と人口一ペスト
- ⑨気候一近世の「小氷期」
- ⑩災害史
- ⑪都市の環境史
- ⑫アメリカ
- ⑬ユーラシア
- ⑭日本
- ⑮まとめ ※受講人数や進度に応じて変更の可能性あり

5. 評価の方法・基準

授業は講義形式で行う。視聴覚資料、配布資料を用いて補足説明する。まとめとして小レポートを行う。期末テストの前にはキーワードをあげて説明する。授業中には、資料の読み取りや意見の提示を課題として行う。

●成績評価

小レポート 40%
期末テスト 60%

6. 履修上の注意事項

第一回目の授業で注意点を述べます。授業中に紹介する図書や文献を参考にし、自ら積極的に理解を深めることに努めてください。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

授業の前には、必ず前回のノートを見直し、全体の流れを把握することに努めてください。

8. 教科書・参考書

参考文献

ヨアヒム・ラートカウ『自然と権力一環境の世界史』みすず書房、2012年。ISBN: 9784622076698

9. オフィスアワー

質問は、授業中あるいは授業後に随時直接受け付ける。なお、その他連絡したいことがある場合は、下記の電子メール・アドレスまで。

(E-mail: schembart10@gmail.com)

歴史学Ⅰ HistoryⅠ

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：1・2 年次

学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：2 単位

担当教員名 宮浦 崇

1. 概要

（水曜 5 限）

●授業の背景

グローバル化が進む現代にあって、自らの暮らす「国」「地域」についての歴史的な知識を持っていること、および自らの見解を交えて話題化できることは、グローバルなコミュニケーションを促進する上で重要なだけでなく、世界の中に自分自身を位置付ける際の重要な素材を獲得することでもある。本講義では、日本の近代化の歴史的変遷を追う。現代の諸課題を考察する際の基盤として存在する歴史的前提を確認する作業でもある。

●授業の目的

この授業では、歴史学的な観点から、日本の明治維新前後から太平洋戦争敗戦前後までの期間の事象について広く取り扱う。日本の「近代化」のプロセスを概観し、各々考察を加えることを通して、現在我々が生きる時代の諸課題との関連性や、世界的な視野で日本を位置付ける際の素材を受講者が獲得することを目的としている。

●授業の位置づけ

本授業は「歴史」という素材を通して、調べものや発表を取り入れながら、自分自身で問題探求できるような力をつけることができる。また、世界的な近代化の流れの中に日本の近代化を位置付けることで、グローバルな歴史的世界観の獲得に寄与する。将来的な視野の広がり、キャリアにつながる持続的な学習の力をつけることができる。

2. キーワード

日本近代史、社会政策、地域の歴史、殖産興業

3. 到達目標

- ①歴史学の考え方を理解する。
- ②歴史学における時間軸・空間的枠組みについて理解する。
- ③日本語による歴史記述を習得する。
- ④グローバルな歴史観・世界観を身につける。
- ⑤調査学習により自律的・持続的な学習の力をつける。

4. 授業計画

- ①受講にあたってのガイダンス、講義の全体像について
- ②「近代」について考える（1）「近代」とは「近代化」とは
- ③「近代」について考える（2）世界の中の「日本」の位置
- ④「翻訳」を通しての知識移入（1）
- ⑤「翻訳」を通しての知識移入（2）
- ⑥明治・大正期の政治・経済・文化（1）
- ⑦明治・大正期の政治・経済・文化（2）
- ⑧明治・大正期の政治・経済・文化（3）
- ⑨殖産興業と北部福岡地域（1）
- ⑩殖産興業と北部福岡地域（2）
- ⑪日本の近代化と九工大の歴史
- ⑫昭和（戦前期）の政治・経済・文化（1）
- ⑬昭和（戦前期）の政治・経済・文化（2）
- ⑭昭和（戦前期）の政治・経済・文化（3）
- ⑮講義総括 ※受講人数や進度に応じて変更することがあります。

5. 評価の方法・基準

授業は講義形式と受講者同士のディスカッション形式の混合で行う。視聴覚資料、配布資料を用いて補足説明する。Moodle等のオンラインシステムの利用をすることがあるが、利用に際しては説明を行う。授業内課題の作成や、確認テストを実施することがある。

●成績評価

- 小課題・発表等 30%
中間レポート 20%

期末テスト 50%

6. 履修上の注意事項

特定の教科書は使用しない。配布資料等は可能な限りオンライン（電子媒体）で提供するので、履修にあたっては、Moodle等のコースツールを使用する。使用にあたってはガイダンスをおこなう。

授業は講義形式とグループ（あるいは2、3人）の対話形式でのワークの混合形式で実施するため、授業教室の変更が発生することがある。掲示やオンラインツールの連絡には注意すること。

また文献等の調査を必要とするので、図書館での調査や資料講読（ライブラリーリサーチ）について取り上げる時間を設ける。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

事前の配布資料はかならず一読の上で授業に出席すること。またオンラインツール等によって授業のキーワード提示や事前の予習の指示をおこなった場合、事前にある程度のリサーチをおこなうこと。それら前提に授業を進行することがある。

8. 教科書・参考書

参考文献

柳父章『翻訳語成立事情』岩波書店、1982年。081/I-2-3/189

9. オフィスアワー

研究室扉脇のオフィスアワー掲示を参照のこと。

rekishiq@aol.com

歴史学Ⅱ History Ⅱ

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：1・2 年次
 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：2 単位
 担当教員名 渡邊 裕一

1. 概要

（月曜1・2限）

●授業の背景

かつて人々の暮らしは木材に囲まれていた。建築材や様々な製品の素材であるだけでなく、毎日の暖房や料理にも薪炭は欠かせなかった。石炭が普及する産業革命以前には、木材こそが主要エネルギー源であり、木材はまさに近代以前の「中心資源」であった。木材および森林の歴史を通じて、エネルギー転換や素材加工の歴史、さらに森林資源の利用と保全、自然環境と社会経済の相互関係を見ていきたい。

●授業の目的

身近にある「モノ」から世界史のダイナミズムを理解する。また、具体的な地域・時代の枠組みを設定したケース・スタディを通じて、歴史学の基本的な考え方や方法、史料の読み方、専門的な歴史学の論述方法を学ぶ。

●授業の位置づけ

本講義はヨーロッパ中世から近代までを主な対象とするが、比較考察のために日本やアジアの事例も取り上げる。また、「ものづくり」という観点から、ドイツ語圏における林業や手工業のマイスター制度の歴史にも触れたい。

2. キーワード

モノの歴史学、森林、木材、エネルギー、中近世ヨーロッパ

3. 到達目標

- ①歴史学の考え方を理解する。
- ②歴史学における時間軸・空間的枠組みについて理解する。
- ③日本語による歴史記述を習得する。

4. 授業計画

- ①ガイダンス
- ②中世ヨーロッパの物質文化（1）
- ③中世ヨーロッパの物質文化（2）
- ④中世の森林利用
- ⑤都市の勃興と木材需要
- ⑥ケース・スタディ（1）：都市の森林政策—ニュルンベルク
- ⑦ケース・スタディ（2）：都市の森林政策—フライベルク
- ⑧16世紀のヨーロッパ
- ⑨ケース・スタディ（3）：都市の森林政策—アウクスブルク
- ⑩ケース・スタディ（4）：都市の森林政策—アウクスブルク
- ⑪ケース・スタディ（5）：領邦国家の森林政策—バイエルン
- ⑫ケース・スタディ（6）：領邦国家の森林政策—プロイセン
- ⑬18～19世紀の「木材不足」論争
- ⑭ドイツ林業の歴史—「持続可能性」の生みの親？
- ⑮まとめ ※受講人数や進度に応じて変更の可能性があります

5. 評価の方法・基準

授業は講義形式で行う。視聴覚資料、配布資料を用いて補足説明する。まとめとして小レポートを行う。期末テストの前にはキーワードをあげて説明する。授業中には、資料の読み取りや意見の提示を課題として行う。

●成績評価

小レポート 40%
 期末テスト 60%

6. 履修上の注意事項

第一回目の授業で注意点を述べます。授業中に紹介する図書や文献を参考にし、自ら積極的に理解を深めることに努めてください。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

授業の前には、必ず前回のノートを見直し、全体の流れを把握することに努めてください。

8. 教科書・参考書

参考文献

堀越宏一『ヨーロッパの中世⑤ ものと技術の弁証法』岩波書店、2009年。ISBN: 9784000263276
 ヨアヒム・ラートカウ『木材と文明』築地書館、2013年。
 657/R-2

9. オフィスアワー

質問は、授業中あるいは授業後に随時直接受け付ける。なお、その他連絡したいことがある場合は、下記の電子メール・アドレスまで。

（E-mail: schembart10@gmail.com）

文学Ⅰ Literature Ⅰ

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：1・2 年次
 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：2 単位
 担当教員名 荻原 桂子

1. 概要

（月曜1・2限）

●授業の背景

活字離れが危惧される現代において、学生の読書力の低下が危惧されている。

●授業の目的

文学作品を深く読むことによって、学生の読書力と生きる力を高める。読書には、自分をつくるという働きのほかに、自分の魂に共鳴する他者を自分のなかにもつという働きもある。読書を通じて、自分を客観的にみるという視点がうまれるのである。自分の主観から少し離れて、別の視点から自分を見てみるという客観的な視点をもつことができるようになる。自分の主観とは独立した他者の意見に接することで、自分に距離をもって接することができるようになる。こうした行為の経過が、焦げ付いた状況から自分を解放してくれる。授業では、「文学」と題して、考えながら読む古典読みに焦点をあわせ、文学作品を読んでみることにする。ここでいう古典とは、時間や空間の変遷にも色褪せず、作品の魅力を発揮するものである。

●授業の位置づけ

12回に分けて文学作品を輪読し、文学作品の読解力をつけ、作品に描かれたものごとの理解力を深め、さらに文章表現力の向上を目指す。

2. キーワード

文体論・物語論・テーマ論

3. 到達目標

1. 文章理解を深めること。
2. 時代背景、文化状況の中で作品を読解すること。
3. 通説にとらわれず自分自身の読解を提示できるようにすること。
4. 文学に興味を持ち、文学作品を読むことで、読解力・表現力をつける。

4. 授業計画

- 第1回 授業の説明。文学の言語表現について
- 第2回 村上春樹『ふわふわ』
- 第3回 新美南吉『ごんぎつね』
- 第4回 宮沢賢治『やまなし』
- 第5回 宮沢賢治『オツベルと象』
- 第6回 太宰治『走れメロス』
- 第7回 魯迅『故郷』
- 第8回 森鷗外『舞姫』
- 第9回 樋口一葉『たけくらべ』
- 第10回 夏目漱石『こころ』
- 第11回 芥川龍之介『羅生門』
- 第12回 宮沢賢治『永訣の朝』
- 第13回 中島敦『山月記』
- 第14回 安部公房『赤い繭』
- 第15回 試験
- 第16回 まとめ

5. 評価の方法・基準

期末試験（80%）出席および授業への積極的な態度状況（20%）で評価する。

60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

毎回出席を取ることで、遅れずに着席すること。教科書で取り上げる作品は抜粋なので、授業後、各自で作品全体をなるべく読むこと。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

予習として教科書の輪読があるので、読めない漢字を調べてお

く。復習として全文が掲載されていない作品については全文を読む。

8. 教科書・参考書

●教科書

『国語教科書を読む』花書院

●参考書

授業中に紹介する。

9. オフィスアワー

月曜日昼休み

備考

九州女子大学人間科学部荻原研究室 (ogihara@kwuc.ac.jp)

文学Ⅱ Literature Ⅱ

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：1・2 年次

学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：2 単位

担当教員名 荻原 桂子

1. 概要

（月曜1・2限）

●授業の背景

活字離れが危惧される現代において、学生の読書力の低下が危惧されている。

●授業の目的

文学作品を深く読むことによって、学生の読書力と思考力を高める。

●授業の位置付け

毎回、宮沢賢治の作品を輪読し、作品の読解力をつけ、さらに文章表現力の向上を目指す。

2. キーワード

読解力・思考力・表現力

3. 到達目標

1. 文章理解を深めること。
2. 時代背景、文化状況の中で作品を読解すること。
3. 通説にとらわれず自分自身の読解を提示できるようにすること。
4. 文学に興味を持ち、文学作品を読むことで、読解力・表現力をつける。

4. 授業計画

第1回 授業の説明。文学の言語表現について

第2回 宮沢賢治『注文の多い料理店』（一）

第3回 宮沢賢治『注文の多い料理店』（二）

第4回 宮沢賢治『注文の多い料理店』（三）

第5回 宮沢賢治『注文の多い料理店』（四）

第6回 宮沢賢治『注文の多い料理店』（五）

第7回 宮沢賢治『注文の多い料理店』（六）

第8回 宮沢賢治『注文の多い料理店』（七）

第9回 宮沢賢治『注文の多い料理店』（八）

第10回 宮沢賢治『銀河鉄道の夜』（一）

第11回 宮沢賢治『銀河鉄道の夜』（二）

第12回 宮沢賢治『銀河鉄道の夜』（三）

第13回 宮沢賢治『銀河鉄道の夜』（四）

第14回 宮沢賢治『銀河鉄道の夜』（五）

第15回 試験

第16回 まとめ

5. 評価の方法・基準

期末試験（80％）出席および授業への積極的態（20％）で評価する。

60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

毎回出席を取るの、遅れずに着席すること。授業で紹介した文学作品をなるべくたくさん読むこと。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

予習として教科書の輪読があるので、読めない感じを調べておく。復習として全文が掲載されていない作品については全文を読む。

8. 教科書・参考書

●教科書

『教室の中の宮沢賢治』（花書院）

●参考書

授業中に紹介する。

9. オフィスアワー

月曜日昼休み

備考

九州女子大学人間科学部荻原研究室 (ogihara@kwuc.ac.jp)

心理学Ⅰ PsychologyⅠ

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：1・2 年次

学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：2 単位

担当教員名 児玉 恵美

1. 概要

（月曜1限）

●授業の目的

さまざまな心理的問題を取り上げ、その現状、原因や背景について講義し、私達がそれらの問題にどのように対応したらよいのかを共に考えながら学ぶことを目的とする。

●授業の位置づけ

大学生が属する青年期は、「もはや子どもではないが、まだ大人ではない」という構造のあいまいな境界性を特徴とする時期である。そのため、青年期はライフサイクルの中でもっとも心理的混乱が生じやすい時期とされている。メンタルヘルスに関する正しい知識を身につけ、健やかな生活を送る基盤作りを目指す。

2. キーワード

発達、人格、臨床心理学、社会心理学

3. 到達目標

①自己と他者に対する理解を深め、人間全般に対する関心を持つことができる。

②心の問題についての知識を深め、自分自身のメンタルヘルスに関心を持つことができる。

4. 授業計画

1 回 オリエンテーション・心の健康とは？

2 回 青年期を生きる①

3 回 青年期を生きる②

4 回 青年期を生きる③

5 回 ストレス

6 回 心身症

7 回 神経症

8 回 人格障害（境界例）

9 回 うつ病

10回 統合失調症

11回 その他の精神病理①

12回 その他の精神病理②

13回 心の健康を保つために①

14回 心の健康を保つために②

15回 まとめ

5. 評価の方法・基準

試験 80%、レポート 20%で評価する。

60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

授業には積極的に参加すること。適宜紹介する図書を参考にし、理解を深めること。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

各回に記載されているキーワードについて授業前に調べ、理解に努めること。

8. 教科書・参考書

●教科書

使用しない。適宜資料を配付する。

●参考書

榎本博明著『はじめてふれる心理学』（2013）サイエンス社 140/E-7/2 第2版

川瀬正裕・松本真理子・松本英夫著『心とかかわる臨床心理第2版』（2006）ナカニシヤ出版 146/K-8/2

9. オフィスアワー

月曜日4限目

心理学Ⅰ PsychologyⅠ

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：2 年次

学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：2 単位

担当教員名 児玉 恵美

1. 概要

（金曜2限）

●授業の目的

さまざまな心理的問題を取り上げ、その現状、原因や背景について講義し、私たちがそれらの問題にどのように対応したらよいのかを共に考えながら学ぶことを目的とする。

●授業の位置づけ

大学生が属する青年期は、「もはや子どもではないが、まだ大人ではない」という構造のあいまいな境界性を特徴とする時期である。そのため、青年期はライフサイクルの中でもっとも心理的混乱が生じやすい時期とされている。メンタルヘルスに関する正しい知識を身につけ、健やかな生活を送る基盤作りを目指す。

2. キーワード

発達、人格、臨床心理学、社会心理学

3. 到達目標

①自己と他者に対する理解を深め、人間全般に対する関心を持つことができる。

②心の問題についての知識を深め、自分自身のメンタルヘルスに関心を持つことができる。

4. 授業計画

1 回 オリエンテーション・心の健康とは？

2 回 青年期を生きる①

3 回 青年期を生きる②

4 回 青年期を生きる③

5 回 ストレス

6 回 心身症

7 回 神経症

8 回 人格障害（境界例）

9 回 うつ病

10回 統合失調症

11回 その他の精神病理①

12回 その他の精神病理②

13回 心の健康を保つために①

14回 心の健康を保つために②

15回 まとめ

5. 評価の方法・基準

試験 40%、レポート 60%で評価する。

60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

授業には積極的に参加すること。適宜紹介する図書を参考にし、理解を深めること。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

各回に記載されているキーワードについて授業前に調べ、理解に努めること。

8. 教科書・参考書

●教科書

使用しない。適宜資料を配付する。

●参考書

榎本博明著『はじめてふれる心理学』（2013）サイエンス社 140/E-7/2 第2版

川瀬正裕・松本真理子・松本英夫著『心とかかわる臨床心理第2版』（2006）ナカニシヤ出版 146/K-8/2

9. オフィスアワー

月曜日4限目

心理学Ⅱ Psychology Ⅱ

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：1・2 年次
 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：2 単位
 担当教員名 児玉 恵美

1. 概要

（月曜1・2限）

●授業の目的

性格が、内的要因・外的要因・自己形成の要因など、さまざまに影響し合って作られ変化していくことを知り、自分や他者に対しての理解を深める。

●授業の位置づけ

自分らしさはどのように作られているのだろうか。はじめに代表的な理論を通して、性格に関する基礎的な知識を学ぶ。また、他者との関わり、文化との交わりがどのように自分らしさに影響を及ぼしているのかについて、身近な事象を取り上げ体験的な理解を促す。

2. キーワード

性格、心理検査、人間関係、文化、性

3. 到達目標

- ①自分の性格について自己理解を深めることができる。
- ②自分の周りの人について理解を深めることができる。

4. 授業計画

- 1 回 オリエンテーション
- 2 回 性格理解の方法
- 3 回 性格に関する諸理論
- 4 回 人格検査
- 5 回 性格の形成要因
- 6 回 ライフサイクル
- 7 回 親子・家族関係
- 8 回 さまざまな人間関係
- 9 回 コミュニケーションに現れる性格
- 10 回 性格の変化①
- 11 回 性格の変化②
- 12 回 文化と性格①
- 13 回 文化と性格②
- 14 回 性役割
- 15 回 まとめ

5. 評価の方法・基準

試験 80%、レポート 20%で評価する。
 60 点以上で合格とする。

6. 履修上の注意事項

授業には積極的に参加すること。適宜紹介する図書を参考にし、理解を深めること。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

各回に記載されているキーワードについて授業前に調べ、理解に努めること。

8. 教科書・参考書

●教科書

使用しない。適宜資料を配付する。

●参考書

榎本博明『はじめてふれる心理学 第2版』（2013）サイエンス社 140/E-7/2

詫摩武俊・瀧本孝雄・鈴木乙史・松井豊共著『性格心理学への招待 改訂版』（2003）サイエンス社 141.9/T-12/2

その他必要に応じて授業中に適宜紹介する。

9. オフィスアワー

月曜日 4 限目

教育学Ⅰ Pedagogy Ⅰ

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：1・2 年次
 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：2 単位
 担当教員名 東野 充成

1. 概要

（月曜2限）

●授業の目的

家族と子どもに焦点を合わせる。子どもにとって家族とは決して情愛の場のみではない。そもそも、「子をなす」という点からして、繰り返される中絶と日進月歩で進歩する生殖技術に象徴されるように、現代社会では様々な価値観が交錯している。また、たとえこの世に生まれ落ちたとしても、児童虐待や貧困によって生命・身体が危機にさらされる子どもも後を絶たない。

さらに、こうしたミクロな問題だけでなく、少子化や家庭の経済格差、家族政策など、家族と子どもはマクロな社会問題でもある。本講義では、こうした諸事情に焦点を合わせ、現代社会における家族と子どもの諸問題について講義する。

●授業の位置づけ

本講義では、臨床社会学という立場から家族と子どもの問題について講義する。臨床の知は、科学の知に対して、現場への参与や解決に資する実践性を重視するところにその特徴があるが、本講義でもこうした立場に則り、アクチュアルな事例を紹介していく。同時に、単純な因果論や責任論、対策論に帰することなく、教育問題や社会問題そのものが生成していく過程に、構築主義の観点から迫っていく。

2. キーワード

中絶、生殖技術、少子化、児童虐待、格差、貧困、家族政策

3. 到達目標

- ①現代日本の家族と子どもの問題に関する理解を深める。
- ②問題そのものが生成する過程についても理解を深め、通俗的な言説を相対化する視点を得る。
- ③中間テスト及びレポート課題を通して、文章表現能力を高める。

4. 授業計画

授業は講義形式で行う。配布資料、視聴覚教材を適宜使用する。

- 1 回 オリエンテーション
- 2 回 胎児とは何者なのか？
- 3 回 生殖技術のポリティクス
- 4 回 子どもが減って何が悪い！
- 5 回 児童虐待論Ⅰ
- 6 回 児童虐待論Ⅱ
- 7 回 児童虐待Ⅱ論Ⅲ
- 8 回 中間テスト
- 9 回 家庭教育と格差社会
- 10 回 子どもの貧困Ⅰ
- 11 回 子どもの貧困Ⅱ
- 12 回 現代の家族政策
- 13 回 ワーク・ライフ・バランス
- 14 回 まとめ
- 15 回 試験
- 16 回 解説

5. 評価の方法・基準

中間テスト 50%

期末レポート 50%

レポートの評価に当たっては、論理的に論が展開されているかを重視する。

6. 履修上の注意事項

- ①講義内容の十分な理解を得るため、下記の参考文献を各自読むこと。
- ②最高裁判所のホームページなどを用いて、判例に目を通すこと。
- ③その他参考となる図書や判例、資料等を授業の中で随時紹介していく。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

- ①開講期間中に下記参考文献を一読すること。
- ②子ども問題に関する最新の動向を把握するため、講義期間中には新聞等を講読すること。

8. 教科書・参考書

●教科書

特に指定しない。

●参考文献

- 増田雅暢『これでいいのか少子化対策』ミネルヴァ書房 334.3/M-7
- 上野加代子ほか『児童虐待のポリティクス』明石書店 367.6/U-3
- 阿部彩『子どもの貧困Ⅱ』岩波書店 081/I-2-4/1157-2

9. オフィスアワー

研究室扉の掲示を参照のこと。なお、授業に関する質問等は、下記のメールアドレスで随時受け付ける。

higashi@dhs.kyutech.ac.jp

教育学Ⅱ Pedagogy Ⅱ

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）学年：1・2年次
学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：2単位

担当教員名 東野 充成

1. 概要

（月曜2限）

●授業の目的

近年、子どもの位置づけが大きく変貌しつつある。そもそも子どもとは決して自明の存在ではなく、歴史的な過程の中で構築されてきた存在である。近代以降我々は、その小さな外観をした人間に愛着を抱き、保護や教育という営みを連綿となしてきた。ところが、近年、子どもにまつわる保護や権利、責任、自由といった考え方、また子どもそのものに対する考え方が大きく変動している。本講義では、こうした子ども観の揺らぎについて概観するとともに、それがどういった社会的背景から生成しているのか探求する。

●授業の位置付け

はじめに、西洋や日本において子どもが生成してくる過程そのものについて講義する。その上で、子どもの権利条約、子どもとセクシュアリティを巡る問題などアクチュアルな事例を取り上げ、子どもの権利や責任、自由、自己決定権といった概念について講義する。

2. キーワード

子ども観、日本国憲法、子どもの権利条約、自己決定権

3. 到達目標

- ①子どもの相対性・構築性について理解すること。
- ②自由や責任、権利、自己決定権といった諸概念について理解を深めること。
- ③自分の意見を的確に表現できるようにすること。

4. 授業計画

授業は講義形式で行う。配布資料、視聴覚教材を適宜使用する。

- 1回 ガイダンス
- 2回 子どもの権利条約
- 3回 校則問題
- 4回 公教育と宗教
- 5回 法の下での平等と教育
- 6回 内申書開示請求事件
- 7回 教育権論争
- 8回 中間テスト
- 9回 体罰
- 10回 学校事故
- 11回 いじめ自殺
- 12回 淫行規制
- 13回 メディア規制
- 14回 まとめ
- 15回 試験
- 16回 解説

5. 評価の方法・基準

中間テスト 50%

期末レポート 50%

レポート評価に当たっては、論理的に文章が展開されているかを重視する。

6. 履修上の注意事項

- ①講義内容の十分な理解を得るため、下記の参考文献を各自読むこと。
- ②最高裁判所のホームページなどを用いて、判例に目を通すこと。
- ③その他参考となる図書や判例、資料等を授業の中で随時紹介していく。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

- ①開講期間中に下記参考文献を一読すること。
- ②子ども問題に関する最新の動向を把握するため、講義期間中には新聞等を講読すること。

8. 教科書・参考書

●教科書

特に指定しない。

●参考文献

東野充成『子ども観の社会学』大学教育出版 367.6/H-3

佐々木幸寿他『憲法と教育』学文社 373.2/S-8

9. オフィスアワー

研究室扉の掲示を参照のこと。なお、授業に関する質問等は、下記のメールアドレスで随時受け付ける。

higashi@dhs.kyutech.ac.jp

法学Ⅰ Introduction to Japanese Law I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：1・2 年次

学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：2 単位

担当教員名 小野 憲昭

1. 概要

（月曜1・2限）

●授業の背景

私達が日常生活を円滑に営むためには、日常生活関係を規律する法を知っておく必要があります。

●授業の目的

身近な法律問題を素材としながら、私達の日常の生活関係を規律する法の中で、特に財産取引に関する法の存在や仕組みを知り、法律問題解決の技法、基本的な考え方を修得することを目的としています。

●授業の位置づけ

社会生活を営む上で必要な最低限度の決まりを知り、社会の一員として要求される素養を身につけ、社会における人間関係の有るべき姿を考えるきっかけにして頂きたいと思っています。

2. キーワード

規範、秩序、権利、責任、救済

3. 到達目標

①日常生活における取引関係を規律する法の存在や仕組みを知る。

②法律問題解決の技法、基本的な考え方を修得する。

③社会における人間関係の有るべき姿を考えることができるようになる。

4. 授業計画

第1回 法学を学ぶ意味、法の世界観

第2回 法律とは何か、判例とは何か

第3回 法源、主要法典、法適用の原則を知る。

第4回 法律の解釈の仕方を知る①－解釈の方法

第5回 法律の解釈の仕方を知る②－解釈技術

第6回 私法入門－民法の指導原理

第7回 民法上の権利

第8回 権利の限界－私権の公共性

第9回 権利の担い手としての資格①－権利能力

第10回 権利の担い手としての資格②－制限行為能力

第11回 権利の対象となる財産

第12回 取引行為と法①－取引行為の有効要件

第13回 取引行為と法②－無効となる取引

第14回 取引行為と法③－取り消すことができる取引

第15回 試験

第16回 解説・まとめ

5. 評価の方法・基準

期末試験の結果（100％）で評価する。

60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

講義には毎回出席すること。講義内容を十分理解するために、講義で話した内容、教科書、図書館の参考図書を手がかりとして、各論点ごとにノートにまとめる作業をしてみてください。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

事前に簡単なレジュメを配布しますので、教科書の該当部分を読んで講義に参加してください。上記「履修上の注意事項」記載のとおり、講義後のノートづくりを通じて理解を深めてください。

8. 教科書・参考書

●教科書

1) 五十嵐 清著 私法入門〔改訂3版〕有斐閣 324/I-2/3

2) 石川 他 編集代表『法学六法 '15』信山社 ISBN: 9784797257380

●参考書

1) 中川善之助著 泉 久雄補訂〔補訂版〕法学 日本評論社 321/N-8/2

2) 佐藤幸治他著『法律学入門〔第3版補訂版〕』有斐閣 321/S-6/3-2

3) 我妻栄＝有泉亨＝川井健『民法第2版1総則・物権法』勁草書房 324 ISBN: 4326450738 324/W-3/3-1（第3版）

4) 川井 健『民法概論1民法総則第3版』有斐閣 324 ISBN: 4641134324 324/K-2/1-4（第4版）

9. オフィスアワー

質問があれば講義の前後いつでも受け付けます。

法学Ⅱ Introduction to Japanese Law Ⅱ

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：1・2 年次
 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：2 単位
 担当教員名 小野 憲昭

1. 概要

（月曜1・2限）

●授業の背景

私達が日常生活を円滑に営むためには、日常生活関係を規律する法を知っておく必要があります。

●授業の目的

身近な法律問題を素材としながら、私達の日常の生活関係を規律する法の中で、特に家族関係に関する法の存在や仕組みを知り、法律問題解決の技法、基本的な考え方を修得することを目的としています。

●授業の位置づけ

家族共同生活を営む上で必要な最低限度の決まりを知り、家族の一員として要求される素養を身につけ、家族関係の有るべき姿を考えるきっかけにしたいと思っています。

2. キーワード

規範、婚姻、離婚、親子、相続

3. 到達目標

- ①家族関係を規律する法の存在や仕組みを知る。
- ②法律問題解決の技法、基本的な考え方を修得する。
- ③家族における人間関係の有るべき姿を考えることができるようになる。

4. 授業計画

- 第1回 法学を学ぶ意味、家族の機能
- 第2回 家族法の独自性、家族法を学ぶための基礎知識
- 第3回 婚約、内縁
- 第4回 婚姻の成立
- 第5回 婚姻の効果①—一般的な効果
- 第6回 婚姻の効果②—財産関係
- 第7回 離婚制度
- 第8回 離婚の成立
- 第9回 離婚の効果
- 第10回 親子関係①—実親子
- 第11回 親子関係②—養親子関係
- 第12回 親権制度、後見制度、扶養の制度
- 第13回 法定相続制度
- 第14回 遺言相続制度
- 第15回 試験
- 第16回 解説・まとめ

5. 評価の方法・基準

期末試験の結果（100％）で評価する。
 60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

講義には毎回出席すること。講義内容を十分理解するために、講義で話した内容、教科書、図書館の参考図書を手がかりとして、各論点ごとにノートにまとめる作業をしてみてください。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

事前に簡単なレジュメを配布しますので、教科書の該当部分を読んで講義に参加してください。上記「履修上の注意事項」記載のとおり、講義後のノートづくりを通じて理解を深めてください。

8. 教科書・参考書

●教科書

- 1) 松川正毅著 民法 親族・相続〔第3版〕有斐閣 ISBN: 9784641220300（第4版）
- 2) 石川他編集代表『法学六法 '15』信山社 ISBN: 9784797257380

●参考書

- 1) 泉久雄著親族法有斐閣 ISBN: 4641038678
- 2) 中川善之助、泉久雄著相続法〔第4版〕有斐閣 ISBN: 4641007748
- 3) 有地亨新版家族法概論＜補訂版＞法律文化社 ISBN: 4589028255
- 4) 川井 健『民法概論 5 親族・相続』有斐閣 ISBN: 9784641134867

9. オフィスアワー

質問があれば講義の前後いつでも受け付けます。

日本国憲法 Constitutional Law in Japan

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：1・2 年次
 学期：前期・後期 単位区分：選択必修 単位数：2 単位
 担当教員名 中村 英樹

1. 概要

（月曜1・2限）

●授業の背景

現代社会に生じているさまざまな問題を通じて、日本国憲法の改正論議が盛んになってきている。そうした中、憲法とは何なのか、何のために存在するのかということを理解した上で、国家や社会との向き合い方を考えていく必要がある。

●授業の目的

憲法の存在意義、日本国憲法が定める国家統治の仕組みや、基本的人権保障の目的、機能を明らかにするとともに、現代における憲法の意義や問題状況を理解することを目的とする。

●授業の位置づけ

憲法に関わるいくつかのトピックを取り上げて、講義を進めていく。その中で、憲法を支える思想や基本的枠組みを理解するとともに、現代社会で生じている諸問題や政治的課題、国際社会における日本の在り方などを、社会の一員として考えていく姿勢を身につけてもらいたい。

2. キーワード

立憲主義、平和主義、民主主義、基本的人権

3. 到達目標

- ①憲法とは何か、それを支える立憲主義とは何かを理解する。
- ②憲法に関する基本的な知識を身につける。
- ③憲法問題を通じて、多様な価値観の共生の在り方について考える力を身につける。

4. 授業計画

- 第1回 憲法とは何か①—国家と憲法
- 第2回 憲法とは何か②—民主主義と立憲主義
- 第3回 平和主義①—平和主義の歴史
- 第4回 平和主義②—国連における平和主義
- 第5回 平和主義③—日本国憲法の平和主義
- 第6回 表現の自由とその制限①—表現の自由の保障根拠
- 第7回 表現の自由とその制限②—規制根拠と手段の妥当性
- 第8回 自己決定権とは何か①—憲法上の根拠と内容
- 第9回 自己決定権とは何か②—生命の自己決定権？
- 第10回 議院内閣制①—国会の位置づけ
- 第11回 議院内閣制②—内閣の位置づけ
- 第12回 議院内閣制③—国会と内閣の関係
- 第13回 憲法と死刑制度①—日本国憲法と死刑
- 第14回 憲法と死刑制度②—立法政策の問題としての死刑
- 第15回 全体のまとめ

5. 評価の方法・基準

期末試験の結果（100％）で評価する。
 60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

法学に対する予備知識は要求されないが、社会問題や政治問題、国際情勢などに対する幅広い関心を持って受講することが望ましい。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

予習よりも復習の方が効果的である。各回ごとに内容を振り返った上で、インターネット等を利用して学習内容に関連する事件や問題を見つけ、自分の中で改めて意味づけなおしたり、友人と議論したりしてみたい。

8. 教科書・参考書

●教科書

特に指定しない。適宜、資料を配付する。

●参考書

- 1) 芦部信喜（高橋和之 補訂）『憲法 第5版』（岩波書店、2011 年）ISBN: 9784000227810
- 2) 長谷部恭男『憲法 第5版』（新世社、2011 年）ISBN: 9784883841684 ISBN: 9784883842186（第6版）
- 3) 安念潤司ほか編著『論点日本国憲法 第2版』（東京法令出版、2014 年）ISBN: 9784809063077

9. オフィスアワー

質問があれば講義の前後いつでも受け付ける。

日本国憲法 Constitutional Law in Japan

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：1・2 年次
 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：2 単位
 担当教員名 中村 英樹

1. 概要

（月曜1・2限）

●授業の背景

現代社会に生じているさまざまな問題を通じて、日本国憲法の改正論議が盛んになってきている。そうした中、憲法とは何なのか、何のために存在するのかということを理解した上で、国家や社会との向き合い方を考えていく必要がある。

●授業の目的

憲法の意味、日本国憲法が定める国家統治の仕組みや、基本的人権保障の目的、機能を明らかにするとともに、現代における憲法の意義や問題状況を理解することを目的とする。

●授業の位置づけ

憲法に関わるいくつかのトピックを取り上げて、講義を進めていく。その中で、憲法を支える思想や基本的枠組みを理解するとともに、現代社会で生じている諸問題や政治的課題、国際社会における日本の在り方などを、社会の一員として考えていく姿勢を身につけてもらいたい。

2. キーワード

立憲主義、平和主義、民主主義、基本的人権

3. 到達目標

- ①憲法とは何か、それを支える立憲主義とは何かを理解する。
- ②憲法に関する基本的な知識を身につける。
- ③憲法問題を通じて、多様な価値観の共生の在り方について考える力を身につける。

4. 授業計画

- 第1回 憲法とは何か①—国家と憲法
- 第2回 憲法とは何か②—民主主義と立憲主義
- 第3回 平和主義①—平和主義の歴史
- 第4回 平和主義②—国連における平和主義
- 第5回 平和主義③—日本国憲法の平和主義
- 第6回 表現の自由とその制限①—表現の自由の保障根拠
- 第7回 表現の自由とその制限②—規制根拠と手段の妥当性
- 第8回 自己決定権とは何か①—憲法上の根拠と内容
- 第9回 自己決定権とは何か②—生命の自己決定権？
- 第10回 議院内閣制①—国会の位置づけ
- 第11回 議院内閣制②—内閣の位置づけ
- 第12回 議院内閣制③—国会と内閣の関係
- 第13回 憲法と死刑制度①—日本国憲法と死刑
- 第14回 憲法と死刑制度②—立法政策の問題としての死刑
- 第15回 全体のまとめ

5. 評価の方法・基準

期末試験の結果（100％）で評価する。
 60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

法学に対する予備知識は要求されないが、社会問題や政治問題、国際情勢などに対する幅広い関心を持って受講することが望ましい。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

予習よりも復習の方が効果的である。毎回ごとに内容を振り返った上で、インターネット等を利用して学習内容に関連する事件や問題を見つけ、自分の中で改めて意味づけなおしたり、友人と議論したりしてみたい。

8. 教科書・参考書

●教科書

特に指定しない。適宜、資料を配付する。

●参考書

- 1) 芦部信喜（高橋和之 補訂）『憲法 第5版』（岩波書店、2011年）ISBN: 9784000227810
- 2) 長谷部恭男『憲法 第5版』（新世社、2011年）ISBN: 9784883841684 ISBN: 9784883842186（第6版）
- 3) 安念潤司ほか編著『論点日本国憲法 第2版』（東京法令出版、2014年）ISBN: 9784809063077

9. オフィスアワー

質問があれば講義の前後いつでも受け付ける。

社会学Ⅰ SociologyⅠ

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：1・2 年次
 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：2 単位
 担当教員名 森 康司

1. 概要

（月曜1・2限）

●授業の背景

社会をつくりだしているのは私たちである。同時に、私たちの考え方や感じ方も、社会に規定されているともいえる。私たちをとりかこむ「環境」である社会は、多くの場合はそれと意識されことなく、人々に特定の行為をさせたり、行為をさせないように誘導する。

社会学は、こうした社会のとらえがたい影響力を、独自の概念や方法によってとらえようとする学問である。社会学の観点から見れば、私たちは社会的環境から多くを与えられつつ、みずから社会のいろいろな側面を成り立たせていくという、循環的な関係のなかに生きている。

こうした循環的關係を目に見える形で（社会的に）とらえることは、変化の激しい現代社会を生きる上で、なんらかの形で有益な準拠点となるだろう。

●授業の目的

社会学の基本的な考え方について理解し、日常生活で生起する何気ない現象から、現代社会の諸問題まで社会的に解説していく力を身につける。

●授業の位置づけ

これは教養科目であり、かつ単位区分：選択必修科目の一つとして、月曜日1限と2限に開講される。この授業を通して、現代の人間行動と社会についての社会的な知識と分析力をつけることを促す。

2. キーワード

社会規範、社会化、地位と役割、基礎集団と機能集団、官僚制の逆機能、格差社会、記号的消費、少年犯罪、非婚化、草食化の虚実

3. 到達目標

- ①社会的なものの見方・考え方について理解する。
- ②社会学の基本的な知識を身につける。
- ③現代社会の諸問題を社会的に解説する力を身につける。

4. 授業計画

- 第1回 イントロダクション：「社会」とは
- 第2回 社会学の歴史
- 第3回 行為論
- 第4回 相互作用論
- 第5回 集団論
- 第6回 官僚制組織
- 第7回 科学的管理法①
- 第8回 科学的管理法②映画『Modern Times』
- 第9回 階級と階層
- 第10回 社会移動
- 第11回 消費社会論①
- 第12回 消費社会論②
- 第13回 現代若者論①
- 第14回 現代若者論②
- 第15回 現代若者論③

5. 評価の方法・基準

原則として、期末試験（80％）、出席状況（15％）、その他受講態度など（5％）で評価する。

6. 履修上の注意事項

社会現象や現代人の生き方に関心がある人は、「社会科」が苦手であったり、「社会科」の知識がなくても十分参加できる学問である。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

社会学の入門書を一冊は探して読んでみる。また、配布プリントの復習を行うこと。

8. 教科書・参考書

適宜、プリントを配布する。

9. オフィスアワー

質問等は講義中、講義終了後に受け付ける。

備考

内容は社会情勢の変化、受講者数、受講生の希望などによって変更する場合がある。

社会学Ⅰ SociologyⅠ

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：1・2 年次

学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：2 単位

担当教員名 山本 努

1. 概要

（金曜 2 限）

●授業の背景

近代化、産業化によって、我々の暮らしは大きく変化した。このように変化した「現代社会」を解説するのが社会学という学問の営みである。いいかえれば、社会学は「私たちがなぜ、いまあるように振る舞い、いまあるように暮らすのか」について考える学問である。社会学を学ぶことを通して、「社会」という問題領域の面白さについて気づいてほしい。

●授業の目的

社会学の入門的考え方が理解できるようになることを目指す。特に「家族」や「地域」などの身近な生活領域から、現代社会を考えるための基礎知識を身につける。

●授業の位置づけ

これは金曜日の 2 限に開講される選択必修であるが、「社会学」の初級・中級レベルとして位置づけられる。

2. キーワード

行為と構造、社会と文化、集団と組織、家族、都市と農村、など

3. 到達目標

- ①社会学的なものの見方・考え方について理解する。
- ②「行為・構造」「集団・文化」、「家族」「地域社会」「都市化、過疎化」「高齢化、少子化」「近代化、産業化、グローバル化」といったテーマの中から社会学の基本的な知識を身につける。
- ③現代社会の諸問題を社会的に解説していく力を身につける。

4. 授業計画

- 第 1 回 社会学の基本的な考え方の紹介。
- 第 2 回 文化（1）：
文化とは何か。文化の三次元と文化の定義・本質。
- 第 3 回 文化（2）：
文化の多様性と共通性。文化のグローバリゼーション。
- 第 4 回 社会（1）：社会とは。微視的世界と巨視的世界。
- 第 5 回 社会（2）：制度、社会構造という考え方。
- 第 6 回 集団（1）：集団とは何か。内集団と外集団。大きな集団と小さな集団。
- 第 7 回 集団（2）：第一次集団と第二次集団。
- 第 8 回 家族（1）：人間にとって家族が重要であるという事についてのいくつかの学説。
- 第 9 回 家族（2）：現代家族の特質、家族類型、家族変動についての基礎知識。
- 第 10 回 都市（1）：種々の都市概念。都市とは何か。
- 第 11 回 都市（2）：
日本社会における都市化・産業化をめぐる問題。
- 第 12 回 農山村（1）：
現代社会における農業・農山村の重要性について。
- 第 13 回 農山村（2）：過疎農山村の現状と問題
- 第 14 回 「現代社会」を解説するために：社会学の方法、社会学の視点。
- 第 15 回 まとめ：授業で取り上げた内容から重点項目を解説する。

5. 評価の方法・基準

期末試験（85%）、出席（15%）で評価する。
100 点満点のうち 60 点以上の場合を合格とする。

6. 履修上の注意事項

授業時間外では講義の内容を整理した上で、適宜紹介する文献を参考にしながら、理解を深める。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

- ・授業外学習で読むべき参考文献は教科書に示してあるので、授業中に紹介する。

- ・教科書を用いて授業するので、教科書の当該箇所を使っての復習を求める。
- ・前もって教科書や参考資料を読んでくる必要がある時は、予習の指示を授業にておこなう。
- ・その他、適宜、文献を紹介するので、授業外での学習に役立てて欲しい。

8. 教科書・参考書

●教科書

山本努・辻正二・稲月正『現代の社会学的解説：イントロダクション社会学』学文社 361/Y-13

その他については、講義中に紹介する。

9. オフィスアワー

講義中、授業終了後の時間などに質問等は受け付ける。

備考

内容は社会情勢の変化、受講者数、受講生の希望などによって変更する場合がある。

社会学Ⅱ Sociology Ⅱ

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：1・2 年次

学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：2 単位

担当教員名 園田 浩之

1. 概要

（月曜1・2 限）

●授業の背景

私たち自身の何気ない行動や意識のありようを、一定の距離をおいて眺めていくやり方はいくつかのヴァリエーション（選択肢）がある。この講義では「社会」というものを視野に入れることによって、私たちの普段（日常）がどのように見えてくるか、社会学的なものの捉え方（社会学的想像力）と現代社会論の成果を活かしつつ、浮かび上がらせてみようと思う。「社会というものの」リアリティが希薄になり、深刻な揺らぎと危機の中にあるとされる現在こそ、社会学の発想（その独自性と豊かさ）にふれる好機ともいえる。何より重要なのは、社会の「希薄さ」や「揺らぎ」といわれる事柄が、一体、「私」たちの「何」と「どのように」結びついているか、である。

●授業の目的

毎回の講義を、日常をめぐる「別な見方」（より豊かで、柔軟で、批判的な見方）に接する機会と位置付け、その中で社会学の思考法と発想に親しみ、そこから受講者各自の日常を読み解くまなざしを洗練させていくことを目指す。講義では、身近で具体的な事柄を扱いながら、何気ない日常を「複眼的」「批判的」に捉え直し、その奥行きにふれる経験を大切にしたい。本講義では、とくにブーム・流行などの消費文化と、現代人の自己意識の問題を取り上げつつ、身近で具体的な文化・社会現象を考察していく。社会学の目ととして、「日常」を再発見し、それぞれの「生の条件」を問い直し、それを別の可能性に向けて開いていく機会になるような講義になればと思う。

●授業の位置づけ

社会学的なものの見方にすでにいくらか接していることは望ましいが、「社会学は初めて」という人たちの受講も歓迎する。関連する学習としては、社会学Ⅰ（前期）を中心に、広く人間科学系の講義全般。教育目標は、社会学的なものの見方と思考のセンスを、社会学以外の領域を専攻する（理科系の）受講者に身につけてもらうこと。

2. キーワード

消費文化（ブーム・流行・欲望）、豊かさ、ファッション、現代人の自己意識、社会学的想像力

3. 到達目標

- ①社会学的なものの見方に親しみ、その意義（性能）を理解できるようになること。とりわけ、「日常」への批判的な視点（別の見方／複眼的な見方）の意義を理解できるようにすること。
- ②自己理解を深めつつ、それが他者理解へとつながっていくような思考（と想像力）の回路を受講者各自のうちに開いていくこと（と同時に、普段の生活においてそのような回路を見出しづらい理由・背景についても、社会学の視点から考察できるようにすること）。
- ③不確かで見通し難い「社会の現在」を、身近な事柄との関係においてイメージし、そこに生きる「私」たちの豊かさや空虚さ（あるいは、自由さと不自由さ）の両方に触れる感受性と思考力を涵養すること。

4. 授業計画

- 第1回 社会学を学ぶ／社会学で学ぶ 社会学的想像力に向けて
- 第2回 複眼的思考としての社会学
（あたりまえな日常を問い直す別な見方へ）
- 第3回 消費社会としての現代社会① 消費社会（論）とは何か？
- 第4回 消費社会としての現代社会② 「欲しい」のつくられ方
（ブームと欲望の社会学）
- 第5回 消費社会としての現代社会③
「豊かな社会」とその空虚さ

- 第6回 ファッションを考える／ファッションから考える①
「着ること」をめぐる社会学のロジックとトピック 自然／文化を超えて
- 第7回 ファッションを考える／ファッションから考える②
「着ること」から考える社会の現在 模倣／個性を超えて
- 第8回 消費する自己／消費される自己（現代人の「自己」をめぐる社会学① 消費社会の中の「私」たち／個性消費・浪費の時代？）
- 第9回 消費する自己／消費される自己（現代人の「自己」をめぐる社会学②
モノ語る人々の現在／モノ離れの若者たち）
- 第10回 消費社会の中の身体・自己・他者①
「自分らしさ」の社会学／商品化される個性
- 第11回 消費社会の中の身体・自己・他者②
「美しさ」の社会学／美容整形からダイエットまで
- 第12回 選ぶのは私／選ばれるのも私①
消費社会とアイデンティティの自由
- 第13回 選ぶのは私／選ばれるのも私②
消費社会とアイデンティティの不安
- 第14回 「豊かな」社会の（不）幸せと（不）自由
豊かさのパラドクス
- 第15回 消費社会の果て（外）？
豊かさの中の不安／不安の中の豊かさ

5. 評価の方法・基準

（講義への一定の出席と参加を条件としたうえで）、講義中のコメントペーパー＆小レポートなど（10%）、学期末試験（90%）によって評価する。100 点満点のうち 60 点以上の場合を合格とする。

6. 履修上の注意事項

何気ない日常（の成り立ち）を好奇心をもって眺めなおす意欲があること、そのための思考法や表現の仕方に関心があることが望ましい（あるいは、そういうセンスのある大人になりたいと考えている、いまはまだそうでない人たちも含む）。

未来の自分の糧になるよう、注意深く話を聞き、資料や文献を丹念に読み、メモやノートをとること。講義という場の外でこそ、「考える」力と、それを「表現する」センスを意識的に磨いて欲しい。考えることは、人をより自由にし、繊細にし、強くもするはずである。そのための機会を、逃さないようにすること。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

講義ごとの配布資料（＋講義中にとった自身のメモやノート）を、講義内容をふりかえりながら、丁寧に読み返すこと。そのとき改めて「わからないこと」や「質問したいこと」「さらに知りたいこと」などが生じたら、次の講義で遠慮なく質問して欲しい。次の講義までにこうした事後学習を行うことは、そのまま有意義な事前学習にもなる（ように、講義をデザインしてある）。

8. 教科書・参考書

テキストは使用しない（講義のための資料を準備し、それを配布する。それにパワーポイントやヴィジュアルな資料を交えつつ、講義を進める）。また、講義で扱う事柄（テーマ）に関して、さらに知りたい、より深く考えたいという人たちに向けて、進行に応じて、手がかりになる文献を紹介していくことができればとも思う。

9. オフィスアワー

質問したいことや確認したいことがあるときは、講義の後に（あるいは講義中にも）、いつでも遠慮なく申し出て欲しい。

社会学Ⅱ Sociology Ⅱ

対象学科（コース）：全学科 学年：2 年次

学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：2 単位

担当教員名 園田 浩之

1. 概要

（金曜 2 限）

●授業の背景

私たち自身の何気ない行動や意識のありようを、一定の距離をおいて眺めていくやり方はいくつかのヴァリエーション（選択肢）がある。この講義では「社会」というものを視野に入れることによって、私たちの普段（日常）がどのように見えてくるか、社会学的なものの捉え方（社会学的想像力）と現代社会論の成果を活かしつつ、浮かび上がらせてみようと思う。「社会というものの」リアリティが希薄になり、深刻な揺らぎと危機の中にあるとされる現在こそ、社会学の発想（その独自性と豊かさ）にふれる好機ともいえる。何より重要なのは、社会の「希薄さ」や「揺らぎ」といわれる事柄が、一体、「私」たちの「何」と「どのように」結びついているか、である。

●授業の目的

毎回の講義を、日常をめぐる「別な見方」（より豊かで、柔軟で、批判的な見方）に接する機会と位置付け、その中で社会学の思考法と発想に親しみ、そこから受講者各自の日常を読み解くまなざしを洗練させていくことを目指す。講義では、身近で具体的な事柄を扱いながら、何気ない日常を「複眼的」「批判的」に捉え直し、その奥行きにふれる経験を大切にしたい。本講義では、とりわけ、現代社会における「自己」のありよう（と変容）、アイデンティティの問題、他者とのかかわり（（ディス）コミュニケーション）に関した素材を選び、身のまわりにある具体的な文化現象を取り上げながら、社会の現在を生きる人々（とくに若者）の自由と不自由を描き出してみたい。社会学をつうじた「日常（ふだん）」の再発見によって、それぞれの「生の条件」を問い直し、それを別の可能性に向けて開いていく機会になるような講義になればと思う。

●授業の位置づけ

社会学的なものの見方にすでにくらか接していることは望ましいが、「社会学は初めて」という人たちの受講も歓迎する。関連する学習としては、社会学Ⅰ（前期）を中心に、広く人間科学系の講義全般。教育目標は、社会学的なものの見方と思考のセンスを、社会学以外の領域を専攻する（理科系の）受講者に身につけてもらうこと。

2. キーワード

社会の現在と自己（アイデンティティ）、ポストモダン（現代）、（ディス）コミュニケーション、生きづらさ、社会学的想像力

3. 到達目標

- ①社会学的なものの見方に親しみ、その意義（性能）を理解できるようになること。とりわけ、「日常」への批判的な視点（別の見方／複眼的な見方）の意義を理解できるようにすること。
- ②自己理解を深めつつ、それが他者理解へとつながっていくような思考（と想像力）の回路を受講者各自のうちに開いていくこと（と同時に、普段の生活においてそのような回路を見出しづらい理由・背景についても、社会学の視点から考察できるようにすること）。
- ③不確かで見通し難い「社会の現在」を、身近な事柄との関係においてイメージし、そこに生きる「私」たちの豊かさと空虚さ（あるいは、自由さと不自由さ）の両方に触れる感受性と思考力を涵養すること。

4. 授業計画

- 第1回 社会学的想像力のために
- 第2回 あたりまえをみるために
- 第3回 「日常世界」と「私」の成り立ち
- 第4回 現代社会における自己
（アイデンティティをめぐる社会学的な問題①）

- 第5回 現代社会における自己
（アイデンティティをめぐる社会学的な問題②）
- 第6回 多元化し分散する自己
- 第7回 若者のコミュニケーションと社会の現在①
（その現実と日常）
- 第8回 若者のコミュニケーションと社会の現在②
（その豊かさと病理）
- 第9回 若者文化を / から社会学的に考える
（社会意識からの若者論再考①）
- 第10回 若者文化を / から社会学的に考える
（社会意識からの若者論再考②）
- 第11回 ポストモダンの社会と新しい生きづらさ
（不確かな生）①
- 第12回 ポストモダンの社会と新しい生きづらさ
（不可解な他者）②
- 第13回 つながりの不安と過剰
（（ディス）コミュニケーションからみる現代社会①）
- 第14回 つながりの不安と過剰
（（ディス）コミュニケーションからみる現代社会②）
- 第15回 社会学の使いみち（不安と危機の向こう側へ？）

5. 評価の方法・基準

（講義への一定の出席と参加を条件としたうえで）、講義中のコメントペーパー＆小レポートなど（10%）、学期末試験（90%）によって評価する。100 点満点のうち 60 点以上の場合を合格とする。

6. 履修上の注意事項

何気ない日常（の成り立ち）を好奇心をもって眺めなおす意欲があること、そのための思考法や表現の仕方に関心があることが望ましい（あるいは、そういうセンスのある大人になりたいと考えている、いまはまだそうでない人たちも含む）。

未来の自分の糧になるよう、注意深く話を聞き、資料や文献を丹念に読み、メモやノートをとること。講義という場の外でこそ、「考える」力と、それを「表現する」センスを意識的に磨いて欲しい。考えることは、人をより自由にし、繊細にし、強くもするはずである。そのための機会を、逃さないようにすること。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

講義ごとの配布資料（＋講義中にとった自身のメモやノート）を、講義内容をふりかえりながら、丁寧に読み返すこと。そのとき改めて「わからないこと」や「質問したいこと」「さらに知りたいこと」などが生じたら、次の講義で遠慮なく質問して欲しい。次の講義までに

こうした事後学習を行うことは、そのまま有意義な事前学習にもなる（ように、講義をデザインしてある）。

8. 教科書・参考書

テキストは使用しない（講義のための資料を準備し、それを配布する。それにパワーポイントやヴィジュアルな資料を交えつつ、講義を進める）。また、講義で扱う事柄（テーマ）に関して、さらに知りたい、より深く考えたいという人たちに向けて、進捗に応じて、手がかりになる文献を紹介していくことができればと思う。

9. オフィスアワー

質問したいことや確認したいことがあるときは、講義の後に（あるいは講義中にも）、いつでも遠慮なく申し出て欲しい。

経済学Ⅰ EconomicsⅠ

対象学科（コース）：全学科 学年：1・2年次
 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：2単位
 担当教員名 古谷 京一

1. 概要

（集中講義）

●授業の目的

ミクロ経済学を学ぶことで、身近な経済活動や具体的な事例から基礎的な経済活動を理解することが可能となります。経済学のベースとなる考え方を理解すると、応用分野の学問の理解に役に立ちます。

●授業の位置付け

日本経済は、バブル崩壊後の困難な経済状況からなかなか脱却することができません。そのような状況下、将来社会人として自立した経済生活を営んでいく際、自分の置かれた経済環境を分析・理解し、対応していくことが重要となります。ミクロ経済学の考え方を理解して自らの行う日常の経済活動を分析・理解するツールとして利用する事が目標となります。

2. キーワード

「ミクロ経済学」、「需要」、「供給」、「市場」、「資源配分」

3. 到達目標

- ①効率的な資源配分メカニズムとしての市場・価格機構（マーケット・メカニズム）の機能に関して理解し、専門用語を習得する。
- ②様々な財・サービスの需要と供給を、家計や企業による合理的な選択行動の意思決定結果として行われる経済活動の行動原理の基本的な枠組みについて理解し、日々の経済活動を分析・判断できるような知識や学力を身につける。

4. 授業計画

- | | |
|---------|--|
| 1回 | ガイダンス 講義内容・目標、単位認定・試験方法に関する解説。ガイダンス講義。 |
| 2回～4回 | 市場の理論 1. 完全競争市場について、2. 需要曲線と供給曲線、3. 市場均衡と均衡分析、4. 価格弾力性 |
| 5回～7回 | 家計の理論 1. 無差別曲線、2. 最適消費点、3. 個別需要曲線、4. 家計の理論の応用 |
| 8回 | 中間のまとめ 進行了内容に関して、授業内で中間試験を行う場合がある。 |
| 9回～11回 | 生産の理論 1. 企業の分析、2. 限界生産物逓減の法則、3. 等量曲線、4. 生産の理論の応用 |
| 12回～14回 | 費用の理論 1. 総費用曲線、2. 限界原理、3. 長期の分析 |
| 15回 | まとめ |

5. 評価の方法・基準

出席状況、課題提出と期末試験（あるいはレポート）で評価する。

6. 履修上の注意事項

ガイダンスで指定する教科書の内容に従い講義を進める予定である。その他詳細な注意事項についてはガイダンスにおいて説明する。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

各回に学習したキーワード・宿題・課題などについて復習し、より一層の利用して理解を進めて欲しい。

8. 教科書・参考書

金谷貞男・吉田真理子『グラフィック ミクロ経済学』第2版 新世社 2008年 ISBN: 9784883841264
 教科書に従い授業を進めていきます。ただし、理解度に応じ必ずしも予定した講義内容（教科書範囲）に到達するとは限りません。

伊藤元重著『ミクロ経済学』第2版 日本評論社 2003年 331/I-25/2

9. オフィスアワー

質問等は授業終了後に随時受け付けます。その他何かあれば、下記のメールにて連絡してください。

E-mail: furuya_k@tokuyama-u.ac.jp

備考

日常の経済活動の中に本講義の中で学習した理論を生かして、自分の経済活動や社会的経済現象を分析・理解できるようになりましょう。

政治学Ⅰ Political ScienceⅠ

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：1・2年次
 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：2単位
 担当教員名 本田 逸夫

1. 概要

（月曜1・2限）

現代日本と世界をめぐる政治的・社会的諸問題とそれら相互のつながりについて、どちらかといえば日本国内に重点を置いて学ぶ。新聞記事・論文や著書（の抜粋）などの比較的読みやすいプリントや視聴覚的な教材を用い、具体的な知識を得るとともに理論的な思考（「批判的思考」を含む）の訓練を行なう。一方通行的な授業ではなく、学生諸君の調査・発表（インターネットなども活用）、これをうけた討論などを重んじる。

政治学は民主主義国の市民あるいは社会人にとって必要な教養を含むが、だからといってそれを単にハウツー的な知識の集まりとすることはできない。また、高校までの学校教育やマスコミなどであつかわれる政治現象は、法制度や「政界」・時事などにかたよりがちである。そこでこの講義では、学問としての作法にしたがいながら、政治現象と思想・教育・歴史・経済などとの密接な関係、および政治現象と日常生活との結びつきに注目して、広い視野から社会や科学について考える。その際に、みずから問題を見出し、かつ多様な意見や視点を考慮しこれらと対話することに注意する。こうした政治学系の講義の基礎編が月曜の政治学Ⅰ及びⅡである。

2. キーワード

政治的象徴、鉄の三角形、ナショナリズム、市民社会、NGO

3. 到達目標

- ①政治学ないし社会科学の基本的な諸概念や代表的な諸アプローチの習得
- ②上記の諸概念などを用いた分析の訓練
- ③いくつかの代表的な現代の政治的問題・課題についての理解
- ④一見非政治的な日常性格と政治現象との結びつきについての理解
- ⑤発表・討論・論述などによる、コミュニケーション能力の向上

4. 授業計画

- | | |
|------|-------------------------------|
| 第1回 | 本講義の内容と方式の説明 |
| 第2回 | ことばと政治シンボル操作の問題など。ケース・スタディを含む |
| 第3回 | ことばと政治「言霊」観の問題など。ケース・スタディを含む |
| 第4回 | 「鉄の三角形」の意味と概要 |
| 第5回 | 「鉄の三角形」ケース・スタディ（1） |
| 第6回 | 「鉄の三角形」ケース・スタディ（2） |
| 第7回 | 政官関係・公益法人論など |
| 第8回 | 戦争と政治（1） |
| 第9回 | 戦争と政治（2） |
| 第10回 | 従来の講義の補足と展開 |
| 第11回 | ナショナリズム論（1） |
| 第12回 | ナショナリズム論（2） |
| 第13回 | 市民的实践とNGO |
| 第14回 | 試験 |
| 第15回 | まとめ |

ただし、以上の構成は時事やテキストなどの要素を考慮して変更することがある。

5. 評価の方法・基準

期末試験（60%）および小テストの結果（40%）で評価する。60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

上に述べたように、政治学は多方面の知識と関心が求められる総合的な性格が濃い。タコツボに閉じこもり自己満足するのでは初めから学習がおぼつかない。世界史・日本史、思想、社会等々の基本的な知識、国語の能力などを復習（自ら補習）し、かつ生

き生きした現代的な問題意識をもって学ぶことが必要である。学生諸君の、積極的に授業に参加し、質問・討論する意欲的な姿勢を、期待する。プリントなどを自ら入手し、講義の前に読んでくるのは当然の前提である。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

※本講義では、事前の課題に基づく予習が前提であり、予習とそれに基づく事項の理解を確認する小テストをしばしば実施する。

事前に各回のテキストを熟読してわからない語句・事項を調べ、オリジナルな意見や質問を用意し（＝予習）、授業に備えること。※本講義では、事前の課題に基づく予習が前提であり、予習とそれに基づく事項の理解を確認する小テストをしばしば実施する。講義後には、講義内容に関連するテーマを自ら設定して調査・学習を交えつつ考察した小論述的なコメントを書き（＝復習を兼ねた課題）、次の講義の際に提出すること。

8. 教科書・参考書

●教科書 なし。

●参考書 講義の中で適宜紹介する。

9. オフィスアワー

月曜日 12 時－13 時 30 分。質問などは講義中・講義の前後、オフィスアワーの他に、次の電子メールでも受け付ける。

email: honda@dhs.kyutech.ac.jp

政治学Ⅰ Political ScienceⅠ

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：1・2 年次

学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：2 単位

担当教員名 本田 逸夫

1. 概要

（金曜 2 限）

後掲の諸テーマについて、資料を読みながら学び、政治学の基本的な概念や分析方法を学び、それらを用いて考察する能力を養成する。後半では、自由テーマによる演習方式も一部導入する。本講義では、全般に討論および論述に重点を置く。

2. キーワード

自由主義、現実主義、政治的責任、保守主義

3. 到達目標

- ①政治学ないし社会科学の基本的な諸概念や代表的な諸アプローチの習得
- ②上記の諸概念などを用いた分析の訓練
- ③いくつかの代表的な現代の政治的問題・課題についての理解
- ④一見非政治的な日常性格と政治現象との結びつきについての理解
- ⑤発表・討論・論述などによる、コミュニケーション能力の向上

4. 授業計画

- 第1回 本講義の内容と方式の説明
- 第2回 予備的な講義とディスカッション
- 第3回 自由主義と民主主義（1）
- 第4回 自由主義と民主主義（2）
- 第5回 現実主義（1）
- 第6回 現実主義（2）
- 第7回 従来の講義の補足と展開
- 第8回 政治的責任（1）
- 第9回 政治的責任（2）
- 第10回 保守主義（1）
- 第11回 保守主義（2）
- 第12回 従来の講義の補足と展開
- 第13回 自由テーマ（1）
- 第14回 自由テーマ（2）
- 第15回 まとめ

ただし、以上の構成は時事やテキスト、学生諸君の関心などの要素を考慮して変更することがある。

5. 評価の方法・基準

レポートの結果（100％）で評価する。

60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

政治学は多方面の知識と関心が求められる総合的な性格が濃い。タコツボに閉じこもり自己満足するのでは初めから学習がおぼつかない。世界史・日本史、思想、社会等々の基本的な知識、国語の能力などを復習（自ら補習）し、かつ生き生きした現代的な問題意識をもって学ぶことが必要である。学生諸君の、積極的に授業に参加し、質問・討論する意欲的な姿勢を、期待する。プリントなどを自ら入手し、講義の前に読んでくるのは当然の前提である。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

事前に各回のテキストを熟読してわからない語句・事項を調べ、オリジナルな意見や質問を用意し（＝予習）、授業に備えること。講義後には、講義内容に関連するテーマを自ら設定して調査・学習を交えつつ考察した小論述的なコメントを書き（＝復習を兼ねた課題）、次の講義の際に提出すること。

8. 教科書・参考書

●教科書 なし。

●参考書 講義の中で適宜紹介する。

9. オフィスアワー

月曜日 12 時－13 時 30 分。質問などは講義中・講義の前後、オフィスアワーの他に、次の電子メールでも受け付ける。

email: honda@dhs.kyutech.ac.jp

政治学Ⅱ Political Science Ⅱ

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：1・2 年次

学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：2 単位

担当教員名 本田 逸夫

1. 概要

（月曜1・2限）

現代日本と世界をめぐる政治的・社会的諸問題とそれらの相互
連関について、どちらかといえば国際的な関係や地球大の問題に
重点を置いて学ぶ。講義では新聞記事・論文や著書（の抜粋）等
の活字資料＝プリントや視聴覚的な教材を活用し、具体的な知識
の獲得と理論的思考（「批判的思考」を含む）の訓練を行なう。
一方通行的な講義＝筆記ではなく、学生諸君の調査・発表（イン
ターネット等も活用）、これをうけた討論等を特に重視する。政
治学は民主主義国の市民あるいは社会人にとって必要な教養を含
むが、だからといってそれを単にハウツー的な知識の集まりとす
ることはできない。また、高校までの学校教育やマスコミなどで
あつかわれる政治現象は、法制度や「政界」・時事などにかたよ
りがちである。そこでこの講義では、学問としての作法にしたが
いながら、政治現象と思想・教育・歴史・経済などとの密接な関
係、および政治現象と日常生活との結びつきに注目して、広い視
野から社会や科学について考える。その際に、みずから問題を見
出し、かつ多様な意見や視点を考慮しこれらと対話することに注
意する。こうした政治学系の講義の基礎編が月曜の政治学Ⅰ及び
Ⅱである。

2. キーワード

政治的社会化、地方自治、国際政治、軍事化、開発独裁、多文
化主義

3. 到達目標

- ①政治学ないし社会科学の基本的な諸概念や代表的な諸アプロ
ーチの習得
- ②上記の諸概念などを用いた分析の訓練
- ③いくつかの代表的な現代の政治的問題・課題についての理解
- ④一見非政治的な日常性格と政治現象との結びつきについての理
解
- ⑤発表・討論・論述などによる、コミュニケーション能力の向上

4. 授業計画

- 第1回 本講義の内容と方式の説明
- 第2回 批判的思考について
- 第3回 談合・独占と競争（1）
- 第4回 談合・独占と競争（2）
- 第5回 天下りと天上り
- 第6回 補足と展開
- 第7回 開発と補助金政治
- 第8回 開発と地方地方自治
- 第9回 「特別会計」
- 第10回 労働と政治
- 第11回 軍事化と平和研究
- 第12回 日常性と政治
- 第13回 補足と展開
- 第14回 試験
- 第15回 まとめ

ただし、以上の構成は時事やテキストなどの要素を考慮して変
更することがある。

5. 評価の方法・基準

期末試験（60%）および小テストの結果（40%）で評価する。
60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

上に述べたように、政治学は多方面の知識と関心が求められる
総合的な性格が濃い。タコツボに閉じこもり自己満足するのでは
初めから学習がおぼつかない。世界史・日本史、思想、社会等々
の基本的な知識、国語の能力などを復習（自ら補習）し、かつ生
き生きした現代的な問題意識をもって学ぶことが必要である。学

生諸君の、積極的に授業に参加し、質問・討論する意欲的な姿勢
を、期待する。プリントなどを自ら入手し、講義の前に読んでく
るのは当然の前提である。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

※本講義では、事前の課題に基づく予習が前提であり、予習とそ
れに基づく事項の理解を確認する小テストをしばしば実施する。

事前に各回のテキストを熟読してわからない語句・事項を調べ、
オリジナルな意見や質問を用意し（＝予習）、授業に備えること。

講義後には、講義内容に関連するテーマを自ら設定して調査・
学習を交えつつ考察した小論述的なコメントを書き（＝復習を兼
ねた課題）、次の講義の際に提出すること。

8. 教科書・参考書

●教科書 なし。

●参考書 講義の中で適宜紹介する。

9. オフィスアワー

月曜日 12 時－13 時 30 分。質問などは講義中・講義の前後、
オフィスアワーの他に、次の電子メールでも受け付ける。

email: honda@dhs.kyutech.ac.jp

地域研究Ⅰ Regional StudiesⅠ

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：1・2 年次

学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：2 単位

担当教員名 成末 繁郎

1. 概要

（月曜1・2限）

●授業の背景

現在の世界ではあらゆるものが国境を越えて自由にしかも迅速に交流するいわゆる「グローバル化」が進行している。この状況を準備したのが「近代化」という「西欧化」の流れであった。しかし、世界がこぞって西欧化しグローバルに均一化していく一方で、同時に伝統回帰（伝統の新たな発明であるが）やローカル化の傾向も強まっている。即ち世界は同一の価値観やメディアを外見上共有しているように見えるが、実は各々の独自の伝統を表現する新たな媒体としてそれらをしたたかに流用しているのが実情なのである。しかしほぼ同一の媒体が使用されるために、差異が微妙なものとなり、多様な価値観の存在が見えにくくなっているのも事実である。そしてこのことが従来よりも深刻な誤解を生じさせる状況を産み出していると考えられる。

●授業の目的

そこでこの講義では地域社会ごとの細かな差異の研究に専心してきた「文化人類学」の手法を使って、微妙な差異をどのように見出し、解釈していくのが妥当なのかを考察していく。この過程で「相対主義的な」理解のやり方を身につけることが目指される。

●授業の位置付け

具体的な地域として取り上げるのは主に東南アジアからタイ王国、ビルマ（ミャンマー）及びインドネシア、そしてメラネシアからはパプア・ニューギニアの多様な人々の部族的な社会等々であるので、仏教・イスラム教・アニミズム等々の宗教的な知識や呪術を含めた「科学的または哲学的」知識についても触れる。またタイ国をはじめとして世界各地の均一化とローカル化との間をあいまいな映像資料を通して見ることで、今現在の具体的な状況の把握もできるように構成する予定である。前期は小規模なコミュニティの社会構造の中核をなす親族構造に焦点を置く。

2. キーワード

文化相対主義、シンボル論、社会構造、出自理論と縁組理論、構造主義

3. 到達目標

- ①相対主義的に考えるという disposition を身につけること。
- ②世界の各地域間の差異を文化の観点から敏感に感じ取れるようになること。

4. 授業計画

- 第1回 「文化」という概念の定義
- 第2回 文化相対主義の問題点
- 第3回 象徴人類学から見た文化の概念
- 第4回 グローバル化を考える1 Hip-Hop の感染力その1
- 第5回 親族の解釈学1－親族分類の多様性、概念整理
- 第6回 親族の解釈学2－普遍的な解釈（親族の代数学）
- 第7回 親族の解釈学3－相対的な解釈
- 第8回 グローバル化を考える2 アイドルの普遍性その1
- 第9回 結婚の多様性と結婚の「本質」
- 第10回 インセスト・タブーの多様性
- 第11回 インセスト・タブーの存在理由
- 第12回 グローバル化を考える3 ロックの浸透力その1
- 第13回 世界観パート1－構造主義入門：親族の基本構造分析
- 第14回 世界観パート2－構造主義の展開編：神話分析（あるいは「奇妙な言説」の解読法）
- 第15回 まとめ

5. 評価の方法・基準

期末試験（95%）及びレポート（5%）で評価する。
60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

地域研究は学際的な学問分野なので哲学・歴史学・社会学・経済学の講義を履修しておくことが望ましい。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

動画サイト等で講義で取り上げる民族の実際の映像や画像を見ると講義の内容を立体的に理解するのに役立つ。

8. 教科書・参考書

●教科書

特になし。適宜プリントを配布する。

●参考書

- 1) Roy Wagner 1978 Lethal Speech. Cornell University Press. ISBN: 0801411939
- 2) Stephen A. Tyler (ed.) 1969 Cognitive Anthropology., Holt, Rinehart and Winston, inc. ISBN: 0030732557
- 3) E. R. Leach (ed.) 1968 Dialectic in Practical Religion., Cambridge University Press. 389/L-8

9. オフィスアワー

講義中及び講義前、講義終了直後等に気軽に質問してください。

地域研究Ⅰ Regional StudiesⅠ

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：1・2 年次

学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：2 単位

担当教員名 成末 繁郎

1. 概要

（金曜 2 限）

●授業の背景

現在の世界ではあらゆるものが国境を越えて自由に迅速に交流するいわゆる「グローバル化」が進行している。この状況を準備したのが「近代化」という「西欧化」の流れであった。しかし、世界がこぞって西欧化しグローバルに均一化していく一方で、同時に伝統回帰（伝統の新たな発明であるが）やローカル化の傾向も強まっている。即ち世界は同一の価値観やメディアを外見上共有しているように見えるが、実は各々の独自の伝統を表現する新たな媒体としてそれらをしたたかに流用しているのが実情なのである。しかしほぼ同一の媒体が使用されるために、差異が微妙なものとなり、多様な価値観の存在が見えにくくなっているのも事実である。そしてこのことが従来よりも深刻な誤解を生じさせる状況を産み出していると考えられる。

●授業の目的

そこでこの講義では地域社会ごとの細かな差異の研究に専心してきた「文化人類学」の手法を使って、微妙な差異をどのように見出し、解釈していくのが妥当なのかを考察していく。この過程で「相対主義的な」理解のやり方を身につけることが目指される。

●授業の位置付け

東南アジアからタイ王国、ビルマ（ミャンマー）及びインドネシア、そしてメラネシアからはパプア・ニューギニアの多様な人々の部族的な社会等々に関する定評のある複数の民族誌を詳細に解説していく。またタイ王国をはじめとして世界各地の均一化とローカル化との闘ぎあいを具体的な映像資料を通して見ることで、今現在の具体的な状況の把握もできるように構成する予定である。前期は小規模なコミュニティの社会構造の中核をなす親族構造やジェンダーを具体的な事例に即して考察を進める。

2. キーワード

親族名称、シンボル論、贈与交換と市場交換、ジェンダー、アナロジ

3. 到達目標

- ①相対主義的に考えるという disposition を身につけること。
- ②フィールド・ワークという調査手法を理解すること。
- ③世界の各地域間の差異を文化の観点から敏感に感じ取れるようになること。

4. 授業計画

- 第1回 「文化」という概念の定義
- 第2回 文化相対主義の問題点
- 第3回 象徴人類学から見た文化の概念
- 第4回 グローバル化を考える1 Hip-Hop の感染力その1
- 第5回 親族の解釈学1－親族分類の多様性、概念整理
- 第6回 親族の解釈学2－普遍的な解釈（親族の代数学）
- 第7回 親族の解釈学3－相対的な解釈
- 第8回 グローバル化を考える2 アイドルの普遍性その1
- 第9回 結婚の多様性と結婚の「本質」
- 第10回 インセスト・タブーの多様性
- 第11回 インセスト・タブーの存在理由
- 第12回 グローバル化を考える3 ロックの浸透力その1
- 第13回 世界観パート1－構造主義入門：親族の基本構造分析
- 第14回 世界観パート2－構造主義の展開編：神話分析（あるいは「奇妙な言説」の解読法）
- 第15回 まとめ

5. 評価の方法・基準

期末試験（95%）及びレポート（5%）で評価する。
60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

地域研究は学際的な学問分野なので哲学・歴史学・社会学・経済学の講義を履修しておくことが望ましい。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

動画サイト等で講義で取り上げる民族の実際の映像や画像を見ると講義の内容を立体的に理解するのに役立つ。

8. 教科書・参考書

●教科書 特になし。適宜プリントを配布する。

●参考書

- 1) Roy Wagner 1967. The Curse of Souw. Cornell University Press.. 389.7/W-1
- 2) Tambiah, S. J., 1985, Culture, Thought, and Social Action An Anthropological Perspective, Harvard University Press. ISBN: 0674179692
- 3) E. R. Leach 1995『高地ビルマの政治体系』（訳：関本照夫）弘文堂。ISBN: 4335051131
- 4) Marilyn Strathern. 1988. The Gender Of the Gift Problems with Women and Problems with Society in Melanesia. University of California Press. 367.2/S-15

9. オフィスアワー

講義中及び講義前、講義終了直後等に気軽に質問してください。

地域研究Ⅱ Regional Studies Ⅱ

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：1・2 年次

学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：2 単位

担当教員名 成末 繁郎

1. 概要

（月曜1・2限）

●授業の背景

現在の世界ではあらゆるものが国境を越えて自由にしかも迅速に交流するいわゆる「グローバル化」が進行している。この状況を準備したのが「近代化」という「西欧化」の流れであった。しかし、世界がこぞって西欧化しグローバルに均一化していく一方で、同時に伝統回帰（伝統の新たな発明であるが）やローカル化の傾向も強まっている。即ち世界は同一の価値観やメディアを外見上共有しているように見えるが、実は各々の独自の伝統を表現する新たな媒体としてそれらをしたたかに流用しているのが実情なのである。しかしほぼ同一の媒体が使用されるために、差異が微妙なものとなり、多様な価値観の存在が見えにくくなっているのも事実である。そしてこのことが従来よりも深刻な誤解を生じさせる状況を産み出していると考えられる。

●授業の目的

そこでこの講義では地域社会ごとの細かな差異の研究に専心してきた「文化人類学」の手法を使って、微妙な差異をどのように見出し、解釈していくのが妥当なのかを考察していく。この過程で「相対主義的な」理解のやり方を身につけることを目指す。

●授業の位置付け

メラネシアからパプア・ニューギニアの多様な人々の部族的な社会等々に関する定評のある複数の民族誌を詳細に解説していき、我々から見ると一見奇妙に見える対象社会の生活世界を分析することで、むしろ我々自身の生活世界を客観化することを目指す。また世界各地の均一化とローカル化との間をあいを具体的な映像資料を通して見ることで、今現在の具体的な状況の把握もできるように構成する予定である。後期は Roy Wagner が創始したフラクタル人類学の観点から神話・儀礼に焦点をおいて講義を行う。

2. キーワード

ポスト・コロニアル、シンボル論、コスモロジー、フラクタル、ホログラフィ

3. 到達目標

- ①相対主義的に考える disposition を身につけること。
- ②世界の各地域間の差異を文化の観点から敏感に感じ取れるようになること。

4. 授業計画

- 第1回 地域研究と文化人類学：方法論の解説
- 第2回 文化の概念：その多様性と解釈
- 第3回 象徴人類学の解説：シンボルとは何か
- 第4回 グローバル化を考える：部族的な社会に生きる人々の映像を見る
- 第5回 フラクタルの視点からの地域分析：フラクタル及びホログラフィという隠喩の使用について。ニューギニア・ハーゲン地域のビッグマンの概念の分析
- 第6回 ニューギニア・Iqwaye 族の生活世界：二進法的世界を生きること。
- 第7回 ニューギニア・Iqwaye 族の生活世界：世界認識の枠組みとしての神話とその神話の実現としての Ate 結婚。
- 第8回 グローバル化を考える 4 Hip-Hop の感染力その 2
- 第9回 ニューギニア・ダリビ族の生活世界：ダリビ族に関する概況解説。
- 第10回 ニューギニア・ダリビ族の生活世界：文化の弁証法—ホログラフィックな世界観
- 第11回 ニューギニア・ダリビ族の生活世界：生物学的な関係性を前提としない親族構築
- 第12回 グローバル化を考える 5 ロックの浸透力その 2

第13回 ニューギニア・ダリビ族の生活世界：神話と Habu 儀礼—ホログラフィックな世界製作。

第14回 フラクタルの観点からの他者理解が気づかせてくれるものについて。

第15回 まとめ

5. 評価の方法・基準

期末試験（95%）及びレポート（5%）で評価する。
60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

地域研究は学際的な学問分野なので哲学・歴史学・社会学・経済学の講義を履修しておくことが望ましい。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

動画サイト等で講義で取り上げる民族の実際の映像や画像を見ると講義の内容を立体的に理解するのに役立つ。

8. 教科書・参考書

●教科書

特になし。適宜プリントを配布する。

●参考書

- 1) Roy Wagner 1986 Symbols That Stand for Themselves. The University of Chicago Press.389/W-3
- 2) Tambiah, S. J., 1985, Culture, Thought, and Social Action An Anthropological Perspective, Harvard University Press. ISBN: 0674179692
- 3) Marilyn Strathern. 1988. The Gender Of the Gift Problems with Women and Problems with Society in Melanesia. University of California Press. 367.2/S-15

9. オフィスアワー

講義中及び講義前、講義終了直後等に気軽に質問してください。

地域研究Ⅱ Regional Studies Ⅱ

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：1・2 年次

学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：2 単位

担当教員名 成末 繁郎

1. 概要

（金曜 2 限）

●授業の背景

現在の世界ではあらゆるものが国境を越えて自由に迅速に交流するいわゆる「グローバル化」が進行している。この状況を準備したのが「近代化」という「西欧化」の流れであった。しかし、世界がこぞって西欧化しグローバルに均一化していく一方で、同時に伝統回帰（伝統の新たな発明であるが）やローカル化の傾向も強まっている。即ち世界は同一の価値観やメディアを外見上共有しているように見えるが、実は各々の独自の伝統を表現する新たな媒体としてそれらをしたたかに流用しているのが実情なのである。しかしほぼ同一の媒体が使用されるために、差異が微妙なものとなり、多様な価値観の存在が見えにくくなっているのも事実である。そしてこのことが従来よりも深刻な誤解を生じさせる状況を産み出していると考えられる。

●授業の目的

そこでこの講義では地域社会ごとの細かな差異の研究に専心してきた「文化人類学」の手法を使って、微妙な差異をどのように見出し、解釈していくのが妥当なのかを考察していく。この過程で「相対主義的な」理解のやり方を身につけることを目指す。

●授業の位置付け

メラネシアからパプア・ニューギニアの多様な人々の部族的な社会等々に関する定評のある複数の民族誌を詳細に解説していき、我々から見ると一見奇妙に見える対象社会の生活世界を分析することで、むしろ我々自身の生活世界を客観化することを目指す。また世界各地の均一化とローカル化との間をあいを具体的な映像資料を通して見ることで、今現在の具体的な状況の把握もできるように構成する予定である。後期は Roy Wagner が創始したフラクタル人類学の観点から神話・儀礼に焦点をおいて講義を行う。

2. キーワード

ポスト・コロニアル、シンボル論、コスモロジー、フラクタル、ホログラフィ

3. 到達目標

- ①相対主義的に考える disposition を身につけること。
- ②フィールド・ワークという調査手法を理解すること。
- ③世界の各地域間の差異を文化の観点から敏感に感じ取れるようになること。

4. 授業計画

- 第1回 地域研究と文化人類学：方法論の解説
- 第2回 文化の概念：その多様性と解釈
- 第3回 象徴人類学の解説：シンボルとは何か
- 第4回 グローバル化を考える：部族的な社会に生きる人々の映像を見る
- 第5回 フラクタルの視点からの地域分析：フラクタル及びホログラフィという隠喩の使用について。ニューギニア・ハーゲン地域のビッグマンの概念の分析
- 第6回 ニューギニア・Iqwaye 族の生活世界：二進法的世界を生きること。
- 第7回 ニューギニア・Iqwaye 族の生活世界：世界認識の枠組みとしての神話とその神話の実現としての Ate 結婚。
- 第8回 グローバル化を考える 4 Hip-Hop の感染力その 2
- 第9回 ニューギニア・ダリビ族の生活世界：ダリビ族に関する概況解説。
- 第10回 ニューギニア・ダリビ族の生活世界：文化の弁証法—ホログラフィックな世界観
- 第11回 ニューギニア・ダリビ族の生活世界：生物学的な関係性を前提としない親族構築

第12回 グローバル化を考える 5 ロックの浸透力その 2

第13回 ニューギニア・ダリビ族の生活世界：神話と Habu 儀礼—ホログラフィックな世界製作。

第14回 フラクタルの観点からの他者理解が気づかせてくれるものについて。

第15回 まとめ

5. 評価の方法・基準

期末試験（95%）及びレポート（5%）で評価する。

60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

地域研究は学際的な学問分野なので哲学・歴史学・社会学・経済学の講義を履修しておくことが望ましい。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

動画サイト等で講義で取り上げる民族の実際の映像や画像を見ると講義の内容を立体的に理解するのに役立つ。

8. 教科書・参考書

●教科書

特になし。適宜プリントを配布する。

●参考書

- 1) Roy Wagner 1986 Symbols That Stand for Themselves. The University of Chicago Press. 389/W-3
- 2) Tambiah, S. J., 1985, Culture, Thought, and Social Action An Anthropological Perspective, Harvard University Press. ISBN: 0674179692
- 3) E. R. Leach (ed.) 1968 Dialectic in Practical Religion., Cambridge University Press. 389/L-8

9. オフィスアワー

講義中及び講義前、講義終了直後等に気軽に質問してください。

国際関係論 International relations

対象学科（コース）：全科学年：1～3年次

学期：前期・後期 単位区分：選択必修 単位数：2単位

担当教員名 （前半）高橋和夫・放送大学教授
（後半）玉村健志・九工大 学習教育センター准教授

1. 概要

（前半：第1回～第8回）

国際政治の風景を太いタッチで描く。本講義の二つのキーワードは、アメリカとイスラムである。アメリカという視点からイスラムを、イスラムという視点からアメリカを語る。両者の視点の交わった点に浮かび上がってくる風景を描きたい。そこに浮かび上がってくる構図はアメリカの一極覇権の衰退である。またアメリカ、ヨーロッパ、日本のイスラム教徒の実情を紹介したい。その衰退の大きな要因はイラクとアフガニスタンの戦争の負担である。イラクとアフガニスタンの経験を踏まえて、なぜ戦争が続くのかを考える。そして戦争の新しい形を紹介する。全体を通じて21世紀の国際政治の新しい風景を描きだす。

（後半：第9回～第15回）

後半は、国際機構と国際関係をテーマとします。グローバル化の進展に伴って国境を超えるような問題、一国では対処しきれない問題が世界的に増えています。そのような現代国際関係の中で国際機構がどのような役割を果たしているのか。国際機構に関する基礎的な知識を得ることを目的とします。国際機構がなぜ、いかにして存在するのかを検討するうえで、講義では国際機構が歴史上いかにして創成されてきたのか、そしてその誕生が主権国家体系にいかなる影響を受け、逆に影響を与えてきたのかを考察します。また、グローバルガバナンスの中で国際機構がどのような役割を果たし、それぞれの分野でどのような国際機構が存在するのかを見ていきます。受講者には、復習を兼ねて授業ごとにParticipation Paperを出してもらい、その授業で扱ったトピックに関する簡単な質問に答えてもらい、自分の考えを論じてもらいます。

2. キーワード

（前半）アメリカ、国力、超大国、人口、エネルギー、軍事力、イノベーション、イスラム、ロボット

（後半）国際機構、国連、EU、グローバルガバナンス、紛争解決

3. 到達目標

この授業は、「多様な社会、さまざまな文化や価値観に関して広く学び、文化や社会や健康に関する幅広い、かつ多面的、多層的知識を獲得する」ことを目標とした授業の一つである。

具体的には以下の視点への到達が目標になる。

（前半）

- 1) メディアというものを批判的に考える。
- 2) 国際問題を大国の視点と地域の視点の双方から立体的にとらえる。
- 3) 国際関係は人間関係と同じく相手の立場になって考えるという発想が重要である。
- 4) 特にイスラム世界からの見ると、どう国際情勢は見えるだろうかという視点を獲得する。
- 5) テクノロジーが国際政治の風景を変えている。テクノロジーの社会的インパクトを意識する。

（後半）

将来国際機関などの国際的な仕事に就くための、あるいは新聞や専門書などを読んで理解するための、国際社会と国際機関に関する導入的な知識を身に付けてもらうことを目標とします。国際関係やグローバルガバナンスにおける国際機構の役割や存在意義、国際機構が国際関係に及ぼす影響などについて、受講生が学問的な理解を深めるとともに、自分なりの視点を持って意見を述べられるようになることを目指します。

4. 授業計画

- 1 テレビと国際政治 / もうだまされないために

- 2 アメリカの世界戦略（1）スーパー・パワーへの道
- 3 アメリカの世界戦略（2）唯一のスーパー・パワーへ
- 4 次のスーパー・パワーは？
- 5 アメリカのイスラム / 文明の衝突を越えて
- 6 北極圏のイスラム
- 7 日本のイスラム
- 8 ロボットの戦争と「（前半）期末試験」
- 9 国際機構の成立
- 10 国連システムと意思決定のしくみ
- 11 グローバルガバナンスと国際機構
- 12 安全保障と国際機構
- 13 人間の安全保障
- 14 欧州統合
- 15 国際機構と主権国家体系の変容

5. 評価の方法・基準

（前半）

出席、複数回の短いレポート、試験、それぞれに三分の一の程度の配点を考えている。

（後半）

出席 10%、Participation Paper（授業内容に関する簡単な問題）30%、授業での発言（クラスへの貢献）10%、レポート 50%

6. 履修上の注意事項

（前半）

DVD教材の視聴とパワーポイントを使った講義を組み合わせる授業を進行します。

（後半）

授業ではみなさんに色々な質問をします。受講者数によっては議論などもできればと考えています。ニュースを見たり新聞を読んだりして世界情勢や国際機構についての予めある程度情報を得ておいてください。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

教科書と参考文献の予習、図書館などで複数の新聞の国際報道に目を通して講義に出席されたい。

8. 教科書・参考書

教科書

（前半）高橋和夫『現代の国際政治』（放送大学教育振興会、2013年）（改訂版）375.9/H-2/5154

（後半）最上敏樹『国際機構論』（東京大学出版会、2006年）（第2版）ISBN: 9784130323369

参考書

（前半）高橋和夫『イランとアメリカ / 歴史から読む「愛と憎しみ」の構図』（朝日新書、2013年）ISBN: 9784022734945

高橋和夫『世界の中の日本 / グローバル化、北極、日本』（放送大学教育振興会、2015年）ISBN: 9784595315596（新訂版）

（後半）ジョセフ・ナイ『国際紛争—理論と歴史』（有斐閣、2013年）319/N-13/9

9. オフィスアワー

備考

受講の条件は強い好奇心だけです。多量の忍耐力を常備して出席をお願いします。

グローバルイシュー概論 Introduction to Global Issues

対象学科（コース）：全学科 学年：1－3年次

学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：2単位

担当教員名 水井 万里子・大田 真彦・玉村 健志・
加藤 鈴子

1. 概要

授業の背景

急速なグローバル化が進展する現代社会、身の回りの事柄であっても、地球規模でおこっている変化の中に位置づけて考えることが、21世紀を生きる人々にとって必要な力となる。グローバル化の時代であることを認識し、そこでおこっている人類共通の課題「イシュー」について考察を深めることができるような能力が求められている。

授業の目的

この授業を通して、グローバル化について概観し、これを背景とする3つのイシューについて認識を深め、自分の意見を持ち発信する力を身につけることが学習の目的である。そのために、グローバル化の現状を前提に、①地球規模の環境変化、②紛争や貧困など世界的に広がる課題と国際社会の対応、③越境する人々たちをめぐる受容の課題について、授業を通して考える。最後に、グローバルな環境に自分を位置づけ、これらの課題に対しどのように考えるのか、文章で表現する。

授業の位置づけ

グローバル教養科目の一つでありGEコースの修了要件単位となる。GEコースに所属しない学生には、人文社会系選択必修科目となる。

2. キーワード

グローバル化、サステナビリティ、国際関係、多文化受容、人権、包括と排除

3. 到達目標

- ①グローバル化の問題を理解する
- ②多様な文化・社会を理解する
- ③①②を背景とする人類共通の現象・課題を説明できる。

4. 授業計画

授業内容。

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 グローバリゼーション概論（1）
- 第3回 グローバリゼーション概論（2）
- 第4回 国際機関と国際的課題（1）
- 第5回 国際機関と国際的課題（2）
- 第6回 国際機関と国際的課題（3）
- 第7回 多文化の受容と課題（1）
- 第8回 多文化の受容と課題（2）
- 第9回 多文化の受容と課題（3）
- 第10回 開発と国際的課題（1）
- 第11回 開発と国際的課題（2）
- 第12回 開発と国際的課題（3）
- 第13回 グローバルイシュー総論（1）
- 第14回 グローバルイシュー（2）
- 第15回 まとめ

5. 評価の方法・基準

レポート3回（90%）

授業内課題（10%）

合計で60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

教科書を使わないので、自分で講義を聴き、ノートを取り、配布資料を整理する必要がある。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

毎回の授業で出される予復習用のプリントを翌週提出する。

8. 教科書・参考書

教科書は使用しないが、参考文献は授業中に紹介する。

9. オフィスアワー

MILAiS 水曜 13:00－14:30

東アジア論 East Asian Studies

対象学科（コース）：全学科 学年：1－3年次

学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：2単位

担当教員名 後藤 啓倫

1. 概要

●授業の背景

現在の東アジアとりわけ日本、中国、韓国は、歴史認識や国境に関する様々な問題を抱えています。しかし、日本、中国、韓国は、これら問題の解決の糸口を見つければどこか、これらをめぐって相互の対立を深めているように見えます。日中韓がともに納得するような共通理解はすぐには出てこないかもしれませんが、今後も模索し続ける必要はあるでしょう。そこで、この授業では、近代以降の日本と東アジア（特に中国・韓国）の歴史を学び今後の日本と東アジアとのかかわりについて考えます。

●授業の目的

本授業では、近代以降の日本がどのように東アジア（特に中国・韓国）とかわかってきたのかについて学びます。主に、戦争や植民地支配に関する事実と背景を解説していきます。日本と東アジアの関係史には現在でも未だに争点となる問題が多く含まれています。東アジアの歴史を学ぶことで現在の日本を取り巻く国際環境の成り立ちを理解するとともに、自国だけでなく他国の立場からも近代以降の東アジアの歴史を理解することを目指します。

●授業の位置づけ

本授業では、現在の東アジア（特に日中韓）が抱える諸問題について歴史的観点からアプローチすることで、東アジアの歴史的事実に関する知識を習得し、東アジアを多角的な観点から論じる姿勢を身につけます。歴史的に考察することを通じて、現在の問題を相対化する視点を養います。

2. キーワード

日本、中国、韓国、東アジア、歴史

3. 到達目標

- ①日本と東アジアの歴史的事実に関する知識の習得
- ②歴史認識において多様な立場があることを理解する
- ③歴史的に考察することを通じて、現在の東アジアが抱える問題とそれに関する報道などを相対化して考える姿勢を養う

4. 授業計画

授業は講義形式で行なう。配布資料等を用いて補足説明をする。以下の計画は学生の理解度に応じて変更する場合もある。

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 近代国家日本の登場と東アジア国際秩序の変容
- 第3回 日清戦争と義和団事件
- 第4回 韓国併合
- 第5回 五・四運動と三・一独立運動
- 第6回 満洲事変
- 第7回 日中戦争
- 第8回 アジア太平洋戦争
- 第9回 日本の敗戦と東アジア
- 第10回 日韓国交正常化と日中国交正常化
- 第11回 冷戦と日中韓関係
- 第12回 現代日中韓関係（領土問題）
- 第13回 現代日中韓関係（歴史認識問題）
- 第14回 21世紀の日中韓関係
- 第15回 まとめ

5. 評価の方法・基準

期末試験（100%）の結果で評価する。60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

教科書を使わないので、自分で講義を聴いてノートをとる必要がある。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

授業で扱う事件や登場人物に関する参考文献をその都度紹介するので、参考文献を通じて復習し、理解に努めること。

8. 教科書・参考書

教科書は使用しない。参考文献は授業中に紹介する。

9. オフィスアワー

職業と社会 Occupation and Society

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：2 年次

学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：2 単位

担当教員名 本田 逸夫

1. 概要

（金曜 2 限）

後掲の諸テーマについて、資料を読みながら、政治学・社会学・行政学など社会科学の基本的な概念や分析方法を学び、それらを用いて考察する能力を養成する。

具体的なテーマとしては、ポスト産業社会化とグローバリゼーションの下での雇用や労働の変化等の諸課題を中心に検討する。

自由テーマによる演習方式を積極的に取り入れる。本講義では、全般に討論および論述に重点を置く。

2. キーワード

自由主義、多元主義、職業観、貧困

3. 到達目標

①政治学ないし社会科学の基本的な諸概念や代表的な諸アプローチの習得

②上記の諸概念などを用いた分析の訓練

③いくつかの代表的な現代の政治・社会の問題・課題についての理解

④一見非政治的な日常性格と政治現象との結びつきについての理解

⑤発表・討論・論述などによる、コミュニケーション能力の向上

4. 授業計画

第1回 本講義の内容と方式の説明

第2回 予備的な講義とディスカッション

第3回 「自由主義」をめぐる（1）

第4回 「自由主義」をめぐる（2）

第5回 現代社会の特質（1）

第6回 現代社会の特質（2）

第7回 現代社会の特質（3）

第8回 従来の講義の補足と展開

第9回 「貧困」をめぐる（1）

第10回 「貧困」をめぐる（2）

第11回 近代社会と職業観（1）

第12回 近代社会と職業観（2）

第13回 自由テーマ（1）

第14回 自由テーマ（2）

第15回 まとめ

ただし、以上の構成は学生諸君の関心や時事、テキストなどの要素を考慮して柔軟に調整・変更する。

5. 評価の方法・基準

レポートの結果（100%）で評価する。

60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

本講義では多方面の知識（の習得）が求められる。かつ、テーマは、職業・労働という学生諸君の切実な問題に関わっている。そこで、現代社会・世界史・日本史・思想等々の基本的な概念や知識、国語の能力などを復習（自ら補習）し、かつ生き生きとした現代的な問題意識をもって学ぶことが必要である。学生諸君の、積極的に授業に参加し、質問・討論する意欲的な姿勢を、期待する。プリントなどを自ら入手し、講義の前に読んでくるのは当然の前提である。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

事前に各回のテキストを熟読してわからない語句・事項を調べ、オリジナルな意見や質問を用意し（＝予習）、授業に備えること。講義後には、講義内容に関連するテーマを自ら設定して調査・学習を交えつつ考察した小論述的なコメントを書き（＝復習を兼ねた課題）、次の講義の際に提出すること。

8. 教科書・参考書

●教科書 なし。

●参考書 講義の中で適宜紹介する。

9. オフィスアワー

月曜日 12 時～13 時 30 分。質問などは講義中・講義の前後、オフィスアワーの他に、次の電子メールでも受け付ける。

email: honda@dhs.kyutech.ac.jp

日本語表現法 Japanese Writing

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：2 年次

学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：2 単位

担当教員名 中村 雅之

1. 概要

（金曜 2 限）

●授業の概要

他人に伝わる文章を書く前提として、インターネットに頼らない調査の仕方および文献の基本的な読解力を身につける。特定の主題についてのさまざまな説を比較検討するやり方を学び、期末にはある程度の長さのレポートが作成できるようにする。

本講義は、2、3 年生を対象とした中級講義である。批判的・論理的思考を身につけることを目指す。

●授業の目的

論理的文章の書き方を身につける。

2. キーワード

文献調査、要約、翻訳

3. 到達目標

・事実の検証方法、文献調査、論理的推論の方法を身につける。

・他人に伝わる日本語表現の方法を身につける。

4. 授業計画

第1～2回 辞書を引く

第3～5回 文献調査のやり方

第6回 レポート検討Ⅰ

第7～8回 要約を作る

第9～11回 翻訳をする

第12回 レポート検討Ⅱ

第13～15回 論理的推論のやり方

5. 評価の方法・基準

講義進行中に課せられる2回の小レポートと期末レポートの合計で評価する。

小レポート各 25%、期末レポート 50%。

60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

開講時に述べる。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

各回に指示をする調査課題を、次回までに準備しておくこと。

8. 教科書・参考書

授業時に資料を配布。

9. オフィスアワー

月曜日：15：00～16：00

哲学と現代Ⅰ Contemporary Philosophy Ⅰ

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2・3・4年次

学期：前期 単位区分：選択 単位数：2単位

担当教員名 中村 雅之

1. 概要

さまざまな具体例の分析を通じて、インターネット等を通じた情報の洪水の中で、確かな情報を見分け、議論の欺瞞を見抜く力を養う。

2. キーワード

思考停止、法令遵守

3. 到達目標

- ・テキストの内容を簡潔に要約し、それに基づいて発表をおこなう能力を身につける。
- ・テキストが提出する問題を巡って討論することにより、思考力・文章力・論理的表現力を養う。

4. 授業計画

テキストに従って、以下のテーマを扱う。

第1回～第3回 食の「偽装」「隠蔽」に見る思考停止

第4回～第6回 思考停止するマスメディア

第7回～第9回 厚生年金記録改竄を巡る思考停止

第10回～第12回 「遵守」はなぜ思考停止につながるのか

第13回～第15回 司法への市民参加を巡る思考停止

5. 評価の方法・基準

レポート60%、毎回の発表と、討論への参加度40%。

6. 履修上の注意事項

各回の担当者は、責任をもって準備すること。また、参加者は自宅でテキストを読んでおくこと。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

次回の授業範囲の予習として、不明な専門用語の意味を調べておくこと。

8. 教科書・参考書

郷原信郎『思考停止社会』（講談社現代新書）081/K-3/1978

9. オフィスアワー

月曜日：15：00～16：00

哲学と現代Ⅱ Contemporary Philosophy Ⅱ

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2・3・4年次

学期：後期 単位区分：選択 単位数：2単位

担当教員名 中村 雅之

1. 概要

科学技術が引き起こすさまざまな倫理的問題を、具体的な事例に即して考察する。

2. キーワード

メディア・リテラシー、ニセ科学、リスク論

3. 到達目標

- ・テキストの内容を簡潔に要約し、それに基づいて発表をおこなう能力を身につける。
- ・テキストが提出する問題を巡って討論することにより、思考力・文章力・論理的表現力を養う。

4. 授業計画

テキストに従って、以下のテーマを扱う。

第1回～第2回 ニセ科学

第3回～第5回 自然志向の罫

第6回～第9回 警鐘報道の功罪

第10回～第15回 科学報道のメディア・リテラシー

5. 評価の方法・基準

レポート60%、毎回の発表と、討論への参加度40%。

6. 履修上の注意事項

各回の担当者は、責任をもって準備すること。また、参加者は自宅でテキストを読んでおくこと。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

次回の授業範囲の予習として、不明な専門用語の意味を調べておくこと

8. 教科書・参考書

松永和紀『メディア・バイアス』（光文社新書）404/M-28

9. オフィスアワー

月曜日：15：00～16：00

西洋社会史Ⅰ・Ⅱ History of European Society

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2・3・4年次

学期：前期・後期 単位区分：選択 単位数：2単位

担当教員名 水井 万里子

1. 概要

●授業の背景

歴史学の基本的な方法として、「社会史」という分野がある。これは、歴史上に生きた人々の日常生活や文化、生き方などに光をあてて、当時の社会を再構成し、理解を深めることを目的とする。政治史、経済史などの分野と違い、「社会史」には年表に表されるような事件や重大な出来事はあまり出てこない。むしろ、長い時間をかけてじっくりと社会が変化していく過程を捉えていく。こうした社会史の課題として「モノ」「コト」の歴史は重要で、それぞれの「モノ」「コト」の起源、変化の過程、現代にどうつながるかをゆっくりと追いながら社会の変容についても考えることができる。

●授業の目的

西洋史における社会、技術、産業、文化について、個別トピック（例えば「庭」「銀行」「鋼」「蒸気機関」など）を各履修者がそれぞれ選択し検討する。これらのトピックは産業革命の時期にドイツで著された技術・社会関連の事典の項目である。この事典項目を出発点として、「工業化」を世界史の上で比較的早い段階で経験したヨーロッパの社会について、トピックの歴史的起源も確かめながら深く理解する。

●授業の位置づけ

本科目は選択課題によるレポート作成を中心とした歴史学上級科目で、「自由課題」演習型の授業である。まず、18世紀末から19世紀にかけて書かれたヨハン・ベックマン『西洋事物起源』の項目群から履修者が各自のテーマを選び、登録した後は、自由に調査を進める。参考資料の収集は、本学の図書館だけでなく、公共図書館や他大学の図書館を利用して行う場合がある。これらの調査をもとにプログレスレポート1、2（以下PR1・PR2）およびファイナルレポート（以下FR）の計3本を作成し提出する。

個別発表も各履修者は必ず一回以上おこない、他履修者の発表への質疑もあわせて評価の対象とする。

2. キーワード

「西洋史」、「技術史」、「科学史」、「社会史」

3. 到達目標

<レポートに関する目標>

- ①文献調査
- ②資料分析
- ③プレゼンテーション（2回）
- ④オリジナリティ：独自の議論
- ⑤プログレス（PR2とFRのみ）

<個別発表に関する目標>

- ①簡潔明瞭な発表
- ②的確な質疑

4. 授業計画

- ①テーマ登録
- ②調査ガイド（文献検索について）
- ③調査ガイド（公共図書館と他大学図書館利用について）
- ④プログレスレポート1提出
- ⑤レポート返却とコメント
- ⑥個別発表
- ⑦個別発表
- ⑧個別発表
- ⑨個別発表
- ⑩プログレスレポート2提出
- ⑪レポート返却とコメント
- ⑫個別発表
- ⑬個別発表

⑭ファイナルレポート提出

⑮まとめ

5. 評価の方法・基準

プログレス・レポート1	25%（上記レポート目標①から④各25%）
プログレス・レポート2	30%（①から⑤各20%）
ファイナル・レポート	40%（①から⑤各20%）
発表および質疑	5%＊総合評価60%以上が合格

6. 履修上の注意事項

第一回目の授業で注意点を述べる。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

授業時間内で示された調査課題の提出、および期末時に提出が求められる自由課題レポートについて、毎回の授業の時間外に調査学習し、授業時には進捗レポートを提出する。

8. 教科書・参考書

ヨハン・ベックマン『西洋事物起源1－4』岩波文庫、1999年。
502/B-7/1-4（担当教員が管理し、授業中に回覧した後で貸出）

9. オフィスアワー

研究室扉脇のオフィスアワー掲示を参照のこと。

Mizuikit@aol.com

日本政治論Ⅰ Japanese Politics, Past and Present Ⅰ

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2・3・4年次

学期：前期 単位区分：選択 単位数：2単位

担当教員名 本田 逸夫

1. 概要

近現代日本の構造的な諸問題や政治・社会思想について、何冊かの本（の抜粋）や資料などを精読して学問的に（ジャーナリストチックに、ではなく）学ぶ。日本政治の研究といっても、狭い一国（史）的な視野におちいるためには、欧米や東北アジアなどの諸国との比較が欠かせない。現代を準備した歴史的過程の検討も重要である。こうした考察を通して、日本の政治と社会の特徴や性格、それらを形成した諸条件、そして今後の課題などを探りたい。講義は、会読をもとに発表と討論によるゼミ方式で行う。

上級科目の授業として、学生諸君の関心を重んじながら、政治学の多様な問題について意欲的な勉強を進めていく。

2. キーワード

比較政治（制度）論、政治史、政治思想史、公共性、多元主義

3. 到達目標

- ①政治学ないし社会科学の基本的な諸概念や代表的な諸アプローチの習得
- ②上記の諸概念などを用いた分析の訓練
- ③いくつかの代表的な現代の政治的問題・課題についての理解
- ④一見非政治的な日常性格と政治現象との結びつきについての理解
- ⑤発表・討論・論述などによる、コミュニケーション能力の向上

4. 授業計画

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 人間性と政治（権力分立の問題など）
- 第3回 自由・人権観
- 第4回 戦後社会と管理化（1）
- 第5回 戦後社会と管理化（2）
- 第6回 戦後社会と管理化（3）
- 第7回 東北アジアと日本（1）
- 第8回 東北アジアと日本（2）
- 第9回 東北アジアと日本（3）
- 第10回 補足と展開
- 第11回 琉球・沖縄と日本（1）
- 第12回 琉球・沖縄と日本（2）
- 第13回 宗教と政治（1）
- 第14回 宗教と政治（2）
- 第15回 戦争・戦後責任論

ただし、学生諸君の関心やテキストなどの要因にしたがって、計画の調整・変更は柔軟に行なう。

5. 評価の方法・基準

報告と討論（80%）・レポート（20%）で評価する。
60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

本講義では、参加者が問題関心をもって積極的に学ぶことが特に重要である。具体的には、資料の丁寧な読みとよく準備された明晰な発表、論理的で知的に生産的な討論——独断や印象批評の応酬ではなく——を活発に行なうことなどが、求められる。元来、政治学は広範囲の知識と関心が必要であり、参加者には生き生きとした現代的で知的な関心と着実な学力（知識、読解・思考、表現等）の両方が期待される。ただし、学力が初めは不足していても落胆する必要はない。その未熟さを補う旺盛な意欲をもって参加してもらいたい。具体的には、歴史、思想、社会等々の基本的な知識、日本語能力などを復習（自ら補習）することが必要である。プリントを含むテキストを講義の前に読み、討論に備えてくるべきことは、いうまでもない。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

事前に各回のテキストを熟読してわからない語句・事項を調べ、オリジナルな意見や質問を用意し（＝予習）、授業に備えること。講義後には、講義内容に関連するテーマを自ら設定して調査・学習を交えつつ考察した小論述的なコメントを書き（＝復習を兼ねた課題）、次の講義の際に提出すること。

8. 教科書・参考書

●教科書

プリントを配布する他、相談して決定（複数）。

●参考書

講義の中で適宜紹介する。

9. オフィスアワー

月曜日12時－13時30分。質問などは講義中・講義の前後、オフィスアワーの他に、次の電子メールでも受け付ける。

email: honda@dhs.kyutech.ac.jp

日本政治論Ⅱ Japanese Politics, Past and Present Ⅱ

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2・3・4年次

学期：後期 単位区分：選択 単位数：2単位

担当教員名 本田 逸夫

1. 概要

近現代日本の構造的な諸問題や政治・社会思想について、何冊かの本（の抜粋）や資料などを精読して学問的に（ジャーナリストチックに、ではなく）学ぶ。日本政治の研究といっても、狭い一国（史）的な視野におちいらないように、欧米や東北アジアなどの諸国との比較が欠かせない。現代を準備した歴史的過程の検討も重要である。こうした考察を通して、日本の政治と社会の特徴や性格、それらを形成した諸条件、そして今後の課題などを探りたい。講義は、会読をもとに発表と討論によるゼミ方式で行う。

上級科目の授業として、学生諸君の関心を重んじながら、政治学の多様な問題について意欲的な勉強を進めていく。

2. キーワード

比較政治（制度）論、政治史、政治思想史、公共性、多元主義

3. 到達目標

- ①政治学ないし社会科学の基本的な諸概念や代表的な諸アプローチの習得
- ②上記の諸概念などを用いた分析の訓練
- ③いくつかの代表的な現代の政治的問題・課題についての理解
- ④一見非政治的な日常性格と政治現象との結びつきについての理解
- ⑤発表・討論・論述などによる、コミュニケーション能力の向上

4. 授業計画

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 自由主義論（1）
- 第3回 自由主義論（2）
- 第4回 諸文明と「国際化」（1）
- 第5回 諸文明と「国際化」（2）
- 第6回 諸文明と「国際化」（3）
- 第7回 市民社会論（1）
- 第8回 市民社会論（2）
- 第9回 市民社会論（3）
- 第10回 補足と展開
- 第11回 厚生行政をめぐる政治（1）
- 第12回 厚生行政をめぐる政治（2）
- 第13回 政治的リアリズム
- 第14回 戦後政治をめぐる
- 第15回 補足とまとめ

ただし、学生諸君の関心やテキストなどの要因に従って、計画の調整・変更は柔軟に行なう。

5. 評価の方法・基準

報告と討論（80％）・レポート（20％）で評価する。
60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

本講義では、参加者が問題関心をもって積極的に学ぶことが特に重要である。具体的には、資料の丁寧な読みとよく準備された明晰な発表、論理的で知的に生産的な討論——独断や印象批評の応酬ではなく——を活発に行なうことなどが、求められる。元来、政治学は広範囲の知識と関心が必要であり、参加者には生き生きした現代的で知的な関心と着実な学力（知識、読解・思考、表現等）の両方が期待される。ただし、学力が初めは不足していても落胆する必要はない。その未熟さを補う旺盛な学習意欲をもって参加してもらいたい。具体的には、歴史、思想、社会等々の基本的な知識、日本語能力などを復習（自ら補習）することが必要である。プリントを含むテキストを講義の前に読み、討論に備えてくべきことは、いうまでもない。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

事前に各回のテキストを熟読してわからない語句・事項を調べ、

オリジナルな意見や質問を用意し（＝予習）、授業に備えること。講義後には、講義内容に関連するテーマを自ら設定して調査・学習を交えつつ考察した小論述的なコメントを書き（＝復習を兼ねた課題）、次の講義の際に提出すること。

8. 教科書・参考書

●教科書

プリントを配布する他、相談して決定（複数）。

●参考書

講義の中で適宜紹介する。

9. オフィスアワー

月曜日12時－13時30分。質問などは講義中・講義の前後、オフィスアワーの他に、次の電子メールでも受け付ける。

email: honda@dhs.kyutech.ac.jp

教育システム論 Educational Systems Theory

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）
 学年：2・3・4年次
 学期：後期 単位区分：選択 単位数：2単位
 担当教員名 東野 充成

1. 概要

●授業の目的

教育システムは、それ自体で自律したシステムを形成する一方、他の社会システムと密接不可分な関係を持ち、社会変動や社会的再生産に与している。本講義では、教育システムと司法システムとの接点に発生する諸種の問題を取り上げ、教育と法律とのかわりについて検証する。

●授業の位置付け

毎回テーマを決め、受講者のプレゼンテーションをもとに進める。プレゼンテーション後は、全員で討議する。

テーマは、教育や子どもに関する法律問題、生命倫理、社会政策・刑事政策などの中から班ごとに決定する。また、初回授業時に役割分担を決定し、講義期間中に3回模擬法廷を開催する。

2. キーワード

日本国憲法 教育基本法 教育権 社会政策 刑事政策 生命倫理

3. 到達目標

- ①教育と法律のかかわりについて理解を深める。
- ②調査能力・プレゼンテーションの技術を身につける。
- ③討論の技術を身につける。

4. 授業計画

授業は講義・演習形式で行う。配布資料、視聴覚教材を適宜使用する。1回程度、与えられたテーマに関してプレゼンテーションを求め、全員でその内容について討議する。

講義期間中に3回模擬法廷を開催する。

- 1回 オリエンテーション
- 2回 プレゼンテーション①
- 3回 プレゼンテーション②
- 4回 プレゼンテーション③
- 5回 模擬法廷①
- 6回 プレゼンテーション④
- 7回 プレゼンテーション⑤
- 8回 プレゼンテーション⑥
- 9回 模擬法廷②
- 10回 プレゼンテーション⑦
- 11回 プレゼンテーション⑧
- 12回 プレゼンテーション⑨
- 13回 模擬法廷③
- 14回 まとめ
- 15回 試験
- 16回 総括

5. 評価の方法・基準

プレゼンテーション 40%
 模擬法廷 40%
 討論での貢献度 20%
 プレゼンテーション内容、発言内容、レポートの評価に当たっては、論理的に論が展開されているかを重視する。

6. 履修上の注意事項

- ・授業の中で指示する参考文献、記事、判例等を授業時間外に読んでおくこと。
- ・その他、少年事件や教育問題に関する最新の動向に注意すること。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

- ①模擬法廷で実施する判例に関しては、全員必ず一読すること。
- ②開講期間中は、教育に関する最新の動向を摂取するため、新聞等に必ず目を通すこと。

8. 教科書・参考書

- 教科書 特に指定しない。
- 参考文献 授業の中で適宜指定する。

9. オフィスアワー

研究室扉の掲示を参照のこと。なお、授業に関する質問等は、下記のメールアドレスで随時受け付ける。

higashi@dhs.kyutech.ac.jp

サステナビリティ論 Introduction to Sustainability

対象学科（コース）：全学科
 学年：2・3年次 学期：前期 単位区分：選択 単位数：1単位
 担当教員名 大田 真彦

1. 概要

授業の背景

1980年代後半以降、サステナビリティおよび持続可能な開発の概念が国際的に提唱されている。持続可能な開発とは、一般的に、将来世代がそのニーズを充足する能力を損なうことなく、現在世代のニーズを充足する開発と定義され、世代間の公平性が強調される。20世紀を通して拡大してきた経済社会活動のあり方では、上記の定義を満たすことは困難であると見られており、環境問題への対応などに関し、グローバルからローカルレベルで様々な試行錯誤が行われている。

授業の目的

持続可能な開発に係る背景、考え方、および現在の取組みについて理解し、サステナビリティに基づいた社会のあり方について考える。

授業の位置づけ

グローバル時代の教養として、持続可能な開発に係る基礎知識を身につける。本授業の内容は、持続可能な開発のための教育(ESD)の一環とも位置づけられ、持続可能な社会づくりの担い手の育成にも貢献することが期待される。

2. キーワード

持続可能な開発、地球環境問題、気候変動、自然環境・生物多様性、政府政策、企業、地域コミュニティ、ライフスタイル

3. 到達目標

- ・サステナビリティに係る基礎知識を身につけ、持続可能な世界へ向けたグローバルな動向を理解できるようになる。
- ・日本の持続可能な社会づくりに関する現状、取組みの特性や意義を、国際社会との関係性の中で理解できるようになる。

4. 授業計画

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 20世紀の経済社会発展と公害問題
- 第3回 「持続可能な開発」の提唱からリオ会議へ
- 第4回 地球環境問題と国際的枠組み
- 第5回 気候変動1ー京都メカニズムとポスト京都
- 第6回 気候変動2ー低炭素社会に向けた取組み
- 第7回 気候変動3ー気候変動への適応策
- 第8回 自然環境・生物多様性1ー概念と取組み
- 第9回 自然環境・生物多様性2ー熱帯林の消失と保全策
- 第10回 自然環境・生物多様性3ー日本の農山村・里山の変化
- 第11回 政府政策とサステナビリティ
- 第12回 企業とサステナビリティ
- 第13回 地域コミュニティとサステナビリティ
- 第14回 ライフスタイルとサステナビリティ
- 第15回 まとめ

5. 評価の方法・基準

中間レポート 50%、期末レポート 50%で評価する。
 60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

普段から新聞等に目を通し、関連するトピックに関する問題意識を育てておく。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

キーワードに基づき授業の予習を行う。

8. 教科書・参考書

●教科書

特に指定しない。

●参考文献

佐藤真久、阿部治編著『ESD入門：持続可能な開発のための教育』（2012）筑波書房 371.5/S-3

トレイシー・ストレンジ、アン・ベイリー著；OECD編；濱田久美子訳『よくわかる持続可能な開発』（2011）明石書店 ISBN: 9784750334844

9. オフィスアワー

若松キャンパス（1030号室）

授業に関する質問等は、下記のメールアドレスで随時受け付ける。

ota@ltc.kyutech.ac.jp

選択日本事情A Elective Japanese Culture and Society A

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2・3・4年次

学期：前期 単位区分：選択 単位数：2単位

担当教員名 アブドゥハン 恭子

1. 概要

●授業の目的

留学生と共に日本の社会や文化等に関する知見を広め、考えを深める。留学生の出身国の事情も知り、異なる文化を理解する視点を養う。異なる背景を持つ人と意見を出し合って協働するための行動力を身につける。

2. キーワード

「日本社会」、「文化」、「討論」、「異文化理解」

3. 到達目標

- ①相手の理解を確かめながら話す。
- ②背景の異なる相手に積極的に自己開示する力を持つ。
- ③異なる文化、社会について理解する視点を持つ。
- ④日本の社会や文化について考えを深める。
- ⑤グループで協働して調査、発表する姿勢を獲得する。

4. 授業計画

学生自身が興味のある話題を取り上げ、皆で討議する問題を提起する。討議のための資料を作成し、皆に討議資料を説明する。グループで意見を出し合い、発表する。自分の意見をまとめ、振り返る。

- | | |
|---------|-----------|
| 第1回 | アイスブレイキング |
| 第2～4回 | 文化と生活 |
| 第5～7回 | 教育と社会 |
| 第8～9回 | 大学生活 |
| 第10～11回 | 社会の課題 |
| 第12～14回 | 日本社会再考 |
| 第15回 | 試験 |

5. 評価の方法・基準

発題と資料作成（20%）、毎回のノート（30%）、試験（20%）、討論への参加度（30%）で評価する。

6. 履修上の注意事項

グループ学習形式で行う。積極的に自己を振り返り、意見を出すこと、他人の考えを深く知る姿勢を持つこと。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

テーマについて事前の課題を考えて授業に臨む。

8. 教科書・参考書

●教科書 特に指定しない

9. オフィスアワー

月曜日3限

選択日本事情B Elective Japanese Culture and Society B

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2・3・4年次

学期：後期 単位区分：選択 単位数：2単位

担当教員名 アブドゥハン 恭子

1. 概要

●授業の目的

留学生と共に日本の社会や文化、歴史等に関する知見を広め、考えを深める。留学生の出身国の事情も知り、日本について様々な視野から考察する。

●授業の位置付け

日本社会に対する自分の知識を確認し、異文化について知って、視野を広げる。自国の事情を客観的に説明し、異文化を理解して自らの考えを深める異文化コミュニケーション能力を養う。

2. キーワード

「日本社会」、「文化」、「討論」、「異文化理解」

3. 到達目標

- ①日本社会や文化について外国人にも分かるように説明する。
- ②討議に積極的に参加して考えを深める。
- ③異なる文化、社会について理解する。
- ④日本の文化、社会について各国との比較を交えて、まとまりのある文章を書く。

4. 授業計画

- | | |
|---------|------------------|
| 第1回 | アイスブレイキング：国のイメージ |
| 第2～3回 | 生活 |
| 第4～5回 | 少子高齢社会 |
| 第6～7回 | 教育 |
| 第8～9回 | 企業と労働 |
| 第10～11回 | 科学技術と人間 |
| 第12～13回 | 自然と人間 |
| 第14回 | アジアの未来 |
| 第15回 | まとめ |

5. 評価の方法・基準

レポート（60%）及び毎回提出のノート・授業への参加度（40%）で評価する。

6. 履修上の注意事項

グループ学習形式で行う。前の週に配布する資料をよく読んで授業に臨むこと。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

前の週に配布する資料をよく読んで授業に臨むこと。

8. 教科書・参考書

●教科書 特に指定しない

●参考書

- 1) 留学生のための時代を読み解く上級日本語 第2版（スリーエーネットワーク）810.7/M-41/2

9. オフィスアワー

月曜日3限

英語科目についての概要

総合英語について（必修科目：1、2 年次）

1. 目的および目標

1、2 年次の必修科目である英語は、高校までに習得した英語の能力を、全ての技能について高め、国際的な視野を持つ教養豊かな社会人としてふさわしいコミュニケーション能力を身に付けることを目的とする。

英語 A I/A II（1 年次）では、口と耳によるコミュニケーション能力の涵養に加え、英作文とプレゼンテーション技能の訓練も行なう。きめ細かな対応が必要となるため、少人数クラス編成を行っている。英語 A では、CEFR A2 のレベルを目標としている。

英語 B I/B II（1 年次）は、英語 A I/A II と補完的に機能する科目で、読解力を中心に 4 技能を訓練する。読解力については、CEFR B2 を参照した読解レベル（「自分の専門分野の技術的な議論も含めて、抽象的かつ具体的な話題の複雑なテキストの主要な内容を理解できる。」）を目標としている。

英語 C I/C II（2 年次）は、英語 A I/A II や B I/B II における学習内容を深め、応用力を高めることを目標としている。また、動機付けを高める要素としてテーマ選択制（「異文化理解」、「時事問題」、「実践英語」の三つ）としている。英語を「使用」する意識を高める科目である。

英語 D I/D II（2 年次）は、ドイツ語Ⅲ/Ⅳ、中国語Ⅲ/Ⅳ、フランス語Ⅲ/Ⅳ、韓国語Ⅲ/Ⅳを合わせた選択科目群から選択する科目で、総合英語 A I/A II、B I/B II、C I/C II の学習内容を補完する。世界の諸問題を題材に批判的思考力を身につけるとともに、自分の意見を発信できる英語運用能力を涵養する。なお、1 年次に本学で一斉受験した TOEFL ITP スコアの高い学生に対し、アドバンスト・クラスを設けている。英語 D では、CEFR A2 のレベルを目標としている。

*CEFR: Common European Framework of Reference for Languages 欧州共通言語参照枠

2. 履修上の注意

- 1) 出席率が 3 分の 2 以上ないと、原則として受験資格を失う。（九州工業大学工学部学修細則 第 11 条 2）
- 2) 開講年次に全て履修することを原則とする。再履修の場合、時間割上の制限が出てくるため、科目の開講年次に単位修得することを強く勧める。なお、再履修については事前に必ず担当教員に相談すること。
- 3) 編入生の場合も、必ず担当教員に相談すること。
- 4) 必修科目、演習形式という性質上、定期試験のみでの成績評価は行わない。授業への参加態度、提出物なども評価要素となる。
- 5) TOEFL ITP（レベル 1）スコア（550 点以上）、TOEFL IBT（80 点以上）、TOEIC（865 点以上）、英検 1 級で、必修英語科目への単位振替をおこなっている。詳しくは学生便覧を参照のこと。

英語の選択科目について（選択科目：全年次）

1. 目的および目標

英語 A、B、C、D と同時進行で履修できる選択科目であり、英語に意欲的な学生に対してさらなる学習の機会を提供することを主眼としている。国際的コミュニケーション能力を高め、文化的背景についての教養を深めることを目標としている。

選択英語 I

選択英語 II

2. 履修上の注意

- 1) この科目は学期外に適宜開講されるので、掲示に従って履修すること。
- 2) 履修希望者が多い場合、人数制限を行う。
- 3) オールド・ドミニオン大学（アメリカ合衆国）夏季語学研修の単位振替は、この科目をもって行なう。

その他

大学院においても英語（ラクストン）、総合技術英語（ロング）、国際関係概論（八丁）、批判的テキスト理解 I、II（虹林）を開講している。こちらの聴講（履修は不可）を希望する学生は、担当教員に相談すること。

英語 A I English A I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：1 年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 Robert Long, Chris O'Sullivan, Mason Lampert,
Huw Tyler, James Hicks, Kevin Weir,
Michael Berg, 渡邊

1. 概要

Spoken English is becoming daily more essential for citizens of our rapidly globalizing world. The main aim is to teach students to speak and understand spoken English. Our course is also to help students with their writing and in presentations.

2. キーワード

speaking, listening, writing, reading, presenting, communication, culture

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・英語圏での必要最低限の会話能力を身につける。

4. 授業計画

1. Self-introductions.
2. Meeting new people.
3. Describing people.
4. Talking about family.
5. Talking about daily activities.
6. Frequency adverbs.
7. Talking about likes and dislikes.
8. Describing locations.
9. Giving directions.
10. Describing places.
11. Talking about past activities.
12. Talking about jobs.
13. Presenting yourself.
14. Review
15. Review

5. 評価の方法・基準

Attendance at a minimum of 2/3 of classes, classwork, homework and an examination at the end of each semester.

6. 履修上の注意事項

Make sure you get this credit in the first year, as you will be very busy later with your engineering major. Watch videos and listen to English CDs in the library.

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

Check for any downloadable homework from the Sogo Eigo A site that your teacher might have given you. Read ahead in the next chapter of your text to familiarize yourself with the tasks and to know how to best respond to them in English.

8. 教科書・参考書

Instructors will use approved textbooks at their discretion.

9. オフィスアワー

ロバート・ロング long@dhs.kyutech.ac.jp
(月曜日 13:00 ~ 16:00 火曜日 10:00 ~ 14:00)
(General Education Building)
<https://sites.google.com/site/kitenglisha/>

英語 A II English A II

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：1 年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 Robert Long, Chris O'Sullivan, Mason Lampert,
Huw Tyler, James Hicks, Kevin Weir,
Michael Berg, 渡邊

1. 概要

Spoken English is becoming daily more essential for citizens of our rapidly globalizing world. The main aim is to teach students to speak and understand spoken English. Our course is also to help students with their writing and in presentations.

2. キーワード

speaking, listening, writing, reading, presenting, communication, culture

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・英語圏での必要最低限の会話能力を身につける。

4. 授業計画

1. Getting information.
2. Making an invitation.
3. Talking about plans.
4. Making announcements.
5. Making predictions.
6. Asking about prices.
7. Shopping.
8. Talking about emotions.
9. Expressing opinions.
10. Following instructions.
11. Giving instructions.
12. Listening strategies.
13. Communication strategies.
14. Review
15. Review

5. 評価の方法・基準

Attendance at a minimum of 2/3 of classes, classwork, homework and an examination at the end of each semester.

6. 履修上の注意事項

Make sure you get this credit in the first year, as you will be very busy later with your engineering major. Watch videos and listen to English CDs in the library.

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

Check for any downloadable homework from the Sogo Eigo A site that your teacher might have given you. Read ahead in the next chapter of your text to familiarize yourself with the tasks and to know how to best respond to them in English.

8. 教科書・参考書

Instructors will use approved textbooks at their discretion.

9. オフィスアワー

ロバート・ロング long@dhs.kyutech.ac.jp
(月曜日 13:00 ~ 16:00 火曜日 10:00 ~ 14:00)
(General Education Building)
<https://sites.google.com/site/kitenglisha/>

英語 B I English B I

対象学科（コース）：機械知能工学科・電気電子工学科・
建設社会工学科

学年：1 年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 八丁 由比

1. 概要

一口に英語と言っても、読む、聞く、話すなどの技法の違いに加え、分野や情報媒体によっても英語の特徴が異なる。自分にとって最も必要な技法、あるいは最も親しみを感ずるジャンルを見つけ、そこから取り組むことも1つの上達方法であると考え。本授業では、様々な種類の英語に触れ、その中から必要な情報を獲得・利用できるようになることを目指す。「精読」よりも「多読」を重視。

2. キーワード

多種英語 異文化 時事問題

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・英語圏での必要最低限の情報収集に必要な読解を身につける。

4. 授業計画

1. デモンストレーション、サンプル・リーディング
2. 歌詞・ラジオ・スピーチの英語 I
3. 歌詞・ラジオ・スピーチの英語 II
4. 歌詞・ラジオ・スピーチの英語 III
5. 新聞・雑誌の英語 I
6. 新聞・雑誌の英語 II
7. 新聞・雑誌の英語 III
8. 新聞・雑誌の英語 IV
9. エッセイの英語 I
10. エッセイの英語 II
11. エッセイの英語 III
12. エッセイの英語 IV
13. プレゼンテーション I
14. プレゼンテーション II
15. 総評

5. 評価の方法・基準

平常点、小レポート、期末レポートを総合的に判断して評価する。
60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- ・辞書を持参すること。
- ・自己学習の際には、図書館 1 階の CD、DVD や英字新聞等を利用すると良い。
- ・3 分の 2 以上の出席が無い場合は、履修資格を失うので注意。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

- ・各ジャンルの最終回には小レポートを課し、理解度の確認を行うので必ず提出すること。
- ・授業の内容は連続しているので、欠席した場合は必ず前回授業について確認し、必要に応じてメイクアップしておくこと。

8. 教科書・参考書

- ・プリントを配布する。
- ・辞書

9. オフィスアワー

- ・オフィスアワー：研究室前の掲示を参照
- ・研究室：総合教育棟 410
- ・連絡先：hatcho@dhs.kyutech.ac.jp

英語 B I English B I

対象学科（コース）：機械知能・電気電子・
応用化学（人間科学科目）

学年：1 年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 大野 瀬津子

1. 概要

英語力の向上には、与えられた課題を受動的にこなすだけでなく、自ら問題意識をもって取り組む能動的な学習が不可欠である。この授業では、パラグラフ・リーディング、リスニング等の実践を通じ英語力の向上を図るとともに、自主的な取り組みを喚起することで、主体的学習態度を育成したい。

2. キーワード

パラグラフ・リーディング、リスニング、音読、主体的学習

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・英語圏での必要最低限の情報収集に必要な読解力を身につける。

4. 授業計画

1. Introduction
2. Topic 1. Japanese Hit Cartoon Gets US Release
3. "
4. 発表
5. Topic 4.5. A Day's Wait
6. "
7. "
8. 発表
9. Topic 7. Islands of Genius
10. "
11. 発表
12. Topic 17 The Cuddliest Hero in Asia
13. "
14. 発表
15. まとめ

5. 評価の方法・基準

原則として、活動参加 40%、発表 10%、期末試験 50%で評価する。総合評価で 60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- ・3 分の 2 以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- ・成績評価のフィードバックについて、個別に対応が必要な場合はオフィスアワーを当てる。
- ・私語、内職、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。学生主体の授業なので、毎回、十分な予習と復習、授業への積極的な参加を求める。
- ・毎回辞書を持参すること。
- ・英英辞典、インターネット、英字新聞等を活用し、授業で取り上げた話題について積極的に調べて欲しい。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

- ・毎回授業で指示された教科書の該当箇所を事前に読み、指示されたやり方でレポートにまとめておくこと。
- ・加えて、レポート提出日には、教科書に関連する英語の記事を調査し、指示されたやり方でまとめておくこと。
- ・発表日には、事前に発表の予行演習をしておくこと。

8. 教科書・参考書

教科書：

1. Multiple Voices from around the World(朝日出版社)830.7/K-116
2. Humorous Homestay Stories(南雲堂)ISBN: 9784523175544

9. オフィスアワー

研究室前に掲示。(研究室：総合教育棟 S408)

英語 B I English B I

対象学科（コース）：電気電子・マテリアル（人間科学科目）
 学年：1 年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1 単位
 担当教員名 田吹 昌俊

1. 概要

本講義では、英語の多角的運用能力を高める目的で読み、聞き、話すという観点から英語を扱う。特に英文の速読、即解ができる能力の養成を目指す。また、ヒアリング、ディクテーションも併せて行う。題材としては現代社会に生きる我々にとって最も意識しなければならない科学問題と社会問題に焦点を当てる。

2. キーワード

科学技術、社会問題、環境問題

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- 多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. Introduction
2. Crops for Food or Fuel?
3. Oceans Awash in Toxic Plastic
4. Global-warming Super Typhoons
5. Slingshot: Water Purification Innovation
6. Engineering Earth is Possible
7. Engineering Earth is Possible
8. Review
9. Making Stem Cell Therapy into Reality
10. Learning from the 2011 Tohoku Tsunami
11. Gigantic Oil Spills and Clean-ups
12. Public Construction Projects Under Review
13. Grand Unified Theory of Artificial Intelligence
14. Grand Unified Theory of Artificial Intelligence
15. Review

5. 評価の方法・基準

学期試験、授業での小テスト、発表、レポートを総合的に判断して評価する。総合評価で 60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- (1) 授業への十分な準備と積極的な参加を前提とする。準備不足のため質問に答えられない場合は減点対象となる。私語、内職、携帯電話等は厳禁。
- (2) 英英辞書か英和辞書を携帯すること。
- (3) 3 分の 2 以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

授業範囲の予習として、不明な専門用語の意味を調べておくこと。

8. 教科書・参考書

教科書：Science Avenue (Seibido) ISBN: 9784791912834

9. オフィスアワー

木曜日 4 時限目（総合教育棟 4 階 414）

英語 B I English B I

対象学科（コース）：機械知能工学科・電気電子工学科・
 総合システム工学科・マテリアル工学科
 学年：1 年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1 単位
 担当教員名 虹林 慶

1. 概要

大学生として備えておくべきリーディングの力をテキスト読解の形で示したものが本授業である。高いレベルの英文が読めるようになるためのスキルの獲得を目指し、その習得を様々な場面で必要な読解力の基準としている。リスニングについても同様の基準で練習を行い、情報収集としてだけでなく、コミュニケーションに直結するものを扱う。

2. キーワード

異文化理解、カルチュラル・リテラシー

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- 英語圏での必要最低限の情報収集に必要な読解を身につける。

4. 授業計画

1. Introduction / What a Paining Can Tell Us
2. Split-Brain Research (1)
3. Split-Brain Research (2)
4. The Process of Image Formation (1)
5. The Process of Image Formation (2)
6. The Nightly Battle: Bacteria vs. Egg
7. The Eiffel Tower (1)
8. The Eiffel Tower (2)
9. Review Test
10. The Expanding Universe (1)
11. The Expanding Universe (2)
12. The Blind Watchmaker (1)
13. The Blind Watchmaker (2)
14. The Rise of the Labor Market
15. Review Test 2
16. まとめ

5. 評価の方法・基準

定期試験と授業参加点を総合的に評価し、60 点以上を合格とする。成績評価のうち、TOEFL テストに関連した内容を 10 パーセント以上含める。

6. 履修上の注意事項

- 3 分の 2 以上の出席を履修の原則とする。（履修細則第 11 条 2）
- 試験の結果のフィードバックは個別に行う。
- 予習、復習を前提とした授業である。
- 授業態度が悪い場合（私語、内職、携帯の使用など）は減点や除名の対象となることがある。
- 教科書に取り上げられたテーマに関連したビデオ教材（附属図書館蔵）を授業時間外にみることは有益である。（詳細は授業中に説明する。）

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

事前に指定された箇所について、課題を期日までに提出すること。指定については授業進行に合わせて行う。

8. 教科書・参考書

教科書：The Universe of English（東京大学出版会）837.7/T-1

参考書：新版研究社英和中辞典（辞書を持たない人に）833/K-31/7（第 7 版）

Oxford Advanced Learner's Dictionary 833/H-6（英英辞書に関心がある人に）

9. オフィスアワー

水曜日（17：00～18：00）（総合教育棟 3 階：S313）

英語 B I English B I

対象学科（コース）：機械知能・建設社会

学年：1 年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 高田 とも子

1. 概要

国際社会を生きる上で、「日本人とは何か」という疑問は熟考するに値すると同時に、避けて通ることのできない論点でもある。本講義では、アメリカの経済紙『ウォール・ストリート・ジャーナル』東京支局の記者が発信したブログサイトで連載された記事を扱うことで、英文読解能力を向上させると同時に、海外の視点から見た日本文化を捉えることを目的とする。「カワイイ」「半沢直樹」といった身近なトピックを通し、受講者には日本とは何か、という根本的な問いを追究してもらいたい。尚、毎回の授業では、語彙力強化の為、単語テストを実施する為、受講生は事前準備をすること。さらに、受講生には、毎回担当を決め、海外のメディアが日本文化をどのように報じているか、という点にフォーカスしたプレゼンテーションを行ってもらおう。

2. キーワード

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. Introduction
2. 5 Things You Didn't Know About Kawaii
—Kawaii の美学—
3. Uniqlo Finds Wealth of Data in Banglades Not-For-Profit Venture —ユニクロが蓄積したお宝データ—
4. When the B List Is Best —味が勝負の B 級グルメ—
5. Harvard Degree: The Political Economy of Kumamon
—くまモンの政治経済学—
6. Saving Fukuoka's Street Food —福岡の屋台文化の歴史—
7. A Japanese Artist Finds New Life A Year After the Quake —ある芸術家の再生と「成長」—
8. Fictional Japanese TV Banker Takes Double the Payback
—ドラマ『半沢直樹』ヒットの要因—
9. As Sentiment Improves, Red Lipstick Back in Vogue
—赤い口紅と景気の関係—
10. Japan's Aging, Female Criminals?
—女性受刑者の倍増と犯罪のグローバル化—
11. Cult TV Travelogue Lets You Share Wednesday's Ride
—『水曜どうでしょう』ロングヒットの秘密—
12. Want to Cosplay? Then Lose That Swaord
—コスプレを安全に楽しむ方法—
13. Fukushima Watch: Who Wrote the New Anti-Nuke Novel? —反原発の新刊本を書いたのは誰?—
14. For Some, Scented Fabric Softeners No Laughing Matter —柔軟剤の流行と弊害—
15. The 1964 Tokyo Olympics: A Turning Point for Japan
—オリンピックに見る日本のターニングポイント—（予定）

5. 評価の方法・基準

授業への積極的参加態度 30%、プレゼンテーション 20%、小テスト 10%、期末テスト 40% で評価する。総合評価で 60% 以上を合格とする

6. 履修上の注意事項

- ・3 分の 2 以上の出席を履修の原則とする。
- ・十分な予習をすること。
- ・積極的な授業への参加を求める。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

受講者は全員、各回ごとに指示のある教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。尚、プレゼンテーション担当者はパワーポイント、あるいはレジュメ等の資料を作成すること。

8. 教科書・参考書

教科書：15 Things Happening in Japan From <A Hit Drama "Hanzawa Naoki"> to <Yoshimoto Nara's New Life> (松柏社) ISBN: 9784881987070

9. オフィスアワー

質問や連絡事項がある場合には、メールにて対応する。

tmknagakawa@yahoo.co.jp

英語 B I English B I

対象学科（コース）：総合システム工学科

学年：1 年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 林 恵子

1. 概要

英語を学ぶ上で、語彙、文法、リスニング力を培うことは大切な要素ですが、また同時に、英語で自己表現ができるようになることも重要なことです。そのためには、文化的、社会的、感情的に、学習者の教養を高めることも大切です。本授業では、国際的な雑誌 Newsweek やイギリスの新聞 The Guardian などから厳選された記事を読むことで、あらゆる視点から物事を見て、その背景にある事実を理解し、日本と世界に対して、確固たる視点や考え方を身に付けます。また、プレゼンテーションをする機会を設けることで、主体的な授業への参加、並びに、分かり易いハンドアウトの作り方や発表の仕方を学びます。

2. キーワード

時事問題、異文化理解、主体的学習

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につけます。
- ・多種多様な英語に慣れます。

4. 授業計画

1. Introduction
2. On Language: Does language "difficulty" speak of a sense beyond mere words? (前半部)
3. On Language: Does language "difficulty" speak of a sense beyond mere words? (後半部)
4. America and the World: Thirty years on, have no lessons been learned from Vietnam? (前半部)
5. America and the World: Thirty years on, have no lessons been learned from Vietnam? (後半部)
6. The World Today: A new kind of challenge. (前半部)
7. The World Today: A new kind of challenge. (後半部)
8. Japan: Where do the Japanese stand today? (前半部)
9. Japan: Where do the Japanese stand today? (後半部)
10. Japan: The stage is set for genuine change. (前半部)
11. Japan: The stage is set for genuine change. (後半部)
12. 英文学訪問：シェイクスピア『ハムレット』一名場面より
13. 『ハムレット』の DVD 鑑賞
14. プレゼンテーション①
15. 定期試験
16. プレゼンテーション②

5. 評価の方法・基準

予習及び授業への積極的参加態度 20%、小テスト 10%、プレゼンテーション及び課題 20%、期末テスト 50% で評価します。総合評価で 60% 以上を合格とします。

6. 履修上の注意事項

- ・全授業の 3 分の 2 以上の出席数がないと、履修資格を失います。
- ・授業中の私語、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁です。
- ・毎回、辞書を持参してください。
- ・毎回、十分な予習、授業への積極的な参加を求めます。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

2 回目から 11 回目までは、各回に該当する箇所を予習しておいてください。また、3 回目から 11 回目までは各テーマに対する自分の考えをレポートにしておいてください。毎回実施される復習を兼ねた小テストの勉強をしておいてください。12 回目は『ハムレット』の予習をしておいてください。14 回目、及び、16 回目はプレゼンテーションのためのハンドアウトを作成しておいてください。

8. 教科書・参考書

教科書：Setting the Stage (研究社) ISBN: 978-4-327-42167-0

9. オフィスアワー

質問や相談は授業終了後をお願いします。

メールアドレス：scotty@jeans.ocn.ne.jp

英語 B II English B II

対象学科（コース）：機械知能工学科・建設社会工学科・
電気電子工学科

学年：1 年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1 単位
担当教員名 八丁 由比

1. 概要

英文理解、文献調査、発表の仕方、発表の聞き方、質問の仕方等を学ぶ。ニュース英語の概要を理解する。

2. キーワード

多種英語 情報発信 運用能力

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- 英語圏での必要最低限の情報収集に必要な読解を身につける。

4. 授業計画

1. デモンストレーション
2. 発表と評価
3. 発表と評価
4. 発表と評価
5. 発表と評価
6. 発表と評価
7. 発表と評価
8. 中間テスト
9. 発表と評価
10. 発表と評価
11. 発表と評価
12. 発表と評価
13. 発表と評価
14. 発表と評価
15. 総評

5. 評価の方法・基準

平常点、発表、期末試験を総合的に評価する。TOEFL テストに関連した内容を 10 パーセント以上含める。
60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- 3 分の 2 以上の出席が無い場合は、履修資格を失うので注意する。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

- 各自オピニオンシートを作成したうえで出席すること。
- 発表に際しては十分な準備が必要である。時間配分について計画を立て、予行演習を行う。
- 発表担当箇所に関する疑問は、オフィスアワーなどを利用して事前に解決しておく。

8. 教科書・参考書

- 辞書
- TOEFL® テスト ITP リーディング完全攻略（アルク）ISBN: 978-4-7574-1021-3

9. オフィスアワー

- オフィスアワー：研究室前の掲示を参照
- 研究室：総合教育棟 410
- 連絡先：hatcho@dhs.kyutech.ac.jp

英語 B II English B II

対象学科（コース）：機械知能・電気電子・
応用化学（人間科学科目）

学年：1 年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1 単位
担当教員名 大野 瀬津子

1. 概要

英語力の向上には、与えられた課題を受動的にこなすだけでなく、自ら問題意識をもって取り組む能動的な学習が不可欠である。前期に続き、この授業では、パラグラフ・リーディング、リスニング等の実践を通じ英語力の向上を図るとともに、自主的な取り組みを喚起することで、主体的学習態度を育成したい。TOEFL テストについても学習を行う。

2. キーワード

パラグラフ・リーディング、リスニング、音読、主体的学習

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- 英語圏での必要最低限の情報収集に必要な読解を身につける。

4. 授業計画

1. Introduction
2. Topic 1 The Slippery Case of the Missing Butter
3. "
4. 発表
5. Topic 2 By Bike round Australia (I)
6. Topic 2 By Bike round Australia (II)
7. Topic 2 まとめ
8. 発表
9. Topic 4 From Why Write?
10. "
11. 発表
12. Topic 8 Change of Heart (I)
13. "
14. 発表
15. まとめ

5. 評価の方法・基準

原則として、活動参加 40%、発表 10%、期末試験 50% で評価する。総合評価で 60% 以上を合格とする。成績評価のうち、TOEFL テストに関連した内容を 10 パーセント以上含める。

6. 履修上の注意事項

- 3 分の 2 以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- 成績評価のフィードバックについて、個別に対応が必要な場合はオフィスアワーを当てる。
- 私語、内職、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。学生主体の授業なので、毎回、十分な予習と復習、授業への積極的参加を求める。
- 毎回辞書を持参すること。
- 図書館の英字新聞やインターネット等を活用し、授業で取り上げた話題について積極的に調べる。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

毎回授業で指示された教科書の該当箇所を事前に読み、指示されたやり方でレポートにまとめておくこと。加えて、レポート提出日には、与えられたテーマについて、自分の意見を英語にまとめておくこと。発表日には、事前に発表の予行演習をしておくこと。

8. 教科書・参考書

教科書：

1. Multiple Voices from around the World(朝日出版社)830.7/K-116
2. Topics and Tactics for the Toefl Test (南雲堂) ISBN: 9784523175865

9. オフィスアワー

研究室前に掲示。(研究室：総合教育棟 S408)

英語 B II English B II

対象学科（コース）：電気電子・マテリアル（人間科学科目）
 学年：1 年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1 単位
 担当教員名 田吹 昌俊

1. 概要

本講義では、英語の多角的運用能力を高める目的で読み、聞き、話すという観点から英語を扱う。特に英文の速読、即解ができる能力の養成を目指す。また、ヒアリング、ディクテーションも併せて行う。題材としては現代社会に生きる我々にとって最も意識しなければならない科学問題と社会問題に焦点を当てる。また TOEFL テストについても学習を行う。

2. キーワード

科学技術、社会問題、環境問題

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・英語圏での必要最低限の情報収集に必要な読解を身につける。

4. 授業計画

1. Introduction
2. A Bright Future for LED Lights
3. Kindles and iPads: Reshaping Japanese Publishing
4. Civil Engineers Test New Concrete
5. Solar-powered Planes and Yachts
6. A Sonic Refrigerator: Cooling with Sound Waves
7. A Sonic Refrigerator: Cooling with Sound Wave
8. Review
9. Electric Cars
10. Preparing for the Trip to Mars
11. 3D TV Gadget
12. Controlling Gadget with Your Own Thoughts
13. Gesture-based Computing
14. Gesture-based Computing
15. Review

5. 評価の方法・基準

学期試験、授業での小テスト、発表、レポートを総合的に判断して評価する。総合評価で 60 点以上を合格とする。なお評価に TOEFL に関連した内容を 10%以上含める。

6. 履修上の注意事項

- (1) 授業への十分な準備と積極的な参加を前提とする。準備不足のため質問に答えられない場合は減点対象となる。私語、内職、携帯電話等は厳禁。
- (2) 英英辞書か英和辞書を携帯すること。
- (3) 3 分の 2 以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

授業範囲の予習として、不明な専門用語の意味を調べておくこと。

8. 教科書・参考書

教科書：1. Science Avenue (Seibido) ISBN: 9784791912834
 教科書：2. Boost Your English 2 - Practice for TOEFL UTP - (Seibido) ISBN: 9784791931255

9. オフィスアワー

木曜日 4 時限目（総合教育棟 4 階 414）

英語 B II English B II

対象学科（コース）：機械知能工学科・電気電子工学科・マテリアル工学科

学年：1 年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1 単位
 担当教員名 虹林 慶

1. 概要

大学生として備えておくべきリーディングの力をテキスト読解の形で示したものが本授業である。高いレベルの英文が読めるようになるためのスキルの獲得を目指し、その習得を様々な場面で必要な読解力の基準としている。リスニングについても同様の基準で練習を行い、情報収集としてだけでなく、コミュニケーションに直結するものを扱う。TOEFL テストについても学習を行う。

2. キーワード

異文化理解、カルチュラル・リテラシー

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・英語圏での必要最低限の情報収集に必要な読解を身につける。

4. 授業計画

1. Introduction/On Speaking of Spacing
2. How Our Ancestors Survived the Ice Age
3. Ecology (1)
4. Ecology (2)
5. Columbus: From Hero to Fall Guy (1)
6. Columbus: From Hero to Fall Guy (2)
7. The New Women of Ireland
8. Review Test
9. The Ocean System (1)
10. The Ocean System (2)
11. Australia Today (1)
12. Australia Today (2)
13. The Greenhouse Effect (1)
14. The Greenhouse Effect (2)
15. Review Test 2
16. まとめ

5. 評価の方法・基準

定期試験と授業参加点を総合的に評価し、60 点以上を合格とする。成績評価のうち、TOEFL テストに関連した内容を 10 パーセント以上含める。

6. 履修上の注意事項

- ・3 分の 2 以上の出席を履修の原則とする。（履修細則第 11 条 2）
- ・試験の結果のフィードバックは個別に行う。
- ・予習、復習を前提とした授業である。
- ・授業態度が悪い場合（私語、内職、携帯の使用など）は減点や除名の対象となることがある。
- ・教科書に取り上げられたテーマに関連したビデオ教材（附属図書館蔵）を授業時間外にみることは有益である。（詳細は授業中に説明する。）

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

事前に指定された箇所について、課題を期日までに提出すること。指定については授業進行に合わせて行う。

8. 教科書・参考書

教科書：The Universe of English（東京大学出版会）837.7/T-1 5-Minute Quizzes for TOEFL（マクミラン）ISBN: 9784895852722

参考書：新版研究社英和中辞典（辞書を持たない人に）833/K-31/7（第 7 版）

Oxford Advanced Learner's Dictionary 833/H-6（英英辞書に関心がある人に）

9. オフィスアワー

水曜日（17:00～18:00）（総合教育棟 3 階：S313）

英語 B II English B II

対象学科（コース）：機械知能・建設社会

学年：1 年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 高田 とも子

1. 概要

本講義では、前期に引き続き、現代日本文化が海外の視点で如何に表象されているかという点に焦点を当てたエッセイを読むことで、総合的な英語能力を身につけることを目的とする。「草食系男子」や「就職活動」など、現代日本社会を取り巻く身近な話題を通し、受講生には日本文化の海外受容に対する深い洞察力を養ってもらいたい。尚、本講義では、語彙力強化のための単語テストを毎回実施する。また、前期に引き続き、毎回担当を決め、各自プレゼンテーションを行ってもらい、各自十分な準備をすること。さらに、本講義では、TOEFL テストについても学習を行う。

2. キーワード

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. Introduction
2. Unit 1: Change 変革を好まぬ国民性
3. Unit 2: Shouganai 仕方がないで済ませる国民
4. Unit 3: Tatemaie and Honne 本音と建前を使い分ける
5. Unit 4: Following the Crowd 大勢に従う習性
6. Unit 5: Vehicle Inspections 高すぎる車検制度
7. Unit 6: Overkill 何でもやりすぎる習性
8. Unit 7: Sports Day 疲れる運動会
9. Unit 8: Striving to be Average 平均が一番
10. Unit 9: Pride in One's School 母校愛
11. Unit 10: Monster Fruit お化けフルーツ
12. Unit 11: It's to Die For! 死んでも食べたい好物
13. Unit 12: No more Plastic Bags ビニール袋の有料化
14. Unit 13: Girlie Men 男らしくない男子
15. Unit 14 制服が好きな国民（予定）

5. 評価の方法・基準

授業への積極的参加態度 20%、プレゼンテーション 20%、小テスト 10%、期末テスト 40%、また TOEFL テストに関連した内容 10%で評価する。総合評価で 60%以上を合格とする

6. 履修上の注意事項

- ・3 分の 2 以上の出席を履修の原則とする。
- ・十分な予習をすること。
- ・積極的な授業への参加を求める。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

受講者は全員、各回ごとに指示のある教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。尚、プレゼンテーション担当者はパワーポイント、あるいはレジュメ等の資料を作成すること。

8. 教科書・参考書

教科書：Eye on Japan American and Japanese Views of Japanese Culture（三修社）830/C-7

Topics and Tactics for the TOEFL Test（南雲堂）ISBN: 9784523175865

9. オフィスアワー

質問や連絡事項がある場合には、メールにて対応する。

tmknagakawa@yahoo.co.jp

英語 B II English B II

対象学科（コース）：総合システム工学科

学年：1 年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 林 恵子

1. 概要

本授業では多読・速度が求められる英文理解に不可欠な要素である「英文を正確に読む」ことを目指します。この 100 年位の間に書かれた古典的な小説、エッセイ、論文を精読するとともに、論理的思考を培い、正確な英文読解力を身に付けます。また、プレゼンテーションをする機会を設けることで、主体的な授業への参加、並びに、分かり易いハンドアウトの作り方や発表の仕方を学びます。また、TOEFL のテキストからは読解・リスニング力等の向上を目指します。

2. キーワード

異文化理解、正確な読み、論理的思考力

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につけます。
- ・多種多様な英語に慣れます。

4. 授業計画

1. Introduction
2. Lesson 1: George Orwell, Animal Farm
3. Lesson 2: Elisabeth Kübler-Ross, On Death and Dying
4. Lesson 3: O. Henry, A Retrieved Reformation
5. Lesson 4: George Gissing, The Private Papers of Henry Ryecroft
6. Lesson 5: Earnest Hemingway, The Old Man and The Sea
7. Lesson 6: Rachel Carson: Silent Spring
8. Lesson 7: William Wilkie Collins, The Family Secret
9. Lesson 8: Henry David Thoreau, Walden
10. Lesson 9: William Somerset Maugham, The Summing Up / A Writer's Notebook
11. Lesson 10: Arthur Waley, The Tale of Genji
12. Lesson 11: William Henry Davies, The Autobiography of a Super-Tramp
13. Review
14. プレゼンテーション①
15. 学期末定期試験
16. プレゼンテーション②

5. 評価の方法・基準

予習及び授業への積極的参加態度 20%、小テスト 10%、プレゼンテーション 20%、期末テスト 50%で評価します。総合評価で 60%以上を合格とします。成績評価のうち、TOEFL テストに関連した内容を 10 パーセント以上含めます。

6. 履修上の注意事項

- ・全授業の 3 分の 2 以上の出席数がないと、履修資格を失います。
- ・授業中の私語、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁です。
- ・毎回、辞書を持参してください。
- ・毎回、十分な予習、授業への積極的な参加を求めます。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

2 回目から 12 回目までは各 Lesson の予習、並びに時代背景を調べておいてください。また、毎回小テストに備えて、前回の復習をしておいてください。14 回目と 16 回目はプレゼンテーションのためのハンドアウトを作成しておいてください。また、TOEFL のテキストに関しては、毎回授業で指示される箇所を必ずしておいてください。

8. 教科書・参考書

- ・教科書：名文で養う英語精読力（研究社）ISBN: 978-4-327-42179-3
- ・教科書：Boost Your English – Practice for TOEFL ITP – 1（SEIBIDO）ISBN: 978-4-7919-3124-8

9. オフィスアワー

質問や相談は授業終了後をお願いします。

メールアドレス：scotty@jeans.ocn.ne.jp

英語 C I English C I

対象学科（コース）：全学科

学年：2 年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 八丁 由比

1. 概要

演習型授業。最終的な目標は英語で情報発信ができるようになること。英語の文章は、日本語の文章に比べて固定的な構成パターンに沿って構成される。よって、これを理解することにより、的確に読み、理解される文章を書き、話すことができる。本授業では、英文の特徴を分析しながら英文を読み、スタイルのある文章を書く方法を学ぶ。学期の後半には、口頭発表による情報発信も行う。

2. キーワード

英文スタイル 作文

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- 多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. デモンストレーション、サンプル・リーディング
2. Report (1)
3. Report (2)
4. Report (3)
5. Essay (1)
6. Essay (2)
7. Essay (3)
8. Critiques (1)
9. Critiques (2)
10. Critiques (3)
11. Projects (1)
12. Projects (2)
13. Presentation
14. Presentation
15. Presentation

5. 評価の方法・基準

平常点、発表、小レポートを総合的に判断して評価する。
60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- 授業では個人作業だけでなく、グループの作業も行う。役割分担をしながら、班全体で協力して取り組むことを期待する。
- 3 分の 2 以上の全体出席数が無い場合は、履修資格を失うので注意。
- 自主学习として、図書館の Japan Times や、インターネットで週刊 ST、Daily Yomiuri などの英字新聞を読むことを勧める。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

- 各ジャンルの最終回には小レポートを課し、理解度の確認を行うので必ず提出すること。
- 授業の内容は連続しているので、欠席した場合は必ず前回授業について確認し、必要に応じてメイクアップしておくこと。

8. 教科書・参考書

- プリントを配布する。
- 辞書

9. オフィスアワー

- オフィスアワー：研究室前の掲示を参照
- 研究室：総合教育棟 410
- 連絡先：hatcho@dhs.kyutech.ac.jp

英語 C I English C I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 大野 瀬津子

1. 概要

総合的な英語力の向上を目指す。特に英語を「読む」と「話す」ことに力点を置く。「読む」ことに関しては、パラグラフ・リーディングを通じ、段落ごとの概要、および文章全体の論理的構成を把握する練習をする。また、「話す」ことに関しては、スピーチの機会を設けることにより、自分の意見を英語で論理的に整理し伝える練習をする。この授業を、今後の学習に役立てて欲しい。

2. キーワード

パラグラフ・リーディング、論理的思考力、スピーチ

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- 多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. イントロダクション
2. Unit 1 My Club Activities
3. Unit 2 How Committed Are You to Learning English?
4. Unit 3 What Do You Want to Do with Your Life?
5. Unit 4 My Part-time Job
6. Unit 5 How Do You Keep Fit?
7. アウトライン発表会
8. スピーチ・コンテスト予行演習
9. スピーチ・コンテスト
10. スピーチ・コンテスト
11. スピーチ・コンテスト
12. スピーチ・コンテスト
13. スピーチ・コンテスト
14. スピーチ・コンテスト
15. スピーチ・コンテスト

5. 評価の方法・基準

原則として、活動参加 50%、スピーチ 50% で評価する。総合評価で 60% 以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- 3 分の 2 以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- 成績評価のフィードバックについて、個別に対応が必要な場合はオフィスアワーを当てる。
- 私語、内職、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。学生主体の授業なので、毎回、十分な予習と復習、授業への積極的参加を求める。
- 毎回辞書を持参すること。
- インターネットや図書館の English Journal 等を利用し、ネイティブ・スピーカーのスピーチを数多く視聴することを勧めたい。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

毎回授業で指示された教科書の該当箇所を事前に読み、指示されたやり方でレポートにまとめておくこと。アウトライン発表会、スピーチ・コンテスト予行演習、スピーチの回には、事前に指示されたやり方で発表原稿を作成しておくこと。自分のスピーチ発表の前は、事前に予行演習を何回もしておくこと。

8. 教科書・参考書

教科書：Your First Speech and Presentation（南雲堂）836.7/T-1

9. オフィスアワー

研究室前に掲示。（研究室：総合教育棟 S408）

英語 C I English C I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 田吹 昌俊

1. 概要

英語の多角的運用能力を高める目的で、読み、聞き、話すという観点から英語に取り組むが、ここでは特に英文の読解の能力の養成を目指す。また、Listening Comprehension の訓練も行う。題材は科学分野の知的好奇心を刺激する読み物を扱う。

2. キーワード

科学技術、環境、自然、健康

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. オリエンテーション
2. The March of the Microbes
3. Genetic Doping
4. Ethics in Science
5. Tsunami, Hurricanes, and Global Warming
6. World Population
7. After the Peak Oil Crash
8. Starvation, Famine and Hunger
9. Nanotechnology
10. Efficient Cars
11. Cyborgs
12. Identity Theft
13. Chaos Theory
14. Comets, Meteors and Asteroids
15. Space Stations and Outer Space Exploration

5. 評価の方法・基準

学期試験、授業での小テスト、発表、レポートを総合的に判断して評価する。総合評価で 60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- (1) 授業への十分な準備と積極的な参加を前提とする。準備不足のため質問に答えられない場合は減点対象となる。（私語、内職、携帯電話等は厳禁。）
- (2) 英英辞書か英和辞書を携帯すること。
- (3) 3 分の 2 以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

授業範囲の予習として、不明な専門用語の意味を調べておくこと。

8. 教科書・参考書

教科書：Bruce Allen: Imagining Tomorrow (Seibido) 830.7/A-39/1

9. オフィスアワー

木曜日 4 時限目（総合教育棟 4 階 414）

英語 C I English C I

対象学科（コース）：全学科

学年：2 年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 虹林 慶

1. 概要

厳選されたテキストについて、読解（構造理解、語彙、文化的な背景）とディスカッションを行う。

2. キーワード

異文化理解、カルチュラル・リテラシー、リーディング・スキル

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. They Gave Her a Rise の導入
2. They Gave Her a Rise の英語表現確認および Same Time, Same Place の導入
3. Same Time, Same Place の英語表現確認
4. Mr Loveday's Little Outing の導入
5. Mr Loveday's Little Outing の英語表現確認
6. Tea の導入
7. Tea の英語表現確認
8. レビュー・テスト 1
9. The Bath の導入
10. The Bath の英語表現確認
11. A Bit of Singing and Dancing の導入
12. A Bit of Singing and Dancing の英語表現確認
13. A Bit of Singing and Dancing の英語表現確認
14. A Bit of Singing and Dancing の英語表現確認
15. レビュー・テスト 2
16. まとめ

5. 評価の方法・基準

定期試験と授業参加点を総合的に評価し、60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- ・3 分の 2 以上の出席を履修の原則とする。（履修細則第 11 条 2）
- ・試験の結果のフィードバックは個別に行う。
- ・予習、復習を前提とした授業である。
- ・授業態度が悪い場合（私語、内職、携帯の使用など）は減点や除名の対象となることがある。
- ・教科書に取り上げられたテーマに関連したビデオ教材（附属図書館蔵）を授業時間外にみることは有益である。（詳細は授業中に説明する。）

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

事前に指定された箇所について、課題を期日までに提出すること。指定については授業進行に合わせて行う。

8. 教科書・参考書

教科書：From the Cradle to the Grave (Oxford University Press) ISBN: 9780194226929

参考書：新版研究社英和中辞典（辞書を持たない人に）833/K-31/7（第 7 版）

Oxford Advanced Learner's Dictionary（英英辞書に関心がある人に）833/H-6

9. オフィスアワー

水曜日（17:00～18:00）（総合教育棟 3 階：S313）

英語 C I English C I

対象学科（コース）：全学科

学年：2 年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 吉村 理一

1. 概要

学士（大卒者）には英語運用に関わる確かな基礎力と国際的な視野に立って考える力、知識が求められる。特に工学部の学生は、将来様々な国々の人々との技術協力や事業展開に関わることが期待されているため、専門用語の習得に加え、意思疎通を図ることが出来る程度の英語運用能力は必要である。

『英語 C I』では、様々な国々で話される英語（英語を母語としない人々が話す英語）の「聴き取り」の力の向上と、その力の養成に必要な「文法」、「語彙」、そして「発音」の向上を目指す。また、自分の意見の論述や質疑応答を英語で自信を持って行えるように「発信力」の育成に重点を置く。

2. キーワード

- ・多種英語
- ・情報共有
- ・情報発信
- ・サイト・トランスレーション
- ・シャドーイング
- ・パラフレージング
- ・サマライゼーション

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

- 第1回 Course Introduction
- 第2回 Chapter 1 Australia
- 第3回 Chapter 2 Indonesia
- 第4回 Chapter 3 Singapore
- 第5回 Chapter 4 China
- 第6回 Chapter 5 Argentina
- 第7回 Chapter 6 Mexico
- 第8回 Chapter 7 Germany
- 第9回 Chapter 8 Finland
- 第10回 Chapter 9 Poland
- 第11回 Chapter 10 Spain
- 第12回 Chapter 11 Greece
- 第13回 Chapter 12 Kenya
- 第14回 Chapter 13 Morocco
- 第15回 Chapter 14 Lebanon
- 第16回 期末試験

5. 評価の方法・基準

- ・積極的な授業参加（予習・プレゼン・ディスカッション等）40%
 - ・期末試験 60%
- 総合評価 60%以上を合格とする。

（出席と授業での取り組みを単位取得の大前提とするため、積極的に取り組んでください。）

6. 履修上の注意事項

- （1）3 分の 2 以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- （2）私語、内職、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。欠席として扱い、最悪の場合、除名する。
- （3）学生主体で進めるため、毎回、十分な予習と復習、授業への積極的参加を求める。プレゼンの担当者は必ず万全の準備をして臨むこと。
- （4）毎回辞書を持参すること。（スマートフォンやタブレット等を辞書として使用することは認めない。）
- （5）自宅学習できるように DVD が付属されているため、予習と復習の際に必ず視聴して積極的に英語を耳に入れ、スクリプトをもとに音読練習することを強く勧める。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

【予習】

担当教員が指示した予習箇所は必ず授業までにやってくるようにしてください。その際、DVD を見て学習をしておいてください。予習の段階で分からない語句は調べておくようにしてください。

【復習】

授業中に出来なかったことを中心に復習し、もう一度 DVD を見てリスニングと音読の練習をしてください。

【プレゼンテーション】

必ず 1 回は英語でプレゼンをしてもらいます。自分の担当分野のことを調べ、効果的に伝えられる努力をしてきてください。

8. 教科書・参考書

教科書：

On Board for More World Adventures 続・DVD で学ぶ世界の文化と英語（金星堂）ISBN: 978-4-7647-3991-8

9. オフィスアワー

ご質問、ご相談等は授業後あるいはメールで受け付けます。

メールアドレス：r-yoshimura@kyudai.jp

英語 C I English C I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 松本 知子

1. 概要

話題性のある英字新聞に触れ、英語のリーディング能力を高めるとともに、ニュース記事について多角的に捉え、自分の意見を英語で述べる能力をつけることを目標とする。多様性、段階性のある練習問題とタスクを通じて、総合的な英語力の向上をめざす。

2. キーワード

時事英語、読解力、文法、語彙、4 技能

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- 多種多様な英語に慣れる。

3. 到達目標

1. Introduction
2. Chapter 1: Required English from third grade eyed
3. Chapter 1: Required English from third grade eyed
4. Chapter 2: Amazon plans drone delivery of packages in less than 30 minutes
5. Chapter 2: Amazon plans drone delivery of packages in less than 30 minutes
6. Chapter 3: Japanese cuisine added to UNESCO intangible heritage list
7. Chapter 3: Japanese cuisine added to UNESCO intangible heritage list
8. Chapter 4: Captain of Sunken South Korean Ferry Arrested by Police
9. Chapter 4: Captain of Sunken South Korean Ferry Arrested by Police
10. Chapter 5: Ruling LDP's debate on family expected to be rocky
11. Chapter 5: Ruling LDP's debate on family expected to be rocky
12. Chapter 6: Japanese 'Snoopy' island created by volcanic eruption
13. Chapter 6: Japanese 'Snoopy' island created by volcanic eruption
14. Chapter 7: Launch of the Epsilon rocket
15. Course Review

5. 評価の方法・基準

授業への積極的参加・発表点 20%、小テスト・課題提出 30%、期末試験 50%で評価する。総合評価で 60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- 全授業の 3 分の 2 以上の出席数がないと履修資格を失う。
- 毎回、十分な予習と復習を必須とし、授業への積極的参加を評価に加味する。
- 授業態度が悪い学生（私語、居眠り、内職、携帯電話の使用等）や予習の不十分な学生は、減点の対象となることがある。
- 毎回辞書（携帯電話の辞書機能使用は不可）を持参すること。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

- 各回の該当チャプターの本文に目を通して、不明な単語を調べておくこと。
- 各回の該当チャプターの練習問題を事前にやっておくこと。
- 前回の授業を復習しておくこと。
- 各チャプターの内容を十分理解した上で自己の意見を発展させることが必須となる。

8. 教科書・参考書

教科書：Open your Eyes through News in English（三修社）
ISBN: 978-4-384-33451-7

その他、適宜プリントを配布する。

9. オフィスアワー

質問や相談は授業終了後をお願いします。

e-mail: matsumoto@gm.ftokai-u.ac.jp

英語 C I English C I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 江口 雅子

1. 概要

英字新聞記事を読むことにより、英語の運用能力を高めると同時に、現代という時代を感知し、視野を広げ、新しい時代に向けた知見を得ることを目標とする。英文読解力を強化し、練習問題を通じ、リスニング力、ライティング力と総合的に英語の能力を高めていく。関連する学習として、毎回、最新のニュースの提示、解説も行なう。英語を読み解き、英文を通じ、現代社会を捉え、未来への橋渡しとすることを教育目標とする。

2. キーワード

英字新聞読解、最新ニュース、文法理解

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- 多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. Course Introduction
2. Chapter 1 Astronaut Wakata, 1st Japanese ISS Commander, returns to Earth
3. Chapter 1 Astronaut Wakata (2)
4. Chapter 2 U.S. Ambassador Caroline Kennedy visits Nagasaki (1)
5. Chapter 2 U.S. Ambassador (2)
6. Chapter 3 Obama warns Russia over military moves in Crimea (1)
7. Chapter 3 Obama warns (2)
8. Chapter 4 Reported food allergies on rise among students in Japan (1)
9. Chapter 4 Reported food (2)
10. Chapter 5 U.N. study: Electrical waste up by third by 2017 (1)
11. Chapter 5 U.N. study (2)
12. Chapter 6 More university students looking for post-graduation employment
13. Chapter 6 More university students (2)
14. Chapter 7 *12 Years a Slave* win best picture at Oscars
15. Course Review

5. 評価の方法・基準

期末試験 50%、小テスト 30%、活動参加・発表点 20%で評価する。総合評価で 60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- 全授業の 3 分の 2 以上の出席数がないと履修資格を失う。
- 私語、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。
- 学生主体の授業なので、毎回、十分な予習と復習、授業への積極的参加を求める。
- ネット上で、各テーマに関する検索をし、概略を把握しておくことは有効である。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

- 各回該当チャプターの英文を事前に読んでおくこと。
- 各回該当チャプターの練習問題を事前にやっておくこと。
- 小テストを行うので前回授業の英語語彙について復習をしておくこと。

c 教科書：News Gallery 2015 (Kaibunsha Publications)
ISBN: 9784875711605

参考書：リーダーズ英和辞典（研究社）の入った英語専用モデルの電子辞書を勧める。

9. オフィスアワー

質問や学習相談は授業終了後に。

メールアドレス: teddybear610@do9.enjoy.ne.jp

英語 C I English C I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 坂口 由美

1. 概要

めまぐるしく変化する現代社会において、世界中の有名な芸術家、企業家たちのサクセスストーリーを通して、外国人の思想、文化的背景を学ぶ。日英表現を比較して、異文化に対する興味、関心を引き起こすことを目標とする。

2. キーワード

日常的基礎知識 基本的文法力、読解力、リスニング力

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- 多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. オリエンテーション（授業の進め方、目標等の説明）
2. Walt Disney World
3. The Rapid Development of the COca-Cola Company
4. New York's Wall Street
5. Ingenuity
6. Adjusting to the Changing Times
7. Positive Thinking
8. Luck is an Accidental Product?
9. Success Stories in the Business World
10. Original Art Works
11. What Provides Children with
12. Jewish Education
13. The Significance of History
14. Speeches by Citizens
15. 試験
16. 試験の解説等、まとめ

5. 評価の方法・基準

期末試験（70%）

出席点、受講態度（30%）により総合的に評価し、60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- ・3 分の 2 以上の出席が、履修資格の条件。
- ・私語、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。
- ・毎回辞書を持参すること。
- ・予習をしていることを前提に授業を進めるので、毎回の予習は必ずしておくこと。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

予習：次回の Unit の本文に目を通して、不明な単語を調べておくこと。

復習：前回の本文の内容をまとめておき、次回の授業時に提出すること。

8. 教科書・参考書

教科書：The Secret of Success (Aahi Press) ISBN: 9784255155432

9. オフィスアワー

メールアドレス yume0801@iris.ocn.ne.jp

英語 C I English C I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 森 千鶴

1. 概要

日常生活に根ざした実用的な英語の使い方に慣れ、聞いたり読んだりして得た情報をもとに、自分の考えなどを書いたり話したりして、表現できるようになることを目標とする。内容については、学生の多様な興味に対応するため、「オーガニック食品」「キャラクター文化」「オフィス・ゴシップ」など日常的な話題をトピック別に編集してあるテキストを用いる。「聞くこと」に関しては、適宜 TOEIC の問題を解くことによって演習する。

2. キーワード

日常的話題、基本的な英語、4 技能

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. オリエンテーション
2. Pro Gaming
3. Organic Food
4. Character Culture
5. Language Change
6. Unlocking Motivation
7. Yellow Dust Storms
8. これまでのまとめ、表現活動
9. The End of Privacy
10. Going Carbon Neutral
11. Retro Style
12. Insourcing
13. Office Gossip
14. Stem Cells
15. これまでのまとめ、表現活動
16. 試験

5. 評価の方法・基準

- (1) 学期試験—60%
 - (2) 授業での小テスト—20%
 - (3) 授業での発表や提出物—20%
- 総合評価で 60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- (1) 授業への準備不足のため質問に対して答えられない学生にはマイナス評点を与える。私語、携帯電話の使用は厳禁。
- (2) 英和辞書、和英辞書を持参すること。
- (3) 3 分の 2 以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

- ・各回に指示のある教科書の該当箇所について事前に読んでおくこと。
- ・授業終了時に示す英作文課題を完成させ提出すること。
- ・毎回の授業の復習をすること。

8. 教科書・参考書

教科書 Reading Pass 3 (Second Edition) (南雲堂) ISBN: 9784523176107

その他、適宜プリントを配布する。

9. オフィスアワー

オフィスアワーはありませんが、質問等はメール（アドレス：morichiz@fukuoka-edu.ac.jp）で随時受け付けます。

英語 C I English C I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 田吹 香子

1. 概要

ニュースを素材にしたビデオ、CD を活用し、英語のリスニング能力を高めることに重点を置き、英語耳を育成する。さらに、耳で聞いた英文を目で読んで内容を確認し、その情報を元に自己のメディア・リテラシーを高めるなど、様々な英語の能力を駆使して実力を育成することを目標とする。

2. キーワード

ディクテーション、主体的学習、時事英語読解、日本社会事情の理解、外国から見た日本の特徴を知る比較文化的視野を持つこと。

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. オリエンテーション
2. Unit 1 Box Stars
3. Unit 2 Tearing Down Language Barriers
4. Unit 4 Waking Up Sleeping Patents
5. Unit 5 Traditional Japanese Cuisine
6. Unit 6 The Cost of Convenience
7. Unit 8 Operating Rooms on Wheels
8. Unit 9 Off the Tourist Trail
9. Unit 10 Blindness No Battier
10. Unit 11 Against the Grain
11. Unit 12 Healthy Workers Paying Off
12. Unit 13 Japanese-style *Halal*
13. Unit 14 Long-lasting Food
14. Unit 15 Touching Is Believing
15. 関連情報を使ったまとめ

5. 評価の方法・基準

評点の満点を 100% とし、その内授業での発言や活動を 40%、定期試験を 60% として評価する。総合評価で 60% 以上を合格とする。（授業内活動に関して初回の授業で配点を詳しく説明するので、必ず出席すること）

6. 履修上の注意事項

- ・3 分の 2 以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- ・個別に対応が必要な場合は授業前後の時間を当てる。
- ・私語、内職、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。毎回、十分な予習と復習を必須とし、授業への積極的参加を評点に加味する。
- ・毎回辞書を持参すること。
- ・授業態度が悪い場合は、減点の対象とすることもある。
- ・教科書を持参しない場合、出席とはみなさない。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

- ・予習に関してはオリエンテーションで詳しく説明するので、その通りにしてくること。
- ・毎回小テストを行うので、学習した内容を復習すること。
- ・復習方法としては「音読」、「付属 DVD を使ったシャドーイング」を勧める。最低でもスクリプトを 3 回音読し、DVD を視聴すること。
- ・本授業は「英語力」を高めることだけでなく、英語で日本の社会現象を考察することも目標とするので、各ユニットの内容を十分理解した上で自己の意見を発展させることが必須となる。

8. 教科書・参考書

教科書：What's on Japan 9（金星堂）ISBN: 9784764739949

9. オフィスアワー

授業時間前後

（連絡用メールアドレス等はオリエンテーションで伝えます）

英語 C I English C I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 永次 健人

1. 概要

様々なトピックについて、英語で読み、National Geographic の写真や映像を通して理解するとともに、それらについて、批判的に考え、議論する能力を身に付けることを目標とする。読解を中心にしながら、他の技能についても、向上をめざす。

2. キーワード

異文化理解、時事英語、リーディング、4 技能

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. Introduction
2. Unit 1: Food and Health
3. Unit 1: Food and Health
4. Unit 2: Our Bond with Animals
5. Unit 2: Our Bond with Animals
6. Unit 3: History Detectives
7. Unit 3: History Detectives
8. Unit 4: Traditions and Rituals
9. Unit 4: Traditions and Rituals
10. Unit 5: Urban Underworlds
11. Unit 5: Urban Underworlds
12. Unit 6: Reef Encounters
13. Unit 6: Reef Encounters
14. Review and instructor's material
15. Exam Review and Conclusion

5. 評価の方法・基準

授業への積極的参加（20%）、小テスト・課題提出（40%）、期末試験（40%）
60% 以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- ・3 分の 2 以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- ・予習を前提とする。
- ・授業態度が悪い学生（私語、居眠り、内職、携帯電話の使用等）や予習の不十分な学生は、減点の対象となることがある。
- ・毎回辞書（携帯電話の辞書機能使用は不可）を持参すること。
- ・授業の進行予定は、学生の理解度に応じて、変更することがある。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

各回に指示のあるテキストの該当箇所について、読んでおくこと。

また、事前に指示されたテキスト内の課題を済ましておくこと。むろん、指示された以外の部分も自主的に予習しておくことが望ましい。

8. 教科書・参考書

教科書：Reading Explorer 2（Cengage Learning）ISBN: 9781305254473

9. オフィスアワー

質問等は授業時間前後に受け付ける。

英語 C I English C I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 今川 京子

1. 概要

英字新聞に掲載された記事を読みニュースメディアの英語を学習する。社会・文化・政治経済・情報・言語・教育・科学・医学・環境・娯楽・スポーツなどの幅広い分野の記事を読み、身近に世界中のニュースに触れ、読み、聞き、話し、書く楽しさを育みながら、多角的にそして複眼的に英語運用能力が培われるのを目指す。学生には、記事に関連した多様な社会問題に関して自発的に調べ、自らの意見を英語で発信する能力を高めることを目標とする。また、英語文化圏の歴史と文化を知るための入門として、適宜マザーグースを紹介する。

2. キーワード

パラグラフ・リーディング、リスニング、プレゼンテーション、異文化及び時事問題への理解

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. イントロダクション
2. In Taking Jobs, Women Take On a Saudi Taboo.
3. Fortune-seeking migrants turn to Mexico.
4. Japanese Team Dominates Competition to Create Generation.
5. A Borderline Where Women Bear the Weight.
6. E-Cigarettes, by Other Names, Lure Young and Worry Experts.
7. NYC fans of Kyary Pamyu Pamyu share 'zest for life'.
8. Pakistanis ambivalent about Malala.
9. Chinese schooling wins praise — but not from nation's parents or educators.
10. Ethnic strife unsettles a lawless frontier.
11. Learning to speak Brazinglish.
12. 'How are you?' Don't ask!
13. New generation of innovators emerges in Japan.
14. Striding toward a national image.
15. Hanyu embraces new role as Olympic champ.

5. 評価の方法・基準

予習及び授業への積極的参加態度 20%、ミニレポート 10%、プレゼンテーション及び課題 20%、期末テスト 50%で評価します。総合評価で 60%以上を合格とします。

6. 履修上の注意事項

- ・全授業の 3 分の 2 以上の出席数がないと、履修資格を失います。
- ・授業中の私語、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁です。
- ・毎回、辞書を持参してください。
- ・毎回、十分な予習、授業への積極的な参加を求めます。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

受講者は全員、各回ごとに指示のある教科書の該当箇所を事前に読み、Words and Phrases や Summary の穴埋め、Exercises をやっておくこと。

8. 教科書・参考書

教科書：15 Selected Units of English through the News Media. 2015 Edition (Asahi Press) ISBN: 9784255155500 (2014ed.)

9. オフィスアワー

質問や相談は授業終了後をお願いします。

e-mail: kyoko.gyan@gmail.com

英語 C I English C I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 飯田 弘子

1. 概要

英語の総合的な運用能力を高めるために読みやすい英語で学ぶ日米比較文化を通して英語の読解力と聴解力を中心に、聞く、話す、読む、書くという英語の能力を培うことを目指す。同時に発音の練習に力を入れて、再訓練する。

2. キーワード

異文化理解、コミュニケーション、情報交換

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につけて、総合的な英語力を育成する。

4. 授業計画

1. Introduction+Lesson 1: Cherry Blossoms
2. Names
3. Sports.
4. Employment
5. Movies
6. Karaoke.
7. Shaking hands
8. Job hopping
9. Money or greeting cards.?
10. Cash or credit card?
11. Independence or parasite?
12. Working year around.
13. Low birthrate
14. Review
15. Final Test.

5. 評価の方法・基準

Class attendance (33%)、Class participation (33%)、Final test (33%)。

総合評価で 60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- ・3 分の 2 以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- ・毎回辞書を持参すること。授業中の私語、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

今回の授業範囲の予習として、不明な専門用語の意味を調べておくこと。

8. 教科書・参考書

教科書：Spotlight on America and Japan（南雲堂）ISBN: 9784523177241

9. オフィスアワー

授業時間 15 分前後 iida0818@gmail.com

英語 C I English C I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 林 恵子

1. 概要

アメリカの有力経済紙『ウォール・ストリート・ジャーナル』(The Wall Street Journal. WSJ) の東京支局の記者が「いま一番新しい日本」を世界に向けてレポートするブログサイト Japan Real Time (JRT) のコーナーで連載されている記事を読み、現代社会の様々な問題に触れながら、英語を聞き内容を理解する力と、英文を読み内容を理解する力を培い、総合的な英語力の向上を目指します。また、各課のテーマについて問題意識を持ち、自ら意見を述べる力を培います。適宜に、パラグラフ・リーディングを通して段落ごとの要約の練習を行い、速読のスキルを高めます。また、各テーマに関しての学生の皆さんによるプレゼンテーションも行い、積極的な授業への参加を期待します。

2. キーワード

パラグラフ・リーディング、リスニング、異文化及び時事問題への理解

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. イントロダクション.
2. Unit 1. 5 Things You Didn't Know About Kawaii.
3. Unit 2. Uniqlo Finds Wealth of Data in Bangladesh Not-For-Profit Venture.
4. Unit 4. Harvard Degree: The Political Economy of Kumamon.
5. Unit 5. Saving Fukuoka's Street Food.
6. Unit 6. A Japanese Artist Finds New Life A Year After the Quake.
7. Unit 7. Fictional Japanese TV Banker Takes Double the Payback.
8. Unit 8. As Sentiment Improves, Red Lipstick Back in Vogue.
9. Unit 12. Fukushima Watch: Who Wrote the New Anti-Nuke Novel?
10. Unit 13. For Some, Scented Fabric Softeners No Laughing Matter.
11. Review
12. 英文学訪問：シェイクスピア『ロミオとジュリエット』一名場面より
13. 『ロミオとジュリエット』の DVD 鑑賞
14. プレゼンテーション①
15. 学期末試験
16. プレゼンテーション②

5. 評価の方法・基準

予習及び授業への積極的な参加態度 20%、小テスト 10%、プレゼンテーション及び課題 20%、期末テスト 50% で評価します。総合評価で 60% 以上を合格とします。

6. 履修上の注意事項

- ・全授業の 3 分の 2 以上の出席数がないと、履修資格を失います。
- ・授業中の私語、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁です。
- ・毎回、辞書を持参してください。
- ・毎回、十分な予習、授業への積極的な参加を求めます。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

2 回目から 10 回目までは各 Lesson の予習をしておいてください。3 回目から 11 回目までは前 Lesson の復習、及び、復習小テストの勉強をしておいてください。12 回目は『ロミオとジュリエット』の予習をしておいてください。14 回目、及び、16 回目はプレゼンテーションのためのハンドアウトを作成しておいてください。

8. 教科書・参考書

教科書：15 Things Happening in Japan (2015 年度版／松柏社) ISBN: 9784881987070

9. オフィスアワー

質問や相談は授業終了後をお願いします。

メールアドレス：scotty@jeans.ocn.ne.jp

英語 C I English C I

対象学科（コース）：

学年：2 年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 高田 とも子

1. 概要

本講義では、芸術・文学・心理学・ファッションといった私たちの日常生活にとって身近なトピックと扱った英文を読み解くことで、総合的な英語能力を養うと同時に、現代社会を取り巻く問題を英語で考える能力を養うことを目的とする。受講生には、各セッションのテーマに即したプレゼンテーションを行ってもらい、毎回のセッションで扱われているトピックに関する深い考察を行ってもらおうと同時に、論点を他人に分かりやすく伝えるという過程を通し、情報発信能力の向上にも努めてもらいたい。毎回の授業では、語彙力強化の為に単語テストを実施する。

2. キーワード

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. Introduction
2. Unit 1, Reading 1: The Toe of the Shoe
3. Unit 1, Reading 2: Trousers and Skirts
4. Unit 2, Reading 1: Cleanliness
5. Unit 2, Reading 2: Cleaner Fish
6. Unit 3, Reading 1: Frida Kahlo
7. Unit 3, Reading 2: Digital Photo Illustration
8. Unit 4, Reading 1: Body Language
9. Unit 4, Reading 2: Extraversion and Introversion
10. Unit 5, Reading 1: Doctors Without Borders
11. Unit 5, Reading 2: Strangers in a Strange Land
12. Unit 6, Reading 1: Animal Rights
13. Unit 6, Reading 2: Clone Farm
14. Unit 7, Reading 1: Winterblossom Garden
15. Unit 7, Reading 2: Mrs. Sen's (予定)

5. 評価の方法・基準

授業への積極的な参加態度 30%、プレゼンテーション 20%、小テスト 10%、期末テスト 40% で評価する。総合評価で 60% 以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- ・3 分の 2 以上の出席を履修の原則とする。
- ・十分な予習をすること。
- ・積極的な授業への参加を求める。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

受講者は全員、各回ごとに指示のある教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。尚、プレゼンテーション担当者はエッセイについて要約・疑問点・問題点を記したレジュメを作成すること。

8. 教科書・参考書

教科書：Connection 4 (松柏社) ISBN: 9784881986998

9. オフィスアワー

質問や連絡事項がある場合には、メールにて対応する。

tmknagakawa@yahoo.co.jp

英語 C I English C I

対象学科（コース）：全学科

学年：2 年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 Ian Ruxton

1. 概要

The aim of this class is to improve listening, reading, writing and speaking skills through the study of British culture. Satisfactory attendance is required.

2. キーワード

Britain, culture, inter-cultural communication

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- 多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. The British Isles
2. Very British
3. Influences
4. Empire
5. Politics
6. The Monarchy
7. A world role
8. Being British
9. The British year
10. Many faiths
11. Coming to Britain
12. At home
13. In the family
14. At school
15. Test
16. Review

5. 評価の方法・基準

Coursework, Tests

6. 履修上の注意事項

You must attend at least 2/3rds of classes. You must show a positive attitude in class.

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

- 1) Read the text book before class.
- 2) Check the meaning of keywords before class using dictionaries and internet.
- 3) Be ready to discuss readings in class.

8. 教科書・参考書

In Britain: 21st Century Edition (Macmillan Language House) 830/V-3/2

9. オフィスアワー

Mondays: 12:00 – 2:30pm.

ruxton@dhs.kyutech.ac.jp (Room 404 General Education Building)

英語 C I English C I

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 Robert Long

1. 概要

Satisfactory attendance is required. Students' effort in the class is also evaluated by the weekly assignments, time spent on various speaking topics, and email assignments. Extra credit can be earned through presentations and through the writing/email assignments. The syllabus provides engineering topics for students in their own field.

2. キーワード

Critical Thinking, communication, analysis, writing, debates

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- 多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. Overview of class, video homework
2. Seminar: Video homework/Chapter 1 Food
3. Seminar: Video homework & Chapter 1/Chapter 2 Urban Problems
4. Seminar: Video homework & Chapter 2/Chapter 3 Culture
5. Seminar: Video homework & Chapter 3/Chapter 4 Environment
6. Seminar: Video homework & Chapter 4/Chapter 5 Work
7. Seminar: Video homework & Chapter 5/Chapter 6 Health
8. Seminar: Video homework & Chapter 6/Chapter 7 Family
9. Seminar: Video homework & Chapter 7/Chapter 8 Money/Financial Problems
10. Seminar: Video homework & Chapter 8/Chapter 9 Gender Issues
11. Seminar: Video homework & Chapter 9/Chapter 10 Personal Issues
12. Seminar: Video homework & Chapter 10/Chapter 11 Space
13. Seminar: Video homework & Chapter 11/Chapter 12 Social Media
14. Seminar: Video homework & Chapter 12/Chapter 13 Global Militarization
15. Exam
16. Seminar: Video homework & Chapter 13/Review

5. 評価の方法・基準

Weekly Seminar Reports 40 %, Chapter Homework 40 %, Tests 20%

6. 履修上の注意事項

Students are highly encouraged to find more information on the topics above from the Internet and to provide interesting comments and opinions as a basis for further conversation.

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

Watch the Youtube videos (class homework) that relate to each theme and write out important questions and comments to talk about in class. Also, read ahead in the next chapter so as to familiarize yourself with the tasks and vocabulary.

8. 教科書・参考書

Connections: Understanding Social and Cultural Issues (Third Edition) (Perceptia Press) ISBN: 9781411680692

9. オフィスアワー

Monday: 11:00 – 12:00, 13:00 – 14:00

Tuesday: 11:00 – 12:00, 13:00 – 14:00

long@dhs.kyutech.ac.jp (Room 406 General Education Building)

英語 C II English C II

対象学科（コース）：全学科

学年：2 年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 八丁 由比

1. 概要

演習型授業。最終的な目標は英語で情報発信ができるようになること。英語の文章は、日本語の文章に比べて固定的な構成パターンに沿って構成される。よって、これを理解することにより、的確に読み、理解される文章を書き、話すことができる。本授業では、英文の特徴を分析しながら英文を読み、スタイルのある文章を書く方法を学ぶ。学期の後半には、口頭発表による情報発信も行う。

2. キーワード

英文スタイル、作文

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- 多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

- デモンストレーション、サンプル・リーディング
- Report (1)
- Report (2)
- Report (3)
- Essay (1)
- Essay (2)
- Essay (3)
- Critiques (1)
- Critiques (2)
- Critiques (3)
- Projects (1)
- Projects (2)
- Presentation
- Presentation
- Presentation

5. 評価の方法・基準

平常点、発表、小レポートを総合的に判断して評価する。
60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- 授業では個人作業だけでなく、グループの作業も行う。役割分担をしながら、班全体で協力して取り組むことを期待する。
- 3 分の 2 以上の全体出席数が無い場合は、履修資格を失うので注意。
- 自主学习として、図書館の Japan Times や、インターネットで週刊 ST、Daily Yomiuri などの英字新聞を読むことを勧める。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

- 各ジャンルの最終回には小レポートを課し、理解度の確認を行うので必ず提出すること。
- 授業の内容は連続しているので、欠席した場合は必ず前回授業について確認し、必要に応じてメイクアップしておくこと。

8. 教科書・参考書

- プリントを配布する。
- 辞書

9. オフィスアワー

- オフィスアワー：研究室前の掲示を参照
- 研究室：総合教育棟 410
- 連絡先：hatcho@dhs.kyutech.ac.jp

英語 C II English C II

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 大野 瀬津子

1. 概要

総合的な英語力の向上を目指す。特に英語を「読む」と「話す」ことに力点を置く。「読む」ことに関しては、パラグラフ・リーディングを通じ、段落ごとの概要、および文章全体の論理的構成を把握する練習をする。また、「話す」ことに関しては、スピーチの機会を設けることにより、自分の意見を英語で論理的に整理し伝える練習をする。この授業を、今後の学習に役立てて欲しい。

2. キーワード

パラグラフ・リーディング、論理的思考力、スピーチ

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- 多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

- イントロダクション
- Unit 7 Smoking Should Be Banned in All Public Places
- Unit 11 How can We Prevent Suicides?
- Unit 14 Should the Age of Adulthood Be Lowered in Japan?
- Unit 15 Should English Be Taught in Primary Schools?
- Unit 16 Should We Let Children Use Cellphones?
- アウトライン発表会
- スピーチ・コンテスト予行演習
- スピーチ・コンテスト
- スピーチ・コンテスト
- スピーチ・コンテスト
- スピーチ・コンテスト
- スピーチ・コンテスト
- スピーチ・コンテスト
- スピーチ・コンテスト

5. 評価の方法・基準

原則として、活動参加 50%、スピーチ 50% で評価する。総合評価で 60% 以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- 3 分の 2 以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- 成績評価のフィードバックについて、個別に対応が必要な場合はオフィスアワーを当てる。
- 私語、内職、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。学生主体の授業なので、毎回、十分な予習と復習、授業への積極的参加を求める。
- 毎回辞書を持参すること。
- インターネットや図書館の English Journal 等を利用し、ネイティブ・スピーカーのスピーチを数多く視聴することを勧める。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

毎回授業で指示された教科書の該当箇所を事前に読み、指示されたやり方でレポートにまとめておくこと。アウトライン発表会、スピーチ・コンテスト予行演習、スピーチの回には、事前に指示されたやり方で発表原稿を作成しておくこと。自分のスピーチ発表の前は、事前に予行演習を何回もしておくこと。

8. 教科書・参考書

教科書：Your First Speech and Presentation（南雲堂）836.7/T-1

9. オフィスアワー

研究室前に掲示。（研究室：総合教育棟 S408）

英語 C II English C II

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 田吹 昌俊

1. 概要

英語の多角的運用能力を高める目的で、読み、聞き、話すという観点から英語に取り組むが、ここでは特に英文の読解の能力の養成を目指す。また、Listening Comprehension の訓練も行う。題材は科学分野の知的好奇心を刺激する読み物を扱う。

2. キーワード

科学技術、環境、エコロジー

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. オリエンテーション
2. Thw Washington Cherry Trees
3. A Modern Day Japanese Knight
4. Mona Lisa — A Mysterious Painting
5. Space Shuttle Challenger
6. Honesty Wins
7. The Family Bridge
8. Dr.Shinya Yamanaka
9. Made in Japan
10. Youth
11. Deadly Progress
12. John Matthew Ottoson
13. It's a No-brainer
14. The Genius in You
15. A Commitment to Honesty: Academic Integrity

5. 評価の方法・基準

学期試験、授業での小テスト、発表、レポートを総合的に判断して評価する。総合評価で 60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- (1) 授業への十分な準備と積極的な参加を前提とする。準備不足のため質問に答えられない場合は減点対象となる。私語、内職、携帯電話等は厳禁。
- (2) 英英辞書か英和辞書を携帯すること。
- (3) 3 分の 2 以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

授業範囲の予習として、不明な専門用語の意味を調べておくこと。

8. 教科書・参考書

教科書 Reading Compass(Sanshusha)ISBN: 9784384334494

9. オフィスアワー

木曜日 4 時限目（総合教育棟 4 階 414）

英語 C II English C II

対象学科（コース）：全学科

学年：2 年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 虹林 慶

1. 概要

厳選されたテキストについて、読解（構造理解、語彙、文化的な背景）とディスカッションを行う。

2. キーワード

異文化理解、カルチュラル・リテラシー、リーディング・スキル

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. Introduction/The Talk of the Town
2. The Way We Eat Now/What is Death?/What is Intelligence, Anyway
3. Prime Illusion
4. Essay for the Left Hand
5. The House/In Jail
6. A Primary Human Group/Islanders Running Out of Isolation
7. The Wilderness
8. Review Test
9. On the Path of Lafcadio Hearn
10. The Sinking of the Titanic (1)
11. The Sinking of the Titanic (2)
12. Iron-Age Man Uncovered
13. What a Zoo! — An Insult to the Animals
14. Additional Reading
15. Review Test 2
16. まとめ

5. 評価の方法・基準

定期試験と授業参加点を総合的に評価し、60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- ・3 分の 2 以上の出席を履修の原則とする。（履修細則第 11 条 2）
- ・試験の結果のフィードバックは個別に行う。
- ・予習、復習を前提とした授業である。
- ・授業態度が悪い場合（私語、内職、携帯の使用など）は減点や除名の対象となることがある。
- ・教科書に取り上げられたテーマに関連したビデオ教材（附属図書館蔵）を授業時間外にみることは有益である。（詳細は授業中に説明する。）

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

事前に指定された箇所について、課題を期日までに提出すること。指定については授業進行に合わせて行う。

8. 教科書・参考書

教科書：The Rattle Bag: Reading English Cultures 英語文化を読む（研究社）ISBN: 9784327421090

参考書：新版研究社英和中辞典（辞書を持たない人に）833/K-31/7（第 7 版）

Oxford Advanced Learner's Dictionary（英英辞書に関心がある人に）833/H-6

9. オフィスアワー

水曜日（17：00 ～ 18：00）（総合教育棟 3 階：S313）

英語 CⅡ English CⅡ

対象学科（コース）：全学科

学年：2 年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 吉村 理一

1. 概要

学士（大卒者）には英語運用に関わる確かな基礎力と国際的な視野に立って考える力、知識が求められる。特に工学部の学生は、将来様々な国々の人々との技術協力や事業展開に関わることが期待されているため、専門用語の習得に加え、意思疎通を図ることが出来る程度の英語運用能力は必要である。

『英語 CⅡ』では、様々な国々で話される英語（英語を母語としない人々が話す英語）の「聴き取り」の力の向上と、その力の養成に必要な「文法」、「語彙」、そして「発音」の向上を目指す。また、自分の意見の論述や質疑応答を英語で自信を持って行えるように「発信力」の育成に重点を置く。

2. キーワード

- ・多種英語
- ・情報共有
- ・情報発信
- ・サイト・トランスレーション
- ・シャドーイング
- ・パラフレーズ
- ・サマライゼーション

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

- 第1回 Course Introduction
- 第2回 Chapter 1 India
- 第3回 Chapter 2 Philippines
- 第4回 Chapter 3 Thailand
- 第5回 Chapter 4 Vietnam
- 第6回 Chapter 5 Korea
- 第7回 Chapter 6 France
- 第8回 Chapter 7 Italy
- 第9回 Chapter 8 Denmark
- 第10回 Chapter 9 Portugal
- 第11回 Chapter 10 Turkey
- 第12回 Chapter 11 Egypt
- 第13回 Chapter 12 South Africa
- 第14回 Chapter 13 Brazil
- 第15回 Chapter 14 Peru
- 第16回 期末試験

5. 評価の方法・基準

- ・積極的な授業参加（予習・プレゼン・ディスカッション等）40%
- ・期末試験 60%

総合評価 60%以上を合格とする。

（出席と授業での取り組みを単位取得の大前提とするため、積極的に取り組んでください。）

6. 履修上の注意事項

- （1）3分の2以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- （2）私語、内職、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。欠席として扱い、最悪の場合、除名する。
- （3）学生主体で進めるため、毎回、十分な予習と復習、授業への積極的参加を求める。プレゼンの担当者は必ず万全の準備をして臨むこと。
- （4）毎回辞書を持参すること。（スマートフォンやタブレット等を辞書として使用することは認めない。）
- （5）自宅学習できるようにDVDが付属されているため、予習と復習の際に必ず視聴して積極的に英語を耳に入れ、スクリプトをもとに音読練習することを強く勧める。

トをもとに音読練習することを強く勧める。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

【予習】

担当教員が指示した予習箇所は必ず授業までにやってくるようにしてください。その際、DVDを見て学習をしておいてください。言うまでもありませんが、予習の段階で分からない語句は調べておくようにしてください。

【復習】

授業中に出来なかったことを中心に復習し、もう一度DVDを見てリスニングと音読の練習をしてください。

【プレゼンテーション】

必ず1回は英語でプレゼンをしてもらいます。自分の担当分野のことを調べ、効果的に伝えられる努力をしてきてください。

8. 教科書・参考書

教科書：

World Adventures DVDで学ぶ世界の文化と英語（金星堂）
ISBN: 978-4-7647-3907-9

9. オフィスアワー

ご質問、ご相談等は授業後あるいはメールで受け付けます。

メールアドレス：r-yoshimura@kyudai.jp

英語 C II English C II

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 松本 知子

1. 概要

話題性のある英字新聞に触れ、英語のリーディング能力を高めるとともに、ニュース記事について多角的に捉え、自分の意見を英語で述べる能力をつけることを目標とする。多様性、段階性のある練習問題とタスクを通じて、総合的な英語力の向上をめざす。

2. キーワード

時事英語、読解力、文法、語彙、4 技能

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- 多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. Introduction
2. Chapter 8: A century on stage
3. Chapter 8: A century on stage
4. Chapter 9: Dallas Observes 50th Anniversary of Kennedy Assassination
5. Chapter 9: Dallas Observes 50th Anniversary of Kennedy Assassination
6. Chapter 10: Parents unaware of dangers faced by children on smartphones
7. Chapter 10: Parents unaware of dangers faced by children on smartphones
8. Chapter 11: Japanese universities rush to tackle cheating in wake of STAP cell controversy
9. Chapter 11: Japanese universities rush to tackle cheating in wake of STAP cell controversy
10. Chapter 12: 'Kindai' bluefin tuna set to delight taste buds in Osaka
11. Chapter 12: 'Kindai' bluefin tuna set to delight taste buds in Osaka
12. Chapter 13: Pope Francis named Time's Person of the Year
13. Chapter 13: Pope Francis named Time's Person of the Year
14. Chapter 14: Soccer: Reds ordered to play behind closed doors for racist banner
15. Course Review

5. 評価の方法・基準

授業への積極的参加・発表点 20%、小テスト・課題提出 30%、期末試験 50%で評価する。総合評価で 60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- 全授業の 3 分の 2 以上の出席数がないと履修資格を失う。
- 毎回、十分な予習と復習を必須とし、授業への積極的参加を評点に加味する。
- 授業態度が悪い学生（私語、居眠り、内職、携帯電話の使用等）や予習の不十分な学生は、減点の対象となることがある。
- 毎回辞書（携帯電話の辞書機能使用は不可）を持参すること。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

- 各回の該当チャプターの本文に目を通して、不明な単語を調べておくこと。
- 各回の該当チャプターの練習問題を事前にやっておくこと。
- 前回の授業を復習しておくこと。
- 各チャプターの内容を十分理解した上で自己の意見を発展させることが必須となる。

8. 教科書・参考書

教科書：Open your Eyes through News in English（三修社）ISBN: 978-4-384-33451-7

その他、適宜プリントを配布する。

9. オフィスアワー

質問や相談は授業終了後をお願いします。

e-mail: matsumoto@gm.ftokai-u.ac.jp

英語 C II English C II

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 江口 雅子

1. 概要

英字新聞記事を読むことにより、英語の運用能力を高めると同時に、現代という時代を感知し、視野を広げ、新しい時代に向けた知見を得ることを目標とする。英文読解力を強化し、練習問題を通じ、リスニング力、ライティング力と総合的に英語の能力を高めていく。関連する学習として、毎回、最新のニュースの提示、解説も行なう。英語を読み解き、英文を通じ、現代社会を捉え、未来への橋渡しとすることを教育目標とする。

2. キーワード

英字新聞読解、最新ニュース、文法理解

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- 多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. Course Introduction
2. Chapter 8 Car-sharing business booming in Japan (1)
3. Chapter 8 Car-sharing (2)
4. Chapter 9 Rising number of elderly with dementia taken into protective
5. Chapter 9 Rising number (2)
6. Chapter 10 Olympics: Hanyu gives Japan 1st Sochi gold on Olympic debut (1)
7. Chapter 10 Olympics (2)
8. Chapter 11 Cyclists need more education, insurance (1)
9. Chapter 11 Cyclists (2)
10. Chapter 12 U.S. women publish illustrated book on Shikoku pilgrimage (1)
11. Chapter 12 U.S. women (2)
12. Chapter 13 Jazz study shows link between music and language (1)
13. Chapter 13 Jazz (2)
14. Chapter 14 Korea trade fire; island residents in shelters
15. Course Review

5. 評価の方法・基準

期末試験 50%、小テスト 30%、活動参加・発表点 20%で評価する。総合評価で 60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- 全授業の 3 分の 2 以上の出席数がないと履修資格を失う。
- 私語、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。
- 学生主体の授業なので、毎回、十分な予習と復習、授業への積極的参加を求める。
- ネット上で、各テーマに関する検索をし、概略を把握しておくことは有効である。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

- 各回該当チャプターの英文を事前に読んでおくこと。
- 各回該当チャプターの練習問題を事前にやっておくこと。
- 小テストを行うので前回授業の英語語彙について復習をしておくこと。

8. 教科書・参考書

教科書：News Gallery 2015 (Kaibunsha Publications) ISBN: 9784875711605

参考書：リーダーズ英和辞典（研究社）の入った英語専用モデルの電子辞書を勧める。

9. オフィスアワー

質問や学習相談は授業終了後に。

メールアドレス: teddybear610@do9.enjoy.ne.jp

英語 C II English C II

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 坂口 由美

1. 概要

世界のニュースを通して効果的な 4 技能の学習を目指す。採り上げるトピックはあらゆる分野に渡り、身近なもので学生の興味、関心を引くものである。難しいと思われがちなニュース英語を読むことで語彙力、読解力を培い、英語力に自信をつけることを目標とする。

2. キーワード

語彙力、読解力、英字新聞に慣れ親しむ

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. オリエンテーション（授業の進め方、目標等の説明）
2. Nothing is private when it's all on Facebook
3. AKB48 and Kimimaro
4. New holes in European safety nets
5. Economic shoe on the other foot
6. Latvian Voters Rejects Russian as a Second Language
7. Olympics in London
8. As Myanmar Changes, So Does Its Leader
9. Pakistani puzzle: Hindu daughter to Muslim bride
10. Less acclaim, more fun for Japan's Ig Nobel prize winners
11. How to deal with 7 billion people
12. 'King of kings' Gadhafi met his end in the gutter
13. 工業英検 4 級練習問題
14. 工業英検 3 級練習問題
15. 期末試験
16. 試験の説明等、まとめ

5. 評価の方法・基準

期末試験（70%）

出席点、受講態度（30%）により総合的に評価し、60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- ・3 分の 2 以上の出席が、履修資格の条件。
- ・私語、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。
- ・毎回辞書を持参すること。
- ・予習をしていることを前提に授業を進めるので、毎回の予習は必ずしておくこと。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

予習：次回の Unit の本文に目を通して、不明な単語を調べておくこと。

復習：前回の Unit に関連するレポートを次回の授業時に提出すること。

8. 教科書・参考書

教科書 The Half-Edition of English through the News Media (Asahi Press) ISBN: 9784255155388

9. オフィスアワー

メールアドレス yume0801@iris.ocn.ne.jp

英語 C II English C II

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 森 千鶴

1. 概要

日常生活に根ざした実用的な英語を聞いたり読んだりして得た情報をもとに、自分の考えなどを書いたり話したりして、表現できるようにすることを目指す。内容については、現代社会のニーズに応ずるため、「石油依存」「死に至る病：インフルエンザ」「絶滅動物」「金融危機」など社会生活に直接的に関わるトピックについて取り扱う。また「聞くこと」に関しては、適宜 TOEIC の問題を解くことによって演習する。

2. キーワード

社会的話題、基本的な英語、4 技能

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. オリエンテーション
2. Oil Dependency
3. Peace or War
4. Sports Idols
5. Deadly Influenza
6. What's It Say?
7. Animal Extinction
8. これまでのまとめと表現活動
9. Driving and the Cell
10. Online-Gaming Addiction
11. Genocide
12. Overpopulation
13. Obesity
14. Global Financial Crisis
15. これまでのまとめと表現活動
16. 試験

5. 評価の方法・基準

- (1) 学期試験－60%
 - (2) 授業での小テスト－20%
 - (3) 授業での発表や提出物－20%
- 総合評価で 60%以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- (1) 授業への準備不足のため質問に対して答えられない学生にはマイナス評点を与える。私語、携帯電話の使用は厳禁。
- (2) 英和辞書、和英辞書を持参すること。
- (3) 3 分の 2 以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

- ・各回に指示のある教科書の該当箇所について事前に読んでおくこと。
- ・授業終了時に示す英作文課題を完成させ提出すること。
- ・毎回の授業の復習をすること。

8. 教科書・参考書

教科書：Reading the World（世界の潮流を読み解く）（南雲堂）ISBN: 9784523176787

その他、適宜プリントを配布する。

9. オフィスアワー

オフィスアワーはありませんが、質問等はメール（アドレス：morichiz@fukuoka-edu.ac.jp）で随時受け付けます。

英語 C II English C II

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 田吹 香子

1. 概要

本授業は ABC News の DVD 映像を通してアメリカの社会現象・社会問題を疑似体験し、コミュニケーションの第一歩であるリスニング力を高め、情報をキャッチする力を養うことが第一目標とする。さらに、そのスクリプトを読解し、内容を詳細に検討し解釈することで、各人が自身の考えを発展させ、物事を見る視点を広げてゆくことをさらなる目標とする。

2. キーワード

ディクテーション、読解、主体的学習、時事・異文化理解

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- 多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

- オリエンテーション
- Unit 2 Breadwinning Moms
- Unit 2 Breadwinning Moms
- Unit 3 “Nighborhood Watch”
- Unit 4 American Dream: WhatsApp Founders Strike it Rich
- Unit 4 American Dream: WhatsApp Founders Strike it Rich
- Unit 7 Attention Shoppers: Changing the Labels
- Unit 7 Attention Shoppers: Changing the Labels
- Unit 8 Born in the USA? Baby Boom
- Unit 8 Born in the USA? Baby Boom
- Unit 9 Ban Bossy
- Unit 11 Rite of Passage: Big Changes in the SATs
- Unit 11 Rite of Passage: Big Changes in the SATs
- Unit 13 Farmer’s Market: City Girl Dates Country Boy
- より視野を広げる活動：まとめと考察

5. 評価の方法・基準

評点の満点を 100% とし、その内授業での発言や活動を 40%、定期試験を 60% として評価する。総合評価で 60% 以上を合格とする。（初回の授業で配転の説明詳しくするので、必ず出席すること）

6. 履修上の注意事項

- 3 分の 2 以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- 個別に対応が必要な場合は授業前後の時間を当てる。
- 私語、内職、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。毎回、十分な予習と復習を必須とし、授業への積極的参加を評点に加味する。
- 毎回辞書を持参すること。
- 授業態度が悪い場合は、減点の対象とすることもある。
- 教科書を持参しない場合、出席とはみなさない。
- 授業の進み方が変則的なので注意すること。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

- 予習に関してはオリエンテーションで詳しく説明するので、その通りにしてくること。
- 毎回小テストを行うので、学習した内容を復習すること。
- 復習方法としては「音読」、「付属 DVD を使ったシャドーイング」を勧める。具体的には DVD を見ながらニュースの英語が理解できるまで聞くこと。
- 本授業は「英語力」を高めることだけでなく、英語でアメリカの社会現象を考察することも目標とするので、各ユニットの内容を十分理解した上で自己の意見を発展させることが必須となる。

8. 教科書・参考書

教科書：ABC World News 17（金星堂）ISBN: 9784764739956

9. オフィスアワー

授業時間前後
（連絡用メールアドレス等はオリエンテーションの時に伝えます）

英語 C II English C II

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 永次 健人

1. 概要

様々なトピックについて、英語で読み、National Geographic の写真や映像を通して理解するとともに、それらについて、批判的に考え、議論する能力を身に付けることを目標とする。読解を中心にしながら、他の技能についても、向上をめざす。

2. キーワード

異文化理解、時事英語、リーディング、4 技能

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- 多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

- Introduction
- Unit 7: Sweet Scents
- Unit 7: Sweet Scents
- Unit 8: Great Explorers
- Unit 8: Great Explorers
- Unit 9: Who we are
- Unit 9: Who we are
- Unit 10: Global Warming
- Unit 10: Global Warming
- Unit 11: Incredible Insects
- Unit 11: Incredible Insects
- Unit 12: Going to Extremes
- Unit 12: Going to Extremes
- Review and instructor’s material
- Exam Review and Conclusion

5. 評価の方法・基準

授業への積極的参加（20%）、小テスト・課題提出（40%）、期末試験（40%）
60% 以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- 3 分の 2 以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- 予習を前提とする。
- 授業態度が悪い学生（私語、居眠り、内職、携帯電話の使用等）や予習の不十分な学生は、減点の対象となることがある。
- 毎回辞書（携帯電話の辞書機能使用は不可）を持参すること。
- 授業の進行予定は、学生の理解度に応じて、変更することがある。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

各回に指示のあるテキストの該当箇所について、読んでおくこと。

また、事前に指示されたテキスト内の課題を済ましておくこと。
むろん、指示された以外の部分も自主的に予習しておくことが望ましい。

8. 教科書・参考書

教科書：Reading Explorer 2（Cengage Learning）ISBN: 9781305254473

9. オフィスアワー

質問等は授業時間前後に受け付ける。

英語 C II English C II

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 今川 京子

1. 概要

厳選されたテキストを精読して読解能力（構造理解・語彙・文化的な背景）を養い、ディスカッションを行ない論理的思考力を培うことを目標とする。各章ごとにプレゼンターを決め、担当者にはレジメを作成して該当箇所について発表してもらう。また英語文化圏の歴史と文化を知るための入門として、適宜マザーゲースを紹介する。

2. キーワード

異文化理解、論理的思考力、リーディング・スキル、プレゼンテーション

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. Introduction
2. East Wind (1)
3. East Wind (2)
4. The Day Out (1)
5. The Day Out (2)
6. Laughing Gas (1)
7. Laughing Gas (2)
8. The Bird Woman (1)
9. The Bird Woman (2)
10. John and Barbara's Story (1)
11. John and Barbara's Story (2)
12. West Wind (1)
13. West Wind (2)
14. 英語で映画鑑賞 *Mary Poppins* (1) (1964)
15. 映画鑑賞 *Mary Poppins* (2)

5. 評価の方法・基準

予習及び授業への積極的参加態度 20%、ミニレポート 10%、プレゼンテーション及び課題 20%、期末テスト 50% で評価します。総合評価で 60% 以上を合格とします。

6. 履修上の注意事項

- ・全授業の 3 分の 2 以上の出席数がないと履修資格を失う。
- ・私語、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。
- ・予習として事前に次の授業で扱う範囲の章を読んでくこと。また授業のなかでペアになり互いに授業で読んだ箇所について内容確認の問題を出し合う活動を取り入れるので、毎回 3 つほど英語で質問を考えてくこと。
- ・毎回辞書を持参すること。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

- ・各回該当チャプターの英文を事前に読んでおくこと。
- ・事前に指定された箇所のテーマについて考え、課題を期日までに提出すること。指定については授業の進捗状況に合わせて行う。

8. 教科書・参考書

教科書：Mary Poppins (Eiko-Sha) ISBN: 9784870970021

9. オフィスアワー

質問や学習相談は授業終了後にお願いします。

e-mail: kyoko.gyan@gmail.com

英語 C II English C II

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 飯田 弘子

1. 概要

コミュニケーションの手段としての英語能力を上達させる目標で授業を行なう。特に伝統の国イギリスと日本の文化を比較し、その差異を学習する。読解力、リスニング、ライティングのスキルを養成する授業を行う。

2. キーワード

異文化理解、コミュニケーション、英日比較

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. Introduction
2. British sports everywhere.
3. The Beatles forever.
4. From the cradle to the grave?
5. Great novelists.
6. History of the Royal Families.
7. Pound or Euro?
8. What is the Tube?
9. Two-party politics?
10. Art collections in Britain.
11. New house, old house.
12. Are British foods tasty?
13. Newspaper, TV or iPad?
14. Review
15. Final Test

5. 評価の方法・基準

Class attendance (33%)、Class participation (33%)、Final test (33%)。総合評価で 60% 以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- ・3 分の 2 以上の全体出席数がないと、履修資格を失う。
- ・毎回辞書を持参すること。授業中の私語、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

1. 次の授業範囲の予習として、不明な専門用語の意味を調べておくこと
2. 不明な点は授業終了後に質問に来ると良い。個別にアドバイスを。

8. 教科書・参考書

教科書：Cross-Cultural Views on Britain (南雲堂) ISBN: 9784523177531

9. オフィスアワー

授業時間 15 分前後 iida0818@gmail.com

英語 C II English C II

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 林 恵子

1. 概要

AFP World Academic Archive のニュース映像と合わせて、世界中で起こる現代社会の様々な問題に触れながら、英語を聞き内容を理解する力と、英文を読み内容を理解する力を培い、総合的な英語力の向上を目指します。また、各課のテーマについて問題意識をもち、自ら意見を述べる力を培います。適宜に、パラグラフ・リーディングを通して段落ごとの要約の練習を行い、速読のスキルを高めます。また、各テーマに関しての学生の皆さんによるプレゼンテーションを行い、積極的な授業への参加を期待します。

2. キーワード

パラグラフ・リーディング、多読、異文化及び時事問題の理解、プレゼンテーションの仕方

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・英語圏での必要最低限の情報収集に必要な読解を身につける。

4. 授業計画

1. イントロダクション
2. Lesson 1: Aging Societies and Aging Workers.
3. Lesson 2: Rethinking Our Food Culture.
4. Lesson 3: Restoring Ecosystems in the Galapagos Island.
5. Lesson 4: Virtual Reality and Actual Reality.
6. Lesson 6: Winning Hearts with Monsters and Superstars.
7. Lesson 7: The Austerity Debate: Bitter Medicine-or Poison?
8. Lesson 13: Myanmar at a Turning point.
9. Lesson 14: Computer Games for Therapy
10. Lesson 16: Medical Tourism
11. Review
12. 英文学訪問：シェイクスピア『ヴェニスの商人』
一名場面より
13. 『ヴェニスの商人』の DVD 鑑賞
14. プレゼンテーション①
15. 学期末試験
16. プレゼンテーション②

5. 評価の方法・基準

予習及び授業への積極的な参加態度 20%、小テスト 10%、プレゼンテーション及び課題 20%、期末テスト 50%で評価します。総合評価で 60%以上を合格とします。

6. 履修上の注意事項

- ・全授業の 3 分の 2 以上の出席数がないと、履修資格を失います。
- ・授業中の私語、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁です。
- ・毎回、辞書を持参してください。
- ・毎回、十分な予習、授業への積極的な参加を求めます。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

2 回目から 10 回目までは各 Lesson の予習をしておいてください。3 回目から 11 回目までは前 Lesson の復習、及び、復習小テストの勉強をしておいてください。12 回目は『ヴェニスの商人』の予習をしておいてください。14 回目、及び、16 回目はプレゼンテーションのためのハンドアウトを作成しておいてください。

8. 教科書・参考書

教科書：AFP World News Report 2 (2014 年度版／成美堂)
ISBN: 9784791910205

9. オフィスアワー

質問や相談は授業終了後をお願いします。

メールアドレス：scotty@jeans.ocn.ne.jp

英語 C II English C II

対象学科（コース）：

学年：2 年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 高田 とも子

1. 概要

本講義では、銃規制、人種、移民といった現代アメリカ社会を考える上で不可欠なトピックと扱った英文を読み解くことで、総合的な英語能力を養うと同時に、現代社会を取り巻く問題を英語で考える能力を養うことを目的とする。受講生には、各セッションのテーマに即したプレゼンテーションを行ってもらい、毎回のセッションで扱われているトピックに関する深い考察を行ってもらいと同時に、論点を他人に分かりやすく伝えるという過程を通し、情報発信能力の向上にも努めてもらいたい。毎回の授業では、語彙力強化の為に単語テストを実施する。

2. キーワード

3. 到達目標

- ・さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- ・多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. Introduction
2. Unit 1, The Popularity of the Japanese Language
3. The Job Search for College Seniors
4. Visiting the Birthplace of Jazz
5. What Makes Hollywood Films Wonderful?
6. Is Illegal Immigration a Problem?
7. Gun Control: Two Opposing Sides
8. Wall Street After 9/11
9. The Future of Auto Industry
10. Major League Dreams and Odds
11. F1 Racing Comes to America!
12. Environmental Champions Muir and Pinchot
13. Balancing Growth and Protectionism
14. The Leadership of Female CEO's
15. Today's Feminist Movement (予定)

5. 評価の方法・基準

授業への積極的な参加態度 30%、プレゼンテーション 20%、小テスト 10%、期末テスト 40%で評価する。総合評価で 60%以上を合格とする

6. 履修上の注意事項

- ・3 分の 2 以上の出席を履修の原則とする。
- ・十分な予習をすること。
- ・積極的な授業への参加を求める。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

受講者は全員、各回ごとに指示のある教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。尚、プレゼンテーション担当者はエッセイについて要約・疑問点・問題点を記したレジュメを作成すること。

8. 教科書・参考書

教科書：American Dynamics (金星堂) ISBN: 9784764739444

9. オフィスアワー

質問や連絡事項がある場合には、メールにて対応する。

tmknagakawa@yahoo.co.jp

英語 C II English C II

対象学科（コース）：全学科

学年：2 年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 Ian Ruxton

1. 概要

The aim of this class is to improve listening, reading, writing and speaking skills through the study of British culture. Satisfactory attendance is required.

2. キーワード

Britain, culture, inter-cultural communication

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- 多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. Working Life
2. Finding a job
3. The economy
4. Food
5. The Arts
6. Film and theatre
7. Music
8. The classics
9. Modern life
10. The Media
11. In the news
12. On TV and radio
13. Leisure
14. Getting around
15. Test
16. Review

5. 評価の方法・基準

Coursework, Tests

6. 履修上の注意事項

You must attend at least 2/3rds of classes. You must show a positive attitude in class.

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

- 1) Read the text book before class.
- 2) Check the meaning of keywords before class using dictionaries and internet.
- 3) Be ready to discuss readings in class.

8. 教科書・参考書

In Britain: 21st Century Edition (Macmillan Language House) 830/V-3/2

9. オフィスアワー

Mondays : 12 : 00 – 2 : 30pm.

ruxton@dhs.kyutech.ac.jp (Room 404 General Education Building)

英語 C II English C II

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 Robert Long

1. 概要

Satisfactory attendance is required. Students' effort in the class is also evaluated by the weekly assignments, time spent on various speaking topics, and email assignments. Extra credit can be earned through presentations and through the writing/email assignments. The syllabus provides engineering topics for students in their own field.

2. キーワード

Vocabulary, reading, questioning, debating

3. 到達目標

- さまざまな技能において、英語でのコミュニケーションに必要な基礎能力を身につける。
- 多種多様な英語に慣れる。

4. 授業計画

1. No Summer for Me, Please
2. Yamete Kure!
3. Color Me Happy
4. What a Sleepy Country!
5. Handwritten Letters
6. Sugar Cookies
7. The Love Doctor
8. Part-time Jobs
9. A Penny Saved
10. What's in a Name?
11. Stuck in the Middle-and Glad!
12. Forget about Love
13. Telling Lies
14. "Foolish" Dreams

5. 評価の方法・基準

Weekly assignments 90%, Tests 10%

6. 履修上の注意事項

Students are highly encouraged to find more information on the topics above from the Internet and to provide interesting comments and opinions as a basis for further conversation.

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

For homework, respond to each of the Internet postings logically and meaningfully, using long and complex sentences to express your ideas. Also, check out any of the five websites and post your comment on any of the news articles or forums. Print out your comment and any replies to it.

8. 教科書・参考書

A World of Difference: A Reading and Discussion Textbook (Perceptia Press) ISBN: 9784939130960

9. オフィスアワー

Monday : 11 : 00 – 12 : 00、13 : 00 – 14 : 00

Tuesday : 11 : 00 – 12 : 00、13 : 00 – 14 : 00

long@dhs.kyutech.ac.jp (Room 406, General Education Building)

英語 D I EnglishDI

対象学科（コース）：全学科

学年：2 年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位

担当教員名 田吹 昌俊・Ian Ruxton・Robert Long・

虹林 慶・八丁 由比・大野 瀬津子・

前田 雅子

1. 概要

世界の諸問題を材料にアカデミック・イングリッシュの養成をめざす、ほぼ英語のみを用いた少人数授業。分析的に文献を読む練習を通じて批判的思考力を身につけるとともに、読んだ題材に関する自分の意見を発信できるような英語運用能力を涵養する。この授業を通じ、国際社会の一員としての基礎力を高めて欲しい。

2. キーワード

cultural literacy, paragraph reading, discussion, CLIL, critical thinking

3. 到達目標

- ・英語文献を分析的に読解する力を身につける。
- ・ディスカッションに必要な英語運用能力を身につける。

4. 授業計画

1. Introduction
2. Topic 01 (preparation)
3. Topic 01 (discussion)
4. Topic 02 (preparation)
5. Topic 02 (discussion)
6. Topic 03 (preparation)
7. Topic 03 (discussion)
8. Review Test
9. Topic 04 (preparation)
10. Topic 04 (discussion)
11. Topic 05 (preparation)
12. Topic 05 (discussion)
13. Topic 06 (preparation)
14. Topic 06 (discussion)
15. Final exam
16. Review

5. 評価の方法・基準

定期試験と授業内活動を総合的に評価し、60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- ・3 分の 2 以上の出席を履修の原則とする。（履修細則第 11 条 2）
- ・私語、内職、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。学生主体の授業なので、毎回、十分な予習と復習、授業への積極的参加を求める。
- ・毎回教科書と辞書を持参すること。
- ・教科書で扱うテーマに関する書籍やビデオ（付属図書館所蔵）を授業時間外に見ることを薦める。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

毎週、指示された通りに授業の準備をしてくること。

8. 教科書・参考書

別途指示する。

9. オフィスアワー

別途指示する。

英語 D II EnglishDII

対象学科（コース）：全学科

学年：2 年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位

担当教員名 田吹 昌俊・Ian Ruxton・Robert Long・

虹林 慶・八丁 由比・大野 瀬津子・前田 雅子

1. 概要

世界の諸問題を材料にアカデミック・イングリッシュの養成をめざす、ほぼ英語のみを用いた少人数授業。分析的に文献を読む練習を通じて批判的思考力を身につけるとともに、読んだ題材に関する自分の意見を発信できるような英語運用能力を涵養する。この授業を通じ、国際社会の一員としての基礎力を高めて欲しい。

2. キーワード

cultural literacy, paragraph reading, discussion, CLIL, critical thinking

3. 到達目標

- ・英語文献を分析的に読解する力を身につける。
- ・ディスカッションに必要な英語運用能力を身につける。

4. 授業計画

1. Introduction
2. Topic 01 (preparation)
3. Topic 01 (discussion)
4. Topic 02 (preparation)
5. Topic 02 (discussion)
6. Topic 03 (preparation)
7. Topic 03 (discussion)
8. Review Test
9. Topic 04 (preparation)
10. Topic 04 (discussion)
11. Topic 05 (preparation)
12. Topic 05 (discussion)
13. Topic 06 (preparation)
14. Topic 06 (discussion)
15. Final exam
16. Review

5. 評価の方法・基準

定期試験と授業内活動を総合的に評価し、60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- ・3 分の 2 以上の出席を履修の原則とする。（履修細則第 11 条 2）
- ・私語、内職、携帯電話の使用、居眠り等は厳禁。学生主体の授業なので、毎回、十分な予習と復習、授業への積極的参加を求める。
- ・毎回教科書と辞書を持参すること。
- ・教科書で扱うテーマに関する書籍やビデオ（付属図書館所蔵）を授業時間外に見ることを薦める。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

毎週、指示された通りに授業の準備をしてくること。

8. 教科書・参考書

別途指示する。

9. オフィスアワー

別途指示する。

選択英語Ⅰ Selective English I

対象学科（コース）：全学科

学年：全年次 学期：前期 単位区分：選択 単位数：1 単位

担当教員名 未定

1. 概要

2. キーワード

3. 到達目標

4. 授業計画

5. 評価の方法・基準

6. 履修上の注意事項

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

8. 教科書・参考書

9. オフィスアワー

選択英語Ⅱ Selective English II

対象学科（コース）：全学科

学年：全年次 学期：後期 単位区分：選択 単位数：1 単位

担当教員名 Robert Long

1. 概要

This intensive course is both an orientation to student exchange programs, and a communicative course aimed at improving students' social, interactive, pragmatic and oral skills. The course is divided on various skills as they pertain to living abroad as well as better understanding foreign societies and cultures. In addition, students will be asked to discuss various aspects of Japanese culture in role-plays, and to evaluate their own performance.

2. キーワード

Exchange program, interactive skills, cultural literacy, discussion, critical thinking, Japanese culture, foreign cultures

3. 到達目標

- To learn how to initiate discussions with foreigners, and to respond to various kinds of situations and problems.
- To discuss aspects concerning Japanese culture in-depth.
- To improve one's self-assessment in communicative effectiveness

4. 授業計画

1. Introduction: Asking about travel plans/Talking about Japanese sports
2. Asking and answering questions at immigration/Japanese music
3. Giving directions/Japanese food
4. Reserving rooms/Japanese handicrafts
5. Talking about interests, sight-seeing/Japanese holidays
6. Selecting and renting a car/Japanese games
7. Meeting and talking with strangers/Japanese cities and places
8. Mid-term exam
9. Negotiating prices/relaxing in Japan
10. Inviting and socializing with friends/famous people in Japan
11. Reading a menu, ordering food/Japanese superstitions
12. Simulating a trip to Los Angeles/Japanese anime
13. Simulating a side-trip to San Francisco/Japanese Arts and Theater
14. Simulating a trip to ODU/Japanese customs
15. Final exam
16. Simulating a trip to Malaysia/Japanese Buildings and Gardens

5. 評価の方法・基準

Homework, class participation and exams will make up the credit of this class. Students must have at least 60 points to pass

6. 履修上の注意事項

Two-third attendance is required for this class. Dictionaries might be needed. It is important to participant and to prepare for various role-plays beforehand. As this course is intensive, class time will involve three periods per day.

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

Daily practice is required, and thus students should be prepared to handle homework for the next day.

8. 教科書・参考書

Encounters Abroad. Author: Michael Critchley ISBN: 9784523175391

9. オフィスアワー

Tuesday: 8 : 00 - 12 : 00

外国系科目（初修外国語）

初修外国語科目について

1. 目的

外国語は未知なる世界の扉を開ける鍵である。形は千種百様のように見えるが、開け方そのものは実に共通している部分が多い。要領を一つ心得ておけば応用が可能となる。また、不思議なことに、それが何らかの形で母語にフィードバックし、客観的に日本語を見つめ直すきっかけを与えてくれる。これまでの英語学習ですでにその経験をした学生は新しい扉へと進み、そうでない学生は今度こそとゼロからチャレンジしてもらうことが初修外国語科目の目的である。アジアとヨーロッパからそれぞれ2カ国語ずつ用意しているが、もちろんこれで十分というわけではない。グローバル化が加速する中、何語が役に立つかを考えるよりもむしろ、何語にでも取り組む姿勢や心意気が大事だと思われる。真の国際人として時代の要請に応えていくための一步を、とにかくここから踏み出してくれるよう望む。

2. 内容

ドイツ語ⅠⅡⅢⅣ

中国語ⅠⅡⅢⅣ

フランス語ⅠⅡⅢⅣ

韓国語ⅠⅡⅢⅣ

3. 履修上の注意

ⅠⅡは1年次の選択必修科目である。どの言語を履修するか、希望調査を基に決定する。なお、同じ言語でクラスが複数ある場合も、クラスの適正規模を考慮し、適宜に振り分ける。

ⅢⅣは2年次の選択語学科目である。1年次に履修した言語と英語DⅠ／DⅡのどちらかを選択して2単位修得しなければならない。

ドイツ語Ⅰ GermanⅠ

対象学科（コース）：機械知能・建設社会（人間科学科目）

学年：1年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 渡辺 アンゲリカ

1. 概要

●授業の背景

サッカー、バウムクーヘン、ソーセージ、クラシック音楽、車、エコライフ、古城など、ドイツの文化は日本でも広く親しまれている。

この授業の狙いはヨーロッパで2番目に大きい国ドイツの言葉や文化をABCから学び、様々なメディアを通じてドイツを“体験”し、身近に感じることである。

単語を暗記し文法をマスターしても、外国人に自分の気持ちが伝わらない、相手の気持ちが分からないときがある。考え方や価値観の違いを理解しないと会話が成り立たない可能性もある。ドイツ文化に触れながら、日本との価値観の違いを知り、将来、役に立つ会話を身につけてもらいたい。

●授業の目的

ドイツ語の発音、基礎的な文法、身近な会話表現を学び、さまざまな練習をし、ロールプレイにも挑戦する。ドイツの日常生活や文化を紹介する。

●授業の位置付け

ドイツ語の基礎文法を学びつつ、簡単な日常会話を練習し、外国語で話すことへの抵抗を減らす。

ドイツ語Ⅱまでの1年間で、ドイツ語初級の読み書き、聞き取り、会話ができることを目指す。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ①音素を把握することができる。
- ②語句を区切って読むことができる。
- ③単語を書くことができる。
- ④個人についての情報を伝えることができる。

4. 授業計画

- 第1回 ドイツ語とドイツ語圏について、簡単な自己紹介Ⅰ
- 第2回 飲み物を注文しよう
- 第3回 アルファベット、つづりと発音
- 第4回 挨拶 <<国民性や常識の違いに注意>>
- 第5回 自己紹介Ⅱ <<名前、呼び方、敬語？>>
- 第6回 趣味や特技、好き嫌いについて話し合う
- 第7回 つづき
- 第8回 持っている物、欲しい物について話す
- 第9回 買い物のロールプレイ
- 第10回 買い物のロールプレイ
- 第11回 自分の家族を紹介しよう
- 第12回 一緒に温泉へ行こう
- 第13回 ドイツの映画を見よう 現代ドイツの様子を感じ取る
- 第14回 前期の授業の復習

5. 評価の方法・基準

授業への取り組み 20%＋ロールプレイ 20%＋期末テスト 60%を総合的に評価し、6割以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

授業中の活動に積極的に参加すること。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

復習を欠かさないこと。

- ・授業中に取り上げた文法事項を教科書で確認し、練習問題を解いてみる。
- ・授業時間に行ったロールプレイや会話を身につけていく。

8. 教科書・参考書

秋田静男ほか「ドイツ語インフォメーション neu2」（朝日出版社）ISBN: 9784255253589

9. オフィスアワー

木曜日の昼休み（非常勤講師控室）

メールアドレス：angelika_rose_29@yahoo.co.jp

ドイツ語Ⅰ German I

対象学科（コース）：機械知能・建設社会（人間科学科目）

学年：1年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 平川 要

1. 概要

●授業の背景

大学では外国語として英語以外に、第2外国語を学習する。英語圏以外の文化や言語、ものの考え方・見方を学ぶことによって複眼的な思想を培う。ドイツは西欧近代思想の中心的な担い手であったが、現在においてもEUの旗頭としてヨーロッパの政治・経済・文化の発展に寄与している。学生諸君には、学生時代に直接ヨーロッパの伝統・文化に触れ、日本の将来のあり方を見つめ直して欲しい。

●授業の目的

ドイツ語文法の基礎（独検4級程度）を学習する。外国語を学ぶことは、言葉を用いて考える基礎的な能力を伸ばしていくことを主たる目的とする。西欧近代を形作るのに大きな力となったドイツ語を学ぶことにより、西欧近代的な思考の枠組みを考えなおす。さらに学生諸君には日本語と英語との比較から、今一度、日本語の特異性を顧みて欲しい。

●授業の位置付け

ドイツ語を学ぶことによって、はっきりした効果が目に見える形ではないものの、強靱で幅広い思考力が培われる。目に見える効果としては、ヨーロッパの主要言語であるドイツ語を学ぶことで、ヨーロッパを視野に入れた国際化に対応できる。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ①音素を把握することができる。
- ②語句を区切って読むことができる。
- ③単語を書くことができる。
- ④個人についての情報を伝えることができる。

4. 授業計画

- 1回目：ドイツおよびドイツ語について
- 2回目：ドイツ語の発音
- 3回目：「おはようございます」ドイツ語のあいさつ、数詞
- 4回目：「タナカマコトと申します①」人称代名詞
- 5回目：「タナカマコトと申します②」動詞の現在人称変化、seinの人称変化
- 6回目：「何をしているの①」habenの人称変化
- 7回目：「何をしているの②」名詞の性、語順
- 8回目：「その帽子はいくらですか①」定冠詞と名詞の変化
- 9回目：「その帽子はいくらですか②」名詞の複数形
- 10回目：発音のテスト
- 11回目：「コーヒーが一杯欲しい①」不定冠詞
- 12回目：「コーヒーが一杯欲しい②」所有冠詞、否定冠詞
- 13回目：「こちらザビーネです①」不規則な動詞①
- 14回目：「こちらザビーネです②」名詞の3格、疑問代名詞
- 15回目：発音のテスト、前期授業内容の総括

5. 評価の方法・基準

授業への取り組み（出席等）30% 発音のテスト20% 期末テスト50%

6. 履修上の注意事項

授業には必ず辞書を持ってくること。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

教科書についているCDを何度も聞いて復習すること。

8. 教科書・参考書

秋田静男ほか「ドイツ語インフォメーション neu2」（朝日出版社）ISBN: 9784255253589

9. オフィスアワー

授業の前後

E-mail: k.hirakawa@uma.bbiq.jp

ドイツ語Ⅰ German I

対象学科（コース）：電気電子・総合システム（人間科学科目）

学年：1年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 渡辺 アンゲリカ

1. 概要

●授業の背景

サッカー、バウムクーヘン、ソーセージ、クラシック音楽、車、エコライフ、古城など、ドイツの文化は日本でも広く親しまれている。

この授業の狙いはヨーロッパで2番目に大きい国ドイツの言葉や文化をABCから学び、様々なメディアを通じてドイツを“体験”し、身近に感じることである。

単語を暗記し文法をマスターしても、外国人に自分の気持ちが伝わらない、相手の気持ちが分からないときがある。考え方や価値観の違いを理解しないと会話が成り立たない可能性もある。ドイツ文化に触れながら、日本との価値観の違いを知り、将来、役に立つ会話を身につけてもらいたい。

●授業の目的

ドイツ語の発音、基礎的な文法、身近な会話表現を学び、さまざまな練習をし、ロールプレイにも挑戦する。ドイツの日常生活や文化を紹介する。

●授業の位置付け

ドイツ語の基礎文法を学びつつ、簡単な日常会話を練習し、外国語で話すことへの抵抗を減らす。

ドイツ語Ⅱまでの1年間で、ドイツ語初級の読み書き、聞き取り、会話ができることを目指す。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ①音素を把握することができる。
- ②語句を区切って読むことができる。
- ③単語を書くことができる。
- ④個人についての情報を伝えることができる。

4. 授業計画

- 第1回 ドイツ語とドイツ語圏について、簡単な自己紹介Ⅰ
- 第2回 飲み物を注文しよう
- 第3回 アルファベット、つづりと発音
- 第4回 挨拶 <国民性や常識の違いに注意>
- 第5回 自己紹介Ⅱ <名前、呼び方、敬語?>
- 第6回 趣味や特技、好き嫌いについて話し合う
- 第7回 つづき
- 第8回 持っている物、欲しい物について話す
- 第9回 買い物のロールプレイ
- 第10回 買い物のロールプレイ
- 第11回 自分の家族を紹介しよう
- 第13回 一緒に温泉へ行こう
- 第14回 ドイツの映画を見よう 現代ドイツの様子を感じ取る
- 第15回 前期の授業の復習

5. 評価の方法・基準

授業への取り組み20%+ロールプレイ20%+期末テスト60%を総合的に評価し、6割以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

授業中の活動に積極的に参加すること。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

復習を欠かさないこと。

- ・授業中に取り上げた文法事項を教科書で確認し、練習問題を解いてみること。
- ・授業時間に行ったロールプレイや会話を身につけていくこと。

8. 教科書・参考書

秋田静男ほか「ドイツ語インフォメーション neu2」（朝日出版社）ISBN: 9784255253589

9. オフィスアワー

木曜日の昼休み（非常勤講師控室）

メールアドレス: angelika_rose_29@yahoo.co.jp

ドイツ語Ⅰ German I

対象学科（コース）：応用化学・マテリアル（人間科学科目）

学年：1 年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位

担当教員名 山本 達夫

1. 概要

●授業の背景

日本で普通に使われる「欧米」という言葉はドイツにはない。ヨーロッパとアメリカが一緒されるのを不思議に思ったり迷惑に感じたりするドイツ人は多い。ドイツ語を、ヨーロッパの文化・ドイツの歴史を踏まえながら学ぶことで、異文化理解の幅を広げたい。

●授業の目的

ドイツ語文法の基礎を習得すること。ドイツ文を流ちょうに音読できるようにすること。

●授業の位置付け

ドイツ語の文法構造を理解し、ドイツ語が正しく発音できるようにする。ドイツの歴史・文化・現代事情の考察を通して日本と自分自身を考える。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ①音素を把握することができる。
- ②語句を区切って読むことができる。
- ③単語を書くことができる。
- ④個人についての情報を伝えることができる。

4. 授業計画

- 第1回 ドイツ語とドイツ語圏について、アルファベット、つづりと発音（1）
- 第2回 アルファベット、つづりと発音（2）
- 第3回 おはようございます！
- 第4回 タナカ マコトと申します（1）
- 第5回 タナカ マコトと申します（2）
- 第6回 何をしているの（1）
- 第7回 何をしているの（2）
- 第8回 その帽子はいくらですか？（1）
- 第9回 その帽子はいくらですか？（2）
- 第10回 発音テスト（1）
- 第11回 コーヒーが一杯欲しい（1）
- 第12回 コーヒーが一杯欲しい（2）
- 第13回 こちらザビーネです（1）
- 第14回 こちらザビーネです（2）
- 第15回 発音テスト（2）、前期授業の確認

5. 評価の方法・基準

授業への取り組み（定刻出席、課題の達成、辞書の持参）30%＋発音テスト20%＋期末テスト50%を総合的に評価し、6割以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- ・辞書で単語・熟語の意味を調べ、ドイツ文を日本語に翻訳してくこと。
- ・ドイツ文の文化・歴史的な背景がわからないときは、ウィキペディアなどの百科事典を活用すること。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

毎回の授業時間中に示す課題を仕上げ、専用のノートに書いてくこと。

8. 教科書・参考書

秋田静男ほか「ドイツ語インフォメーション neu2」（朝日出版社）ISBN: 9784255253589

9. オフィスアワー

授業時間の前後

ドイツ語Ⅱ German II

対象学科（コース）：機械知能・建設社会（人間科学科目）

学年：1 年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位

担当教員名 渡辺 アンゲリカ

1. 概要

●授業の背景

サッカー、バウムクーヘン、ソーセージ、クラシック音楽、車、エコライフ、古城など、ドイツの文化は日本でも広く親しまれている。

この授業の狙いはヨーロッパで2番目に大きい国ドイツの言葉や文化をABCから学び、様々なメディアを通じてドイツを“体験”し、身近に感じることである。

単語を暗記し文法をマスターしても、外国人に自分の気持ちが伝わらない、相手の気持ちが分からないときがある。考え方や価値観の違いを理解しないと会話が成り立たない可能性もある。ドイツ文化に触れながら、日本との価値観の違いを知り、将来、役に立つ会話を身につけてもらいたい。

●授業の目的

ドイツ語の発音、基礎的な文法、身近な会話表現を学び、さまざまな練習をし、ロールプレイにも挑戦する。ドイツの日常生活や文化を紹介する。

●授業の位置付け

ドイツ語の基礎文法を学びつつ、簡単な日常会話を練習し、外国語で話すことへの抵抗を減らす。

ドイツ語Ⅱまでの1年間で、ドイツ語初級の読み書き、聞き取り、会話ができることを目指す。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ①音素を把握することができる。
- ②語句を区切って読むことができる。
- ③単語を書くことができる。
- ④個人についての情報を伝えることができる。

4. 授業計画

- 第1回 前期のまとめ・復習
- 第2回 カフェにて
- 第3回 迷子になったらどうしよう？ 道案内
- 第4回 自分の部屋を紹介しよう
- 第5回 ホテルでの宿泊Ⅰ
- 第6回 ホテルでの宿泊Ⅱ
- 第7回 電車の旅Ⅰ
- 第8回 電車の旅Ⅱ
- 第9回 ドイツ人の食生活
- 第10回 クリスマスの手紙を書いてみよう
- 第11回 過去のことを話そうⅠ
- 第12回 過去のことを話そうⅡ
- 第13回 自分の生い立ち
- 第14回 ドイツの映画をみよう 現代ドイツの様子を感じ取る
- 第15回 後期の授業の復習

5. 評価の方法・基準

授業への取り組み20%＋ロールプレイ20%＋期末テスト60%を総合的に評価し、6割以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

授業中の活動に積極的に参加すること。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

復習を欠かさないこと。

- ・授業中に取り上げた文法事項を教科書で確認し、練習問題を解いてみること。
- ・授業時間に行ったロールプレイや会話を身につけていくこと。

8. 教科書・参考書

秋田静男ほか「ドイツ語インフォメーション neu2」（朝日出版社）ISBN: 9784255253589

9. オフィスアワー

木曜日の昼休み（非常勤講師控室）

メールアドレス：angelika_rose_29@yahoo.co.jp

ドイツ語Ⅱ German II

対象学科（コース）：機械知能・建設社会（人間科学科目）
 学年：1 年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位
 担当教員名 平川 要

1. 概要

●授業の背景

英語圏以外の文化や言語、ものの考え方・見方を学ぶことによって複眼的な思想を培う。ドイツは西欧近代思想の中心的な担い手であったが、現在においても EU の旗頭としてヨーロッパの政治・経済・文化の発展に中心的な役割を果たしている。学生諸君には、学生時代に直接ヨーロッパの伝統に触れ、日本の将来のあり方を見つめ直してほしい。

●授業の目的

ドイツ語文法の基礎（独検 4 級程度）を学習する。外国語を学ぶことにより、言葉を用いて考える基礎的な能力を伸ばしていくことが主たる目的である。西欧近代を形作るのに大きな力となったドイツ語を学ぶことにより、西欧近代的な思考の枠組みを視野に入れる。さらに日本語と英語との比較から、今一度、日本語の特異性を顧みる。

●授業の位置付け

「ドイツ語Ⅰ」に引き続きドイツ語の基礎（独検 4 級程度）を学習する。ドイツ語を学ぶことによって、強靱で幅広い思考力、複眼的なものの見方を培う。さらにヨーロッパの主要言語であるドイツ語を学ぶことで、ヨーロッパを視野に入れた国際化に対応できるようにする。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ① ゆっくりははっきりと話されれば、単語を聞き取ることができる。
- ② 基本構文を理解することができる。
- ③ 短い言い回しを書き写すことができる。
- ④ 身近な話題について簡単な応答をすることができる。

4. 授業計画

- 1 回目：「何を注文する？①」 不規則な動詞②
- 2 回目：「何を注文する？②」 人称代名詞、非人称の es
- 3 回目：「市庁舎へはどう行ったらいいのですか？①」 前置詞
- 4 回目：「市庁舎へはどう行ったらいいのですか？②」 前置詞と定冠詞の融合形
- 5 回目：「歩いてホテルまで行くことができますか？①」 話法の助動詞の人称変化
- 6 回目：「歩いてホテルまで行くことができますか？②」 話法の助動詞の意味
- 7 回目：「その列車は何時に発車しますか？①」 分離動詞
- 8 回目：「その列車は何時に発車しますか？②」 命令形、時刻表現
- 9 回目：「音楽に興味があります」 再帰代名詞、再帰動詞
- 10 回目：発音のテスト
- 11 回目：「とてもよかった！①」 動詞の 3 基本形
- 12 回目：「とてもよかった！②」 過去人称変化
- 13 回目：「おいしかった！①」 現在完了
- 14 回目：「おいしかった！②」 分離動詞の現在完了
- 15 回目：発音のテスト、後期授業内容の総括

5. 評価の方法・基準

授業への取り組み（出席等）30% 発音のテスト 20% 期末テスト 50%

6. 履修上の注意事項

授業には必ず辞書を持ってくる。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

教科書についている CD を何度も聞いて復習すること。

8. 教科書・参考書

秋田静男ほか「ドイツ語インフォメーション neu2」（朝日出版社）ISBN: 9784255253589

9. オフィスアワー

授業の前後

E-mail: k.hirakawa@uma.bbiq.jp

ドイツ語Ⅱ German II

対象学科（コース）：電気電子・総合システム（人間科学科目）
 学年：1 年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位
 担当教員名 渡辺 アンゲリカ

1. 概要

●授業の背景

サッカー、バウムクーヘン、ソーセージ、クラシック音楽、車、エコライフ、古城など、ドイツの文化は日本でも広く親しまれている。

この授業の狙いはヨーロッパで 2 番目に大きい国ドイツの言葉や文化を ABC から学び、様々なメディアを通じてドイツを“体験”し、身近に感じることである。

単語を暗記し文法をマスターしても、外国人に自分の気持ちが伝わらない、相手の気持ちが分からないときがある。考え方や価値観の違いを理解しないと会話が成り立たない可能性もある。ドイツ文化に触れながら、日本との価値観の違いを知り、将来、役に立つ会話を身につけてもらいたい。

●授業の目的

ドイツ語の発音、基礎的な文法、身近な会話表現を学び、さまざまな練習をし、ロールプレイにも挑戦する。ドイツの日常生活や文化を紹介する。

●授業の位置付け

ドイツ語の基礎文法を学びつつ、簡単な日常会話を練習し、外国語で話すことへの抵抗を減らす。

ドイツ語Ⅱまでの 1 年間で、ドイツ語初級の読み書き、聞き取り、会話ができることを目指す。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ① 音素を把握することができる。
- ② 語句を区切って読むことができる。
- ③ 単語を書くことができる。
- ④ 個人についての情報を伝えることができる。

4. 授業計画

- 第 1 回 前期のまとめ・復習
- 第 2 回 カフェにて
- 第 3 回 迷子になったらどうしよう？ 道案内
- 第 4 回 自分の部屋を紹介しよう
- 第 5 回 ホテルでの宿泊 I
- 第 6 回 ホテルでの宿泊 II
- 第 7 回 電車の旅 I
- 第 8 回 電車の旅 II
- 第 9 回 ドイツ人の食生活
- 第 10 回 クリスマスの手紙を書いてみよう
- 第 11 回 過去のことを話そう I
- 第 12 回 過去のことを話そう II
- 第 13 回 自分の生い立ち
- 第 14 回 ドイツの映画をみよう 現代ドイツの様子を感じ取る
- 第 15 回 後期の授業の復習

5. 評価の方法・基準

授業への取り組み 20% + ロールプレイ 20% + 期末テスト 60% を総合的に評価し、6 割以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

授業中の活動に積極的に参加すること。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

復習を欠かさないこと。

- ・授業中に取り上げた文法事項を教科書で確認し、練習問題を解いてみる。
- ・授業時間に行ったロールプレイや会話を身につけていくこと。

8. 教科書・参考書

秋田静男ほか「ドイツ語インフォメーション neu2」（朝日出版社）ISBN: 9784255253589

9. オフィスアワー

木曜日の昼休み（非常勤講師控室）

メールアドレス: angelika_rose_29@yahoo.co.jp

ドイツ語Ⅱ German Ⅱ

対象学科（コース）：応用化学・マテリアル（人間科学科目）

学年：1 年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位

担当教員名 山本 達夫

1. 概要

●授業の背景

日本で普通に使われる「欧米」という言葉はドイツにはない。ヨーロッパとアメリカが一緒されるのを不思議に思ったり迷惑に感じたりするドイツ人は多い。ドイツ語を、ヨーロッパの文化・ドイツの歴史を踏まえながら学ぶことで、異文化理解の幅を広げたい。

●授業の目的

ドイツ語文法の基礎を習得すること。ドイツ文を流ちょうに音読できるようにすること。

●授業の位置付け

ドイツ語の文法構造を理解し、ドイツ語が正しく発音できるようにする。ドイツの歴史・文化・現代事情の考察を通して日本と自分自身を考える。ドイツ語技能検定試験（独検）4 級合格を目指す。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ① ゆっくりははっきりと話されれば、単語を聞き取ることができる。
- ② 基本構文を理解することができる。
- ③ 短い言い回しを書き写すことができる。
- ④ 身近な話題について簡単な応答をすることができる。

4. 授業計画

- 第1回 何を注文する？（1）
- 第2回 何を注文する？（2）
- 第3回 市庁舎にはどう行ったらいいですか？（1）
- 第4回 市庁舎にはどう行ったらいいですか？（2）
- 第5回 歩いてホテルまで行くことができますか？（1）
- 第6回 歩いてホテルまで行くことができますか？（2）
- 第7回 その列車は何時に発車しますか（1）
- 第8回 その列車は何時に発車しますか（2）
- 第9回 発音テスト（1）
- 第10回 音楽に興味があります
- 第11回 とてもよかった！（1）
- 第12回 とてもよかった！（2）
- 第13回 おいしかった！（1）
- 第14回 おいしかった！（2）
- 第15回 発音テスト（2）、後期授業の確認

5. 評価の方法・基準

授業への取り組み（定刻出席、課題の達成、辞書の持参）30% + 発音テスト 20% + 期末テスト 50% を総合的に評価し、6 割以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

- ・辞書で単語・熟語の意味を調べ、ドイツ文を日本語に翻訳してくこと。
- ・ドイツ文の文化・歴史的な背景がわからないときは、ウィキペディアなどの百科事典を活用すること。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

毎回の授業時間中に示す課題を仕上げ、専用のノートに書いてくこと。

8. 教科書・参考書

秋田静男ほか「ドイツ語インフォメーション neu2」（朝日出版社）ISBN: 9784255253589

9. オフィスアワー

授業時間の前後

ドイツ語Ⅲ German Ⅲ

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位

担当教員名 未定

1. 概要

●授業の背景

人間の思考は言語によって作り出される。すなわちどの言語によって物事を考えるか、が肝心である。異文化理解には、その言語に対する知識が欠かせない。言語と文化に関する理解を深め、国際性とコミュニケーション能力の向上を図る。国際性とは世界の多様性と多様な世界との付き合い方を学ぶことであり、コミュニケーション能力は多様な世界の中であって個人や社会との相互理解に不可欠で、共に必須の教養的要素である。

●授業の目的

音声、文字の両面からドイツ語の基礎を総合的に学習することによってドイツ語の表現力を養成し、言語と文化の関連を理解する。

●授業の位置付け

1 年次に行われた「ドイツ語Ⅰ、Ⅱ」（独検 4 級程度）に引き続きドイツ語の基礎を学習するとともに、中級ドイツ語（独検 3 級程度）に挑戦する。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ① 具体的な指示を聞き取ることができる。
- ② 平易なテキストを理解することができる。
- ③ 基礎語彙を使って短文を書くことができる。
- ④ 要求や意思を簡単に伝えることができる。

4. 授業計画

- 第1回 ドイツ語Ⅰ・Ⅱの復習、発音の復習、日常使う単語の確認
- 第2回 出会いと自己紹介（1）
- 第3回 出会いと自己紹介（2）
- 第4回 家族について尋ねる（1）
- 第5回 家族について尋ねる（2）
- 第6回 明日の予定を尋ねる（1）
- 第7回 明日の予定を尋ねる（2）
- 第8回 買い物に行く（1）
- 第9回 買い物に行く（2）
- 第10回 発音テスト（1）
- 第11回 週末の予定を尋ねる（1）
- 第12回 週末の予定を尋ねる（2）
- 第13回 趣味について尋ねる（1）
- 第14回 趣味について尋ねる（2）
- 第15回 発音テスト（2）、前期授業の確認

5. 評価の方法・基準

授業への取り組み（出席等）30%、発音のテスト 20%、期末テスト 50%

6. 履修上の注意事項

- ・授業には必ず辞書を持参すること。
- ・辞書で単語・熟語の意味を調べ、ドイツ文を日本語に翻訳してくこと。
- ・ドイツ文の文化・歴史的な背景がわからないときは、ウィキペディアなどの百科事典を活用すること。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

教科書付属のCD を何度も聞いて復習すること。
毎回の課題を着実にを行うこと。

8. 教科書・参考書

予定：上野也利、本田雅也「パノラマ 初級ドイツ語ゼミナール〔改訂版〕」（白水社、2015 年）ISBN: 9784560064146

9. オフィスアワー

授業時間の前後

ドイツ語Ⅳ German IV

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位

担当教員名 未定

1. 概要

●授業の背景

人間の思考は言語によって作りだされる。すなわち、どの言語によって物事を考えるか、が肝心である。異文化理解には、その言語に対する知識が欠かせない。言語と文化に関する理解を深め、国際性とコミュニケーション能力の向上を図る。国際性とは世界の多様性と多様な世界との付き合い方を学ぶことであり、コミュニケーション能力は多様な世界の中であって個人や社会との相互理解に不可欠で、共に必須の教養的要素である。

●授業の目的

音声、文字の両面からドイツ語の基礎を総合的に学習することによってドイツ語の表現力を養成し、言語と文化の関連を理解する。

●授業の位置付け

前期「ドイツ語Ⅲ」に引き続きドイツ語の基礎を学習するとともに、中級ドイツ語（独検3級程度）に挑戦する。学生職君には、授業の枠を超えて、積極的に直接ドイツの伝統・文化に触れて欲しい。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ① 日常に必要な情報を聞き取ることができる。
- ② 説明的な文章の要点を読み取ることができる。
- ③ 接続表現を用いて文をつなげて書くことができる。
- ④ 自分に直接関連のあるトピックについて話すことができる。

4. 授業計画

- 第1回 昼食を食べに行く（1）
- 第2回 昼食を食べに行く（2）
- 第3回 駅の窓口で尋ねる（1）
- 第4回 駅の窓口で尋ねる（2）
- 第5回 休暇の予定を尋ねる（1）
- 第6回 休暇の予定を尋ねる（2）
- 第7回 旅の体験を語る（1）
- 第8回 旅の体験を語る（2）
- 第9回 旅の体験を語る（3）
- 第10回 発音テスト（1）
- 第11回 意見を交換する（1）
- 第12回 意見を交換する（2）
- 第13回 意見を交換する（3）
- 第14回 別れと再会の約束
- 第15回 発音テスト（2）、後期授業の確認

5. 評価の方法・基準

授業への取り組み（出席等）30%、発音のテスト20%、期末テスト50%

6. 履修上の注意事項

- ・授業には必ず辞書を持参すること。
- ・辞書で単語・熟語の意味を調べ、ドイツ文を日本語に翻訳してくこと。
- ・ドイツ文の文化・歴史的な背景がわからないときは、ウィキペディアなどの百科事典を活用すること。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

教科書付属のCDを何度も聞いて復習すること。
毎回の課題を着実にすること。

8. 教科書・参考書

予定：上野也利、本田雅也「パノラマ 初級ドイツ語ゼミナール〔改訂版〕」（白水社、2015年）ISBN: 9784560064146

9. オフィスアワー

授業時間の前後

中国語Ⅰ Chinese I

対象学科（コース）：機械知能・建設社会（人間科学科目）

学年：1年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 一木 達彦

1. 概要

ここ数年の間に日本と中国の交流はますます盛んになっている。また、国際的にも中国の存在が大きくクローズアップされてきており、私たち日本人にとって中国は目を離すことのできない国になってきている。そんな中国が発信する情報を受け止めるためには中国語の学習が不可欠である。

漢字を用いているため、日本人にとって取っつきやすい言語ではあるが、その一方で発音は日本語の体系とは全く異なっているため、入門期にはこの習得に多くの時間をかけることになる。しかしこの難関を通り過ぎれば、文法は欧米諸国の言語に比べればはるかに簡単だと感じることができるだろう。本講義を通じて中国語の初歩的なレベルに達し、今後ますます盛んになるであろう日中の交流に役立ててもらいたい。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ①音素を把握することができる。
- ②語句を区切って読むことができる。
- ③単語を書くことができる。
- ④個人についての情報を伝えることができる。

4. 授業計画

1. 中国語概説
2. 発音1 声調、単母音、複母音
3. 発音2 声母
4. 発音3 鼻音を伴う母音
5. 発音4 声調変化など
6. 発音のまとめ
7. 第1課 “是”を使った文、名前の言い方など
8. 第1課 復習
9. 第2課 “的”の使い方、疑問詞疑問文
10. 第2課 復習
11. 第3課 動詞述語文、連動文、副詞“也”
12. 第3課 復習
13. 第4課 形容詞述語文、助動詞“想”、反復疑問文
14. 第4課 復習
15. 復習

5. 評価の方法・基準

定期試験（70%）、小テスト・出席点（30%） 60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

出席は2/3以上なければ履修資格を失う。
個別の相談については人間科学事務室に連絡先を聞き、必要に応じて行うこと。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

各回に指示する教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。
一課終わる毎に必ずその課で学んだことを復習しておくこと。
次の授業で確認のための小テストを行う。

8. 教科書・参考書

教科書：相原茂、陳淑梅、飯田敦子『日中いぶこみ広場』（朝日出版社）ISBN: 9784255451930

9. オフィスアワー

yimu77@yahoo.co.jp

中国語Ⅰ Chinese I

対象学科（コース）：機械知能・建設社会（人間科学科目）

学年：1年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 李 郁蕙

1. 概要

英語に次ぐ二つ目の外国語を選択するにあたって、皆さんはどんな目的意識を持っているのか。将来就職のため？それとも、趣味や教養を身に付けるため？いずれにせよ、受験勉強から解放され、これまでとは違った形で取り組んでみたい気持ちをお手伝いするのが本講義の趣旨である。

読んで分かるだけでなく、話して伝わることを目標に、実際のコミュニケーションに必要なスキルを習得する。方法として、授業中ではテキストの音読やペア、グループ活動を通じて発音を鍛えるほか、eラーニングを導入し、授業以外の時間でも聴解練習が行えるようにする。さらに、視聴覚教材の活用により、中国や台湾など中華圏の社会文化に対する理解を深め、同時に日本を振り返る機会としたい。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ①音素を把握することができる。
- ②語句を区切って読むことができる。
- ③単語を書くことができる。
- ④個人についての情報を伝えることができる。

4. 授業計画

1. 発音
2. 発音
3. 発音
4. 発音
5. 第1課
6. 第1課
7. テスト（発音）
8. 第2課
9. 第2課
10. 第3課
11. 第3課
12. 第4課
13. 第4課
14. テスト（1-4）
15. まとめ

5. 評価の方法・基準

出席 20%、音読 10%、試験 70%

6. 履修上の注意事項

講義回数の2/3以上出席すること。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

既習した本文の音読練習をしておくこと。

8. 教科書・参考書

教科書：相原茂、陳淑梅、飯田敦子『日中いぶこみ広場』（朝日出版社）ISBN: 9784255451930

9. オフィスアワー

メール：yuhuilee@dhs.kyutech.ac.jp

研究室：総合教育棟 413

中国語Ⅰ Chinese I

対象学科（コース）：電気電子・総合システム（人間科学科目）
 学年：1 年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位
 担当教員名 一木 達彦

1. 概要

ここ数年の間に日本と中国の交流はますます盛んになっている。また、国際的にも中国の存在が大きくクローズアップされてきており、私たち日本人にとって中国は目を離すことのできない国になってきている。そんな中国が発信する情報を受け止めるためには中国語の学習が不可欠である。

漢字を用いているため、日本人にとって取っつきやすい言語ではあるが、その一方で発音は日本語の体系とは全く異なっているため、入門期にはこの習得に多くの時間をかけることになる。しかしこの難関を通り過ぎれば、文法は欧米諸国の言語に比べればはるかに簡単だと感じることができるだろう。本講義を通じて中国語の初歩的なレベルに達し、今後ますます盛んになるであろう日中の交流に役立ててもらいたい。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ①音素を把握することができる。
- ②語句を区切って読むことができる。
- ③単語を書くことができる。
- ④個人についての情報を伝えることができる。

4. 授業計画

1. 中国語概説
2. 発音 1 声調、単母音、複母音
3. 発音 2 声母
4. 発音 3 鼻音を伴う母音
5. 発音 4 声調変化など
6. 発音のまとめ
7. 第 1 課 “是” を使った文、名前の言い方など
8. 第 1 課 復習
9. 第 2 課 “的” の使い方、疑問詞疑問文
10. 第 2 課 復習
11. 第 3 課 動詞述語文、連動文、副詞 “也”
12. 第 3 課 復習
13. 第 4 課 形容詞述語文、助動詞 “想”、反復疑問文
14. 第 4 課 復習
15. 復習

5. 評価の方法・基準

定期試験（70%）、小テスト・出席点（30%） 60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

出席は 2 / 3 以上なければ履修資格を失う。
 個別の相談については人間科学事務室に連絡先を聞き、必要に応じて行うこと。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

各回に指示する教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。
 一課終わる毎に必ずその課で学んだことを復習しておくこと。
 次の授業で確認のための小テストを行う。

8. 教科書・参考書

教科書：相原茂、陳淑梅、飯田敦子『日中いぶこみ広場』（朝日出版社）ISBN: 9784255451930

9. オフィスアワー

yimu77@yahoo.co.jp

中国語Ⅰ Chinese I

対象学科（コース）：電気電子・総合システム（人間科学科目）
 学年：1 年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位
 担当教員名 李 郁蕙

1. 概要

英語に次ぐ二つ目の外国語を選択するにあたって、皆さんはどんな目的意識を持っているのか。将来就職のため？それとも、趣味や教養を身に付けるため？いずれにせよ、受験勉強から解放され、これまでとは違った形で取り組んでみたい気持ちをお手伝いするのが本講義の趣旨である。

読んで分かるだけでなく、話して伝わることを目標に、実際のコミュニケーションに必要なスキルを習得する。方法として、授業中ではテキストの音読やペア、グループ活動を通じて発音を鍛えるほか、e ラーニングを導入し、授業以外の時間でも聴解練習が行えるようにする。さらに、視聴覚教材の活用により、中国や台湾など中華圏の社会文化に対する理解を深め、同時に日本を振り返る機会としたい。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ①音素を把握することができる。
- ②語句を区切って読むことができる。
- ③単語を書くことができる。
- ④個人についての情報を伝えることができる。

4. 授業計画

1. 発音
2. 発音
3. 発音
4. 発音
5. 第 1 課
6. 第 1 課
7. テスト（発音）
8. 第 2 課
9. 第 2 課
10. 第 3 課
11. 第 3 課
12. 第 4 課
13. 第 4 課
14. テスト（1 - 4）
15. まとめ

5. 評価の方法・基準

出席 20%、音読 10%、試験 70%

6. 履修上の注意事項

講義回数の 2 / 3 以上出席すること。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

既習した本文の音読練習をしておくこと。

8. 教科書・参考書

教科書：相原茂、陳淑梅、飯田敦子『日中いぶこみ広場』（朝日出版社）ISBN: 9784255451930

9. オフィスアワー

メール：yuhuilee@dhs.kyutech.ac.jp

研究室：総合教育棟 413

中国語Ⅰ Chinese I

対象学科（コース）：応用化学・マテリアル（人間科学科目）

学年：1 年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位

担当教員名 李 郁蕙

1. 概要

英語に次ぐ二つ目の外国語を選択するにあたって、皆さんはどんな目的意識を持っているのか。将来就職のため？それとも、趣味や教養を身に付けるため？いずれにせよ、受験勉強から解放され、これまでとは違った形で取り組んでみたい気持ちをお手伝いするのが本講義の趣旨である。

読んで分かるだけでなく、話して伝えることを目標に、実際のコミュニケーションに必要なスキルを習得する。方法として、授業中ではテキストの音読やペア、グループ活動を通じて発音を鍛えるほか、e ラーニングを導入し、授業以外の時間でも聴解練習が行えるようにする。さらに、視聴覚教材の活用により、中国や台湾など中華圏の社会文化に対する理解を深め、同時に日本を振り返る機会としたい。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ①音素を把握することができる。
- ②語句を区切って読むことができる。
- ③単語を書くことができる。
- ④個人についての情報を伝えることができる。

4. 授業計画

1. 発音
2. 発音
3. 発音
4. 発音
5. 第1課
6. 第1課
7. テスト（発音）
8. 第2課
9. 第2課
10. 第3課
11. 第3課
12. 第4課
13. 第4課
14. テスト（1－4）
15. まとめ

5. 評価の方法・基準

出席 20%、音読 10%、試験 70%

6. 履修上の注意事項

講義回数の 2 / 3 以上出席すること。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

既習した本文の音読練習をしておくこと。

8. 教科書・参考書

教科書：相原茂、陳淑梅、飯田敦子『日中いぶこみ広場』（朝日出版社）ISBN: 9784255451930

9. オフィスアワー

メール：yuhuilee@dhs.kyutech.ac.jp
研究室：総合教育棟 413

中国語Ⅱ Chinese II

対象学科（コース）：機械知能・建設社会（人間科学科目）

学年：1 年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位

担当教員名 一木 達彦

1. 概要

ここ数年の間に日本と中国の交流はますます盛んになっている。また、国際的にも中国の存在が大きくクローズアップされてきており、私たち日本人にとって中国は目を離すことのできない国になってきている。そんな中国が発信する情報を受け止めるためには中国語の学習が不可欠である。

漢字を用いているため、日本人にとって取っつきやすい言語ではあるが、その一方で発音は日本語の体系とは全く異なっているため、入門期にはこの習得に多くの時間をかけることになる。しかしこの難関を通り過ぎれば、文法は欧米諸国の言語に比べればはるかに簡単だと感じることができよう。本講義を通じて中国語の初歩的なレベルに達し、今後ますます盛んになるであろう日中の交流に役立ててもらいたい。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ①ゆっくりははっきりと話されれば、単語を聞き取ることができる。
- ②基本構文を理解することができる。
- ③短い言い回しを書き写すことができる。
- ④身近な話題について簡単な応答をすることができる。

4. 授業計画

1. 復習
2. 第5課 年齢の言い方、動詞“有”、比較の言い方、数詞
3. 第5課 復習4の文、“把”構文
4. 第6課 経験を表す“過”、動詞“喜歡”、助動詞“要”、数詞
5. 第6課 復習
6. 第7課 年月日・曜日・時刻の言い方、前置詞“在”、文末の“了”
7. 第7課 復習
8. 第8課 前置詞“從”・“往”、動詞に付く“了”、時間量の言い方、量詞
9. 第8課 復習
10. 第9課 動詞の“在”、“是～的”構文、進行、方位詞
11. 第9課 復習
12. 第10課 主述述語文、助動詞“能”、結果補語
13. 第10課 復習
14. まとめ1
15. まとめ2

5. 評価の方法・基準

定期試験（70%）、小テスト・出席点（30%）60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

出席は 2 / 3 以上なければ履修資格を失う。

個別の相談については人間科学事務室に連絡先を聞き、必要に応じて行うこと。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

各回に指示する教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。

一課終わる毎に必ずその課で学んだことを復習しておくこと。

次の授業で確認のための小テストを行う。

8. 教科書・参考書

教科書：相原茂、陳淑梅、飯田敦子『日中いぶこみ広場』（朝日出版社）ISBN: 9784255451930

9. オフィスアワー

yimu77@yahoo.co.jp

中国語Ⅱ Chinese II

対象学科（コース）：機械知能・建設社会（人間科学科目）

学年：1 年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位

担当教員名 李 郁蕙

1. 概要

英語に次ぐ二つ目の外国語を選択するにあたって、皆さんはどんな目的意識を持っているのか。将来就職のため？それとも、趣味や教養を身に付けるため？いずれにせよ、受験勉強から解放され、これまでとは違った形で取り組んでみたい気持ちをお手伝いするのが本講義の趣旨である。

読んで分かるだけでなく、話して伝わることを目標に、実際のコミュニケーションに必要なスキルを習得する。方法として、授業中ではテキストの音読やペア、グループ活動を通じて発音を鍛えるほか、e ラーニングを導入し、授業以外の時間でも聴覚練習が行えるようにする。さらに、視聴覚教材の活用により、中国や台湾など中華圏の社会文化に対する理解を深め、同時に日本を振り返る機会としたい。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ① ゆっくりははっきりと話されれば、単語を聞き取ることができる。
- ② 基本構文を理解することができる。
- ③ 短い言い回しを書き写すことができる。
- ④ 身近な話題について簡単な応答をすることができる。

4. 授業計画

1. 第5課
2. 第5課
3. 第6課
4. 第6課
5. 第7課
6. 第7課
7. テスト（5－7）
8. 第8課
9. 第8課
10. 第9課
11. 第9課
12. 第10課
13. 第10課
14. テスト（8－10）
15. まとめ

5. 評価の方法・基準

出席 20%、音読 10%、試験 70%

6. 履修上の注意事項

講義回数の 2 / 3 以上出席すること。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

既習した本文の音読練習をしておくこと。

8. 教科書・参考書

教科書：相原茂、陳淑梅、飯田敦子『日中いぶこみ広場』（朝日出版社）ISBN: 9784255451930

9. オフィスアワー

メール：yuhuilee@dhs.kyutech.ac.jp

研究室：総合教育棟 413

中国語Ⅱ Chinese II

対象学科（コース）：電気電子・総合システム（人間科学科目）

学年：1 年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位

担当教員名 一木 達彦

1. 概要

ここ数年の間に日本と中国の交流はますます盛んになっている。また、国際的にも中国の存在が大きくクローズアップされてきており、私たち日本人にとって中国は目を離すことのできない国になってきている。そんな中国が発信する情報を受け止めるためには中国語の学習が不可欠である。

漢字を用いているため、日本人にとって取っつきやすい言語ではあるが、その一方で発音は日本語の体系とは全く異なっているため、入門期にはこの習得に多くの時間をかけることになる。しかしこの難関を通り過ぎれば、文法は欧米諸国の言語に比べればはるかに簡単だと感じることができるだろう。本講義を通じて中国語の初歩的なレベルに達し、今後ますます盛んになるであろう日中の交流に役立ててもらいたい。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ① ゆっくりははっきりと話されれば、単語を聞き取ることができる。
- ② 基本構文を理解することができる。
- ③ 短い言い回しを書き写すことができる。
- ④ 身近な話題について簡単な応答をすることができる。

4. 授業計画

1. 復習
2. 第5課 年齢の言い方、動詞“有”、比較の言い方、数詞
3. 第5課 復習4の文、“把”構文
4. 第6課 経験を表す“過”、動詞“喜歡”、助動詞“要”、数詞
5. 第6課 復習
6. 第7課 年月日・曜日・時刻の言い方、前置詞“在”、文末の“了”
7. 第7課 復習
8. 第8課 前置詞“從”・“往”、動詞に付く“了”、時間量の言い方、量詞
9. 第8課 復習
10. 第9課 動詞の“在”、“是～的”構文、進行、方位詞
11. 第9課 復習
12. 第10課 主述述語文、助動詞“能”、結果補語
13. 第10課 復習
14. まとめ1
15. まとめ2

5. 評価の方法・基準

定期試験（70%）、小テスト・出席点（30%） 60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

出席は 2 / 3 以上なければ履修資格を失う。

個別の相談については人間科学事務室に連絡先を聞き、必要に応じて行うこと。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

各回に指示する教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。

一課終わる毎に必ずその課で学んだことを復習しておくこと。

次の授業で確認のための小テストを行う。

8. 教科書・参考書

教科書：相原茂、陳淑梅、飯田敦子『日中いぶこみ広場』（朝日出版社）ISBN: 9784255451930

9. オフィスアワー

yimu77@yahoo.co.jp

中国語Ⅱ Chinese II

対象学科（コース）：電気電子・総合システム（人間科学科目）
 学年：1 年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位
 担当教員名 李 郁蕙

1. 概要

英語に次ぐ二つ目の外国語を選択するにあたって、皆さんはどんな目的意識を持っているのか。将来就職のため？それとも、趣味や教養を身に付けるため？いずれにせよ、受験勉強から解放され、これまでとは違った形で取り組んでみたい気持ちをお手伝いするのが本講義の趣旨である。

読んで分かるだけでなく、話して伝えることを目標に、実際のコミュニケーションに必要なスキルを習得する。方法として、授業中ではテキストの音読やペア、グループ活動を通じて発音を鍛えるほか、e ラーニングを導入し、授業以外の時間でも聴解練習が行えるようにする。さらに、視聴覚教材の活用により、中国や台湾など中華圏の社会文化に対する理解を深め、同時に日本を振り返る機会としたい。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ① ゆっくりははっきりと話されれば、単語を聞き取ることができる。
- ② 基本構文を理解することができる。
- ③ 短い言い回しを書き写すことができる。
- ④ 身近な話題について簡単な応答をすることができる。

4. 授業計画

1. 第5 課
2. 第5 課
3. 第6 課
4. 第6 課
5. 第7 課
6. 第7 課
7. テスト（5－7）
8. 第8 課
9. 第8 課
10. 第9 課
11. 第9 課
12. 第10 課
13. 第10 課
14. テスト（8－10）
15. まとめ

5. 評価の方法・基準

出席 20%、音読 10%、試験 70%

6. 履修上の注意事項

講義回数の 2 / 3 以上出席すること。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

既習した本文の音読練習をしておくこと。

8. 教科書・参考書

教科書：相原茂、陳淑梅、飯田敦子『日中いぶこみ広場』（朝日出版社）ISBN: 9784255451930

9. オフィスアワー

メール：yuhuilee@dhs.kyutech.ac.jp
 研究室：総合教育棟 413

中国語Ⅱ Chinese II

対象学科（コース）：応用化学・マテリアル（人間科学科目）
 学年：1 年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位
 担当教員名 李 郁蕙

1. 概要

英語に次ぐ二つ目の外国語を選択するにあたって、皆さんはどんな目的意識を持っているのか。将来就職のため？それとも、趣味や教養を身に付けるため？いずれにせよ、受験勉強から解放され、これまでとは違った形で取り組んでみたい気持ちをお手伝いするのが本講義の趣旨である。

読んで分かるだけでなく、話して伝えることを目標に、実際のコミュニケーションに必要なスキルを習得する。方法として、授業中ではテキストの音読やペア、グループ活動を通じて発音を鍛えるほか、e ラーニングを導入し、授業以外の時間でも聴解練習が行えるようにする。さらに、視聴覚教材の活用により、中国や台湾など中華圏の社会文化に対する理解を深め、同時に日本を振り返る機会としたい。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ① ゆっくりははっきりと話されれば、単語を聞き取ることができる。
- ② 基本構文を理解することができる。
- ③ 短い言い回しを書き写すことができる。
- ④ 身近な話題について簡単な応答をすることができる。

4. 授業計画

1. 第5 課
2. 第5 課
3. 第6 課
4. 第6 課
5. 第7 課
6. 第7 課
7. テスト（5－7）
8. 第8 課
9. 第8 課
10. 第9 課
11. 第9 課
12. 第10 課
13. 第10 課
14. テスト（8－10）
15. まとめ

5. 評価の方法・基準

出席 20%、音読 10%、試験 70%

6. 履修上の注意事項

講義回数の 2 / 3 以上出席すること。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

既習した本文の音読練習をしておくこと。

8. 教科書・参考書

教科書：相原茂、陳淑梅、飯田敦子『日中いぶこみ広場』（朝日出版社）ISBN: 9784255451930

9. オフィスアワー

メール：yuhuilee@dhs.kyutech.ac.jp
 研究室：総合教育棟 413

中国語Ⅲ Chinese III

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位

担当教員名 未定

1. 概要

中国語ⅠⅡで習得した内容を確認しながら、新しい語彙や文法を学習し、初級から中級へのステップアップを目指す。読む・書く・聞く・話すの4つの技能をバランスよく伸ばし、日常生活に役立つ基礎的な運用能力を養っていく。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ①具体的な指示を聞き取ることができる。
- ②平易なテキストを理解することができる。
- ③基礎語彙を使って単文を書くことができる。
- ④要求や意思を簡単に伝えることができる。

4. 授業計画

1. 第11課
2. 第11課
3. 第12課
4. 第12課
5. 第13課
6. 第13課
7. テスト（11－13）
8. 第14課
9. 第14課
10. 第15課
11. 第15課
12. 第16課
13. 第16課
14. テスト（14－16）
15. まとめ

5. 評価の方法・基準

開講時に説明する。

6. 履修上の注意事項

講義回数の2／3以上出席すること。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

開講時に指示する。

8. 教科書・参考書

教科書：相原茂、陳淑梅、飯田敦子『日中いぶこみ広場』（朝日出版社）ISBN: 9784255451930

9. オフィスアワー

開講時に説明する。

中国語Ⅳ Chinese IV

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位

担当教員名 未定

1. 概要

中国語ⅠⅡで習得した内容を確認しながら、新しい語彙や文法を学習し、初級から中級へのステップアップを目指す。読む・書く・聞く・話すの4つの技能をバランスよく伸ばし、日常生活に役立つ基礎的な運用能力を養っていく。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ①日常に必要な情報を聞き取ることができる。
- ②説明的な文章の要点を読み取ることができる。
- ③接続表現を用いて文をつなげて書くことができる。
- ④自分に直接関連のあるトピックについて話すことができる。

4. 授業計画

1. 第1課
2. 第2課
3. 第3課
4. 第4課
5. 第5課
6. 第6課
7. テスト（1－6）
8. 第7課
9. 第8課
10. 第9課
11. 第10課
12. 第11課
13. 第12課
14. テスト（7－12）
15. まとめ

5. 評価の方法・基準

開講時に説明する。

6. 履修上の注意事項

講義回数の2／3以上出席すること。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

開講時に指示する。

8. 教科書・参考書

開講時に指示する。

9. オフィスアワー

開講時に説明する。

フランス語Ⅰ French I

対象学科（コース）：機械知能・建設社会（人間科学科目）

学年：1 年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位

担当教員名 コモン ティエリ

1. 概要

フランス語の初級会話と文法を学ぶ。アルファベットの読みからはじめ、挨拶や自己紹介の方法等を映像を用いながら学習していく。各 UNITE に授業 4 回をあてるペースで、UNITE 3 の最後まで進める。会話に必要なフランス語の文法事項を補うために時折プリントを配付する。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ①音素を把握することができる。
- ②語句を区切って読むことができる。
- ③単語を書くことができる。
- ④個人についての情報を伝えることができる。

4. 授業計画

- 1) UNITE 0：フランス語のアルファベ／フランスの文化
- 2) 挨拶をする
- 3) 名前を言う
- 4) UNITE 1：紹介する
- 5) 近況をたずねる
- 6) 自分のことを話す
- 7) 詩を読む
- 8) UNITE 2：人を紹介するために質問する
- 9) 人を言葉で描写する
- 10) 好みについて話をする
- 11) e メールを読む
- 12) UNITE 3：日常的なことを語る
- 13) 一日の生活を述べる
- 14) 電話で話す
- 15) 手紙を読む／前期に学習した内容の復習

5. 評価の方法・基準

出席、平常点、定期試験および宿題の提出状況により総合的に評価。

6. 履修上の注意事項

授業内で使う単語について、ミニ辞書を作成して配布するので、毎回、忘れずに持ってくること。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

授業前に予習しておくこと。宿題を忘れないこと。

8. 教科書・参考書

教科書：モーリス・ジャケ、ナディーヌ・バタリア、佐藤公彦、平山弓月『カンピュス・J』（朝日出版社）ISBN: 9784255351834

9. オフィスアワー

授業内にて指示

フランス語Ⅰ French I

対象学科（コース）：電気電子・総合システム（人間科学科目）

学年：1 年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位

担当教員名 コモン ティエリ

1. 概要

フランス語の初級会話と文法を学ぶ。アルファベットの読みからはじめ、挨拶や自己紹介の方法等を映像を用いながら学習していく。各 UNITE に授業 4 回をあてるペースで、UNITE 3 の最後まで進める。会話に必要なフランス語の文法事項を補うために時折プリントを配付する。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ①音素を把握することができる。
- ②語句を区切って読むことができる。
- ③単語を書くことができる。
- ④個人についての情報を伝えることができる。

4. 授業計画

- 1) UNITE 0：フランス語のアルファベ／フランスの文化
- 2) 挨拶をする
- 3) 名前を言う
- 4) UNITE 1：紹介する
- 5) 近況をたずねる
- 6) 自分のことを話す
- 7) 詩を読む
- 8) UNITE 2：人を紹介するために質問する
- 9) 人を言葉で描写する
- 10) 好みについて話をする
- 11) e メールを読む
- 12) UNITE 3：日常的なことを語る
- 13) 一日の生活を述べる
- 14) 電話で話す
- 15) 手紙を読む／前期に学習した内容の復習

5. 評価の方法・基準

出席、平常点、定期試験および宿題の提出状況により総合的に評価。

6. 履修上の注意事項

授業内で使う単語について、ミニ辞書を作成して配布するので、毎回、忘れずに持ってくること。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

授業前に予習しておくこと。宿題を忘れないこと。

8. 教科書・参考書

教科書：モーリス・ジャケ、ナディーヌ・バタリア、佐藤公彦、平山弓月『カンピュス・J』（朝日出版社）ISBN: 9784255351834

9. オフィスアワー

授業内にて指示

フランス語Ⅰ French I

対象学科（コース）：応用化学・マテリアル（人間科学科目）

学年：1年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 原田 裕里

1. 概要

フランス語の初級会話と文法を学ぶ。アルファベットの読みからはじめ、挨拶や自己紹介の方法等を映像を用いながら学習していく。各 UNITE に授業4回をあてるペースで、UNITE 3の最後まで進める。会話に必要なフランス語の文法事項を補うために時折プリントを配付する。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ①アルファベットを正確に発音することができる。
- ②語句を区切って読むことができる。
- ③単語を書くことができる。
- ④個人についての情報を伝えることができる。

4. 授業計画

- 1) UNITE 0：フランス語のアルファベ／フランスの文化
- 2) 挨拶をする
- 3) 名前を言う
- 4) UNITE 1：紹介する
- 5) 近況をたずねる
- 6) 自分のことを話す
- 7) 詩を読む
- 8) UNITE 2：人を紹介するために質問する
- 9) 人を言葉で描写する
- 10) 好みについて話をする
- 11) eメールを読む
- 12) UNITE 3：日常的なことを語る
- 13) 一日の生活を述べる
- 14) 電話で話す
- 15) 手紙を読む／前期に学習した内容の復習

5. 評価の方法・基準

出席、平常点、定期試験および宿題の提出状況により総合的に評価。

6. 履修上の注意事項

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

授業前に予習しておくこと。宿題を忘れないこと。

8. 教科書・参考書

教科書：モーリス・ジャケ、ナディーヌ・バタリア、佐藤公彦、平山弓月『カンピュス・J』（朝日出版社）ISBN: 9784255351834

参考書：『プチロワイヤル仏和辞典』第四版（旺文社）853/T-3/4-2

9. オフィスアワー

授業内にて指示

フランス語Ⅱ French II

対象学科（コース）：機械知能・建設社会（人間科学科目）

学年：1年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 コモン ティエリ

1. 概要

フランス語の初級会話と文法を学ぶ。前期のフランス語Ⅰで学習した現在形による表現に加え、過去のことや未来についての表現を学習する。学生同士のロールプレイングや教員とのやり取りが中心となる。学習に必要な文法事項はプリントを適宜配付する。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ①ゆっくりはっきりと話されれば、単語を聞き取ることができる。
- ②基本構文を理解することができる。
- ③短い言い回しを書き写すことができる。
- ④身近な話題について簡単な応答をすることができる。

4. 授業計画

- 1) 前期内容 (UNITE 0～3) の復習
- 2) UNITE 4：出来事を語る
- 3) 過去の出来事を語る
- 4) 時制を選ぶ
- 5) 資料（お札、新聞、手帳など）を読む
- 6) UNITE 5：住まいを紹介して特徴を表す
- 7) 情報を交換する
- 8) 情報を比べる
- 9) テクストを読む
- 10) UNITE 6：推薦したり、それで理解する
- 11) 場所についてのちょっとしたやり取り
- 12) 会話の核心を理解する
- 13) vouloir, pouvoir を用いて話す
- 14) 後期に学習した内容の応用
- 15) 後期に学習した内容の復習

5. 評価の方法・基準

出席、平常点、定期試験および宿題の提出状況により総合的に評価。

6. 履修上の注意事項

前期に配布したミニ辞書を、毎回、忘れずに持ってくること。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

授業前に予習しておくこと。宿題を忘れないこと。

8. 教科書・参考書

教科書：モーリス・ジャケ、ナディーヌ・バタリア、佐藤公彦、平山弓月『カンピュス・J』（朝日出版社）ISBN: 9784255351834

9. オフィスアワー

授業内にて指示

フランス語Ⅱ French II

対象学科（コース）：電気電子・総合システム（人間科学科目）
 学年：1 年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位
 担当教員名 コモン ティエリ

1. 概要

フランス語の初級会話と文法を学ぶ。前期のフランス語Ⅰで学習した現在形による表現に加え、過去のことや未来についての表現を学習する。学生同士のロールプレイングや教員とのやり取りが中心となる。学習に必要な文法事項はプリントを適宜配付する。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ① ゆっくりはっきりと話されれば、単語を聞き取ることができる。
- ② 基本構文を理解することができる。
- ③ 短い言い回しを書き写すことができる。
- ④ 身近な話題について簡単な応答をすることができる。

4. 授業計画

- 1) 前期内容（UNITE 0～3）の復習
- 2) UNITE 4：出来事を語る
- 3) 過去の出来事を語る
- 4) 時制を選ぶ
- 5) 資料（お札、新聞、手帳など）を読む
- 6) UNITE 5：住まいを紹介して特徴を表す
- 7) 情報を交換する
- 8) 情報を比べる
- 9) テキストを読む
- 10) UNITE 6：推薦したり、それで理解する
- 11) 場所についてのちょっとしたやり取り
- 12) 会話の核心を理解する
- 13) vouloir, pouvoir を用いて話す
- 14) 後期に学習した内容の応用
- 15) 後期に学習した内容の復習

5. 評価の方法・基準

出席、平常点、定期試験および宿題の提出状況により総合的に評価。

6. 履修上の注意事項

前期に配布したミニ辞書を、毎回、忘れずに持ってくる。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

授業前に予習しておくこと。宿題を忘れないこと。

8. 教科書・参考書

教科書：モーリス・ジャケ、ナディーヌ・バタリア、佐藤公彦、平山弓月『カンピュス・J』（朝日出版社）ISBN: 9784255351834

9. オフィスアワー

授業内にて指示

フランス語Ⅱ French II

対象学科（コース）：応用化学・マテリアル（人間科学科目）
 学年：1 年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位
 担当教員名 原田 裕里

1. 概要

フランス語の初級会話と文法を学ぶ。前期のフランス語Ⅰで学習した現在形による表現に加え、過去のことや未来についての表現を学習する。学生同士のロールプレイングや教員とのやり取りが中心となる。学習に必要な文法事項はプリントを適宜配付する。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ① ゆっくりはっきりと話されれば、単語を聞き取ることができる。
- ② 基本構文を理解することができる。
- ③ 短い言い回しを書き写すことができる。
- ④ 身近な話題について簡単な応答をすることができる。

4. 授業計画

- 1) 前期内容（UNITE 0～3）の復習
- 2) UNITE 4：出来事を語る
- 3) 過去の出来事を語る
- 4) 時制を選ぶ
- 5) 資料（お札、新聞、手帳など）を読む
- 6) UNITE 5：住まいを紹介して特徴を表す
- 7) 情報を交換する
- 8) 情報を比べる
- 9) テキストを読む
- 10) UNITE 6：推薦したり、それで理解する
- 11) 場所についてのちょっとしたやり取り
- 12) 会話の核心を理解する
- 13) vouloir, pouvoir を用いて話す
- 14) 後期に学習した内容の応用
- 15) 後期に学習した内容の復習

5. 評価の方法・基準

出席、平常点、定期試験および宿題の提出状況により総合的に評価。

6. 履修上の注意事項

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

授業前に予習しておくこと。宿題を忘れないこと。

8. 教科書・参考書

教科書：モーリス・ジャケ、ナディーヌ・バタリア、佐藤公彦、平山弓月『カンピュス・J』（朝日出版社）ISBN: 9784255351834

参考書：『プチロワイヤル仏和辞典』第四版（旺文社）853/T-3/4-2

9. オフィスアワー

授業内にて指示

フランス語Ⅲ French III

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位

担当教員名 未定

1. 概要

フランス語の中級会話。文法の復習を取り入れながら、挨拶や自己紹介、自分がすることなどをフランス語で表現する方法を学ぶ。現在形での表現が中心となるが、フランス語Ⅰ・Ⅱで学習したやり取りの応用編となる。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ①具体的な指示を聞き取ることができる。
- ②平易なテキストを理解することができる。
- ③基礎語彙を使って短文を書くことができる。
- ④要求や意思を簡単に伝えることができる。

4. 授業計画

1. イン트로ダクション、挨拶、自己紹介の方法
2. 挨拶、ある人について言う、名前のつづりを言う
3. 名前・職業・住んでいるところをたずねる・言う
4. 自分の仕事について話す、ある人について質問する
5. 職業をたずねる、やりたい職業を言う
6. 国籍をたずねる、何語を話すか言う
7. ある人について話す、何かを示す
8. 好きな物を言う、どちらが好きか言う
9. 何をするのが好きかを言う、したいことについて話す
10. 好みを説明する、人を描写する
11. 自分について話す、年齢を言う
12. 科目について話す
13. 物を借りる、あやまる
14. ある場所について説明する、たずねる
15. 前期内容の復習

5. 評価の方法・基準

出席、平常点、定期試験および宿題の提出状況により総合的に評価。

6. 履修上の注意事項

フランス語Ⅰ、Ⅱを履修していることが望ましい。また、授業内で単語を辞書で調べたりすることがあるため、紙媒体のフランス語の辞書を用意しておくこと。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

授業前に予習しておくこと。宿題を忘れないこと。

8. 教科書・参考書

教科書：ガエル・クレピウ、フィリップ・カレンス、高瀬智子、根岸純『スピラル』（ピアソン・エデュケーション、アシェット）ISBN: 9782011558084（第3版）

9. オフィスアワー

授業内にて指示

フランス語Ⅳ French IV

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位

担当教員名 未定

1. 概要

フランス語の中級会話。現在形での表現に加え、過去形や未来形を用いて、フランス語での多様な表現方法を学ぶ。道を教えたり、一日の出来事や、近い未来の計画などについて話す。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ①日常に必要な情報を聞き取ることができる。
- ②説明的な文章の要点を読み取ることができる。
- ③接続表現を用いて文をつなげて書くことができる。
- ④自分に直接関連のあるトピックについて話すことができる。

4. 授業計画

1. 何をするかたずねる、答える
2. 趣味・余暇の過ごし方について話す
3. 習慣について話す
4. 家族について話す
5. 過去の出来事について語る
6. どこに行くかたずねる・答える
7. どこに行ったのか詳しく話す
8. だれかを誘う、何かに誘う・会う約束をする
9. よく行く場所について話す
10. 毎日の習慣について話す
11. 一日の出来事を過去形で話す
12. 交通手段について話す
13. 道順を説明する、予約する
14. 近い未来の計画を話す、天気について話す
15. 食生活について話す、注文する／後期内容の復習

5. 評価の方法・基準

出席、平常点、定期試験および宿題の提出状況により総合的に評価。

6. 履修上の注意事項

フランス語Ⅰ、Ⅱを履修していることが望ましい。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

授業前に予習しておくこと。宿題を忘れないこと。

8. 教科書・参考書

教科書：ガエル・クレピウ、フィリップ・カレンス、高瀬智子、根岸純『スピラル』（ピアソン・エデュケーション、アシェット）ISBN: 9782011558084（第3版）

9. オフィスアワー

授業内にて指示

韓国語Ⅰ KoreanⅠ

対象学科（コース）：機械知能・建設社会（人間科学科目）

学年：1 年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位

担当教員名 桂 林春

1. 概要

本講義では、韓国語の基本的な「文字」と「正確な発音」の修得が第一の目標になります。韓国語と日本語は、語順がたいへんよく似ているため学習しやすい言語であると云われています。しかしながら、文字や発音など、似ても似つかない部分も多くあります。特に、はじめて韓国語（ハングル文字）に接する初学者にとっては、他の言語（外国語）と比べても、決して容易であると言い難いです。そのため、授業の進行は受講者の理解度に応じたペースで進めていきます。また、時折韓国文化についても紹介します。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ①音素を把握することができる。
- ②語句を区切って読むことができる。
- ③単語を書くことができる。
- ④個人についての情報を伝えることができる。

4. 授業計画

1. ガイダンス・授業の進め方。韓国語・ハングルとは。
2. 文字と発音 ー基本母音
3. 文字と発音 ー基本子音①
4. 文字と発音 ー基本子音②
5. 文字と発音 ー二重母音
6. 文字と発音 ーパッチム①
7. 文字と発音 ーパッチム②
8. 文字と発音 ー発音の規則
9. 文字と発音 ー総復習
10. 第1 課
11. 第2 課
12. 第3 課
13. 第4 課
14. 第5 課
15. 総まとめ

5. 評価の方法・基準

- ・出席：30%
- ・定期試験：30%
- ・小テスト：20%
- ・オーラルテスト：10%
- ・音読・授業への参加度：10%

6. 履修上の注意事項

1. 楽しく学ぶことがモットーの授業です。
2. 新しい言語を学ぶにはある程度の情熱や覚悟、そして沢山の好奇心を持つこと。
3. 私語や居眠り、携帯端末いじりは厳禁です。
4. 授業中に課せられる課題は必ずこなす事。
5. 何よりも基本中の基本は皆勤することです。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

1. 今日のノート、又はメモを参考にしながら p.2 ～ p.7 まで 3 回読むこと。
2. p.8 ～ p.9 まで 10 回書きながら、覚えること。
3. p.10 ～ p.12 まで 5 回音読、単語を暗記する。
4. p.13 と p.15 の単語を 20 回書くこと。
5. p.16 と p.17 を音読し、単語を暗記すること。
6. p.18 ～ p.21 まで目を通し、単語 18 個を暗記する。
7. p.22 ～ p.25 まで繰り返し声を出して発音の練習し、単語を覚える。
8. 今までの授業を振り返りながら自ら復習すること。
9. 音読しながら単語を覚えること。

10. 第1 課 p.30～31 を読み理解すること。p.34 の単語を覚える。
11. 第2 課 p.38～39 を複数回読むこと。p.40 の単語の暗記。
12. 第3 課 p.46～48 を読み、練習問題を解いてみる。
13. 第4 課 p.54～56 の文法を説明を読むこと。
14. 第5 課 p.62～64 の理解、家族の誕生日を言うてみる。p.67 の単語の暗記。
15. 総復習！

8. 教科書・参考書

教科書：朴美子、崔相振『グループで楽しく学ぼう！韓国語』（朝日出版社）ISBN: 9784255556376

9. オフィスアワー

gyelc0926@yahoo.co.jp

韓国語Ⅰ KoreanⅠ

対象学科（コース）：電気電子・総合システム（人間科学科目）

学年：1 年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位

担当教員名 桂 林春

1. 概要

本講義では、韓国語の基本的な「文字」と「正確な発音」の修得が第一の目標になります。韓国語と日本語は、語順がたいへんよく似ているため学習しやすい言語であると云われています。しかしながら、文字や発音など、似ても似つかない部分も多くあります。特に、はじめて韓国語（ハングル文字）に接する初学者にとっては、他の言語（外国語）と比べても、決して容易であると言い難いです。そのため、授業の進行は受講者の理解度に応じたペースで進めていきます。また、時折韓国文化についても紹介します。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ①音素を把握することができる。
- ②語句を区切って読むことができる。
- ③単語を書くことができる。
- ④個人についての情報を伝えることができる。

4. 授業計画

1. ガイダンス・授業の進め方。韓国語・ハングルとは。
2. 文字と発音 ー基本母音
3. 文字と発音 ー基本子音①
4. 文字と発音 ー基本子音②
5. 文字と発音 ー二重母音
6. 文字と発音 ーパッチム①
7. 文字と発音 ーパッチム②
8. 文字と発音 ー発音の規則
9. 文字と発音 ー総復習
10. 第1課
11. 第2課
12. 第3課
13. 第4課
14. 第5課
15. 総まとめ

5. 評価の方法・基準

- ・出席：30%
- ・定期試験：30%
- ・小テスト：20%
- ・オーラルテスト：10%
- ・音読・授業への参加度：10%

6. 履修上の注意事項

1. 楽しく学ぶことがモットーの授業です。
2. 新しい言語を学ぶにはある程度の情熱や覚悟、そして沢山の好奇心を持つこと。
3. 私語や居眠り、携帯端末いじりは厳禁です。
4. 授業中に課せられる課題は必ずこなす事。
5. 何よりも基本中の基本は皆勤することです。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

1. 今日のノート、又はメモを参考にしながら p.2 ～ p.7 まで3回読むこと。
2. p.8～p.9 まで10回書きながら、覚えること。
3. p.10～p.12 まで5回音読、単語を暗記する。
4. p.13 と p.15 の単語を20回書くこと。
5. p.16 と p.17 を音読し、単語を暗記すること。
6. p.18～p.21 まで目を通し、単語18個を暗記する。
7. p.22～p.25 まで繰り返し声を出して発音の練習し、単語を覚える。
8. 今までの授業を振り返りながら自ら復習すること。
9. 音読しながら単語を覚えること。

10. 第1課 p.30～31 を読み理解すること。p.34 の単語を覚える。
11. 第2課 p.38～39 を複数回読むこと。p.40 の単語の暗記。
12. 第3課 p.46～48 を読み、練習問題を解いてみる。
13. 第4課 p.54～56 の文法を説明を読むこと。
14. 第5課 p.62～64 の理解、家族の誕生日を言う。p.67 の単語の暗記。
15. 総復習！

8. 教科書・参考書

教科書：朴美子、崔相振『グループで楽しく学ぼう！韓国語』（朝日出版社）ISBN: 9784255556376

9. オフィスアワー

gyelc0926@yahoo.co.jp

韓国語Ⅰ KoreanⅠ

対象学科（コース）：応用化学・マテリアル（人間科学科目）

学年：1年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 崔 相振

1. 概要

楽しく韓国語を習得できる授業を目指す。まず韓国語の文字を覚え、発音に気をつけながら、色々な場面における基本的な表現（例えば、自己紹介、買い物、学校生活、旅行など）を会話形式で練習し、韓国語の読み書きができるように指導する。また、会話でよく使う単語や文章などを学習しながら実践会話に慣れる。以上のことを楽しく学習できるように韓国の文化に関わる資料を多く活用していく。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ①音素を把握することができる。
- ②語句を区切って読むことができる。
- ③単語を書くことができる。
- ④個人についての情報を伝えることができる。

4. 授業計画

1. ハングルとは？（文字、あいさつ、教室用語）
2. ハングル文字（基本母音）
3. ハングル文字（基本子音）
4. ハングル文字（激音、濃音）
5. ハングル文字（二重母音）
6. ハングル文字（パッチム）
7. ハングル文字（2文字パッチム）
8. まとめ
9. 発音（有声音化、連音化など）
10. 発音（激音化、濃音化など）
11. 第1課（自己紹介）
12. 第2課（指示・疑問文）
13. 第3課（存在文）
14. 第4課（否定文）
15. まとめ

5. 評価の方法・基準

出席、小テスト、課題…50%、試験…50%

6. 履修上の注意事項

2/3以上出席すること。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

必ず予習して授業に参加すること。

8. 教科書・参考書

教科書：朴美子、崔相振『グループで楽しく学ぼう！韓国語』（朝日出版社）ISBN: 9784255556376

9. オフィスアワー

csjmimi@gmail.com

韓国語Ⅱ KoreanⅡ

対象学科（コース）：機械知能・建設社会（人間科学科目）

学年：1年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1単位

担当教員名 桂 林春

1. 概要

本講義では、韓国語の基本的な「文字」と「正確な発音」の修得が第一の目標になります。韓国語と日本語は、語順がたいへんよく似ているため学習しやすい言語であると云われています。しかしながら、文字や発音など、似ても似つかない部分も多くあります。特に、はじめて韓国語（ハングル文字）に接する初学者にとっては、他の言語（外国語）と比べても、決して容易であると言い難いです。そのため、授業の進行は受講者の理解度に応じたペースで進めていきます。また、時折韓国文化についても紹介します。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ①ゆっくりははっきりと話されれば、単語を聞き取ることができる。
- ②基本構文を理解することができる。
- ③短い言い回しを書き写すことができる。
- ④身近な話題について簡単な応答をすることができる。

4. 授業計画

1. ガイダンス・授業の進め方
2. 「韓国語Ⅰ」の復習 ①
3. 「韓国語Ⅰ」の復習 ②
4. 第6課
5. 第7課
6. 第8課
7. 第9課
8. 第10課
9. 復習と中間テスト
10. 第11課
11. 第12課
12. 第13課
13. 第14課
14. 第15課
15. 総まとめ

5. 評価の方法・基準

- ・出席：30%
- ・定期試験：30%
- ・小テスト：20%
- ・オーラルテスト：10%
- ・音読・授業への参加度：10%

6. 履修上の注意事項

1. 楽しく学ぶことがモットーの授業です。
2. 新しい言語を学ぶにはある程度の情熱や覚悟、そして沢山の好奇心を持つこと。
3. 私語や居眠り、携帯端末いじりは厳禁です。
4. 授業中に課せられる課題は必ずこなす事。
5. 何よりも基本中の基本は皆勤することです。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

1. 韓国語Ⅰに関する資料をまとめておくこと。
2. 今日復習した部分をもう一度書いてみる。
3. 単語小テストに備えて、韓国語Ⅰの基本単語を覚える。
4. 第6課の文型の説明を読んで来ること。
5. 新しい単語を覚えること。
6. 今日習った本文を暗記する。
7. 時間・時刻を言えるようになること。又、第8課 p.86～87を十分に理解して来ること。
8. 過去形の作り方を復習する。
9. p.97をすらすら云えるように練習する。
10. 会話の本文を暗記する。

11. 接続詞を使った文章を作ってみる (p.112)。
 12. 場所に関する単語を覚えて、各自の希望や願望の表現を話せるように練習して来ること。
 13. p.126～128 を 3 回以上読んで、例文を言えるようになること。
 14. 第 15 課の学習ポイントを 2 回以上読んでみる。
 15. 総復習。未定
- 8. 教科書・参考書**
- 教科書：朴美子、崔相振『グループで楽しく学ぼう！韓国語』（朝日出版社）ISBN: 9784255556376
- 9. オフィスアワー**
- gyelc0926@yahoo.co.jp

韓国語Ⅱ Korean Ⅱ

対象学科（コース）：電気電子・総合システム（人間科学科目）

学年：1 年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位

担当教員名 桂 林春

1. 概要

本講義では、韓国語の基本的な「文字」と「正確な発音」の修得が第一の目標になります。韓国語と日本語は、語順がたいへんよく似ているため学習しやすい言語であると云われています。しかしながら、文字や発音など、似ても似つかない部分も多くあります。特に、はじめて韓国語（ハングル文字）に接する初学者にとっては、他の言語（外国語）と比べても、決して容易であると言い難いです。そのため、授業の進行は受講者の理解度に応じたペースで進めていきます。また、時折韓国文化についても紹介します。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ① ゆっくりははっきりと話されれば、単語を聞き取ることができる。
- ② 基本構文を理解することができる。
- ③ 短い言い回しを書き写すことができる。
- ④ 身近な話題について簡単な応答をすることができる。

4. 授業計画

1. ガイダンス・授業の進め方
2. 「韓国語Ⅰ」の復習 ①
3. 「韓国語Ⅰ」の復習 ②
4. 第 6 課
5. 第 7 課
6. 第 8 課
7. 第 9 課
8. 第 10 課
9. 復習と中間テスト
10. 第 11 課
11. 第 12 課
12. 第 13 課
13. 第 14 課
14. 第 15 課
15. 総まとめ

5. 評価の方法・基準

- ・出席：30%
- ・定期試験：30%
- ・小テスト：20%
- ・オーラルテスト：10%
- ・音読・授業への参加度：10%

6. 履修上の注意事項

1. 楽しく学ぶことがモットーの授業です。
2. 新しい言語を学ぶにはある程度の情熱や覚悟、そして沢山の好奇心を持つこと。
3. 私語や居眠り、携帯端末いじりは厳禁です。
4. 授業中に課せられる課題は必ずこなす事。
5. 何よりも基本中の基本は皆勤することです。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

1. 韓国語Ⅰに関する資料をまとめておくこと。
2. 今日復習した部分をもう一度書いてみる。
3. 単語小テストに備えて、韓国語Ⅰの基本単語を覚える。
4. 第 6 課の文型の説明を読んで来ること。
5. 新しい単語を覚えること。
6. 今日習った本文を暗記する。
7. 時間・時刻を言えるようになること。又、第 8 課 p.86～87 を十分に理解して来ること。
8. 過去形の作り方を復習する。
9. p.97 をすらすら云えるように練習する。
10. 会話の本文を暗記する。

11. 接続詞を使った文章を作ってみる (p.112)。
12. 場所に関する単語を覚えて、各自の希望や願望の表現を話せるように練習して来ること。
13. p.126～128 を 3 回以上読んで、例文を言えるようになること。
14. 第 15 課の学習ポイントを 2 回以上読んでみる。
15. 総復習。未定

8. 教科書・参考書

教科書：朴美子、崔相振『グループで楽しく学ぼう！韓国語』（朝日出版社）ISBN: 9784255556376

9. オフィスアワー

gyelc0926@yahoo.co.jp

韓国語Ⅱ Korean Ⅱ

対象学科（コース）：応用化学・マテリアル（人間科学科目）

学年：1 年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位

担当教員名 崔 相振

1. 概要

楽しく韓国語を習得できる授業を目指す。先ず韓国語の文字を覚え、発音に気をつけながら、色々な場面における基本的な表現（例えば、自己紹介、買い物、学校生活、旅行など）を会話形式で練習し、韓国語の読み書きができるように指導する。また、会話でよく使う単語や文章などを学習しながら実践会話に慣れる。以上のことを楽しく学習できるように韓国の文化に関わる資料を多く活用していく。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ① ゆっくりはっきりと話されれば、単語を聞き取ることができる。
- ② 基本構文を理解することができる。
- ③ 短い言い回しを書き写すことができる。
- ④ 身近な話題について簡単な応答をすることができる。

4. 授業計画

1. 第 5 課（漢数字）
2. 第 6 課（用言の活用）
3. 第 7 課（固有数字）
4. 第 8 課（時刻、時間と曜日）
5. 第 9 課（過去形）
6. まとめ
7. 第 10 課（目的、羅列、提案）
8. 第 11 課（依頼、意志、接続詞）
9. 第 12 課（感嘆、希望、比較）
10. 第 13 課（可能、不可能）
11. 第 14 課（命令、勧告）
12. 第 15 課（推量、原因、義務）
13. まとめ
14. 実践会話（1）
15. 実践会話（2）

5. 評価の方法・基準

出席、小テスト、課題…50%、試験…50%

6. 履修上の注意事項

2 / 3 以上出席すること。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

必ず予習して授業に参加すること。

8. 教科書・参考書

教科書：朴美子、崔相振『グループで楽しく学ぼう！韓国語』（朝日出版社）ISBN: 9784255556376

9. オフィスアワー

csjmimi@gmail.com

韓国語Ⅲ Korean Ⅲ

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：前期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位

担当教員名 未定

1. 概要

韓国語のスキルアップ（初級から中級へ）と共に、韓国の様々な文化に触れることで異文化理解を深める。先ず色々な韓国語の文章を音読しつつ、韓国語特有の発音や表現を身につける。そして頻出語彙や文法事項を体系的に習得し、韓国語を「読む・訳す・作る・話す」力を培う。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ①具体的な指示を聞き取ることができる。
- ②平易なテキストを理解することができる。
- ③基礎語彙を使って単文を書くことができる。
- ④要求や意思を簡単に伝えることができる。

4. 授業計画

1. レベルテスト
2. 基本文型と会話（1）可能、不可能、接続詞
3. 基本文型と会話（2）進行、義務
4. 基本文型と会話（3）間違いやすい助詞
5. 基本文型と会話（4）羅列、理由、原因
7. 基本文型と会話（5）副詞形、決定
8. まとめ
9. 基本文型と会話（6）逆説、方向
10. 基本文型と会話（7）尊敬
11. 基本文型と会話（8）同意、推量
12. 基本文型と会話（9）連体形その 1
13. 基本文型と会話（10）逆説、比較、仮定
14. 基本文型と会話（11）連体形その 2
15. まとめ

5. 評価の方法・基準

出席、小テスト、課題…50%、試験…50%

6. 履修上の注意事項

2 / 3 以上出席すること。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

必ず予習して授業に参加すること。

8. 教科書・参考書

教科書：崔相振、呉香善『Point で学ぶ韓国語 2』（花書院）

ISBN: 9784905324027

9. オフィスアワー

csjmimi@gmail.com

韓国語Ⅳ Korean Ⅳ

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2 年次 学期：後期 単位区分：選択必修 単位数：1 単位

担当教員名 未定

1. 概要

韓国語のスキルアップ（初級から中級へ）と共に、韓国の様々な文化に触れることで異文化理解を深める。先ず色々な韓国語の文章を音読しつつ、韓国語特有の発音や表現を身につける。そして頻出語彙や文法事項を体系的に習得し、韓国語を「読む・訳す・作る・話す」力を培う。

2. キーワード

コミュニケーション、異文化理解、国際性

3. 到達目標

- ①日常に必要な情報を聞き取ることができる。
- ②説明的な文章の要点を読み取ることができる。
- ③接続表現を用いて文をつなげて書くことができる。
- ④自分に直接関連のあるトピックについて話すことができる。

4. 授業計画

1. 基本文型と会話（1）変則活用その 1
2. 基本文型と会話（2）状況、練習問題
3. 基本文型と会話（3）変則活用その 2
4. 基本文型と会話（4）経験、命令
5. 基本文型と会話（5）変則活用その 3
6. 基本文型と会話（6）過去の経験、状態
7. まとめ
8. 基本文型と会話（7）変則活用その 4
9. 基本文型と会話（8）推測
10. 基本文型と会話（9）予定、選択
11. 基本文型と会話（10）理由、原因
12. 基本文型と会話（11）変則活用その 5
13. 基本文型と会話（11）変則活用その 6
14. 基本文型と会話（12）継続
15. まとめ

5. 評価の方法・基準

出席、小テスト、課題…50%、試験…50%

6. 履修上の注意事項

2 / 3 以上出席すること。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

必ず予習して授業に参加すること。

8. 教科書・参考書

教科書：崔相振、呉香善『Point で学ぶ韓国語 2』（花書院）

ISBN: 9784905324027

9. オフィスアワー

csjmimi@gmail.com

保健体育系科目の概要

Ⅰ．「保健体育系」の目的・目標

1. 身体、身体運動やスポーツ（Muscular Activity）についての科学的思考能力の育成
2. 健康（度）や体力（フィットネス）の保持・増進
3. 運動、スポーツ技能の修得
4. 社会性やコミュニケーション能力の育成
5. 運動、スポーツ文化の継承と発展
6. 生涯スポーツへの橋渡し

Ⅱ．保健体育系における授業の方向性

スポーツ運動学の実技において身体活動や筋運動を通じた教授学習過程におけるシークエンスの観点からすると、以下の事が基本原則である。

体育実技における教授・学習計画の基本法則

1. 運動（スポーツ種目）強度
「軽度から中等度をへて高強度へ」
2. 時間（継続、実施）
「短」から「長」へ
3. 頻度
「少」から「多」へ
4. 量（強度 x 時間）
「少」から「多」へ
5. タイプ
「易」から「難」へ
「簡単」から「複雑」へ

Ⅲ．保健体育系科目の種類

1. 人間科学基礎科目：スポーツ運動学実技 A およびスポーツ運動学実技 B
2. 人間科学副専門科目：健康スポーツ科学論
「保健体育系」の目的・目標の理論的立場の教授と学習、さらなる応用的側面を講義では取り扱う。
3. リレー講義科目関連：リレーセミナー

上記のスポーツ運動学の実技、講義の受講以降、実験・実習科目としても少人数による教育をおこなっている。大学院教育（生命体工学研究科 生体機能 生体適応システム講座）との関連で言及する内容を一部、講義・演習形式できるように実施している。それは「体力」あるいは「ヒトの適応能」の定量化実験を含んだ内容から構成されている。

スポーツ運動学実技 A Sports & Exercise Practice

対象学科（コース）：全学科

学年：1 年次 学期：前期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 鳥井 正史ならびに非常勤講師

1. 概要

●背景

運動・スポーツ活動は社会的・心理的にその固有の特性や実施効果に関する認識が高まって、多くの人々に広く受容されて来ている。同時にスポーツ・運動は体力の向上のみならず、健康増進（health promotion）の手段として、その必要性が高まってきた。

●目的

今日一般に共通に普及しているスポーツ種目の学習をとおして、スポーツ技能習得や身体運動に対する科学的思考能力の育成することによって、学生の健康を維持増進し、軽スポーツおよび身体運動の欲求を満足させるとともに、上級学年さらには卒業後、社会人として体育（スポーツ）活動に参加し、積極的にこれを指導できるようにする。また、健康や体力（Physical Fitness）増進の方法を学習するとともに、スポーツ障害を未然に防ぐ安全性の確保を図る。

●位置付け

毎回、身体運動をとおして（あるいは身体運動に関する）学習を行なう。

通常の教室における講義と異なる。

2. キーワード

スポーツ活動、身体のトレーニング

体力＝健康度の向上、運動技能・技術学習、協調性

3. 到達目標

- 1) 授業に対する「積極性」の継続
- 2) スポーツ・運動技能の向上
- 3) スポーツ活動への参加や観戦のマナー習得

4. 授業計画

前期

1. オリエンテーション
2. 当該スポーツの基本原則・知識
3. 基本技術・諸ルールの説明
4. 当該スポーツゲームの練習
5. “
- 6～14. リーグ戦形式のゲーム
15. 当該ゲームの成績集計とレポート作成

5. 評価の方法・基準

前期・後期ともスポーツ活動への参加・成績の集計結果を基にしたレポート作成・提出と授業に対する「積極的継続性」の有無や授業態度等も含めて総合的に評価する。

6. 履修上の注意事項

- ・前期は、比較的運動強度の軽い個人スポーツ種目を男女混合で開設する。
- ・受講生は年度始めの健康診断を受けておくこと。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

体調管理を十分行い、前回の授業の学習事項をイメージングし、確認しておく。

8. 教科書・参考書

適宜指示する。

9. オフィスアワー

毎週月曜日の 5 時限目（16：30～18：00）

スポーツ運動学実技B Sports & Exercise Practice

対象学科（コース）：全学科

学年：1 年次 学期：後期 単位区分：必修 単位数：1 単位

担当教員名 鳥井 正史ならびに非常勤講師

1. 概要

●背景

運動・スポーツ活動は社会的・心理的にその固有の特性や実施効果に関する認識が高まって、多くの人々に広くの受容されて来ている。同時にスポーツ・運動は体力の向上のみならず、健康増進（health promotion）の手段として、その必要性が高まってきた。

●目的

今日一般に共通に普及しているスポーツ種目の学習をとおり、スポーツ技能習得や身体運動に対する科学的思考能力の育成することによって、学生の健康を維持増進し、軽スポーツおよび身体運動の欲求を満足させるとともに、上級学年さらには卒業後、社会人として体育（スポーツ）活動に参加し、積極的にこれを指導できるようにする。また、健康や体力（Physical Fitness）増進の方法を学習するとともに、スポーツ障害を未然に防ぐ安全性の確保を図る。

●位置付け

毎回、身体運動をとおり（あるいは身体運動に関する）学習を行なう。

通常の教室における講義と異なる。

2. キーワード

スポーツ活動、身体トレーニング

体力＝健康度の向上、運動技能・技術学習、協調性

3. 到達目標

- 1) 授業に対する「積極性」の継続
- 2) スポーツ・運動技能の向上
- 3) スポーツ活動への参加や観戦のマナー習得

4. 授業計画

後期

1. オリエンテーション
2. 当該スポーツの基本原則・知識
3. 基本技術・諸ルールの説明
4. 当該スポーツゲームの練習
5. //
- 6～14. リーグ戦形式のゲーム
15. 当該ゲームの成績集計とレポート作成

5. 評価の方法・基準

前期・後期ともスポーツ活動への参加・成績の集計結果を基にしたレポート作成・提出と授業に対する「積極的継続性」の有無や授業態度等も含めて総合的に評価する。

6. 履修上の注意事項

- ・比較的運動強度の高い心肺機能の向上を計るために効果的な集団スポーツ種目を男女別々に開設する。
- ・受講生は年度始めの健康診断を受けておくこと。

《女子学生へ》

スポーツ運動学実技・B（後期）に関しては、木曜 5 時限目の「女子体育」を受講すること。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

体調管理を十分行い、前回の授業の学習事項をイメージングし、確認しておく。

8. 教科書・参考書

適宜指示する。

9. オフィスアワー

毎週月曜日の 5 時限目（16：30～18：00）

健康スポーツ科学論 Exercise Prescription

対象学科（コース）：全学科

学年：2・3・4 年次 学期：後期 単位区分：選択

単位数：2 単位

担当教員名 鳥井 正史

1. 概要

●背景

「生活習慣病」（これまでの「いわゆる「成人病」）の危険因子として、肥満、高血糖、高血圧、精神的ストレスなどが指摘されている。これらの危険因子は運動実践によって十分に軽減される事が、広く認識されている。そこで健康増進のため体力水準に応じた運動実践が必要である。

●目的

「生活習慣病」のこれらの危険因子は、運動実践によって十分に軽減される。そこで健康増進のため体力水準に応じた運動実践が必要であり、それらに関する生理学的基本事項について理解を深める。さらに、ヒトの生理的機能や身体運動に対する科学的思考能力の育成を目指すと共に「運動処方」の基本計画の策定基礎の確立を目指す。

●位置付け

毎回、ヒトの生理機能や身体運動に関する教授学習を行なう。通常、教室における講義形式をとる。

2. キーワード

ヒトの生理機能、身体トレーニング

体力＝健康度の向上、生活習慣病

3. 到達目標

- 1) 今日的な健康概念の理解
- 2) ヒトの生理機能の基礎および運動の仕組みに関する基本的知識の習得
- 3) 運動処方や身体トレーニング計画の立案・実施

4. 授業計画

- 1) 現代生活と健康—その 1 寿命と疾病構造の変遷
- 2) その 2 生活習慣病の出現
- 3) その 3 食事と運動と休息・休養（睡眠）の関連
- 4) 「体力」概念—行動体力と防衛体力
- 5) 運動の効果—運動・スポーツに関する生理学の基礎（総論）
- 6) a. 筋、神経系
- 7) b. 肥満、脂質、動脈硬化に関する効果
- 8) c. 有酸素系能力（心・血管系）に対する効果
- 9) d. 体温調節に対する効果
- 10) e. 免疫・内分泌機能に対する効果
- 11) 運動処方の実際（総論）運動処方野や療法、身体トレーニングの概念
- 12) メディカルチェック（運動実施のための健康診断）、性、年齢、活動水準に応じた運動処方 その 1、その 2
- 13) スポーツ障害の予防に関する諸問題

5. 評価の方法・基準

期末試験の成績で評価する。

6. 履修上の注意事項

受講生は年度始めの健康診断を受けて、その結果の大略を把握しておくこと。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

本講義に関連する参考図書の中から 1 つを開講期間中に一読し、その概要を報告する。

8. 教科書・参考書

教科書は使用しない。講義 2～3 回に 1 回の割合で資料を配付する。

1. 体育科学センター（編）スポーツによる健康づくり運動カルテ、講談社 780.1/T-14
2. 石河利寛 スポーツと健康（新書版）岩波書店 081/I-2-3/39
3. 池上晴夫 運動処方 朝倉書店 780.1/I-18/2
4. 池上晴夫：適度な運動とは何か 講談社 408/B-2/739
5. 時実利彦：脳の話（新書版）岩波書店 081/I-2/461, 491.3/T-2

9. オフィスアワー

毎週月曜日の 5 時限目（16：30～18：00）

2015 年リレーセミナー 「排除と包摂」

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目）

学年：2・3・4 年次 学期：適宜 単位区分：選択

単位数：2 単位

担当教員名 東野 充成（コーディネーター）

1. 概要

〈授業の目的〉

新自由主義や新保守主義の台頭・浸潤に伴い、日本でも近年「排除と包摂」の問題に注目が集まっている。富の偏在化や格差の固定化、ナショナリズムの再喚起等の状況の中で、貧困世帯や在日外国人などの「生きづらさ」が増幅されている。こうした状況に抗して、国家や社会の周縁に生きる人々をいかに包摂するのか、そのあり方が問われている。

しかし、「排除と包摂」の問題は何も近年にはじまったものではない。「ディアスポラ」と呼ばれる、祖国をもたずに流浪する越境者たち、帝国主義下の植民地における被統治者たちなど、「排除と包摂」の問題は歴史や社会、文化を貫く問題群でもある。本セミナーでは、歴史、現在、そして個人の心理という3つの位相から、「排除と包摂」の問題につき考究を深める。

はじめに、ディアスポラと呼ばれる、主にヨーロッパ史上の「越境者」と、日台関係下の植民地に焦点を合わせ、「排除と包摂」の歴史に検討を加える。ついで、現代の日本社会に焦点をうつし、新自由主義の浸潤が経済的に困難人びとにどのような影響を及ぼし、排除状態を生み出したのか、またそうした人々に対する包摂のあり方について考える。ここでは、生活保護やひとり親世帯の具体的な分析対象とする。最後に、排除や差別を生み出す心理学的諸問題、そして心理学からみた包摂のあり方について考える。

〈授業の位置付け〉

特定のテーマについて様々な視点から考察する講義であり、複数の教員がそれぞれの専門領域を活かして講義を進めるオムニバス形式である。

2. キーワード

排除、包摂、ディアスポラ、帝国主義、植民地、新自由主義、新保守主義

3. 到達目標

- ①資料を正しく理解する。
- ②自分の考えを持ち、積極的に意見を述べることができる。
- ③論旨明瞭なレポートを作成することができる。

4. 授業計画

- 1 回 オリエンテーション（東野）
- 2 回 歴史とディアスポラⅠ（水井）
- 3 回 歴史とディアスポラⅡ（水井）
- 4 回 歴史とディアスポラⅢ（水井）
- 5 回 植民地における包摂と排除Ⅰ（李）
- 6 回 植民地における包摂と排除Ⅱ（李）
- 7 回 植民地における包摂と排除Ⅲ（李）
- 8 回 新自由主義と排除／包摂Ⅰ（東野）
- 9 回 新自由主義と排除／包摂Ⅱ（東野）
- 10 回 新自由主義と排除／包摂Ⅲ（東野）
- 11 回 排除と包摂の心理Ⅰ（児玉）
- 12 回 排除と包摂の心理Ⅱ（児玉）
- 13 回 排除と包摂の心理Ⅲ（児玉）
- 14 回 総括（東野）
- 15 回 試験（東野）
- 16 回 解説（東野）

5. 評価の方法・基準

演習・ディスカッションへの貢献度、レポートで評価する。

評価は基本的にコーディネーターが行う。

6. 履修上の注意事項

少人数を前提とした演習形式の講義であるため、受講制限を行うことがある。

詳細の方法と注意事項については、第1回目の講義で説明する。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

各回に記載されているキーワードについて授業前に調べ、理解に努めること。

8. 教科書・参考書

教科書は使用しない。参考書は授業中に適宜紹介する。

9. オフィスアワー

コーディネーター：東野（総合教育棟 309 室）

質問等は授業終了後に随時受け付けます。その他何かあれば、下記のメールにて連絡してください。

E-mail: higashi@dhs.kyutech.ac.jp

Ⅱ-1. 教職に関する専門教育科目

Ⅱ-2. 工業の教科に関する専門教育科目

教職論 Teaching Profession

対象学科（コース）：全学科（教職科目） 学年：1 年次

学期：後期 単位区分： 単位数：2 単位

担当教員名 東野 充成

1. 概要

●授業の目的

教員免許法に規定されている「教職の意義等に関する科目」として、教員の役割および職務内容について講義を行い、進路選択に資する機会を提供する。

●授業の位置付け

教員をとりまく現代の状況についての理解を促しながら、教職の意義や教員の役割、職務内容等について歴史的視点や国際的視点をまじえて解説する。また、生徒や保護者、同僚、地域住民等との関係の諸相を明らかにし、教師に求められる資質能力について考える。

2. キーワード

学習指導、生徒指導、聖職観、労働者観、専門職論、同僚、学校文化、教師文化

3. 到達目標

- ①現場の教員をとりまく現実を知るとともに、教職の意義や教員の役割等について理解を深める。
- ②生徒や保護者、地域住民等との関係について考え、教員に求められる資質・能力について理解する。
- ③教職に対する意欲や適性を受講生自らが認識し、めざすべき教師像を各自が描けるようになる。

4. 授業計画

- 1 回 イントロダクション
- 2 回 学校生活の振り返りと理想の教師像
- 3 回 教員免許制度の概要
- 4 回 現代日本の公教育制度
- 5 回 演習Ⅰ－体罰問題－
- 6 回 教育的人間関係と教授法の変化
- 7 回 演習Ⅱ－教授法の比較検討と教案作成－
- 8 回 学校文化と教師文化
- 9 回 教師という仕事
- 10 回 演習Ⅲ－教員の過労問題－
- 11 回 教師と生徒・保護者・地域社会
- 12 回 演習Ⅳ－ロールプレイング①－
- 13 回 演習Ⅴ－ロールプレイング②－
- 14 回 まとめ
- 15 回 試験
- 16 回 解説

5. 評価の方法・基準

- 演習の成果 50%
 期末レポート 50%

6. 履修上の注意事項

- ①教員免許（数学）取得希望者は必ず履修すること。教員免許（工業）取得希望者は、履修することがのぞましい。
- ②演習形式（グループワーク、プレゼンテーション）を取り入れた授業であるから、グループで協力する姿勢、ひとりひとりの積極的な参加が求められる。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

- ①講義内容を十分に理解するため、下記の参考文献のうち少なくともひとつを開講期間中に一読すること。
- ②開講期間中は、教育に関する最新の動向を摂取するため、新聞等に必ず目を通すこと。

8. 教科書・参考書

●教科書は指定しない（必要に応じて資料を配付する）

●参考文献

- 油布佐和子『転換期の教師』放送大学教育振興会 375.9/H-2/1062
 山崎準二『教師という仕事・生き方』日本標準 374.3/Y-1
 永井聖二・古賀正義『＜教師＞という仕事＝ワーク』学文社 374.3/N-3

9. オフィスアワー

研究室扉の掲示を参照のこと。なお、授業に関する質問等は、下記のメールアドレスで随時受け付ける。

higashi@dhs.kyutech.ac.jp

教育原理 Principle of Education the 1 stperiod Monday

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：1・2 年次

学期：前期 単位区分： 単位数：2 単位

担当教員名 東野 充成

1. 概要

●授業の目的

教育職員免許法に規定されている「教育の理念並びに教育に関する歴史および思想」に関して講義を行い、次の点を目標とする。

- ①教育を広く人間全体の営みの中に位置づけ、多角的に考察すること。
- ②子どもの発達・学習に関わる様々なエージェントの役割について理解するとともに、現代社会における子どもの育ちと学びについて理解を深めること。
- ③現代の学校教育を歴史的、国際比較的に見直し、その役割や意義とともに、課題についても探求できること。
- ④以上の点を踏まえて、自らが志向する教育観や子ども観を構築し、表現できるようにすること。

●授業の位置付け

授業は、大きく次の3つの柱からなる。

- ①教育には様々な近接する概念が存在する。本授業では、教育にまつわる多様な概念を解説した上で、教育的人間関係や教授法などの変遷に見る教育思潮、教育観などを講義する。
- ②子どもという存在は決して自明のものではなく、時代や空間が異なれば、子どもに対する考え方や発達のあり方も大きく異なる。本授業では、歴史的、通文化的な子どもや発達の多様性を踏まえたうえで、現代社会における子どもの発達・学習の課題等について講義する。
- ③学校教育は現在、教育の中心的な場となっているが、その役割や課題とはいかなるものなのか。現代の学校教育を歴史的、国際比較的に相対化し、その課題や役割について講義する。

2. キーワード

子ども観・教育観、生涯発達・生涯学習、初等教育・中等教育、職業教育、教育問題

3. 到達目標

- ①自らの子ども観・教育観や志向する教育制度や教育実践を深める。
- ②多角的な営みとしての教育について、理解を深められるようにする。
- ③自分の意見を的確に表現できるようにする。

4. 授業計画

授業は講義形式で行う。配布資料や視聴覚教材等を適宜使用する。

- 1 回 イントロダクション
- 2 回 子どもと大人の境界線
- 3 回 教える者と教えられる者
- 4 回 発達と社会化
- 5 回 人間の発達段階
- 6 回 学校制度の国際比較
- 7 回 公教育の歴史と制度
- 8 回 中間テスト
- 9 回 教育改革の動向
- 10 回 学校文化・教師文化・生徒文化
- 11 回 不登校という選択
- 12 回 「いじめ」とは何か？
- 13 回 教育のリストラクチャリング
- 14 回 まとめ
- 15 回 試験
- 16 回 解説

5. 評価の方法・基準

- 中間テスト 40%
 期末テスト 60%

6. 履修上の注意事項

教員免許(数学)取得希望者は必ず履修すること。教員免許(工業)取得希望者は、履修することがのぞましい。

7. 授業外学習(予習・復習)の指示

- ①講義内容を十分に理解するため、夏季の参考文献のうち少なくともひとつを開講期間中に一読すること。
- ②開講期間中は、教育に関する最新の動向を摂取するため、新聞等に必ず目を通すこと。

8. 教科書・参考書

- 教科書は使わないが、そのつど参考文献を指示する。
- 参考文献
柴田義松他『教育原論』学文社 371/S-13
田嶋一『やさしい教育原理』有斐閣 371/T-4

9. オフィスアワー

研究室扉の掲示を参照のこと。なお、授業に関する質問等は、下記のメールアドレスで随時受け付ける。
higashi@dhs.kyutech.ac.jp

教育心理学 Educational Psychology

対象学科(コース):全学科(教職科目) 学年:1・2年次

学期:前期 単位区分: 単位数:2単位

担当教員名 児玉 恵美

1. 概要

●授業の目的

人間理解を深め、集団や個に応じた教育を行うための基礎知識と考え方を学ぶ。そして、授業で得られた知見を教育の実践の場で応用できるようになる。

●授業の位置づけ

授業では、教育心理学で必要な知識である、発達、学習、評価、学級集団、人格・適応を学ぶ。そして、これらの学びをより深めるために、教育心理学だけではなく様々な領域の心理学的知見について総合的に学ぶ。

2. キーワード

発達、学習、教育、学校臨床

3. 到達目標

- ①教育にかかわる心理学の基礎的な知識を理解できる。
- ②教育心理学で得られた知見を現場に応用する技術を身につける。

4. 授業計画

- 1回 オリエンテーション・教育心理学とは?
- 2回 発達に関する諸理論
- 3回 認知・言語の発達
- 4回 概念の発達
- 5回 学習
- 6回 動機
- 7回 記憶
- 8回 教育評価
- 9回 知能
- 10回 学級集団の理解
- 11回 適応と不適応
- 12回 発達障害
- 13回 学校臨床
- 14回 心理療法
- 15回 まとめ

5. 評価の方法・基準

期末テスト80%、レポート20%で評価する。
60点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

授業には積極的に参加すること。日頃から教育に関する話題に関心を持ち、新聞等から情報を収集すること。

7. 授業外学習(予習・復習)の指示

各回に記載されているキーワードについて授業前に調べ、理解に努めること。

8. 教科書・参考書

●教科書

使用しない。適宜資料を配付する。

●参考書

- 大村彰道編『教育心理学Ⅰ 発達と学習指導の心理学』(1996)
東京大学出版会 371.4/K-28/1
下山晴彦編『教育心理学Ⅱ 発達と臨床援助の心理学』(1998)
東京大学出版会 371.4/K-28/2
子安増生・田中俊也・南風原朝和・伊東裕司『教育心理学[新版] ベーシック現代心理学6』(2003) 有斐閣 371.4/K-30/2

9. オフィスアワー

月曜日4限目

教育社会学 Sociology of Education

対象学科（コース）：全学科（人間科学科目） 学年：1・2 年次

学期：後期 単位区分： 単位数：2 単位

担当教員名 東野 充成

1. 概要

●授業の目的

教育職員免許法に規定されている「教育に関する社会的、制度的又は経営的事項」に関して講義を行い、以下の点を目標とする。

- ①教育と社会の相互規定的な関係について理解する。
- ②教育制度を他の社会制度との関連の中で理解し、その役割や課題等について考察を深める。
- ③現代の学校制度や学校経営の役割及び課題について理解する。

●授業の位置付け

授業は、大きく次の3つの柱からなる。

- ①教育は社会からいかなる影響を受け、また社会にいかなる影響を及ぼしているのか。階層、エスニシティ、ジェンダーといった社会学の基礎概念をもとに講義する。
- ②現代の教育制度はそれ単独で存在するのではなく、雇用制度や法制度、行政組織などとの関連の中で位置づけられる。このような、教育制度の構造、機能及び他の社会制度との関連について講義する。
- ③教育を取り巻く社会情勢や教育制度の構造などを踏まえて、現代的な学校経営のあり方について講義する。

2. キーワード

文化伝達・文化的再生産、エスニシティ、ジェンダー、サブカルチャー、教育制度・教育政策、学校経営・学級経営

3. 到達目標

- ①教育社会学の考え方を理解すると同時に、社会科学の基本的な概念についても理解できるようにする。
- ②教育という現象を他の様々な社会現象との関係の中で捉えられるようにする。
- ③教育という現象の理解を通して、現代社会・現代文化・現代学校教育に対する相対的な視点を獲得する。

4. 授業計画

授業は講義形式で行う。配布資料や視聴覚教材等を適宜使用する。

- 1回 イントロダクション
- 2回 家族と教育
- 3回 階層と教育
- 4回 エスニシティと教育
- 5回 ジェンダーと居育
- 6回 メディアと教育
- 7回 子ども文化
- 8回 中間テスト
- 9回 若者文化
- 10回 少年非行論Ⅰ
- 11回 少年非行論Ⅱ
- 12回 組織としての学校
- 13回 カリキュラムの社会学
- 14回 まとめ
- 15回 試験
- 16回 解説

5. 評価の方法・基準

中間テスト	40%
期末テスト	60%

6. 履修上の注意事項

教員免許（数学）取得希望者は必ず履修すること。教員免許（工業）取得希望者は、履修することがのぞましい。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

- ①講義内容を十分に理解するため、夏季の参考文献のうち少なくともひとつを開講期間中に一読すること。
- ②開講期間中は、教育に関する最新の動向を摂取するため、新聞

等に必ず目を通すこと。

8. 教科書・参考書

●教科書

特に指定しないが、参考書をそのつど指示する。

●参考文献

荻谷剛彦ほか著『教育の社会学』有斐閣 371.3/K-6

柴野昌山ほか著『教育社会学』有斐閣 371.3/S-8

耳塚寛明ほか著『教育格差の社会学』有斐閣 ISBN: 9784641220133

9. オフィスアワー

研究室扉の掲示を参照のこと。なお、授業に関する質問等は、下記のメールアドレスで随時受け付ける。

higashi@dhs.kyutech.ac.jp

工業教科教育法 Method of Technology Education

対象学科（コース）：全学科（教職科目） 学年：3 年次

学期：通年 単位区分： 単位数：4 単位

担当教員名 永田 萬亨

1. 概要

●授業の目的

教育職員免許法に規定されている「教科の指導法」に関して講義を行い、次の点を目的とする。

- ①工業科教育を広く人材育成システムの営みの中に位置づけ、多面的に考察すること。
- ②生徒の技術的発達、職業的発達の観点から工業科教育の役割について理解するとともに、現代社会における工業教育・技術教育の学びについて理解を深めること。
- ③現代の工業教育を歴史的、国際比較的に見直し、その役割や意義とともに、課題についても探求できること。
- ④以上の点を踏まえて、教育実践を有効にするために、「手段」の機能をよくするとともに、その技術的能力を高めることを目指す。

●授業の位置づけ

- ①工業科教育の歴史、教育目的、教育内容そして情報機器と教材の活用を含む効果的な教育方法について教育学的に検討する。
- ②教材論、授業論などの授業実践に関わる部分を中心に教育実践的検討を行う。

2. キーワード

工業科教育、教材研究、技術教育、職業教育

3. 到達目標

- ①高校の工業の教師として工業科教育に関する基本的な知識、技術、技能の習得を目指して、工業教育の果たす役割の重要性を認識することができる。
- ②工業科教育の性格や内容、その存立基盤の特徴を明らかにしつつ、工業科教育の担い手として必要な資質を形成すること。

4. 授業計画

授業は講義形式で行う。配布資料や視聴覚教材等を適宜使用する。

- 1 回 工業科教育と教育実践（教育実践における教師の役割）
- 2 回 学校教育の課題（総合学科の新設及び専門学科の改善充実）
- 3 回 工業教育の役割と目標
（産業社会における工業技術教育のあり方）
- 4 回 戦前の工業教育の歴史
（職工学校の創設、実業学校令、実業教育費国庫補助法）
- 5 回 戦後の工業教育の歴史
（産業教育振興法の制定と工業技術教育の整備）
- 6 回 学習指導要領の改訂と工業科の変遷（学習指導要領のねらい、学習指導要領の構成）
- 7 回 欧米における工業教育（1）
（ドイツの教育制度と工業技術教育）
- 8 回 欧米における工業教育（2）
（アメリカの教育制度と工業技術教育）
- 9 回 工業科の教育内容と方法（1）
（工業科の各科目の内容及び方法について検討する）
- 10 回 工業科の教育内容と方法（2）（同上）
- 11 回 工業科の教材研究の事例（1）（教材解釈と教材づくりを中心に教材研究のあり方を検討する）
- 12 回 工業科の教材研究の事例（2）（同上）
- 13 回 工業科の教材研究の事例（3）（同上）
- 14 回 工業科における評価の特徴（授業評価と評価方法）
- 15 回 まとめ
- 16 回 普通教育と専門教育（普通教育としての技術教育と専門教育としての技術教育の違い）
- 17 回 学校教育としての技術教育体系の成立
（工業化の人材育成機関としての学校）
- 18 回 技術革新と工業教育の改編

（産業界の要請、工業教育の多様化）

- 19 回 工業に関する学科の目標
（工業高校の目標と工業に関する各学科の目標）
- 20 回 教科「工業」の目標と学科の目標（教科「工業」の目標の変遷）
- 21 回 学科の教育課程編成（生徒の実態、高校の制度改革を踏まえた教育課程のあり方）
- 22 回 教材（教材の概念、教授学習過程における教材の位置）
- 23 回 工業技術教育の指導性（物品製作法、オペレーション法、プロジェクト法について）
- 24 回 教育評価（学校教育における教育評価の役割・機能及び問題点）
- 25 回 授業評価（教授学習過程における評価、評価方法）
- 26 回 学習指導案の構成（1）
（学習指導案の構成、留意点について）
- 27 回 学習指導案の構成（2）（同上）
- 28 回 学習指導案例（1）
（「工業技術基礎」を事例として授業案を検討する）
- 29 回 学習指導案例（2）（同上）
- 30 回 まとめ

5. 評価の方法・基準

成績評価は授業への参加程度と出席状況（20%）、講義の合間に行う小レポート（30%）、期末試験（50%）によって行う。

6. 履修上の注意事項

- ①教員免許取得希望者（工業）は必ず履修すること。
- ②講義内容の十分な理解を得るため、下記の参考文献を各自読むこと。
- ③授業時間外には新聞等に目を通し、教育に関する最新の情報を摂取すること。
- ④教育現場を知ること、生徒を知ることが重要だと考えているので、講義の一環として工業高校の視察・見学を計画している。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

- ①講義内容の十分な理解を得るため、下記の参考文献を各自読むこと。
- ②授業時間外には新聞等に目を通し、教育に関する最新の情報を摂取すること。

8. 教科書・参考書

●教科書は使わないが、そのつど参考文献を指示する。

●参考文献

文部科学省『高等学校学習指導要領』国立印刷局、1999 年 375/M-7/09（平成 21 年 3 月）
斉藤武雄、田中喜美、依田有弘編著『工業高校の挑戦』学文社、2005 年 375.6/S-2

9. オフィスアワー

本授業についての質問や学習相談を受けるため、授業終了後をオフィスアワーとする。なお、授業に関する質問等は、下記のメールアドレスで随時受け付ける。

nagata@fukuoka-edu.ac.jp

教科教育法（数学）Ⅰ

対象学科（コース）：全学科（教職科目） 学年：3 年次

学期：前期 単位区分： 単位数：2 単位

担当教員名 今井 一仁

1. 概要

この講義では、高等学校数学科の「授業を創る力」をつけるために、その基礎的な内容を考察し、理解することを目的とする。具体的には、我が国の数学教育の現状を踏まえて、これからの数学教育が目指すものを理解すると共に、数学教育の歴史、目的、指導方法、授業構成について考察する。

2. キーワード

学力調査、学習指導要領、数学教育史、数学教育の目的、数学的活動、授業スタイル

3. 到達目標

この講義では、以下の点について理解することを目標とする。

- ①我が国の数学教育の現状
- ②これからの数学教育の在り方（中教審答申、学習指導要領）
- ③数学教育の歴史
- ④数学教育の目的
- ⑤数学的活動
- ⑥数学科の授業スタイル

4. 授業計画

講義では配布資料を使い、講義形式・討論形式で行う。

- 1 回 オリエンテーション
- 2 回 我が国の数学教育の現状①—TIMSS と PISA—
- 3 回 我が国の数学教育の現状②—全国学力・学習状況調査—
- 4 回 これからの数学教育の在り方①—中央教育審議会答申—
- 5 回 これからの数学教育の在り方②—高等学校学習指導要領—
- 6 回 数学教育の歴史—教育課程の構成原理に焦点を当てて—①
- 7 回 数学教育の歴史—教育課程の構成原理に焦点を当てて—②
- 8 回 数学教育の目的①
- 9 回 数学教育の目的②
- 10 回 数学的活動①
- 11 回 数学的活動②
- 12 回 数学科の授業スタイル①
- 13 回 数学科の授業スタイル②
- 14 回 数学科の授業スタイル③
- 15 回 講義のまとめ

5. 評価の方法・基準

出席 30%、期末レポート 70%

6. 履修上の注意事項

- ①教員免許（数学）取得希望者は必ず履修すること。
- ②授業時間外には、講義の内容や各自の興味・関心を踏まえて、数学教育に関する文献を自ら検索・収集し、積極的に読むこと。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

- ①予習は基本的には必要ないが、テーマによっては予習を指示する。
- ②復習として、毎回の講義の内容を振り返るとともに、テーマごとに課す宿題に取り組むこと。

8. 教科書・参考書

教科書は使わないが、テーマごとに、引用・参考文献を紹介する。

9. オフィスアワー

kazuimai@fukuoka-edu.ac.jp

教科教育法（数学）Ⅱ

対象学科（コース）：全学科（教職科目） 学年：3 年次

学期：後期 単位区分： 単位数：2 単位

担当教員名 今井 一仁

1. 概要

この講義では、高等学校数学科の「授業を創る力」をつけるために、その実践的な内容を考察し、理解することを目的とする。具体的には、数学科の学習指導案、評価について理解すると共に、教材研究、模擬授業に取り組む。

2. キーワード

学習指導案、評価、教材研究、模擬授業

3. 到達目標

この講義では、以下の点について理解することを目標とする。

- ①学習指導案
- ②評価
- ③教材研究
- ④模擬授業

4. 授業計画

講義では配布資料を使い、講義形式・討論形式で行う。

- 1 回 オリエンテーション
- 2 回 高等学校数学科の学習指導案
- 3 回 高等学校数学科の評価
- 4 回 中学校・高等学校・大学の数学科内容構成
- 5 回 高等学校数学科の教材研究①（代数）
- 6 回 高等学校数学科の教材研究②（幾何）
- 7 回 高等学校数学科の教材研究③（解析）
- 8 回 高等学校数学科の教材研究④（確率・統計）
- 9 回 高等学校数学科の教材研究⑤（数学活用）
- 10 回 高等学校数学科の模擬授業①
- 11 回 高等学校数学科の模擬授業②
- 12 回 高等学校数学科の模擬授業③
- 13 回 高等学校数学科の模擬授業④
- 14 回 高等学校数学科の模擬授業⑤
- 15 回 講義のまとめ

5. 評価の方法・基準

出席 30%、期末レポート 70%

6. 履修上の注意事項

- ①教員免許（数学）取得希望者は必ず履修すること。
- ②授業時間外には、講義の内容や各自の興味・関心を踏まえて、数学教育に関する文献を自ら検索・収集し、積極的に読むこと。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

- ①予習は基本的には必要ないが、テーマによっては予習を指示する。
- ②復習として、毎回の講義の内容を振り返るとともに、テーマごとに課す宿題に取り組むこと。

8. 教科書・参考書

教科書は使わないが、テーマごとに、引用・参考文献を紹介する。

9. オフィスアワー

kazuimai@fukuoka-edu.ac.jp

教育課程論 Curriculum Study

対象学科（コース）：全学科（教職科目） 学年：2 年次

学期：前期 単位区分： 単位数：1 単位

担当教員名 堺 正之

1. 概要

今日の教育課題と教育課程の関連をふまえ、教育課程の成立史及び基礎理論を類型化して解説する。次に、日本における小学校・中学校・高等学校の教育課程編成の基準である学習指導要領の構造と、これに基づいて実施されている現在の学校における教育課程を事例に即して考察する。

2. キーワード

学校、教育課程（カリキュラム）、学習指導要領、教科

3. 到達目標

- ①各自が受けてきた学校教育の内容を教育課程という視点から対象化する。
- ②教育課程を構成する各領域の目標、内容、その現代的意義をふまえた指導の在り方について理解する。
- ③現代の課題に対応する教育課程の理論と実践について理解する。

4. 授業計画

- 1・2 回 はじめに－学校教育をとりまく状況－
以下 教育課程総論
- 3・4 回 教育課程とは何か ・語義／意義 ・領域／構造
- 5・6 回 教育課程の変遷
- 7・8 回 教育課程の類型
以下 教育課程各論
- 9・10回 教科（1）学習指導要領と教科の内容
- 11・12回 教科（2）中等教育段階における学習指導
- 13・14回 教科外の諸領域
（道徳・特別活動・総合的な学習の時間）
- 15回 小まとめと質疑

5. 評価の方法・基準

授業への参加度（20 点）、小レポート等の提出（30 点）、最終レポートの成績（50 点）により評価し、合計 60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

授業の中で指示する。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

次回の授業範囲の予習として、教科書の該当箇所を読み、不明な専門用語等について調べておくこと。

8. 教科書・参考書

田中耕治・水原克敏・三石初雄・西岡加名恵 著『新しい時代の教育課程 第三版』有斐閣 2011 年 ISBN: 9784641124318

文部科学省『中学校学習指導要領解説－総則編－』375.1/M-18/08-1

9. オフィスアワー

授業の前後の時間に質問を受け付けます。

特別活動の指導法 Method of Extra-class Activities

対象学科（コース）：全学科（教職科目） 学年：2 年次

学期：前期 単位区分： 単位数：1 単位

担当教員名 堺 正之

1. 概要

学校の教育課程を構成する領域として位置づけられる「特別活動」の歴史と今日的課題について、中等教育段階を中心としながら理解を深め、その指導原理とこれを運営してゆく際の基本的な問題について、具体的な事例をもとに考察する。

2. キーワード

学校、特別活動、学級活動（ホームルーム活動）、生徒会活動、学校行事

3. 到達目標

- ①日本の学校教育における特別活動の歴史的位置づけと、その今日的意義及びその指導原理についての理解を深める。
- ②中学校及び高等学校の特別活動の内容を構成する「学級活動（ホームルーム活動）」、「生徒会活動」、「学校行事」の概要を理解する。
- ③生徒が人間としての生き方についての自覚を深め、自己を生かす能力を養うための指導法を理解する。

4. 授業計画

- 1・2 回 特別活動の歴史と今日的課題
- 3・4 回 特別活動の目標・内容・方法的特質
- 5・6 回 特別活動の特別活動の指導計画・実践事例（1）
学級活動－中学校－
- 7・8 回 特別活動の特別活動の指導計画・実践事例（1）
ホームルーム活動－高等学校－
- 9・10回 特別活動の特別活動の指導計画・実践事例（2）
生徒会活動
- 11・12回 特別活動の特別活動の指導計画・実践事例（3）
学校行事
- 13・14回 特別活動と教科活動・道徳・総合的な学習の時間
- 15回 まとめ

5. 評価の方法・基準

授業への参加度（20 点）、小レポート等の提出（30 点）、最終レポートの成績（50 点）により評価し、合計 60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

授業の中で指示する。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

次回の授業範囲の予習として、教科書の該当箇所を読み、不明な専門用語等について調べておくこと。

8. 教科書・参考書

文部科学省『中学校学習指導要領解説－特別活動編－』375.1/M-18/08-13

文部科学省『高等学校学習指導要領解説－特別活動編－』375.1/M-19/09-19

9. オフィスアワー

授業の前後の時間に質問を受け付けます。

教育方法 Educational Method

対象学科（コース）：全学科（教職科目） 学年：3 年次

学期：前期 単位区分： 単位数：2 単位

担当教員名 三木 やよい

1. 概要

●授業の背景

今日の学校教育をめぐる状況は、学力格差、学ぶ意欲の低下、いじめや不登校等、さまざまな教育課題を提示している。保護者や社会の要望、信頼に応え実践的指導力を獲得するためには、学校教育現場での教育実践についての確かな理論知と方法技術を学ぶ必要がある。

●授業の目的

本講義では、まず授業・学習の捉え方についてふれ、現在どのような授業が求められているのかということについて説明する。次に、学校における教育課程編成、教育方法に関して、基礎的な内容を解説する。最後に、単元計画を作成したり、VTR で実際の授業を見ることなどを通して、教育課程編成、教育方法について具体的に考える。これらを通して、授業という創造的な仕事を自ら行うための手がかりをつかんでもらいたい。

●授業の位置付け

教職に関する科目の中でも、教育方法は最も実践的指導力に関わる領域で、各教科の指導法の基礎となるものである。

2. キーワード

教育課程、学習指導要領、教育方法・技術、教育評価、問題解決的な学習、総合的な学習の時間

3. 到達目標

- ①現在求められている授業について理解する。
- ②教育課程編成、教育方法に関して、主要な概念を理解する。
- ③実践する立場から、授業づくりのポイントを指摘できる。

4. 授業計画

- 1 回 オリエンテーション
- 2 回 授業観・学習観の転換 1
- 3 回 授業観・学習観の転換 2
- 4 回 学習指導要領
- 5 回 学習指導の原理 問題解決学習、系統学習
- 6 回 学習指導の形態 一斉教授、小集団学習、個別学習、T.T
- 7 回 授業づくりに求められるもの
- 8 回 学習指導案作成
- 9 回 教育評価 到達度評価、ポートフォリオ評価、指導要録
- 10 回 問題解決的な学習 1 問題解決学習の理論
- 11 回 授業分析 問題解決学習の実践例
- 12 回 問題解決的な学習 2 極地方式研究会の理論と実践例
- 13 回 総合的な学習の時間 総合学習の理論と実践例
- 14 回 教師としての成長
- 15 回 教育工学 視聴覚教材や教育機器の適切な活用
- 16 回 試験

5. 評価の方法・基準

出席カード（40％）と最終課題（60％）で評価する。60 点以上を合格とする。

出席カードには、授業の感想等を記入すること。

最終課題（試験）では、自筆のノートのみ持ち込み可とする。

6. 履修上の注意事項

講義形式で進めるが、発表や話し合いなども取り入れる予定である。積極的な参加を期待したい。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

講義内容を十分理解するため講義後は内容をまとめるなどして復習を行うこと。

8. 教科書・参考書

●教科書

樋口直宏・林尚示・牛尾直行編著『実践に活かす教育課程論・教育方法論』学事出版（改訂版）375/H-4/2

●参考書

田中耕治編『よくわかる授業論』ミネルヴァ書房 375.1/T-5

9. オフィスアワー

生徒指導（進路指導を含む。） Student Guidance

対象学科（コース）：全学科（教職科目） 学年：2 年次

学期：後期 単位区分： 単位数：2 単位

担当教員名 児玉 恵美

1. 概要

●授業の目的

生徒指導、進路指導について基本的な知識を得るとともに、生徒指導上の問題に対し、自ら考え取り組める力を身につける。

●授業の位置づけ

教育現場では、いじめや非行、不登校など、さまざまな問題が発生している。教師には、生徒の心の問題を理解した上で、人格の健全な発達を促していくと同時に、不適応な問題行動に対しても適切に指導・援助していく技能が求められる。授業ではこれらについて、講義と体験学習により習得する。

2. キーワード

発達、心理査定、進路指導、教育相談

3. 到達目標

- ①人格理解のための基礎理論について習熟する。
- ②カウンセリングの考え方について習熟する。
- ③教育現場において適切な生徒指導が行えるようになるための基礎技法を習得する。

4. 授業計画

- 1 回 オリエンテーション・生徒指導とは？
- 2 回：学校内のシステム
- 3 回：生徒理解の方法
- 4 回：アセスメント
- 5 回：懲戒、体罰
- 6 回：いじめ
- 7 回：非行
- 8 回：虐待
- 9 回：不登校
- 10 回：学級運営
- 11 回：進路指導とは？
- 12 回：進路指導の領域と方法
- 13 回：教育相談とは？
- 14 回：カウンセリングの基礎技法
- 15 回：まとめ

5. 評価の方法・基準

期末テスト 60％、受講態度（レポート、発表など）40％で評価する。

60 点以上を合格とする。

6. 履修上の注意事項

体験的な学習も取り入れるため、授業には積極的に参加すること。日頃から教育に関する話題に関心を持ち、新聞等から情報を収集すること。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

各回に記載されているキーワードについて授業前に調べ、理解に努めること。

8. 教科書・参考書

●教科書

使用しない。適宜資料を配付する。

●参考書

小泉令三編著『よくわかる生徒指導・キャリア教育』（2010）ミネルヴァ書房 375.2/K-4

小泉令三編著『図説 子どものための適応援助 生徒指導・教育相談・進路指導の基礎』（2011）北大路書房 375.2/K-3

9. オフィスアワー

月曜日 4 限目

教育相談 Educational Counseling

対象学科（コース）：全学科（教職科目） 学年：2 年次

学期：後期 単位区分： 単位数：2 単位

担当教員名 菊池 悌一郎

1. 概要

●授業の目的

思春期・青年期は、子どもから大人への移行期として、身体、性、対人関係、社会的役割といったさまざまな側面で大きな変動がみられ、心理的な混乱が生じやすくなる。実際、思春期・青年期は、ライフサイクルの中でも心理障害が生じる危険性が高くなる。ところが、思春期・青年期の心理障害の中には、子どもから大人への発達過程で生じる一過性の心理的混乱と深刻な精神病理と関連する精神障害がともに含まれており、その対応が困難な場合も多い。そこで教育相談のため、適切な理解と対応が可能となるよう、思春期・青年期の心理的発達、心理障害、心理援助について学習する。

●授業の位置づけ

この授業では、まず思春期・青年期発達の特徴を理解し、さらにその心理障害との関連性を明らかにする。また心理障害の具体的な分類とその内容を記述する。後半では思春期・青年期に対する教育相談（心理援助・カウンセリング）の理論と方法についてまとめる。

2. キーワード

教育相談、思春期青年期、発達、心理障害、カウンセリング

3. 到達目標

教育相談のため、適切な理解と対応が可能となるよう学習する。

- ①思春期・青年期の発達を理解する。
- ②思春期・青年期の心理障害を理解する。
- ③教育相談・理論と方法を理解する。

4. 授業計画

- 1 回：教育相談について
- 2 回：発達とは
- 3 回：思春期・青年期の発達①
- 4 回：思春期・青年期の発達②
- 5 回：学童期・思春期の心理障害①
- 6 回：学童期・思春期の心理障害②
- 7 回：青年期の心理障害①
- 8 回：青年期の心理障害②
- 9 回：教育相談・カウンセリングの理論と方法①
- 10 回：教育相談・カウンセリングの理論と方法②
- 11 回：教育相談・カウンセリングの理論と方法③
- 12 回：教育相談・カウンセリングの理論と方法④
- 13 回：カウンセリング技術の実習①
- 14 回：カウンセリング技術の実習②
- 15 回：まとめ
- 16 回：試験

5. 評価の方法・基準

レポートおよび試験で評価する（レポート 60% 試験 40%）

6. 履修上の注意事項

心理学、特に臨床心理学に関する書籍は多くあります。興味のあるものを読んでみてください。また、小説、マンガ、映画などにも人のこころや成長を扱ったものが多くあります。鑑賞をお薦めします。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

授業のテーマについて、レポートを作成し提出すること。

8. 教科書・参考書

●教科書：特に指定なし

●参考文献

下山：教育心理学Ⅱ 発達と臨床援助の心理学（東京大学出版会）371.4/K-28/2

下山：よくわかる臨床心理学（ミネルヴァ書房）146/S-9

9. オフィスアワー

メールアドレス：kikuchi@jimu.kyutech.ac.jp

教職実践演習（高）

Practical Seminar for Teaching Profession

対象学科（コース）：全学科（教職科目） 学年：4 年次

学期：後期 単位区分： 単位数：2 単位

担当教員名 東野 充成・菊池 悌一郎・岡崎 悦明・
谷野 勝敏

1. 概要

●授業の目的

教育職員免許法にのっとり、大学における教職課程の総まとめを行うとともに、教員という職業に携わる者としての力量形成を図る。

●授業の位置づけ

授業は、大きく以下の4つの柱からなる。

- ①ディスカッションやロールプレーを通して、教師としての使命や責任を体得する。
- ②ボランティアやフィールドワークを通して、社会性やコミュニケーション能力を身につける。
- ③現職の高校教諭との討論や学校参加を通して、生徒の理解を促進し、学校・学級経営の実態を理解する。
- ④模擬授業などを通して、教科指導の力量の定着を図る。

2. キーワード

教師としての資質向上・力量形成

3. 到達目標

- ①これまでに履修してきた教職課程科目及びその他の活動を反省的にふり返るとともに、使命感や責任感、社会性やコミュニケーション能力の伸長を図る。
- ②教員としての課題を認識し、知識・技術の定着を図る。
- ③教職及び教科指導に関する知識・技術の再確認を行う。

4. 授業計画

- 1 回 インTRODクシヨン
（これまでの学校生活、学修をふり返って）
- 2 回 教職の意義と教員の役割①（グループディスカッション）
- 3 回 教職の意義と教員の役割②（ロールプレー）
- 4 回 地域フィールドワーク実習①
- 5 回 地域フィールドワーク実習②
- 6 回 生徒指導・進路指導・学級経営①
（グループワーク体験学習：エンカウンター）
- 7 回 生徒指導・進路指導・学級経営②
（グループ体験学習：心理劇）
- 8 回 生徒指導・進路指導・学級経営③（学校現場の見学・調査）
- 9 回 生徒指導・進路指導・学級経営④（見学調査を踏まえた討論）
- 10 回 数学模擬授業①
- 11 回 数学模擬授業②
- 12 回 工業教科模擬授業①
- 13 回 工業教科模擬授業②
- 14 回 模擬授業に基づく討論
- 15 回 まとめ
- 16 回 試験

5. 評価の方法・基準

平素の授業態度(30%) 発表内容(30%) 最終レポート(40%)

6. 履修上の注意事項

- ①教員免許（数学）取得希望者は、必ず履修すること。教員免許（工業）取得希望者は、履修することが望ましい。
- ②学外での活動に積極的に参加するとともに、主体的に授業に参画すること。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

- ①講義内容を十分に理解するため、夏季の参考文献のうち少なくともひとつを開講期間中に一読すること。
- ②開講期間中は、教育に関する最新の動向を摂取するため、新聞等に必ず目を通すこと。

8. 教科書・参考書

●教科書 なし

●参考文献

高等学校学習指導要領（総則・数学・工業）
各種審議会答申
教育六法
その他、教育に関する各種新聞記事等

9. オフィスアワー

全体のマネジメントは、東野が行う。オフィスアワーは研究室扉の掲示を参照のこと。なお、授業に関する質問等は、下記のメールアドレスで随時受け付ける。

higashi@dhs.kyutech.ac.jp

職業指導 Vocational Guidance

対象学科（コース）：全学科（教職科目） 学年：4 年次

学期：後期 単位区分： 単位数：4 単位

担当教員名 永田 萬享

1. 概要

●授業の目的

社会的分業である職業に関する社会科学的認識を持つことと、職業能力を開発する手だてとしての職業教育のあり方を通して、社会のなかでの個人の位置をつかみ、自立した職業生活を営むことができるようになることを目指す。

●授業の位置づけ

授業では、①モノを作ることや働くことによって姿を現してくる社会と人間の関係に見られる奥深い真実の世界を、現実の企業社会、労働社会の織りなす具体的なデータに基づいて検討を加える。②さらに、高校教育後のいわゆる中等後段階における技術・職業教育の有り様を、職業教育・訓練の公共化の観点から現状分析する。

2. キーワード

職業指導 キャリア教育 専修学校 公共職業訓練 企業内教育

3. 到達目標

- ①現代社会における職業の性格について社会科学的認識を深めることによって、職業情報を正しく理解するための一定の判断力を養成することを目指す。
- ②職業的自立のための具体的方策として職業教育のあり方についてもその現状を通して検討する。

4. 授業計画

- 第1回：職業指導とは？
- 第2回：職業指導の社会的基底
- 第3回：経済政策と青少年問題
- 第4回：労働と職場の現実①
- 第5回：労働と職場の現実②
- 第6回：産業社会と職業分布①
- 第7回：産業社会と職業分布②
- 第8回：内部形成と外部形成
- 第9回：青年の自立と高校職業教育①
- 第10回：青年の自立と高校職業教育②
- 第11回：各種・専修学校における職業教育①
- 第12回：各種・専修学校における職業教育②
- 第13回：公共職業訓練と能力開発①
- 第14回：公共職業訓練と能力開発②
- 第15回：まとめ
- 第16回：職業の様々な側面
- 第17回：職業観の変容
- 第18回：生きがいと職業
- 第19回：社会的分業と職業
- 第20回：職業選択の意味
- 第21回：職業選択と情報
- 第22回：情報化の進展と職場の変化
- 第23回：女性の職場進出と労働
- 第24回：男女雇用機会均等法の成立と現在
- 第25回：各種・専修学校と生涯教育
- 第26回：公的職業訓練の動向
- 第27回：企業内教育と OJT
- 第28回：企業外部の教育機関と OffJT
- 第29回：学校教育と職業教育
- 第30回：まとめ
- 第31回：試験

5. 評価の方法・基準

成績評価は授業への参加程度と出席状況（20%）、講義の合間に行う小レポート（30%）、期末試験（50%）によって行う。

6. 履修上の注意事項

- ①教員免許取得希望者（工業）は必ず履修すること。
- ②講義内容の十分な理解を得るため、右記の参考文献を各自読むこと。
- ③授業時間外には新聞等に目を通し、経済、社会情勢に関する最新の情報を摂取すること。
- ④働く現場を知ることが重要だと考えているので、講義の一環として学外授業、例えば工場見学や職業能力開発施設の視察を計画している。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

8. 教科書・参考書

●教科書は使わないが、そのつど参考文献を指示する。

●参考文献

蒲田慧『日本人の仕事』1986 年、平凡社 ISBN:978-4582705027
木村保茂、永田萬享『転換期の人材育成システム』学文社、2005 年 336.4/K-23

9. オフィスアワー

本授業についての質問や学習相談については、授業終了後をおフィスアワーとする。なお、授業に関する質問等は、下記のメールアドレスで随時受け付ける。

nagata@fukuoka-edu.ac.jp

Ⅲ. 人間科学科目（留学生）

留学生科目概要

1. 目的

留学生が速やかに大学の教育環境に適応し、日本社会に対する理解を深めることができるように、日本語と日本事情の教育を行う。

具体的な目標としては、

- 1) 日本社会・文化について大学生として知っておくことが望ましい知識を獲得する。
- 2) 大学生として必要な日本語の語彙や文法、読解力、聴解力を獲得する。
- 3) 日本語での情報を正確に理解し、自分なりの考えを論理的に表現する力を養う。
- 4) 自分なりの日本語学習の習慣を確立し、専門の学習に備える。

2. 日本語と日本事情の科目の履修について

日本語AⅠ、AⅡ、BⅠ、BⅡは1年次に、日本語CⅠ、CⅡは1年次または2年次に履修する。これらの単位は外国語系科目に振り替えることができる。

日本事情A、日本事情Bは1年次または2年次に履修する。これらの単位は人文社会系科目に振り替えることができる。

上記の科目の他に1年次から3年次の学生を対象にした日本事情C、日本事情Dが金曜日に開講され、これらの単位を取得して人文社会系科目に振り替えることができる。時間割を参照して、履修を希望する者は最初の講義に必ず出席すること。

日本語 AⅠ Japanese I

対象学科（コース）：全学科（留学生科目）

学年：1年次 学期：前期 単位区分：選択 単位数：1単位

担当教員名 石束 万里子

1. 概要

●授業の目的

日本の社会的・文化的な話題をもとに、読む力、聞く力を向上させると共に、語彙を拡充して、考えたことを適切に表現する力をつける。

●授業の位置付け

中級レベルの日本語能力を定着させるためのものである。大学の講義を理解するための基礎を固める。語彙や文法を予習復習して学んでいく習慣を確立する。

2. キーワード

「日本の社会・文化」「語彙」「会話体」「文法練習」「ディスコース練習」

3. 到達目標

●読む力、聞く力を向上させる。

●社会的文化的な話題について語彙を拡充する。

●考えたこと、感じたことを日本語で表現する力をつける。

4. 授業計画

第1回～第2回	第1課	いちろく銀行
第3回～第4回	第2課	動物園
第5回～第6回	第3課	仮想現実
第7回～第8回	第4課	体の時間
第9回～第10回	第5課	自然
第11回～第12回	第6課	左利き
第13回～第14回	第7課	共生住宅
第15回	総復習	

5. 評価の方法・基準

授業への参加度（20%）、課題（20%）、学期末試験（60%）で評価する。

6. 履修上の注意事項

短期留学生や中級レベルの学生を主な対象者とする。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

毎回課題を出すので、それを元に復習をすること。

8. 教科書・参考書

- 1) 水谷信子：現代日本語中級総合講座（アルク）810.7/M-22

9. オフィスアワー

火曜日3限

日本語 AⅠ Japanese I

対象学科（コース）：全学科（留学生科目）

学年：1 年次 学期：前期 単位区分：選択 単位数：1 単位

担当教員名 アブドゥハン 恭子

1. 概要

●授業の目的

さまざまなタイプの文書を書く方法を身につける。メールや説明文、報告書、ミニプレゼンテーションを経て、論文書式でレポートを作成する。

●授業の位置付け

中上級レベルの日本語能力を総合的に養成するためのものである。積極的に資料を使い、自分の考えを組み立て、的確に発信する力を養う。日本社会に対する理解を深める。

2. キーワード

「目的と書き方」「プレゼンテーション」「論文書式」

3. 到達目標

- ・さまざまな文書で、相手に伝わる方法を身につける。
- ・プレゼンテーションの準備方法を学ぶ。
- ・論文書式で事象の説明と自分の考察をまとめる。

4. 授業計画

第1回～第2回 メール

第3回～第4回 説明文

第5回～第6回 資料収集の方法

第7回～第8回 アイディアの発表

第9回～第10回 プレゼンテーションの準備と発表

第11回～第12回 報告書

第13回～第14回 論文書式に向けて

第15回 総まとめ

5. 評価の方法・基準

授業への参加度・課題（40%）、プレゼンテーション（30%）、レポート（30%）で評価する。

6. 履修上の注意事項

中上級レベルの学習者を対象とする。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

課題を必ず提出し、準備をきちんとすること。

8. 教科書・参考書

参考書

- 1) 因京子他：日本語表現道場（ピーエフアール）
- 2) 野田尚史他：日本語を書くトレーニング（ひつじ書房）816/N-12

9. オフィスアワー

木曜日 4 限

日本語 AⅡ Japanese II

対象学科（コース）：全学科（留学生科目）

学年：1 年次 学期：後期 単位区分：選択 単位数：1 単位

担当教員名 石東 万里子

1. 概要

●授業の目的

日本の社会的・文化的な話題をもとに、読む力、聞く力を向上させると共に、語彙を拡充して、考えたことを適切に表現する力をつける。また、科学技術に関する読み物への導入を行い、研究室見学を行って、実際の場で日本語を使ってみる。

●授業の位置付け

中級レベルの日本語能力を定着させるためのものである。大学の講義を理解するための基礎を固める。語彙や文法を予習復習して学んでいく習慣を確立する。

2. キーワード

「日本の社会・文化」「語彙」「会話体」「文法練習」「ディスコース練習」

3. 到達目標

- ①読む力、聞く力を向上させる。
- ②社会的文化的な話題について語彙を拡充する。
- ③考えたこと、感じたことを日本語で表現する力をつける。
- ④平易な科学的な読み物を読み、学んだ語彙を使って考えを述べる。

4. 授業計画

第1回～第2回 第8課 カラー柔道着

第3回～第4回 第9課 料理技能の検定

第5回～第6回 第10課 発明王

第7回～第8回 第11課 花の洋風化

第9回～第10回 第12課 さいせん回数券

第11回～第13回 KIT 版科学読み物

第14回 研究室見学

第15回 総復習

5. 評価の方法・基準

授業への参加度（20%）、課題（20%）、学期末試験（60%）で評価する。

6. 履修上の注意事項

短期留学生や中級レベルの学生を主な対象者とする。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

毎回課題を出すので、それを元に復習をすること。

8. 教科書・参考書

- 1) 水谷信子：現代日本語中級総合講座（アルク）810.7/M-22
- 2) アブドゥハン恭子・石東万里子：九州工業大学留学生のための科学読み物 2008（九州工業大学）

9. オフィスアワー

火曜日 3 限

日本語 A II Japanese II

対象学科（コース）：全学科（留学生科目）

学年：1 年次 学期：後期 単位区分：選択 単位数：1 単位

担当教員名 アブドゥハン 恭子

1. 概要

●授業の目的

新聞教材を使った読解を中心に、語彙の拡充、書き言葉の表現、新聞記事特有の表現などを学び、様々な社会問題に対して的確に自分の考えを述べる力を育てる。

●授業の位置付け

漢語を基本に語彙を拡充して日本語の総合力を高める。

2. キーワード

「新聞」「漢語」「読解」「意見の発信」

3. 到達目標

①新聞記事や論説文などで使われる漢字の意味と用法を理解し、使用できる。

②自分の意見をまとめて、論理的に話すことができる。

4. 授業計画

毎回の授業は、その時々々の生の記事を、様々な新聞から、また新聞の各面から取り上げる。

授業の流れは、読解と言葉の解説、漢字語彙の拡充練習、表現練習、討論、意見のまとめ。適宜、語彙の復習テストを行う。

5. 評価の方法・基準

授業への参加度（30%）、課題（10%）、試験（60%）で評価する。

6. 履修上の注意事項

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

毎回の課題をきちんと提出し、復習を主に心がけること。

8. 教科書・参考書

なし

9. オフィスアワー

木曜日 4 限

日本語 B I Japanese B I

対象学科（コース）：全学科（留学生科目）

学年：1 年次 学期：前期 単位区分：選択 単位数：1 単位

担当教員名 アブドゥハン 恭子

1. 概要

●授業の目的

一般向けのテレビの科学番組を聞き取ることで、科学に関する基本的な日本語の知識を確認する。日本語を使って、情報を正確に受信し、自分の考え深め、まとめて発信する。また、本学で研究されているテーマについて下調べをして、研究室見学を行い、実地に情報収集を行う。

●授業の位置付け

科学に関する基本的な語彙を習得し、自分の言葉として使う力を養成する。また、科学技術の生まれた背景、アイディア、その課題などについて考え、論理的に考える力を養う。学部1年生にとって、専門の講義を理解するための基本練習となるだろう。

2. キーワード

「科学技術」「聴解」「大意把握」「語彙拡充」「作文」

3. 到達目標

・科学に関する語彙を取得し、説明文の表現に慣れる。

・聞き取った内容を的確に把握する。

・科学に関する話題に関して自分なりに考え、それを表現できる能力を身に付ける。

4. 授業計画

第1回 説明文の表現練習

第2回 テーマ：再生木材

第3回 テーマ：新エネルギー開発

第4回 テーマ：バイオメトリクス認証

第5回 テーマ：3Dプリンター

第6回 テーマ：エコタウン

第7回 テーマ：超能力はあるのか

第8回 テーマ：人工光合成

第9回 テーマ：超音速旅客機

第10回 テーマ：ロボットカー

第11回 テーマ：スペースデブリ

第12回 研究室見学

第13回 テーマ：にょいの不思議

第14回 テーマ：新型風車

第15回 総まとめ

5. 評価の方法・基準

授業への参加度（20%）、毎回の作文（20%）、試験（60%）

6. 履修上の注意事項

編入留学生が日本語を履修する場合は、できるだけこの講義を受講して欲しい。

日頃から辞書を使って知らない言葉を積極的に調べて身に付ける習慣をつけること。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

課題を毎回提出し、身につけたい用語を各自書き出してリストを作成すること。

8. 教科書・参考書

アブドゥハン恭子・石東万里子：九州工業大学留学生のための科学読み物 2008（九州工業大学）

9. オフィスアワー

木曜日 4 限

日本語 B II Japanese B II

対象学科（コース）：全学科（留学生科目）

学年：1 年次 学期：後期 単位区分：選択 単位数：1 単位

担当教員名 アブドゥハン 恭子

1. 概要

●授業の目的

一般向けのテレビの科学番組を聞き取ることで、科学に関する基本的な日本語の知識を確認する。日本語を使って、情報を正確に受信し、自分の考え深め、まとめて発信する。また、本学で研究されているテーマについて下調べをして、研究室見学を行い、実地に情報収集を行う。

●授業の位置付け

科学に関する基本的な語彙を習得し、自分の言葉として使う力を養成する。また、科学技術の生まれた背景、アイデア、その課題などについて考え、論理的に考える力を養う。学部1年生にとって、専門の講義を理解するための基本練習となるだろう。

2. キーワード

「科学技術」「聴解」「大意把握」「語彙拡充」「作文」

3. 到達目標

- ・科学に関する語彙を取得し、説明文の表現に慣れる。
- ・聞き取った内容を的確に把握する。
- ・科学に関する話題に関して自分なりに考え、それを表現できる能力を身に付ける。

4. 授業計画

- 第1回 テーマ：スペースシャトル事故
- 第2回 テーマ：折り紙工学
- 第3回 テーマ：自動車エンジン開発
- 第4回 テーマ：巨大津波のメカニズム
- 第5回 テーマ：東京大地震
- 第6回 テーマ：人工筋肉
- 第7回 テーマ：長寿遺伝子
- 第8回 テーマ：災害レスキューロボット
- 第9回 テーマ：磁石研究とエコカー
- 第10回 テーマ：バイオミメティクス
- 第11回 テーマ：熱電発電
- 第12回 テーマ：砂漠で発電
- 第13回 テーマ：ロボットカー
- 第14回 研究室見学
- 第15回 総まとめ

5. 評価の方法・基準

授業への参加度（20%）、毎回の作文・課題（20%）、試験（60%）

6. 履修上の注意事項

編入留学生が日本語を履修する場合は、できるだけこの講義を受講して欲しい。

日頃から辞書を使って知らない言葉を積極的に調べて身に付ける習慣をつけること。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

課題を毎回提出し、身につけたい用語を各自書き出してリストを作成すること。

8. 教科書・参考書

アブドゥハン恭子・石東万里子：九州工業大学留学生のための科学読み物 2008（九州工業大学）

9. オフィスアワー

木曜日 4 限

日本語 C I Japanese C I

対象学科（コース）：全学科（留学生科目）

学年：2 年次 学期：前期 単位区分：選択 単位数：1 単位

担当教員名 アブドゥハン 恭子

1. 概要

●授業の目的

様々な話題に応じた語彙や表現を学び、自分に興味のあることを詳しく説明できる力を育てる。

●授業の位置付け

会話やスピーチなど、中上級話者の話す能力を養う。

2. キーワード

「会話」「スピーチ」「説明」「興味をもってもらう」

3. 到達目標

- ①詳しい説明や描写ができる。
- ②聞き手の興味や理解を確かめながら話せる。
- ③共に話を展開させる聞き方を身につける。
- ④メモをもとにスピーチができる。

4. 授業計画

- 第1回 インタビューと他者紹介
- 第2回 前回のフィードバック：話し方を考える
- 第3回 きっかけを語る
- 第4回 方法説明のスピーチ
- 第5回 失くした体験
- 第6回 図の分析
- 第7回 性格を分析する
- 第8回 うごきの説明
- 第9回 健康・ストレス解消法
- 第10回 物語の説明（1）
- 第11回 物語の説明（2）
- 第12回 ゲームの説明
- 第13回 最近の出来事
- 第14回 将来の夢
- 第15回 日本の文化に慣れるとは

5. 評価の方法・基準

授業への参加度（30%）、授業内での発表（30%）、説明方法のスピーチ（40%）で評価する。

6. 履修上の注意事項

毎回の授業で得た手がかりを基に、共に会話を深めることができる話し手、聞き手となるよう心がけること。自分の話し方を内省し、課題を克服する努力をすること。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

毎回小課題を出すので、それを元に復習をすること。

8. 教科書・参考書

●教科書

1) 荻原稚佳子他：日本語上級話者への道（スリーエーネットワーク）810.7/O-22

9. オフィスアワー

木曜日 4 限

日本語 C II Japanese C II

対象学科（コース）：全学科（留学生科目）

学年：2 年次 学期：後期 単位区分：選択 単位数：1 単位

担当教員名 アブドゥハン 恭子

1. 概要

●授業の目的

各自の日本語能力を総合的に評価して、不十分な点を自覚し、それをどのようにして獲得していったらよいか、自分なりの学習方法を確立することを目的とする。

●授業の位置付け

日本語学習のまとめとして自律的に学習する態度を確立する。具体的には、日本語能力試験 N 1 の問題を客観的な指標の一つとして参考にしながら、自分の日本語能力を測る。小レポートを書いて、それを推敲してプレゼンテーションに発展させる。

2. キーワード

「自己評価」「自律的学習」「日本語能力試験 N 1」

3. 到達目標

- ①自分の日本語能力を客観的に評価できる。
- ②不十分な技能を磨くための学習方法を知る。
- ③自律的に日本語を学ぶ態度を身に付ける。
- ④説得力のあるプレゼンテーションができる。

4. 授業計画

- 第1回 イントロダクション：自己評価とは
 第2回 自分の力を知る：語彙の広さ、量
 第3回 前回のフィードバック、練習
 第4回 自分の力を知る：文法的な正確さ
 第5回 前回のフィードバック、文法の正確さのための練習
 第6回 自分の力を知る：主旨や発話者の意図を理解する力
 第7回 前回のフィードバック、練習
 第8回 自分の力を知る：論理的に話を組み立てる力
 第9回 前回のフィードバック、練習
 第10回 自分の力を知る：表現力・説得力
 第11回 前回のフィードバック、練習
 第12回 プレゼンテーションに向けて（1）構成
 第13回 プレゼンテーションに向けて（2）説得力
 第14回 プレゼンテーションに向けて（3）練習
 第15回 プレゼンテーション

5. 評価の方法・基準

授業への参加度・課題（50%）、プレゼンテーション（50%）で評価する。

6. 履修上の注意事項

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

毎回の課題をきちんと提出し、復習を主に心がけること。

8. 教科書・参考書

特になし

9. オフィスアワー

木曜日 4 限

日本事情 A Japanese Culture and Society A

対象学科（コース）：全学科（留学生科目）

学年：1 年次 学期：前期 単位区分：選択 単位数：2 単位

担当教員名 アブドゥハン 恭子

1. 概要

●授業の目的

日本の社会や文化に関する知見を広め、考えを深める。日本を自らの出身地や他の地域と比較して、日本の事情について様々な視野から考察する。

異なる背景を持つ人と意見を出し合って協働するための行動力を身につける。

●授業の位置付け

日本社会における様々な事象を多角的に捉え、理論的かつ客観的に分析し、自らの意見を日本語で述べる。また、他の参加者の意見にも耳を傾け、話し合いに参加する姿勢を育てる。

2. キーワード

「日本社会」「文化」「討論」「異文化理解」

3. 到達目標

- ①相手の理解を確かめながら話す。
- ②背景の異なる相手に積極的に自己開示する力を持つ。
- ③異なる文化、社会について理解する視点を持つ。
- ④日本の社会や文化について考えを深める。
- ⑤グループで協働して調査、発表する姿勢を獲得する。

4. 授業計画

学生自身が興味のある話題を取り上げ、皆で討議する問題を提起する。討議のための資料を作成し、皆に討議資料を説明する。グループで意見を出し合い、発表する。自分の意見をまとめ、振り返る。

- 第1回 アイスブレイキング
 第2～4回 文化と生活
 第5～7回 教育と社会
 第8～9回 大学生活
 第10～11回 社会の課題
 第12～14回 日本社会再考
 第15回 試験

5. 評価の方法・基準

発題と資料作成（20%）、毎回のノート（30%）、試験（20%）、討論への参加度（30%）で評価する。

6. 履修上の注意事項

積極的に自己を振り返り、意見を出すこと、他人の考えを深く知る姿勢を持つこと。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

テーマについての事前の課題を考えて授業に臨む。

8. 教科書・参考書

●教科書 特に指定しない

9. オフィスアワー

月曜日 3 限

日本事情B Japanese Culture and Society B

対象学科（コース）：全学科（留学生科目）

学年：1 年次 学期：後期 単位区分：選択 単位数：2 単位

担当教員名 アブドゥハン 恭子

1. 概要

●授業の目的

日本の社会や文化に関する知見を広め、考えを深める。日本を自らの出身地や他の地域と比較して、日本の事情について様々な視野から考察する。

●授業の位置付け

日本社会における様々な事象を多角的に捉え、理論的かつ客観的に分析し、自らの意見を日本語で述べる。また、他の参加者の意見にも耳を傾け、話し合いに参加する姿勢を育てる。

2. キーワード

「日本社会」「文化」「討論」「異文化理解」

3. 到達目標

- ①日本社会や文化について外国人にも分かるように説明する。
- ②討議に積極的に参加して考えを深める。
- ③異なる文化、社会について理解する。
- ④日本の文化、社会について各国との比較を交えて、まとまりのある文章を書く。

4. 授業計画

- | | |
|---------|------------------|
| 第1回 | アイスブレイキング：国のイメージ |
| 第2～3回 | 生活 |
| 第4～5回 | 少子高齢社会 |
| 第6～7回 | 教育 |
| 第8～9回 | 企業と労働 |
| 第10～11回 | 科学技術と人間 |
| 第12～13回 | 自然と人間 |
| 第14回 | アジアの未来 |
| 第15回 | まとめ |

5. 評価の方法・基準

レポート（60％）及び毎回提出のノート・授業への参加度（40％）で評価する。

6. 履修上の注意事項

前の週に配布する資料をよく読んで授業に臨むこと。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

前の週に配布する資料をよく読んで授業に臨むこと。

8. 教科書・参考書

●教科書 特に指定しない

●参考書

- 1) 留学生のための時代を読み解く上級日本語 第2版（スリーエーネットワーク）810.7/M-41/2

9. オフィスアワー

月曜日3限

日本事情C Japanese Culture and Society C

対象学科（コース）：全学科（留学生科目）

学年：2 年次 学期：前期 単位区分：選択 単位数：2 単位

担当教員名 石川 朋子

1. 概要

●授業の目的

日本の地理・歴史・政治・経済などを概観することによって、日本という国の全体像をとらえる。

●授業の位置付け

日本人が中学・高校の「社会科」で学習する内容をごく簡単に紹介する。また受講者は、自国について各回のテーマに沿った内容で輪番で発表を行う。

2. キーワード

「日本史」「日本地理」「政治・経済」

3. 到達目標

これから社会人として日本という国と関わりを持っていく上で必要な、「常識」とされる知識を身につける。

4. 授業計画

- | | |
|------|------------|
| 第1回 | データでみる日本 |
| 第2回 | 日本の地理・気候 |
| 第3回 | 憲法 |
| 第4回 | 政治制度 |
| 第5回 | 選挙と世論 |
| 第6回 | 戦後経済史 |
| 第7回 | 消費者をめぐる問題 |
| 第8回 | 労働問題と社会保障 |
| 第9回 | 宗教 |
| 第10回 | 日本の歴史（1） |
| 第11回 | 日本の歴史（2） |
| 第12回 | 現代日本社会の諸問題 |
| 第13回 | 北九州の地理と歴史 |
| 第14回 | ポスター作成 |
| 第15回 | 総まとめ討論会 |

5. 評価の方法・基準

授業の途中で課す小レポート（50％）、発表（20％）、授業への参加度（30％）で評価する。

6. 履修上の注意事項

図書館3階の日本語学習書コーナーに参考となる本があるので、自分に合う本を探して学習すること。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

授業を振り返り、新たに得た知識をレポートにまとめ毎回提出すること。

8. 教科書・参考書

特に指定しない

9. オフィスアワー

アブドゥハン教員を通して質問すること。

日本事情D Japanese Culture and Society D

対象学科（コース）：全学科（留学生科目）

学年：2 年次 学期：後期 単位区分：選択 単位数：2 単位

担当教員名 石川 朋子

1. 概要

●授業の目的

日本社会におけるコミュニケーションで、人間関係を調節するためにどのような表現が使われているかを、さまざまな例（会話、手紙文など）を通して観察・考察する。

●授業の位置付け

ある状況で、どんな表現が選択されるかは、文化によって違いがある。日本語において適切とされる表現の観察を通じて、日本文化・日本社会に対する理解を促進する。

2. キーワード

「日本社会」「人間関係」「待遇表現」

3. 到達目標

- ・丁寧な表現とくだけた表現がどのように使い分けられるかを理解する。
- ・「たのむ」「ことわる」「苦情をいう」などといった、人間関係を悪くするかもしれない場面で用いられる表現について知るとともに、その背景にある日本文化についての理解を深める。

4. 授業計画

- | | |
|--------|--------------------|
| 第1回 | 人間関係を調節する表現についての概論 |
| 第2－4回 | さまざまな表現と使い方 |
| 第5－7回 | 頼むとき・頼まれたとき |
| 第8－10回 | 苦情を言うとき・言われたとき |
| 第11回 | 意見を述べる |
| 第12回 | 感謝・謝罪 |
| 第13回 | ほめる・ほめられる |
| 第14回 | 母国文化についてのまとめ作成 |
| 第15回 | 総まとめ発表会 |

5. 評価の方法・基準

授業の途中で課す小レポート（70％）と授業への参加度（30％）で評価する。

6. 履修上の注意事項

図書館3階の日本語学習書コーナーに参考となる本があるので、自分に合う本を探して学習すること。

7. 授業外学習（予習・復習）の指示

授業終了時に示す課題についてレポートを作成し提出すること。

8. 教科書・参考書

- 教科書 特に指定しない

9. オフィスアワー

アブドゥハン教員を通して質問すること。

九州工業大学

郵便番号 804-8550

北九州市戸畑区仙水町1番1号

電話 北九州 (093) 884 - 3088